

2024 年度

看護学研究科履修要項



静岡県立大学大学院

目次

I. 博士前期課程

1. 教育理念.....	1
2. 学位授与方針、教育方針、入学時に期待する学生像.....	1
3. 博士前期課程スケジュール.....	2
4. 教育課程.....	4
授業科目・開講年次・単位数一覧.....	4
教育の方法、授業科目.....	6
教育課程の構造.....	6
授業科目の構成.....	7
履修モデル例.....	8
5. 履修方法.....	11
6. 講義概要.....	15
7. 関連規程.....	100
8. 申請等書類.....	107
9. 研究計画書および修士論文作成要領.....	115

II. 博士後期課程

1. 教育理念.....	119
2. 学位授与方針、教育方針、入学時に期待する学生像.....	119
3. 博士後期課程スケジュール.....	121
4. 教育課程.....	123
授業科目・開講年次・単位数一覧.....	123
教育の方法、授業科目.....	124
授業科目の構成.....	125
履修モデル例.....	126
5. 履修方法.....	127
6. 講義概要.....	131
7. 関連規程.....	162
8. 申請等書類.....	170
9. 研究計画書および博士論文作成要領.....	183

I. 博士前期課程

1. 教育理念

静岡県立大学大学院看護学研究科においては、いかなる状況下においても、自己の人間性を基盤に習得した専門的知識を活用し、最適な看護サービスが提供でき、看護関係職の良きリーダーとなる人材の育成を目指している。生命関連領域の諸科学と連携し、見識のある高度な専門職能を有する人材かつ看護科学の教育・研究及び実践活動を担う人材を養成し、人々の健康増進を図り、豊かな国際社会の構築に寄与する。

2. 学位授与方針、教育方針、入学時に期待する学生像

学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

本研究科博士前期課程では所定の単位を修め、修士論文および最終試験に合格したことにより、以下の能力が認められたものとして修士（看護学）の学位を授与する。

1. 看護の専門分野における優れた研究能力と専門性を修得し、その分野におけるリーダーシップを発揮することが期待できる。
2. 実践看護分野において、専門的で高度な実践能力および指導力を有する。
3. 看護・保健・医療・福祉の場における課題に関して主体的に取り組むことができる。
4. 健全な研究倫理を身につけ、様々な領域において活躍が期待できる。

教育方針（カリキュラム・ポリシー）

本研究科博士前期課程では、学位授与の方針に揚げる能力の獲得を達成するために、以下のカリキュラム・ポリシーに基づき科目を編成する。

1. 研究能力と専門性を修得するため、看護の専門分野における理論と知識の基礎を学び、健康課題とその解決に向けて、看護研究を計画・実施できる教育課程を編成する。
2. 専門的で高度な実践能力を修得し、リーダーシップを発揮するために、各領域に特論、演習等を配置し、看護・保健・医療・福祉のニーズに取り組む基盤形成となる教育を行う。
3. 研究活動を通じて様々な領域における活躍を目指すために、各領域に研究科目を配置し、課題解決に向けた研究プロセスを修得できる教育課程を編成する。

入学時に期待する学生像（アドミッション・ポリシー）

本研究科博士前期課程では、看護サービスの質向上を目指して実践看護分野においてリーダーとなる人、看護・保健・医療・福祉の場における教育や研究課題に取り組む意思を有する人を求める。

1. 看護学および看護実践への強い関心を有し、さらなる専門性を磨こうとする意思を有している。
2. 看護・保健・医療・福祉分野の基礎的な知識・技術を有し、より深めようとする意思を有している。
3. 看護実践で生じる様々な課題の解決により貢献しようとする強い意思を有している。

3. 博士前期課程スケジュール

2024年度 入学生

年次	月日	事項
1年次	4月 8日 (月)	新入生ガイダンス
	4月 9日 (火)	入学式
	4月 10日 (水)	前期授業開始
	4月 下旬まで	前期履修登録
	7月 26日 (金)	研究計画書提出受付開始
	10月 1日 (火)	後期授業開始
	10月 中旬まで	後期履修登録
	3月 31日 (月) 5月 30日 (金) *	研究計画書提出締め切り
2年次	4月 初旬	在学生ガイダンス
	4月 上旬	前期授業開始
	4月 下旬まで	前期履修登録
	10月 初旬	後期授業開始
	10月 中旬まで	後期履修登録
	1月 上～中旬	修士論文提出締め切り
	1月 中～下旬	論文審査・最終試験
	2月 下旬	最終論文提出締め切り
	3月 初旬	修士論文発表会
	3月 中旬	学位記授与式

*印：助産学課程の院生（助産師国家試験受験資格を得ようとする者）のみ該当

その他予定は、年間授業予定表参照のこと。

書類等の提出物の提出先および締め切りは、小鹿キャンパス学生室・17時とする。

博士前期課程 論文作成スケジュールのモデル

時期	博士前期課程	助産学課程		
1 年次	前期	4月	研究課題の検討、研究計画立案	研究課題の検討、研究計画立案 研究計画書作成 副指導教員の希望申請(様式修第1号提出)
		5月		
		6月		
		7月	研究計画書作成	
		8月		
	後期	9月	副指導教員の希望申請(様式修第1号提出)	
		10月		
		11月		
		12月	研究計画書審査申請(研究計画書・様式修第4号提出)	
		1月	研究計画書審査	
2 年次	前期	2月	研究計画書審査合格後、倫理審査申請	研究計画書審査申請(研究計画書・様式修第4号提出) 研究計画書審査 研究計画書審査合格後、倫理審査申請 倫理審査承認後、研究遂行 中間発表 中間発表 修士論文審査申請(修士論文・要旨・様式修第6号提出) 論文審査・最終試験 最終論文提出 修士論文発表会 修了
		3月	倫理審査承認後、研究遂行	
		4月		
		5月		
		6月		
	後期	7月		
		8月		
		9月		
		10月	中間発表	
		11月		
後期	12月			
	1月	修士論文審査申請(修士論文・要旨・様式修第6号提出) 論文審査・最終試験		
	2月	最終論文提出		
	3月	修士論文発表会 修了		

*前ページの博士前期課程スケジュールを目安とする進め方であり、長期履修者はこの限りではない

教育課程／履修方法

4. 教育課程

博士前期課程：授業科目・開講年次・単位数一覧

		授業科目	開講年次	単位数	
				必修	選択
共通科目	必修	研究法Ⅰ	1 前	2	
		研究法Ⅱ	1 前	2	
	選択	看護理論	1 前・2 前		2
		看護倫理特論	1 前・2 前		2
		看護教育学特論	1 後・2 後		2
		看護管理学特論	1 前・2 前		2
		家族看護特論	1 後・2 後		2
		基礎科学特論	1 後・2 後		2
		国際保健医療特論	1 前・2 前		2
英語科学論文クリティーク	1 前・2 前		2		
専門科目	選択必修	基盤看護学特論Ⅰ	1 前		2
		基盤看護学特論Ⅱ	1 前		2
		基盤看護学特論Ⅲ	1 前		2
		基盤看護学応用演習Ⅰ	1 通		4
		基盤看護学応用演習Ⅱ	1 通		4
		基盤看護学応用演習Ⅲ	1 通		4
		基盤看護学特別研究	2 通		6
		実践看護学特論Ⅰ	1 前		2
		実践看護学特論Ⅱ	1 前		2
		実践看護学特論Ⅲ	1 前		2
		実践看護学特論Ⅳ	1 前		2
		実践看護学特論Ⅴ	1 前		2
		実践看護学応用演習Ⅰ	1 通		4
		実践看護学応用演習Ⅱ	1 通		4
		実践看護学応用演習Ⅲ	1 通		4
		実践看護学応用演習Ⅳ	1 通		4
		実践看護学応用演習Ⅴ	1 通		4
		実践看護学特別研究	2 通		6
		広域看護学特論Ⅰ	1 前		2
		広域看護学特論Ⅱ	1 前		2
		広域看護学特論Ⅲ	1 前		2
		広域看護学特論Ⅳ	1 前		2
		広域看護学特論Ⅴ	1 前		2
		広域看護学特論Ⅵ	1 前		2
		広域看護学応用演習Ⅰ	1 通		4
		広域看護学応用演習Ⅱ	1 通		4
		広域看護学応用演習Ⅲ	1 通		4
		広域看護学応用演習Ⅳ	1 通		4

	選択必修	授業科目	開講年次	単位数		
				必修	選択	
専門科目		広域看護学応用演習V	1通		4	
		広域看護学応用演習VI	1通		4	
		広域看護学特別研究	2通		6	
	助産学課程選択必修		助産学特論	1前		2
			助産学応用演習	1後-2前		4
			妊娠期助産診断技術学	1前		2
			統合ヘルスケア論	1通		2
			妊娠期助産診断技術学演習	1前		3
			助産学基礎演習	1通		3
			地域助産学実習	1通		2
			助産学課題研究	2通		4
	助産師養成選択科目		助産学概論	1通		2
			助産管理論	1後		2
			母子保健包括支援論	1通		2
			周産期学	1前		2
			リプロダクティブ・ヘルス演習	1後		2
			周産期助産学演習	1前		1
			周産期助産学実習	1通		1
			助産診断学演習Ⅰ	1前		2
			助産診断学演習Ⅱ	1前		3
			助産技術学演習	1通		3
		助産学実習	1後		9	
		助産学統合実習	2前		2	

* 「実践看護学特論Ⅲ」 および 「実践看護学応用演習Ⅲ」 は、2024年度は開講しない。

教育の方法、授業科目

看護学研究科の教育は、授業科目の講義、演習及び実習、学位論文の作成等に対する指導（以下「研究指導」という。）によって行うものとする。授業科目の種類及び単位数等は、静岡県立大学大学院看護学研究科規程 大学院学則の別表（一）看護学研究科（博士前期課程）のとおりとする。

研究指導

入学時に学生ごとに指導教員を定める。学生は、履修する授業科目の選択及び研究にあたり、指導教員の指導を受けなければならない。研究指導は、原則として指導教員1名と副指導教員1名の計2名で行うこととし、1年次9月までに副指導教員を決定する。

教育課程の構造

		特別研究（修士論文）		課題研究（修士論文）
	共通科目	専門科目		
	選択	基盤看護学	実践看護学	広域看護学
2年	英語科学論文クリティック 国際保健医療特論 基礎科学特論 家族看護特論 看護管理学特論 看護教育学特論 看護倫理特論 看護理論	基盤看護学応用演習 I, II, III 基盤看護学特論 I, II, III	実践看護学応用演習 I, II, III, IV, V 実践看護学特論 I, II, III, IV, V	広域看護学応用演習 I, II, III, IV, V, VI 広域看護学特論 I, II, III, IV, V, VI
1年				
		共通科目		
		必修		
		研究法Ⅰ・Ⅱ		

授業科目の構成

共通科目(必修)

専攻する領域を問わず看護学の基本と考えられ、看護実践・研究を展開していくうえで必要となる「研究法Ⅰ」「研究法Ⅱ」の2科目で構成される。

共通科目(選択)

学習に広がりや深まりを持たせるため、学生が関心をもつ研究領域等の違いにより選択できる科目で構成される。

専門科目(選択必修)

「基盤看護学」、「実践看護学」、「広域看護学」、「助産学課程」の専門分野ごとに、特論、応用演習、特別研究または課題研究で構成される。

特論は学生の専攻する分野に必要な基礎知識や研究の動向等を学ぶ科目、応用演習は学生が関心のある看護現象を取り上げて研究計画書を作成するまでのプロセスを学ぶ科目、特別研究あるいは課題研究は研究計画書に基づいてデータ収集・分析を行い、修士論文をまとめるまでのプロセスを学ぶ科目である。

なお、専門科目のうち特論は、他領域を専攻する学生も選択できる。

博士前期課程 履修モデル例 (専攻：基盤看護学)

	授業年次	開講年次	単位数		1年次	2年次
			必修	選択		
共通科目	研究法Ⅰ	1前	2		→	
	研究法Ⅱ	1前	2		→	
	看護理論	1前		2	→	
	看護倫理特論	1前		2	→	
	看護教育学特論	1後		2		→
	看護管理学特論	1前		2	→	
	家族看護特論	1後		2		
	基礎科学特論	1後		2		→
	国際保健医療特論	1前		2	→	
	英語科学論文クリティーク	1前		2	→	
専門科目	基盤看護学特論Ⅰ	1前		2	→	
	基盤看護学特論Ⅱ	1前		2		
	基盤看護学特論Ⅲ	1前		2		
	実践看護学特論Ⅰ	1前		2		
	実践看護学特論Ⅱ	1前		2		
	実践看護学特論Ⅲ	1前		2		
	実践看護学特論Ⅳ	1前		2		
	実践看護学特論Ⅴ	1前		2		
	広域看護学特論Ⅰ	1前		2		
	広域看護学特論Ⅱ	1前		2		
	広域看護学特論Ⅲ	1前		2		
	広域看護学特論Ⅳ	1前		2		
	広域看護学特論Ⅴ	1前		2		
	広域看護学特論Ⅵ	1前		2		
研究科目 演習	基盤看護学応用演習Ⅰ	1通		4	→	
	基盤看護学応用演習Ⅱ	1通		4		
	基盤看護学応用演習Ⅲ	1通		4		
	実践看護学応用演習Ⅰ	1通		4		
	実践看護学応用演習Ⅱ	1通		4		
	実践看護学応用演習Ⅲ	1通		4		
	実践看護学応用演習Ⅳ	1通		4		
	実践看護学応用演習Ⅴ	1通		4		
	広域看護学応用演習Ⅰ	1通		4		
	広域看護学応用演習Ⅱ	1通		4		
	広域看護学応用演習Ⅲ	1通		4		
	広域看護学応用演習Ⅳ	1通		4		
	広域看護学応用演習Ⅴ	1通		4		
	広域看護学応用演習Ⅵ	1通		4		
	基盤看護学特別研究	2通		6		→
	実践看護学特別研究	2通		6		
	広域看護学特別研究	2通		6		
	合計			4	26	24

博士前期課程 長期履修 履修モデル例 (専攻: 基盤看護学・3年履修)

科目区分	授業年次	開講年次	単位数		1年目	2年目	3年目
			必修	選択			
共通科目	研究法Ⅰ	1前	2		→		
	研究法Ⅱ	1前	2		→		
	看護理論	1前		2	→		
	看護倫理特論	1前		2	→		
	看護教育学特論	1後		2		→	
	看護管理学特論	1前		2		→	
	家族看護特論	1後		2			
	基礎科学特論	1後		2		→	
	国際保健医療特論	1前		2		→	
	英語科学論文クリティーク	1前		2	→		
専門科目	基盤看護学特論Ⅰ	1前		2	→		
	基盤看護学特論Ⅱ	1前		2			
	基盤看護学特論Ⅲ	1前		2			
	実践看護学特論Ⅰ	1前		2			
	実践看護学特論Ⅱ	1前		2			
	実践看護学特論Ⅲ	1前		2			
	実践看護学特論Ⅳ	1前		2			
	実践看護学特論Ⅴ	1前		2			
	広域看護学特論Ⅰ	1前		2			
	広域看護学特論Ⅱ	1前		2			
	広域看護学特論Ⅲ	1前		2			
	広域看護学特論Ⅳ	1前		2			
	広域看護学特論Ⅴ	1前		2			
	広域看護学特論Ⅵ	1前		2			
研究・演習科目	基盤看護学応用演習Ⅰ	1通		4		→	
	基盤看護学応用演習Ⅱ	1通		4			
	基盤看護学応用演習Ⅲ	1通		4			
	実践看護学応用演習Ⅰ	1通		4			
	実践看護学応用演習Ⅱ	1通		4			
	実践看護学応用演習Ⅲ	1通		4			
	実践看護学応用演習Ⅳ	1通		4			
	実践看護学応用演習Ⅴ	1通		4			
	広域看護学応用演習Ⅰ	1通		4			
	広域看護学応用演習Ⅱ	1通		4			
	広域看護学応用演習Ⅲ	1通		4			
	広域看護学応用演習Ⅳ	1通		4			
	広域看護学応用演習Ⅴ	1通		4			
	広域看護学応用演習Ⅵ	1通		4			
	基盤看護学特別研究	2通		6			→
	実践看護学特別研究	2通		6			
	広域看護学特別研究	2通		6			
	合計			4	26	12	12

博士前期課程 履修モデル例 (助産学課程)

科目区分	授業年次	開講年次	単位数		1年次	2年次	
			必修	選択			
共通科目	研究法Ⅰ	1前	2		→		
	研究法Ⅱ	1前	2		→		
	看護理論	1前		2			
	看護倫理特論	1前		2			
	看護教育学特論	1後		2			
	看護管理学特論	1前		2			
	家族看護特論	1後		2			
	基礎科学特論	1後		2			
	国際保健医療特論	1前		2		→	
	英語科学論文クリティーク	1前		2		→	
専門科目	助産学課程 選択必修	助産学特論	1前		2	→	
		助産学応用演習	1後・2前		4		→
		妊娠期助産診断技術学	1前		2	→	
		統合ヘルスクエア論	1通		2	→	
		妊娠期助産診断技術学演習	1前		3	→	
		助産学基礎演習	1通		3	→	
		地域助産学実習	1通		2	→	
		助産学課題研究	2通		4		→
	助産師養成 選択科目	助産学概論	1通		2	→	
		助産管理論	1後		2	→	
		母子保健包括支援論	1通		2	→	
		周産期学	1前		2	→	
		リプロダクティブ・ヘルス演習	1後		2	→	
		周産期助産学演習	1前		1	→	
周産期助産学実習		1通		1	→		
助産診断学演習Ⅰ		1前		2	→		
助産診断学演習Ⅱ		1前		3	→		
助産技術学演習		1通		3	→		
助産学実習	1後		9	→			
助産学統合実習	2前		2		→		
合計			4	57	51	10	

5. 履修方法

1) はじめに

本項では、大学院での授業の仕組みと、その履修に必要な手続き等を静岡県立大学大学院学則及び履修細則に従って解説する。授業の内容や事務上の手続きを熟知し、学修に支障がないように、この「履修方法」を十分活用する。また、4月に行われるガイダンスを必ず受け、不明な点は学生室に相談する。

以下、単位制、授業、授業科目、履修申告、試験、成績評価、修了、授業科目一覧、講義概要について、熟読のうえ今後の学修に役立てる。

2) 単位制

(1) 単位制とは

単位とは、一定の質の勉学ないし学修の量を示す基準となるものである。研究科で開講している各科目にはそれぞれ単位数が定められており、これらの科目を履修して合格すれば、単位を修得できる。

本学における学修は、単位数によって修了の可否が決定される。

(2) 単位と時間数

①授業は前期、後期の2学期に分けて実施され、原則として15週をもって1学期、30週をもって1学年としている。

②1単位の履修時間は、教室の内外合わせて45時間である。従って、1科目につき教室内外の3時間の学修を15週間行って1単位となる。

区分	1単位の履修時間		
	授業時間 (教室内)	自習時間 (教室外)	計
講義	15	30	45
演習	15	30	45

※助産師課程選択必修・助産師養成選択科目の演習・実習については、静岡県立大学大学院看護学研究科規程を参照のこと。

3) 授業

(1) 学期

本学での授業は、15週にわたる期間を単位として、前期・後期の2学期制を採用している。

(2) 授業時間

授業時間は、学生便覧を参照する。

(3) 授業時間割

授業時間割表は、前・後期に分けて作成され、4月のガイダンスの際に配布される。時間割は配布後、変更する場合がある。

(4) 休講、補講、集中講義等

①休講等

休講、授業時間及び授業場所の変更は、Web 学生サービスシステムまたは担当教員に確認する。休講の連絡がなく講義が行われなかった場合は、学生室にて確認する。

②補講

補講が行われる場合には、Web 学生サービスシステム等により連絡をする。

③集中・隔週講義

科目によっては、ある一定期間内に集中して行う講義または隔週に行う講義がある。詳細については Web 学生サービスシステム等で連絡する。

4) 授業科目

(1) 授業科目の分類

授業科目は、共通科目と専門科目から構成される。

①共通科目は、看護学の実践・教育・研究の土台となる理論や技法、保健医療に関連した諸科学を履修することで看護専攻領域の専門知識を深める。

②専門科目は、看護の特定の領域における科学的な知識や実践能力、研究的な思考能力を養う。

(2) 必修・選択等による履修区分

授業科目は、修了の要件として履修しなければならないか否かにより次のように分類される。

①必修科目：必ず修得しなければならない科目

②選択必修科目：指定された科目群のうち、所定の単位を必ず修得しなければならない科目

③選択科目：修了に必要な単位数の修得あるいは学生の興味・関心に基づいて履修する科目

5) 履修登録

指導教員の個別指導を受けた上、履修する科目を決定し、所定の期日までに登録する。

(1) 履修登録は、前・後期各期に行うこととし、4月と10月に、Web 学生サービスシステムにより行う。登録期間は授業開始後2週間以内とする。履修すべき科目が登録されていることを必ず確認し、登録されていない場合は速やかに登録する。

(2) 他研究科の授業科目を履修しようとするときは、当該授業科目の担当教員の承認を得たうえで、当該研究科長の許可を受けなければならない。この許可願は、所定の書式（用紙は学生室にある）により、授業開始後2週間以内に学生室に提出する。他研究科の授業科目を履修した者には単位の認定を行うが、修了必要単位数には算入しないので注意する。

6) 試験

(1) 試験とは

大学院は、学修の効果を測定するために学生の履修した授業科目について、試験のうえ単位を与える。試験は授業担当教員の判断により、筆記・口答試問・実技テスト等の方法で行われる。

(2) 試験の種類

①定期試験

定期試験は、各学期の終了時に2週間にわたり実施される。定期試験時間割は、試験開始の原則10日前にWeb学生サービスシステム等により発表される。

②随時試験

定期試験期間以外に、授業中あるいは特別な時間を設けて随時に試験を実施することがある。この場合、授業中やWeb学生サービスシステム等で伝達される。

③追試験

次の理由で試験を欠席した者については、追試験を願い出ることができる。

- ・病気（ただし、医師の診断書を要する）
- ・忌引（1・2親等に限り、死亡の日より1週間以内）
- ・就職に関する事由（ただし、具体的に事情の具申あるもの）
- ・その他やむを得ない事由（ただし、具体的に事情の具申あるもの）

なお、軽微な風邪等は、正当な理由と認められないので注意する。

追試験を受けようとする者は、定期試験の当該科目試験終了の日から1週間以内に追試験願（用紙は学生室にある）にその事由を詳記し、医師の診断書またはその事由を証明する書類を添付し、学生室に届け出る。

④受験上の注意

試験場内では、すべて監督者の指示、またはあらかじめ指示されている事項に従う。

7) 成績評価

(1) 成績評価の方法

成績評価は、静岡県立大学大学院看護学研究科規程及び担当教員の評価方針により、試験、レポート等における学生の学修実績に基づき、優・良・可・不可の評語で表現される。

(2) 成績評価の基準

優： 100点～80点

良： 79点～70点

可： 69点～60点

不可： 59点以下

(3) 成績評価の発表

成績評価は、Web学生サービスシステムで確認できる。

8) 修了要件

(1) 博士前期課程を修了するためには、2年以上在学し、

①共通科目から必修科目 4 単位、

②専門科目から自分が所属する専門分野の特論 2 単位・応用演習 4 単位・特別研究 6 単位、

③共通科目の選択科目、自分が所属する専門分野以外の専門科目の特論、自分が所属する専門分野の応用演習から 14 単位以上、

これら①～③の合計 30 単位以上を修得しなければならない。

更に修士論文の審査及び最終試験に合格することを修了要件とする。

(2) 助産師国家試験受験資格を取得するものは、2年以上在学し、

①共通科目から必修科目 4 単位、

②専門科目から自分が所属する専門分野の特論 2 単位・応用演習 4 単位・課題研究 4 単位、

③共通科目の選択科目、自分が所属する専門分野以外の専門科目の特論、自分が所属する専門分野の応用演習から 16 単位以上、

これら①～③の合計 30 単位以上を修得しなければならない。

これに加え、助産師国家試験受験資格取得にかかわる科目 31 単位を修得し、合計 61 単位を修得しなければならない。

更に、修士論文の審査及び最終試験に合格することを修了要件とする。

講義概要

【科目名】	研究法 I	【科目英語名】	Nursing Research I
【開講時期】	2024 年前期	【必選区分】	<input checked="" type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択
【授業形態】	<input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習	【単位数】	2 単位
【科目責任者】	操華子	【授業時間数】	30 時間
【担当教員】	操華子、富安真理		
【DPとの関連】	<input checked="" type="checkbox"/> DP1 <input type="checkbox"/> DP2 <input type="checkbox"/> DP3 <input checked="" type="checkbox"/> DP4		
【授業概要】	看護研究とは何かの理解を基盤に、看護が展開されている様々な場における看護現象に関する課題を明らかにし、その課題を科学的に探究するプロセスを理解するための基礎知識を修得する。事前・事後学習、講義、討議、グループワーク演習を通し、院生自身の研究課題を明確にするための研究手法を修得する。 【キーワード】研究プロセス、リサーチクエスト(研究課題)、研究デザイン、文献クリティーク		
【授業目標】	1. 研究プロセス、量的研究・質的研究の代表的な研究デザインについて説明できる。 2. 既存の研究論文の検索ならびにクリティーク(批判的吟味)を実施することができる。 3. 自身のリサーチクエストを明確にし、その背景、意義について述べることができる。		
【授業展開】	【授業方法】対面もしくはオンラインによるプレゼンテーション、ディスカッション 【アクティブラーニングを促す方法】 <input checked="" type="checkbox"/> A ディスカッション/ディバード <input checked="" type="checkbox"/> B グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> C プレゼンテーション <input type="checkbox"/> D 実習/フィールドワーク 【授業内容】 第1回:オリエンテーション・研究のプロセス(操) 第2回:リサーチクエスト(研究課題)の作り方、種類と研究デザイン(操) 第3回:研究の理論的枠組みと操作的枠組み(操) 第4回:文献クリティーク(批判的吟味)・文献マトリックス(操) 第5回:研究計画書の構成要素(操) 第6回:研究計画書作成時の留意点(操) 第7回:研究デザイン各論 量的研究方法① 各デザインの特徴(操) 第8回:研究デザイン各論 量的研究方法② 代表的なデータ収集法(操) 第9回:研究デザイン各論 質的研究手法① 各デザインの特徴(富安) 第10回:研究デザイン各論 質的研究手法② 代表的なデータ収集法(富安) 第11回:統計学的推論と因果関係(操) 第12回:研究倫理(富安) 第13回:文献クリティーク・グループワーク①(操・富安) 第14回:文献クリティーク・グループワーク②(操・富安) 第15回:文献クリティーク・グループワーク 発表(操・富安)		
【事前・事後課題】	主体的に授業に参画し、研究能力と専門性を修得できるよう事前準備と事後学習を行う。授業毎の事前準備の課題は、各授業回で指示する。事後学習の課題は、各授業終了時に課題を提示する。指定期間内に担当教員に提出をすることを求める。		
【準備学習時間】	自分の学習ペースに合わせ、学生各自が設定する。		
【履修条件】	なし		
【関連科目】	研究法Ⅱ、英語科学論文クリティーク		
【評価方法】	各授業終了後に提示された課題およびミニレポート(30%)、グループワーク発表(20%)、課題レポートとしての研究計画書の序論(文献検討も含む)作成(50%)から到達目標への達成度を評価する。		
【フィードバックの方法】	各回終了後のミニレポートでの質問や受講生が理解不十分と思われる個所については、翌回のクラス時にフィードバックする。		
【テキスト】	バーンズ&グローブ 看護研究入門 原著第7版/Grove,S.K., Burns,N., &Gray,J.R./黒田裕子他(監訳)/エルゼビアジャパン/ISBN:978-4860343002. その他、適宜提示する。		
【参考書】	看護研究 原理と方法 第2版/Polit,D.F., &Beck,C.T/近藤潤子(監訳)/医学書院/ISBN:978-4260005265 看護研究百科 第2版/ジョイス・J・フィッツパトリック、メレディス・ウォーレス著、岡谷恵子翻訳編/照林社/ISBN:978-4796521970 その他、適宜紹介する。		

【備考】	※授業を受ける上で個別に配慮が必要な場合は、事前に科目責任者に相談してください。		
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可

【科目名】	研究法Ⅱ	【科目英語名】	Nursing Research Ⅱ
【開講時期】	2024 年前期	【必選区分】	<input checked="" type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択
【授業形態】	<input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習	【単位数】	2 単位
【授業時間数】		【授業時間数】	30 時間
【科目責任者】	山田 紋子		
【担当教員】	山田 紋子、林 みよ子、堀 芽久美		
【DP との関連】	<input checked="" type="checkbox"/> DP1 <input type="checkbox"/> DP2 <input type="checkbox"/> DP3 <input checked="" type="checkbox"/> DP4		
【授業概要】	<p>本科目の目的は、「研究法Ⅰ」で学んだ内容を基礎として、自らの研究課題に適切な研究デザイン、研究方法を検討するために必要となる量的・質的研究の基本的な方法に関する知識を習得するとともに、それぞれの方法の理論的、哲学的基盤についても理解を深めることである。</p> <p>【キーワード】研究方法論、量的研究方法、質的研究方法</p>		
【授業目標】	<ol style="list-style-type: none"> 1. 量的研究を行う際の基本的な知識や技術、方法を理解できる。 2. 質的研究に関する代表的な方法について、理論的・哲学的基盤を含め、基本的な知識や技術を理解できる。 		
【授業展開】	<p>【授業方法】 対面授業とする。ただし、希望者はオンライン双方向による受講も可能である。</p> <p>【アクティブラーニングを促す方法】 <input checked="" type="checkbox"/>A ディスカッション／ディベート <input type="checkbox"/>B グループワーク <input checked="" type="checkbox"/>C プレゼンテーション <input type="checkbox"/>D 実習／フィールドワーク</p> <p>【授業内容】 第1回 授業ガイダンス(山田) <量的研究法>(堀) 第2回 対象者の選定(対象者の定義・サンプリング・リクルート法)(堀) 第3回 測定方法の計画(信頼性・妥当性)(堀) 第4回 サンプルサイズの計画、パワーの推定(堀) 第5回 試験のデザイン(優越性試験・同等性試験・非劣性試験)(堀) 第6回 分析方法① 研究例から考える検定の理解:変数の記述(堀) 第7回 分析方法② 研究例から考える検定の理解:関連性の検討(堀) 第8回 分析方法③ 研究例から考える検定の理解:因果推論(堀) <質的研究法>(山田・林) 第9回 質的研究方法の概要(山田) 第10～11回 具体的な質的研究法① 現象学と現象学的アプローチ(山田) 第12～13回 具体的な質的研究法② 人類学・社会学とエスノグラフィー(山田) 第14～15回 具体的な質的研究法③ 象徴的相互作用論とグラウンデッド・セオリー・アプローチ(林)</p>		
【事前・事後課題】	<p>主体的に授業に参画し、研究能力と専門性を修得できるよう事前準備と事後学習を行う。</p> <p>学部教育の統計学(平均値、分散、標準偏差、相関係数、t検定、カイ2乗検定など)の知識が必要となるので、各自で準備しておくこと。</p> <p>その他の授業毎の個別課題は、各授業回にて指示する。</p>		
【準備学習時間】	自分の能力に応じて、各自で設定する。		
【履修条件】	なし。		
【関連科目】	研究法Ⅰ		
【評価方法】	プレゼンテーション内容 40%、討議(参加への積極性、発言内容)20%、課題レポート 40%		
【フィードバックの方法】	メールまた授業時に質問を受け付ける。内容に応じて次回以降の授業回、または別途返答する。		
【テキスト】	バーンズ&グローブ 看護研究入門 原著第9版/エルゼビアジャパン/Gray,J.R. & Grove,S.K./黒田裕子他(監訳)/ISBN: 978-4-86034-794-9		
【参考書】	看護研究 原理と方法 第2版/医学書院/Polit,D.F., & Beck,C.T./近藤潤子(監訳)/ISBN: 978-4260005265 その他、適宜紹介する。		
【備考】	※授業を受ける上で個別に配慮が必要な場合は、事前に科目責任者に相談してください。		
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可

【科目名】	看護理論		【科目英語名】	Basics of Nursing Theory	
【開講時期】	2024 年度前期	【必選区分】	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択	【単位数】	2 単位
【授業形態】	<input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習			【授業時間数】	30 時間
【科目責任者】	操華子				
【担当教員】	操華子、伊藤良司(非常勤)				
【DPとの関連】	<input type="checkbox"/> DP1 <input type="checkbox"/> DP2 <input type="checkbox"/> DP3 <input checked="" type="checkbox"/> DP4				
【授業概要】	看護学の理論体系の変遷および看護理論についての知識を深め、あわせて関連する隣接諸科学の理論の活用も迫及する。講義、履修者による課題のプレゼンテーション、討議を通して、今後の実践・研究への活用の基盤作りを行う。 【キーワード】看護理論の歴史的変遷、看護理論家、理論構築、理論分析				
【授業目標】	1. 看護理論の歴史的変遷、定義、役割と機能、各時代の代表的な理論家について説明できる。 2. 理論構築の基礎ならびに評価の目的と評価基準について説明できる。 3. 代表的な看護理論を分析することができる。 4. 看護理論の適応の実際について考察することができる。				
【授業展開】	【授業方法】対面もしくはオンラインによるプレゼンテーション、ディスカッション 【アクティブラーニングを促す方法】 <input checked="" type="checkbox"/> A ディスカッション/ディバード <input type="checkbox"/> B グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> C プレゼンテーション <input type="checkbox"/> D 実習/フィールドワーク 【授業内容】 第1回:オリエンテーション・看護理論の定義と意義(操) 第2回:看護理論の構成要素、種類(操) 第3回:看護理論の歴史的発展過程 ナイチンゲールから第二次世界大戦まで(操) 第4回:看護理論の歴史的発展過程 第二次世界大戦後から現代まで(操) 第5回:理論分析と評価基準(操) 第6回:理論分析の実際① ヴァージニア・ヘンダーソン(操) 第7回:理論構築の基礎 概念分析(操) 第8回:理論構築の基礎 概念構築・開発(操) 第9回:理論分析演習(自己学習) 第10回:理論分析演習(自己学習) 第11回:理論分析の実際② 履修生によるプレゼンテーション(操) 第12回:理論分析の実際③ 履修生によるプレゼンテーション(操) 第13回:理論の哲学的背景① 科学を哲学してみよう 近代自然科学の哲学的再検討(伊藤) 第14回:理論の哲学的背景② 日常的な認知経験と質的研究(伊藤) 第15回:科学としての看護の今後の方向性・課題(操)				
【事前・事後課題】	主体的に授業に参画し、研究能力と専門性を修得できるよう事前準備と事後学習を行う。授業毎の個別課題は、各授業回にて指示する。				
【準備学習時間】	自身の学習ペースに応じて、履修生自身で設定する。				
【履修条件】	なし				
【関連科目】	研究法Ⅰ・Ⅱ、各看護特論				
【評価方法】	講義時のディスカッションへの参加度(40%)、各回終了後のミニレポート提出(20%)、プレゼンテーション(40%)を総合的に評価する。				
【フィードバックの方法】	回終了後のミニレポートでの質問や受講生が理解不十分と思われる個所については、翌回のクラス時にフィードバックする。				
【テキスト】	適宜提示する。				
【参考書】	適宜提示する。				
【備考】	※授業を受ける上で個別に配慮が必要な場合は、事前に科目責任者に相談してください。				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可		

【科目名】	看護倫理特論		【科目英語名】	Ethics in Nursing	
【開講時期】	2024 年度前期	【必選区分】	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択	【単位数】	2 単位
【授業形態】	<input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習			【授業時間数】	30 時間
【科目責任者】	山下早苗				
【担当教員】	山下早苗、小西恵美子(非常勤)				
【DPとの関連】	<input type="checkbox"/> DP1 <input type="checkbox"/> DP2 <input type="checkbox"/> DP3 <input checked="" type="checkbox"/> DP4				
【授業概要】	看護倫理とは何かを学ぶとともに、専門職として倫理的に「知ること(知識面)」「見ること(知覚面)」「振り返ること(内省面)」「行うこと(行動面)」「あること(資質面)」の能力を養う。 【キーワード】看護倫理、道徳、倫理的能力、専門職				
【授業目標】	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護倫理の歴史を学び、看護と共にある看護倫理の重要性を理解できる 2. 看護倫理に関係する重要な概念を理解できる 3. 自己の臨床看護実践や看護教育実践を振り返り、倫理的能力を身につける 4. 事例検討を通し看護倫理の感受性を高める 				
【授業展開】	<p>【授業方法】対面もしくはオンラインによる講義、プレゼンテーション、ディスカッション 【アクティブラーニングを促す方法】 <input checked="" type="checkbox"/>A ディスカッション/ディベート <input type="checkbox"/>B グループワーク <input checked="" type="checkbox"/>C プレゼンテーション <input type="checkbox"/>D 実習/フィールドワーク</p> <p>【授業内容】</p> <p>第1回: ガイダンス(山下) 第2回: 倫理と道徳(山下) 第3回: 看護倫理の歴史と重要性(山下) 第4回: 看護倫理に関係する重要な概念(山下) 第5回: 倫理的能力とアサーション(山下) 第6回: ケアの倫理と倫理的思考(山下) 第7回~11回: 倫理的能力のある看護師の実践: 個別課題のプレゼン(小西) 第12回~13回: 事例検討(山下) 第14回: 看護倫理カンファレンスの運営(山下) 第15回: 看護研究における倫理(山下)</p>				
【事前・事後課題】	主体的に授業に参画し、専門性を修得できるよう事前準備と事後学習を行う。 課題は初回のガイダンスおよび各授業回で指示する。				
【準備学習時間】	自分の能力に応じて、各自で設定する。				
【履修条件】	なし				
【関連科目】	各特論				
【評価方法】	課題レポート(30%)、プレゼンテーション(30%)、討議(40%)で総合的に評価する				
【フィードバックの方法】	質問はメールにて受け付ける。 内容に応じて次回以降の授業回、または別途返答する。				
【テキスト】	看護倫理 よい看護・よい看護師への道しるべ. 改訂第3. 小西恵美子 編集, 南江堂, ISBN 978452422508.				
【参考書】	看護倫理を考える言葉. 小西恵美子 著. 日本看護協会出版会, ISBN 9784818021372 看護実践の倫理 第3版. サラ T.フライ, メガン・ジェーン・ジョンストン著, 日本看護協会出版会, ISBN 9784818015128				
【備考】	※授業を受ける上で個別に配慮が必要な場合は、事前に科目責任者に相談してください。				
【社会人聴講生】	可		【科目等履修生】	不可	

【科目名】	看護教育学特論	【科目英語名】	Nursing Education
【開講時期】	2024 年度後期	【必選区分】	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択
【授業形態】	<input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習	【単位数】	2 単位
【科目責任者】	操華子	【授業時間数】	30 時間
【担当教員】	操華子、本家淳子(非常勤)		
【DPとの関連】	<input type="checkbox"/> DP1 <input type="checkbox"/> DP2 <input type="checkbox"/> DP3 <input checked="" type="checkbox"/> DP4		
【授業概要】	看護実践能力を高めるための人材育成に関する理論、方法についての学習を通し、看護職者として自己研鑽、自己成長する素地を培う。現任教育、看護基礎教育などの場において、教授学習プロセスを展開するために必要な基礎的な知識、技術を修得する。 【キーワード】教授学習プロセス、カリキュラム開発と評価、現任教育、キャリア発達		
【授業目標】	1. 看護の教育的機能、看護教育の歴史的変遷や法的根拠について説明できる。 2. 教育理念から教授学習プロセスまでの流れを説明できる。 3. 教育学に関連する諸理論について理解できる。 4. 教育の評価の原理、方法について説明できる。 5. 看護教育が看護ケアや実践能力に及ぼす影響について説明できる。		
【授業展開】	【授業方法】対面もしくはオンラインによるプレゼンテーション、ディスカッション 【アクティブラーニングを促す方法】 <input checked="" type="checkbox"/> A ディスカッション／ディバード <input type="checkbox"/> B グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> C プレゼンテーション <input type="checkbox"/> D 実習／フィールドワーク 【授業内容】 第1回:オリエンテーション、看護教育学とは何か(看護学教育、看護教育との違い) (操) 第2回:教育の原理 (操) 第3回:教授学習プロセス・教育の基盤となる諸理論 (操) 第4回:教授学習プロセスの影響要因 (操) 第5回:看護教育課程の歴史的変遷(制度を含む)、学問的発展の経緯 (操) 第6回:看護基礎教育におけるカリキュラム開発とカリキュラムデザイン (操) 第7回:教育の評価 (操) 第8回:教育技法の種類と教材開発(操) 第9回:インストラクショナルデザイン(操) 第10回:看護実践能力の育成のための教授・学習方法① (操) 第11回:看護実践能力の育成のための教授・学習方法② (操) 第12回:現任教育の展開① (本家) 第13回:現任教育の展開② (本家) 第14回:キャリア発達の方法及び課題 (本家) 第15回:まとめ		
【事前・事後課題】	主体的に授業に参画し、事前準備と事後学習を行う。授業毎の個別課題は、各授業回にて指示する。		
【準備学習時間】	自身の学習ペースに応じて、履修生自身で設定する。		
【履修条件】	なし		
【関連科目】	各看護特論		
【評価方法】	事前学習と講義時のディスカッションへの参加度(40%)、各回終了後のミニレポート提出(20%)、プレゼンテーション(40%)を総合的に評価する。		
【フィードバックの方法】	各回終了後のミニレポートでの質問や受講生が理解不十分と思われる箇所については、翌回のクラス時にフィードバックする。		
【テキスト】	Teaching in Nursing:: A guide for faculty (6 th . Ed.)/Billings, D. A. & Halstead, J. A. /Philadelphia: W.B.Saunders/ 978-0323554725 Nurse as Educator:: Principles of teaching and learning for nursing practice (6 th .ed.)/Bastable, S.B. /New York: Jones & Bartlett Learning/978-1-284-22927-1		
【参考書】	教育の哲学:ソクラテスからケアリングまで/ネル・ノディングス、宮寺晃夫監訳/世界思想社/4-7907-1212-5 C3337 教育評価[第2版補訂2版]/梶田観一/有斐閣双書/978-4-00-730130-8C0037		

	看護教育学(第7版)／杉森みど里・舟島なをみ／医学書院／978-4-260-02782-3C3047 インストラクショナルデザインの原理／ロバート・M. ガニエ、キャサリン・C. ゴラス他、鈴木・岩崎訳(2007)／北大路書房／9784762825736 研修設計マニュアル：人材育成のためのインストラクショナルデザイン／鈴木克明／北大路書房／ 978-4762828942		
【備考】	※授業を受ける上で個別に配慮が必要な場合は、事前に科目責任者に相談してください。		
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可

【科目名】	看護管理学特論		【科目英語名】	Nursing Management	
【開講時期】	2024 年前期	【必選区分】	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択	【単位数】	2 単位
【授業形態】	<input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習			【授業時間数】	30 時間
【科目責任者】	竹熊カツマタ 麻子				
【担当教員】	竹熊カツマタ 麻子				
【DP との関連】	<input type="checkbox"/> DP1 <input type="checkbox"/> DP2 <input checked="" type="checkbox"/> DP3 <input checked="" type="checkbox"/> DP4				
【授業概要】	<p>組織をリードする時、また、臨床の現場で問題に直面する時に管理者は問題解決に努めるが、そのアプローチに理論的根拠がないままに対処している場合がみられる。</p> <p>本科目では看護力のある組織づくりのために、臨床での問題を解決する為に 1)リーダーシップの理論、2)問題解決のための方法、3)変革をもたらすための基礎的な理論について、分かりやすく現場の事例やグループワークなどを通じて学ぶ。</p> <p>【キーワード】リーダーシップ、問題解決法、変革理論、組織、システム、PDSA サイクル</p>				
【授業目標】	<ol style="list-style-type: none"> 1. リーダーシップスタイルの特徴と違いについて説明することができる。 2. 組織の中で求められているリーダーシップについて説明することができる。 3. 組織の中での問題を解決するための考え方、アプローチを知る。 4. 臨床現場における問題の解決とケアの質の向上をもたらす方法と理論について説明できる。 				
【授業展開】	<p>【授業方法】 対面もしくはオンラインによる講義、プレゼンテーション、ディスカッション</p> <p>【アクティブラーニングを促す方法】</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>A ディスカッション／ディベート <input checked="" type="checkbox"/>B グループワーク <input checked="" type="checkbox"/>C プレゼンテーション <input type="checkbox"/>D 実習／フィールドワーク</p> <p>【授業内容】</p> <p>第 1 回：リーダーシップについて</p> <p>第 2 回：リーダーシップのスタイルの特徴とその違いと応用について</p> <p>第 3 回：変革をもたらすリーダーシップについて</p> <p>第 4 回：変革理論について</p> <p>第 5 回：組織について</p> <p>第 6 回：臨床の現場の問題分析</p> <p>第 7 回：グループワーク(問題分析)</p> <p>第 8 回：グループワーク(PDSA サイクルを廻す)</p> <p>第 9 回：グループワーク発表</p> <p>第 10 回：プロジェクトマネジメント</p> <p>第 11 回：看護力の高い組織についてマグネット認証プログラム</p> <p>第 12 回：看護力の評価について</p> <p>第 13 回：変革について</p> <p>第 14 回：最終プレゼンテーションと発表</p> <p>第 15 回：最終プレゼンテーションと発表とまとめ</p>				
【事前・事後課題】	問題分析、問題解決についての計画(PDSA サイクル)、データマネジメント（各授業時に課題を示す）				
【準備学習時間】	各自、授業回や自己の能力に応じて設定する。				
【履修条件】	なし				
【関連科目】	基盤看護学特論 I				
【評価方法】	レポート 40%、グループワーク課題 20%、プレゼンテーション 40%				
【フィードバックの方法】	メールにて質問を受け付ける。内容に応じて次回以降の授業回、または別途返答する。				
【テキスト】	適宜紹介する。				
【参考書】	適宜紹介する				
【備考】	※授業を受ける上で個別に配慮が必要な場合は、事前に科目責任者に相談してください。				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可		

【科目名】	家族看護特論		【科目英語名】	Family Nursing	
【開講時期】	2024 年度後期	【必選区分】	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択	【単位数】	2 単位
【授業形態】	<input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習			【授業時間数】	30 時間
【科目責任者】	富安眞理				
【担当教員】	富安眞理、篁宗一、高見紀子(非常勤)				
【DPとの関連】	<input type="checkbox"/> DP1 <input type="checkbox"/> DP2 <input checked="" type="checkbox"/> DP3 <input checked="" type="checkbox"/> DP4				
【授業概要】	<p>家族看護は、療養者を含めた家族を一つの単位として捉え、家族の健康問題にアプローチする看護の一分野である。家族看護を理解し実践するために必要な知識としての家族論、現代家族の動向、次いで、家族看護と家族療法に関する諸理論、さらに家族に対するアセスメントと介入方法を学ぶ。そして、家族のライフステージで生じやすい家族の健康問題へのアプローチを検討する。</p> <p>【キーワード】家族看護、事例検討</p>				
【授業目標】	<ol style="list-style-type: none"> 1. 家族看護に関する研究の動向を理解できる。 2. 家族看護において必要となる諸理論や家族アセスメントモデルを説明できる。 3. 療養者とその家族への家族看護実践にあたっての看護専門職の役割を説明できる。 4. 家族看護の実事例から、家族看護実践の評価や課題について検討できる。 				
【授業展開】	<p>【授業方法】 対面もしくはオンラインによるプレゼンテーション、ディスカッション</p> <p>【アクティブラーニングを促す方法】 <input checked="" type="checkbox"/>A ディスカッション/ディベート <input type="checkbox"/>B グループワーク <input checked="" type="checkbox"/>C プレゼンテーション <input type="checkbox"/>D 実習/フィールドワーク</p> <p>【授業内容】</p> <p>第1回 家族の形態と機能、家族の捉え方、現代家族の動向、家族と文化（富安） 第2回 家族看護の歴史、目的、対象、評価（富安） 第3回 家族発達理論、家族ストレス対処理論（富安） 第4回 家族システム理論 ①システム論（篁） 第5回 家族システム理論 ②家族看護と家族療法（篁） 第6回 家族システム理論 ③全体としての家族（篁） 第7回 家族アセスメントモデルと援助 ①フリードマン家族アセスメントモデル(高見) 第8回 家族アセスメントモデルと援助 ②カルガリー家族アセスメントモデル、エンパワメントモデル(高見) 第9回 家族アセスメントモデルと援助 ③渡辺式モデル(高見) 第10回 家族面接の技法（篁） 第11回 家族看護の実践 急性期にある事例（学生事例・富安） 第12回 家族看護の実践 慢性期にある事例（学生事例・富安） 第13回 家族看護の実践 終末期にある事例（学生事例・富安） 第14回 家族看護の実践 多問題化家族の事例（学生事例・富安） 第15回 家族看護の実践 まとめ（富安）</p>				
【事前・事後課題】	主体的にクラスに参画し、研究能力と専門性を修得できるよう事前・事後学習を行う。クラスの個別課題は、各クラスにて指示する。				
【準備学習時間】	各クラスにて指示する。				
【履修条件】	なし				
【関連科目】	研究法Ⅰ・Ⅱ、各看護学特論				
【評価方法】	講義や討議の取組(20%)、事例検討のプレゼンテーション(50%)、課題レポート(30%)で評価する。				
【フィードバックの方法】	メールにて質問を受け付ける。内容に応じて次回以降のクラス、または別途返答する。				
【テキスト】	家族看護学 理論と実践 第5版/鈴木和子・渡辺裕子/日本看護協会出版会/ISBN:978-4-8180-2208-9 家族看護モデル アセスメントと援助の手引き/森山美知子/医学書院/ISBN:978-4260341950				
【参考書】	参考文献をクラスで紹介する。				
【備考】	※授業を受ける上で個別に配慮が必要な場合は、事前に科目責任者に相談してください。				
【社会人聴講生】	可 受け入れに際し、事前面談を実施する。		【科目等履修生】	可 受け入れに際し、事前面談を実施する。	

【科目名】	基礎科学特講		【科目英語名】	Fundamental Science	
【開講時期】	2023 年度後期	【必選区分】	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択	【単位数】	2 単位
【授業形態】	<input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習			【授業時間数】	30 時間
【科目責任者】	井上健一郎				
【担当教員】	井上健一郎				
【DPとの関連】	<input type="checkbox"/> DP1 <input checked="" type="checkbox"/> DP2 <input type="checkbox"/> DP3 <input type="checkbox"/> DP4				
【授業概要】	ヒトの正常発生を通して、器官の構造や機能を再考する。疾病の病態メカニズム・治療法に係る科学研究論文を紹介・抄読しながら、研究の意義づけ、新規性、発展内容等の骨格を会得する。 【キーワード】 遺伝、病態学				
【授業目標】	<ol style="list-style-type: none"> 1. ヒトの正常発生を説明できる。 2. 先天異常がなぜ発生するか説明できる。 3. 遺伝のメカニズムを説明できる。 4. 病態発生メカニズムを説明できる。 5. 病態解明のためのアプローチを説明できる。 				
【授業展開】	<p>【授業方法】 対面もしくはオンラインによるプレゼンテーション、ディスカッション 【アクティブラーニングを促す方法】 <input checked="" type="checkbox"/>A ディスカッション／ディバード <input type="checkbox"/>B グループワーク <input checked="" type="checkbox"/>C プレゼンテーション <input type="checkbox"/>D 実習／フィールドワーク</p> <p>【授業内容】</p> <p>第1回 授業ガイダンス 第2回 ヒトの正常発生1 第3回 ヒトの正常発生2 第4回 先天異常の発生1 第5回 先天異常の発生2 第6回 遺伝のメカニズム1 第7回 遺伝のメカニズム2 第8回 病態発生メカニズム1 第9回 病態発生メカニズム2 第10回 病態解明のためのアプローチ1 第11回 病態解明のためのアプローチ2 第12回 各種疾患の病態解明に迫る研究論文を選択し、読解・意見交換、受講生との討論1 第13回 各種疾患の病態解明に迫る研究論文を選択し、読解・意見交換、受講生との討論2 第14回 各種疾患の病態解明に迫る研究論文を選択し、読解・意見交換、受講生との討論3 第15回 各種疾患の病態解明に迫る研究論文を選択し、読解・意見交換、受講生との討論4</p>				
【事前・事後課題】	主体的に授業に参画し、研究能力と専門性を修得できるよう事前準備と事後学習を行う。授業毎の個別課題は、各授業回にて指示する。				
【準備学習時間】	各授業回にて指示する。				
【履修条件】	なし				
【関連科目】	各看護学特論				
【評価方法】	英語科学論文の講読レポート(50%)、講読内容のプレゼンテーション(50%)で評価する。				
【フィードバックの方法】	メールにて質問を受け付ける。内容に応じて次回以降の授業回、または別途返答する。				
【テキスト】	系統看護学講座 専門Ⅱ/母性看護学概論、小児臨床看護各論、呼吸器、循環器、血液・造血器、消化器、内分泌・代謝・脳・神経・腎・泌尿器、女性生殖器、運動器、アレルギー・膠原病、感染症/医学書院 その他、適宜提示する。				
【参考書】	イヤート 2024 内科・外科編/メディックメディア/岡庭豊(編集)/ISBN:978-4896328196 その他、適宜提示する。				
【備考】	※授業を受ける上で個別に配慮が必要な場合は、事前に科目責任者に相談してください。				
【社会人聴講生】	事前面談あり		【科目等履修生】	事前面談あり	

【科目名】	国際保健医療特論	科目英語名	International Healthcare
【開講時期】	2024 年度前期	【必選区分】	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択
【授業形態】	<input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習	【単位数】	2 単位
【授業時間数】		【授業時間数】	30 時間
【科目責任者】	林みよ子		
【担当教員】	松田正己(非常勤)、神馬征峰(非常勤)		
【DPとの関連】	<input type="checkbox"/> DP1 <input type="checkbox"/> DP2 <input checked="" type="checkbox"/> DP3 <input type="checkbox"/> DP4		
【授業概要】	<p>アジアにおける先進国として、わが国の国際社会における責務は年々増加し、近隣の諸外国からの期待も増大してきている。現在わが国は世界有数の海外援助国になっているが、その具体的な活動や国際保健の協力状況にはさまざまな問題点が指摘されている。そこで、国際保健分野における国際協力活動(国際機関、政府機関、NGO)の進め方について、現状と歴史、保健問題に関する理解や必要な知識について具体的な事例(ケース・スタディ:東南アジア、中国、ラテンアメリカ、アフリカ)をもとに、将来国際保健領域で活動をする上での基礎を学習する。</p> <p>【キーワード】 国際保健、国際医療</p>		
【授業目標】	<ol style="list-style-type: none"> 1. 国際協力活動の現状を理解できる。 2. 国際感染症の現状を理解できる。 3. 国際保健のマネジメントを理解できる。 4. 最近のプライマリ・ヘルス・ケアの動向を理解できる。 		
【授業展開】	<p>【授業方法】 対面もしくはオンラインによるプレゼンテーション、ディスカッション</p> <p>【アクティブラーニングを促す方法】 <input checked="" type="checkbox"/>A ディスカッション/ディバード <input type="checkbox"/>B グループワーク <input checked="" type="checkbox"/>C プレゼンテーション <input type="checkbox"/>D 実習/フィールドワーク</p> <p>【授業内容】</p> <p>第1回 授業ガイダンス(林) 第2回 国際社会における保健問題(松田) 第3回 国際保健協力の歴史と現状(松田) 第4回 わが国の国際保健協力の現状1:ODAの現状、JICAによる活動状況(松田) 第5回 わが国の国際保健協力の現状2:NGO活動の現状(松田) 第6回 国際感染症の現状1(結核)(神馬) 第7回 国際感染症の現状2(エイズ)(神馬) 第8回 ケーススタディ1:東南アジア地域における活動と問題点(松田) 第9回 ケーススタディ2:中東地域における活動と問題点(松田) 第10回 ケーススタディ3:ラテンアメリカ地域における活動と問題点(松田) 第11回 ケーススタディ4:アフリカ地域における活動と問題点(松田) 第12回 国際保健のマネジメント(神馬) 第13回 将来における国際保健協力の進め方(神馬) 第14回 UHC:最近のプライマリ・ヘルス・ケアの動向(WHO 世界保健報告 2008)(神馬) 第15回 UHC とタイの地方自治・地域看護・保健ケアシステム(神馬)</p>		
【事前・事後課題】	主体的に授業に参画し、研究能力と専門性を修得できるよう事前準備と事後学習を行う。授業毎の個別課題は、各授業回にて指示する。		
【準備学習時間】	各授業内容の理解度・習熟度に応じた時間の学習をする。		
【履修条件】	なし		
【関連科目】	なし		
【評価方法】	課題レポート 50%、プレゼンテーション内容 50%で評価する。		
【フィードバックの方法】	メールで質問を受け付ける。内容に応じて次回以降の授業回、または別途返答する。		
【テキスト】	別途提示する。		

【参考書】	変わりゆく世界と 21 世紀の地域健康づくり(第 3 版)／松田正己、奥野ひろみ、小山修、藤井達也、菅原スミ編 ／やどかり出版／ISBN:978-4-904185-15-5 実践 ヘルスプロモーション PRECEDE-PROCEED モデルによる企画と評価／ローレンス W. グリーン／マー シャル W. クロイター:神馬征峰訳／医学書院／ISBN:978-4260001717		
【備考】	※授業を受ける上で個別に配慮が必要な場合は、事前に科目責任者に相談してください。		
【社会人聴講生】	事前面談要	【科目等履修生】	事前面談要

【科目名】	英語科学論文クリティーク	【科目英語名】	Reading English Scientific Articles
【開講時期】	2024 年度前期	【必選区分】	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択
【授業形態】	<input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習	【単位数】	2 単位
【科目責任者】	操華子	【授業時間数】	30 時間
【担当教員】	操華子		
【DP との関連】	<input checked="" type="checkbox"/> DP1 <input type="checkbox"/> DP2 <input type="checkbox"/> DP3 <input type="checkbox"/> DP4		
【授業概要】	<p>看護、医療に関する英語科学論文を読み、クリティークするための基本的技術を修得する。履修生の研究テーマに関連した英語科学論文のクリティーク結果を自身の研究課題と結びつけ、リサーチクエスチョンを焦点化させていくことを目指す。</p> <p>【キーワード】英語科学論文、IMRAD、クリティーク、批判的吟味</p>		
【授業目標】	<ol style="list-style-type: none"> 1. 英語科学論文を読むための論文・要旨の構造、パラグラフの種類、文法上の特徴について理解する。 2. 英語科学論文をクリティークし、論文の長所・短所を述べることができる。 3. 履修生自身の研究課題と英語科学論文のクリティーク結果を関連づけて討論できる。 		
【授業展開】	<p>【授業方法】対面もしくはオンラインによるプレゼンテーション、ディスカッション</p> <p>【アクティブラーニングを促す方法】</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>A ディスカッション／ディバード <input type="checkbox"/>B グループワーク <input checked="" type="checkbox"/>C プレゼンテーション <input type="checkbox"/>D 実習／フィールドワーク</p> <p>【授業内容】</p> <p>第1回：オリエンテーション</p> <p>第2回：英語科学論文の検索・選定</p> <p>第3回：看護学・医学領域に関連した英語科学論文・抄録の基本的構造</p> <p>第4回：英語科学論文の抄録・論文全体の読み方</p> <p>第5回：英語科学論文のクリティーク方法：実験・準実験研究</p> <p>第6回：英語科学論文のクリティーク方法：コホート研究</p> <p>第7回：英語科学論文のクリティーク方法：症例対照研究</p> <p>第8回：英語科学論文のクリティーク方法：横断研究</p> <p>第9回：英語科学論文のクリティーク方法：質的研究</p> <p>第10回：履修生の研究領域の英語科学論文精読・クリティーク発表①</p> <p>第11回：履修生の研究領域の英語科学論文精読・クリティーク発表②</p> <p>第12回：履修生の研究領域の英語科学論文精読・クリティーク発表③</p> <p>第13回：履修生の研究領域の英語科学論文精読・クリティーク発表④</p> <p>第14回：履修生の研究領域の英語科学論文精読・クリティーク発表⑤</p> <p>第15回：履修生の研究領域の英語科学論文精読・クリティーク発表⑥</p>		
【事前・事後課題】	主体的に授業に参画し、事前準備と事後学習を行う。授業毎の個別課題は、各授業回にて指示する。		
【準備学習時間】	自身の学習ペースに応じて、履修生自身で設定する。		
【履修条件】	なし		
【関連科目】	研究法Ⅰ・Ⅱ、各看護特論		
【評価方法】	英語科学論文の講読レポート(50%)、講読内容のプレゼンテーション(50%)を総合的に評価する。		
【フィードバックの方法】	随時、授業内容、課題内容についての質問をメールで受け付ける。内容によって個別あるいは次回授業時にフィードバックする。		
【テキスト】	How to read a paper: The basics of evidence-based medicine and healthcare 6 th ed./T. Greenhalgh/ Wiley Blackwell/ISBN 978-1-119-48474-5		
【参考書】	<p>研究手法別のチェックシートで学ぶ よくわかる看護研究論文のクリティーク(第2版)／牧本清子・山川みやえ／日本看護協会出版会／ISBN 978-4-8180-2271-3</p> <p>Critical appraisal of epidemiological studies and clinical trials 2nd ed./M. Elwood/Oxford University Press/ISBN0-19-262744-9</p>		
【備考】	※授業を受ける上で個別に配慮が必要な場合は、事前に科目責任者に相談してください。		
【社会人聴講生】	可	【科目等履修生】	可

【科目名】	基盤看護学特論 I		【科目英語名】	Special study of Fundamental Nursing I	
【開講時期】	2024年前期	【必選区分】	□必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択	【単位数】	2 単位
【授業形態】	<input checked="" type="checkbox"/> 講義 □演習 □実習			【授業時間数】	30 時間
【科目責任者】	竹熊カツマタ 麻子				
【担当教員】	竹熊カツマタ 麻子				
【DP との関連】	<input checked="" type="checkbox"/> DP1 □DP2 □DP3 <input checked="" type="checkbox"/> DP4				
【授業概要】	看護管理学特論をはじめとする特論での学修を基に、研究の遂行に必要な能力を高める。多様な看護の対象を踏まえ、文献クリティーク、フィールドワークなどの演習を通して、自己の研究課題を明確にする。 【キーワード】 研究法、PICO、EBP、システマティックレビュー				
【授業目標】	1.看護管理学分野の興味のある現象について言語化することができる。 2.PICO クエスチョンを挙げるができる。 3.研究のプロセスとエビデンスを創出するサイクルについて説明できる。 4.研究における理論、モデル、概念枠組みについて説明できる。 5.研究の間とそれを明らかにする研究方法の妥当性について説明できる。				
【授業展開】	【授業方法】 対面もしくはオンラインによる講義、プレゼンテーション、ディスカッション 【アクティブラーニングを促す方法】 <input checked="" type="checkbox"/> A ディスカッション／ディバード <input checked="" type="checkbox"/> B グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> C プレゼンテーション □D 実習／フィールドワーク 【授業内容】 第 1 回：研究とはなにか：研究の背景にある哲学を知る 第 2 回：研究の課題と問について：PICO 第 3 回：エビデンスとそのレベルについて：EBPIについて 第 4 回：システマティックレビュー：文献レビューの方法について 第 5 回：文献のクリティークについて 第 6 回：研究における概念の定義 第 7 回：研究におけるモデルと理論の活用 第 8 回：測定法について：看護の現象をどのように測定するのか 第 9 回：研究課題と研究の間の性質：何を明らかにしたいのか？ 第 10 回：学生のプレゼンテーション：研究で明らかになっていることと明らかになっていないこと 第 11 回：学生のプレゼンテーション：研究の課題について 第 12 回：学生のプレゼンテーション：研究の方法とその妥当性について 第 13 回：研究の結果を臨床にどの様に活かすか 第 14 回：QI(Quality Improvement) 第 15 回：学生最終発表				
【事前・事後課題】	授業毎の個別課題は、各授業回にて指示する。				
【準備学習時間】	各自、授業回や自己の能力に応じて設定する。				
【履修条件】	なし				
【関連科目】	看護管理学特論、基盤看護学応用演習 I				
【評価方法】	課題レポート 50%、課題発表 50%				
【フィードバックの方法】	メールにて質問を受け付ける。内容に応じて次回以降の授業回、または別途返答する。				
【テキスト】	看護研究 原理と方法 第 2 版／Polit,D.F., &Beck,C.T./近藤潤子(監訳)／医学書院／ISBN:978-4260005265 その他、適宜紹介する。				
【参考書】	バーンズ&グローブ 看護研究入門 原著第 7 版／Grove,S.K., Burns,N., &Gray,J.R./黒田裕子他(監訳)／エルゼビアジャパン／ISBN:978-4860343002				
【備考】	※授業を受ける上で個別に配慮が必要な場合は、事前に科目責任者に相談してください。				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可		

【科目名】	基盤看護学特論Ⅱ		【科目英語名】	Special study of Fundamental NursingⅡ	
【開講時期】	2024 年前期	【必選区分】	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択	【単位数】	2 単位
【授業形態】	<input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習			【授業時間数】	30 時間
【科目責任者】	荒井孝子				
【担当教員】	荒井孝子、加藤京里				
【DP との関連】	<input checked="" type="checkbox"/> DP1 <input type="checkbox"/> DP2 <input type="checkbox"/> DP3 <input checked="" type="checkbox"/> DP4				
【授業概要】	看護実践場面における看護行為を取り上げ、その行為を成り立たせている看護技術の原理・原則との関係性と看護技術の可能性を多面的に検討し、新たな看護技術の有効性を検証する方法について学習する。主に、「フィジカルアセスメント」、「身体機能を支援するケア」に関する看護技術を重点的に取り組む。 【キーワード】看護技術、フィジカルアセスメント、看護技術開発				
【授業目標】	1. 看護実践場面における看護行為と看護技術の原理・原則との関係を構造化し、看護技術がもつ意味を説明できる。 2. 看護技術に必要な計測・測定技術の有効性および具体的な活用方法について説明できる。 3. 多面的な視点で、看護技術開発の有効性を検証できる。				
【授業展開】	<p>【授業方法】 対面もしくはオンラインによる講義、プレゼンテーション、ディスカッションを行う</p> <p>【アクティブラーニングを促す方法】 <input checked="" type="checkbox"/>A ディスカッション／ディバード <input type="checkbox"/>B グループワーク <input checked="" type="checkbox"/>C プレゼンテーション <input type="checkbox"/>D 実習／フィールドワーク</p> <p>【授業内容】</p> <p>第 1 回 オリエンテーション、看護技術の開発とは（荒井） 第 2 回 看護技術論① 看護技術の原理（荒井） 第 3 回 看護技術論② 看護技術の原理（荒井） 第 4 回 看護技術論③ 看護行為と看護技術（加藤） 第 5 回 看護技術論④ 看護行為と看護技術（加藤） 第 6 回 フィジカルアセスメントの実際（荒井） 第 7 回 フィジカルアセスメントの課題分析（荒井） 第 8 回 フィジカルアセスメントの新たな技術的課題の検証（荒井） 第 9 回 身体機能を支援するケアの原理と応用（加藤） 第 10 回 身体機能を支援するケアの実際（加藤） 第 11 回 身体機能を支援するケアの課題分析（加藤） 第 12 回 身体機能を支援するケアの新たな技術的課題の検証（加藤） 第 13 回 看護技術とその開発①（荒井・加藤） 第 14 回 看護技術とその開発②（荒井・加藤） 第 15 回 看護技術とその開発③（荒井・加藤）</p>				
【事前・事後課題】	主体的に授業に参画し、研究能力と専門性を修得できるよう取り組む。授業毎の個別課題は、各授業回にて指示する。				
【準備学習時間】	各自、授業回や自己の能力に応じて設定する。				
【履修条件】	なし				
【関連科目】	基盤看護学応用演習Ⅱ				
【評価方法】	ディスカッション 50%、プレゼンテーション 50%により、総合的に評価する。				
【フィードバックの方法】	メールにて質問を受け付ける。内容に応じて次回以降の授業回、または別途返答する。				
【テキスト】	適宜紹介する。				
【参考書】	適宜紹介する。				
【備考】	※授業を受ける上で個別に配慮が必要な場合は、事前に科目責任者に相談してください。				
【社会人聴講生】	不可		【科目等履修生】	不可	

【科目名】	基盤看護学特論Ⅲ		【科目英語名】	Special study of Fundamental Nursing III	
【開講時期】	2024 年度前期	【必選区分】	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択	【単位数】	2 単位
【授業形態】	<input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習			【授業時間数】	30 時間
【科目責任者】	操華子				
【担当教員】	操華子				
【DPとの関連】	<input checked="" type="checkbox"/> DP1 <input type="checkbox"/> DP2 <input type="checkbox"/> DP3 <input checked="" type="checkbox"/> DP4				
【授業概要】	<p>感染予防の基本となる知識、そのとりまく現状について理解し、代表的な医療関連感染の予防対策、病院・病床環境対策、職業感染に関する基本的知識を、講義、プレゼンテーション、討議を通して修得する。さらに世界的視野で感染症の問題をとらえ、バイオテロリズムへの備えの重要性についても学習する。</p> <p>【キーワード】感染予防、医療関連感染対策、感染症の流行(エピデミック、パンデミック)、バイオテロリズム</p>				
【授業目標】	<ol style="list-style-type: none"> 1. 感染制御・予防の重要性ならびに基本的な考え方を理解する。 2. 代表的な医療関連感染の現状とその対策について理解する。 3. 感染症のグローバル化の現状と感染予防対策について理解する。 4. 人為的災害の一つであるバイオテロリズムについて理解する。 				
【授業展開】	<p>【授業方法】対面もしくはオンラインによるプレゼンテーション、ディスカッション</p> <p>【アクティブラーニングを促す方法】</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>A ディスカッション／ディバード <input type="checkbox"/>B グループワーク <input checked="" type="checkbox"/>C プレゼンテーション <input type="checkbox"/>D 実習／フィールドワーク</p> <p>【授業内容】</p> <p>第1回:オリエンテーション</p> <p>第2回:感染症の変遷と感染制御</p> <p>第3回:感染・感染症理解のための基本的な概念、考え方</p> <p>第4回:医療安全と感染予防</p> <p>第5回:感染予防策対策の基本:隔離予防策</p> <p>第6回:基本となる感染予防対策技術</p> <p>第7回:代表的な感染症対策と課題① 血流感染</p> <p>第8回:代表的な感染症対策と課題② 結核・HIV</p> <p>第9回:代表的な感染症対策と課題③ 薬剤耐性菌</p> <p>第10回:代表的な感染症対策と課題④ 呼吸器感染症(新型コロナウイルス感染症・インフルエンザ)</p> <p>第11回:clinical practice guideline と感染対策</p> <p>第12回:集団発生(アウトブレイク)時の対応と原因探索</p> <p>第13回:新興感染症と再興感染症(感染症のグローバル化)</p> <p>第14回:バイオテロリズムの脅威</p> <p>第15回:まとめ</p>				
【事前・事後課題】	第2回以降のクラスの事前課題については、オリエンテーション時に説明をする。事後課題は、クラス内で出された演習への回答と学びのふりかえりをミニレポートとして提出する。				
【準備学習時間】	自身の学習ペースに応じて、履修生自身で設定する。				
【履修条件】	なし				
【関連科目】	研究法Ⅰ・Ⅱ、英語科学論文クリティーク				
【評価方法】	講義時のディスカッションへの参加度(40%)、プレゼンテーション(60%)を総合的に評価する。				
【フィードバックの方法】	各回終了後のミニレポートでの質問や履修生が理解不十分と思われる個所については、翌回のクラス時にフィードバックする。				
【テキスト】	看護学テキスト NICE 感染看護学:患者の健康と権利を守り安全に看護を实践する/操華子・川上和美編/南江堂/978-4-524-22978-9 C3047 他、適宜提示する。				
【参考書】	感染管理・感染症看護テキスト/大曲貴夫・操華子編/照林社/978-4-7965-2350-9 他、適宜紹介する。				
【備考】	※授業を受ける上で個別に配慮が必要な場合は、事前に科目責任者に相談してください。				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可		

【科目名】	基盤看護学応用演習 I		【科目英語名】	Exercise in Fundamental Nursing I	
【開講時期】	2024 年前期・後期	【必選区分】	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択	【単位数】	4 単位
【授業形態】	<input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習			【授業時間数】	60 時間
【科目責任者】	竹熊カツマタ 麻子				
【担当教員】	竹熊カツマタ 麻子				
【DP との関連】	<input checked="" type="checkbox"/> DP1 <input type="checkbox"/> DP2 <input type="checkbox"/> DP3 <input type="checkbox"/> DP4				
【授業概要】	看護管理学領域における研究課題の探求を通じて研究の遂行に必要な知識、技術、そして態度を学ぶ 【キーワード】 文献レビュー、エビデンスの統合、EBP プロジェクト、QI (Quality Improvement)				
【授業目標】	1.関心のあるテーマに関する文献をクリティークすることができる。 2.多様な看護の対象を踏まえて、自己の研究課題を検討できる。 3.文献検討やフィールドワークなどからの学びを説明できる。 4.文献検討やフィールドワークなどからの学びを基に、研究課題を明確にできる。 5.研究の問い(研究課題)を明らかにする研究方法について検討することが出来る。				
【授業展開】	【授業方法】 対面もしくはオンラインによるプレゼンテーション、ディスカッション 【アクティブラーニングを促す方法】 <input checked="" type="checkbox"/> A ディスカッション/ディベード <input type="checkbox"/> B グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> C プレゼンテーション <input type="checkbox"/> D 実習/フィールドワーク 【授業内容】 第 1 回～8 回: 関心のあるテーマに関する文献クリティーク 第 9 回～15 回: 関心のあるテーマに関する文献の統合 第 16 回～25 回: 研究課題と研究の問いの明確化 第 26 回～30 回: 研究の問いから研究方法、研究の枠組み、理論について検討する				
【事前・事後課題】	授業毎の個別課題は、各授業回にて指示する。				
【準備学習時間】	各自、授業回や自己の能力に応じて設定する。				
【履修条件】	なし				
【関連科目】	基盤看護学特論 I				
【評価方法】	プレゼンテーション 50%、レポート 50%				
【フィードバックの方法】	メールにて質問を受け付ける。内容に応じて次回以降の授業回、または別途返答する。				
【テキスト】	看護研究 原理と方法 第 2 版/Polit,D.F., &Beck,C.T/近藤潤子(監訳)/医学書院/ISBN: 978-4260005265 その他、適宜紹介する。				
【参考書】	バーンズ&グローブ 看護研究入門 原著第 7 版/Grove,S.K., Burns,N., &Gray,J.R./黒田裕子他(監訳)/エルゼビアジャパン/ISBN: 978-4860343002				
【備考】	※授業を受ける上で個別に配慮が必要な場合は、事前に科目責任者に相談してください。				
【社会人聴講生】	不可		【科目等履修生】	不可	

【科目名】	基盤看護学応用演習Ⅱ		【科目英語名】	Exercise in Fundamental NursingⅡ	
【開講時期】	2024 年前期・後期	【必選区分】	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択	【単位数】	4 単位
【授業形態】	<input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習			【授業時間数】	60 時間
【科目責任者】	荒井孝子				
【担当教員】	荒井孝子、加藤京里				
【DP との関連】	<input checked="" type="checkbox"/> DP1 <input type="checkbox"/> DP2 <input type="checkbox"/> DP3 <input type="checkbox"/> DP4				
【授業概要】	看護実践において基盤となる看護理論、患者・看護師の相互作用、看護技術などを取り上げ、検証する方法を探究する。自己の研究課題を明らかにし、研究計画書を作成することにより、研究計画立案のプロセスを学ぶ。 【キーワード】研究課題の明確化、文献検討、研究計画書作成				
【授業目標】	<ol style="list-style-type: none"> 1. 関心のある領域を記述し、それをもとに文献検討できる。 2. 文献検討の結果に基づき、自らの研究課題を焦点化し、明確に記述できる。 3. 見出した研究課題に応じた研究目的と意義を記述できる。 4. 研究目的に基づいて、研究デザインを定め、研究計画を立案できる。 5. 研究計画書の作成に伴う倫理的課題について理解し、それについて対応できる。 				
【授業展開】	<p>【授業方法】 対面もしくはオンラインによるプレゼンテーション、ディスカッション</p> <p>【アクティブラーニングを促す方法】 <input checked="" type="checkbox"/>A ディスカッション／ディベート <input type="checkbox"/>B グループワーク <input checked="" type="checkbox"/>C プレゼンテーション <input type="checkbox"/>D 実習／フィールドワーク</p> <p>【授業内容】 第 1 回 オリエンテーション(荒井) 第 2～3 回 関心がある領域の検討(荒井・加藤) 第 4～5 回 キーワードの設定、文献検索(荒井・加藤) 第 6～10 回 関心のあるテーマに関する研究の文献検討・論文クリティーク:国内文献(荒井・加藤) 第 11～14 回 関心のあるテーマに関する研究の文献検討・論文クリティーク:海外文献(荒井・加藤) 第 15 回 文献検討のまとめ(荒井・加藤) 第 16～18 回 研究課題・研究目的の明確化(荒井・加藤) 第 19～20 回 研究デザインの検討(荒井・加藤) 第 21～24 回 研究方法の検討(荒井・加藤) 第 25 回 研究計画における倫理的配慮(荒井・加藤) 第 26～28 回 研究課題に関する研究計画書の作成(荒井・加藤) 第 29～30 回 研究計画の実施可能性の検討(荒井・加藤)</p>				
【事前・事後課題】	授業毎の個別課題は、各授業回にて指示する。				
【準備学習時間】	各自、授業回や自己の能力に応じて設定する。				
【履修条件】	基盤看護学特論Ⅱの単位取得見込み、もしくは単位取得していること。				
【関連科目】	研究法Ⅰ・Ⅱ、基盤看護学特論Ⅱ、基盤看護学特別研究				
【評価方法】	研究計画書の内容 50%、プレゼンテーション 50%				
【フィードバックの方法】	メールにて質問を受け付ける。内容に応じて次回以降の授業回、または別途返答する。				
【テキスト】	バーンズ&グローブ 看護研究入門 原著第 7 版／Grove,S.K., Burns,N., &Gray,J.R./黒田裕子他(監訳)／エルゼビアジャパン／ISBN:978-4860343002				
【参考書】	看護研究 原理と方法 第 2 版／Polit,D.F., &Beck,C.T/近藤潤子(監訳)／医学書院／ISBN:978-4260005265 その他、適宜紹介する。				
【備考】	※授業を受ける上で個別に配慮が必要な場合は、事前に科目責任者に相談してください。				
【社会人聴講生】	不可		【科目等履修生】	不可	

【科目名】	基盤看護学応用演習Ⅲ		【科目英語名】	Seminar in Fundamental Nursing Ⅲ	
【開講時期】	2024 年度前期・後期	【必選区分】	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択	【単位数】	4 単位
【授業形態】	<input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習			【授業時間数】	60 時間
【科目責任者】	操華子				
【担当教員】	操華子				
【DPとの関連】	<input checked="" type="checkbox"/> DP1 <input type="checkbox"/> DP2 <input type="checkbox"/> DP3 <input type="checkbox"/> DP4				
【授業概要】	既習の学習をふまえ、国内外の研究論文を検索し、検討を行う。さらに、あらゆる医療・ケア場面における感染対策上の課題、および効果的な感染予防対策とその検証方法について考察する。履修生のプレゼンテーション、院生間ならびに教員間との討議を通じ、自身の研究テーマの選出、リサーチクエストへの絞り込み、具体的な研究方法を探求する。一連の演習を通し、研究計画を立案するプロセスを理解する。 【キーワード】研究課題の明確化、研究方法、研究計画書作成				
【授業目標】	<ol style="list-style-type: none"> 1. 履修生自身が関心のある現象・テーマを選び、国内外の研究論文を検索・吟味することができる。 2. 検索結果から、自身の研究テーマに関連のある論文を用いて文献マトリックス・文献マップを作成できる。 3. 文献の吟味の結果をふまえ、自らの研究課題を明確化、研究目的、研究の意義を説明できる。 4. 研究課題への回答を得るために、適切な研究デザイン、研究方法を検討できる。 5. 研究課題に関する、科学的ならびに倫理的な研究計画書を作成できる。 				
【授業展開】	<p>【授業方法】対面もしくはオンラインによるプレゼンテーション、ディスカッション 【アクティブラーニングを促す方法】</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>A ディスカッション／ディバード <input type="checkbox"/>B グループワーク <input checked="" type="checkbox"/>C プレゼンテーション <input type="checkbox"/>D 実習／フィールドワーク</p> <p>【授業内容】</p> <p>第1回 オリエンテーション 第2回 関心のある現象、研究テーマの選出・説明 第3回～4回 文献の検索式の作成 日本語・英語文献 第5回～8回 日本語文献のクリティーク・文献マトリックスの作成 第9回～12回 英語文献のクリティーク・文献マトリックスの作成 第13回～14回 クリティークを通しての未解決問題、今後の課題 第15回～18回 文献マップの作製、研究テーマの絞り込み 第19回～20回 研究課題の明確化・研究目的の検討 第21回 研究デザインの検討 第22回 標的母集団、研究対象者、標本数の検討 第23回 データ収集方法の検討 第24回 倫理的配慮に関する検討 第25回～30回 研究計画書ならびにデータ収集に伴い必要となる資料(依頼状、研究説明書、承諾書、同意書、同意撤回書など)の作成</p>				
【事前・事後課題】	主体的に授業に参画し、研究能力と専門性を修得できるよう事前準備と事後学習を行う。授業毎の個別課題は、各授業回にて指示する。				
【準備学習時間】	自身の学習ベースに応じて、履修生自身で設定する。				
【履修条件】	なし				
【関連科目】	研究法Ⅰ・Ⅱ、英語科学論文クリティーク、基盤看護学特論Ⅲ				
【評価方法】	演習時の課題発表・ディスカッションへの参加度(50%)、研究計画書の内容(50%)から総合的に評価する。				
【フィードバックの方法】	各回の課題に対するフィードバックは、授業時間内に実施予定である。その他、課題をすすめるうえでの疑問点などについては、随時、メールで質問を受け付ける。				
【テキスト】	パーズ&グローブ 看護研究入門 原著第7版／Grove,S.K., Burns,N., &Gray,J.R./黒田裕子他(監訳)/エルゼビアジャパン/ISBN:978-4860343002.				
【参考書】	看護研究 原理と方法 第2版／Polit,D.F., &Beck,C.T./近藤潤子(監訳)/医学書院/ISBN:978-4260005265 その他、適宜提示する。				
【備考】	※授業を受ける上で個別に配慮が必要な場合は、事前に科目責任者に相談してください。				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可		

【科目名】	基盤看護学特別研究		【科目英語名】	Special Research in Fundamental Nursing	
【開講時期】	2024 年度前期・後期	【必選区分】	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択	【単位数】	6 単位
【授業形態】	<input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習			【授業時間数】	90 時間
【科目責任者】	竹熊カツマタ麻子・荒井孝子・操華子				
【担当教員】	竹熊カツマタ麻子・荒井孝子・操華子・加藤京里				
【DP との関連】	<input checked="" type="checkbox"/> DP1 <input checked="" type="checkbox"/> DP2 <input checked="" type="checkbox"/> DP3 <input checked="" type="checkbox"/> DP4				
【授業概要】	履修者自身の関心領域に関する研究課題への回答を得るため、一連の研究プロセスならびに研究者としての姿勢を修得する。修士論文計画書審査に合格をした研究計画書に基づき、必要な倫理的配慮、データ収集、分析を行い、修士論文としてまとめる。 【キーワード】研究実施、修士学位論文作成				
【授業目標】	<ol style="list-style-type: none"> 自身の研究計画書に求められる倫理的配慮について述べることができる。 研究計画書に沿ってデータ収集を行い、分析し、結果をまとめることができる。 研究課題に応じて、論理的に考察できる。 論理的な一貫性・整合性をもって、修士論文としてまとめることができる。 修士論文の内容について、他者と議論することができる。 修士論文を学内で公表することができる。 				
【授業展開】	<p>【授業方法】対面もしくはオンラインによるプレゼンテーション、ディスカッション 【アクティブラーニングを促す方法】 <input checked="" type="checkbox"/>A ディスカッション／ディバード <input type="checkbox"/>B グループワーク <input checked="" type="checkbox"/>C プレゼンテーション <input checked="" type="checkbox"/>D 実習／フィールドワーク</p> <p>【授業内容】</p> <p>第 1 回～3 回 研究計画書を研究倫理審査委員会に申請し、承認を得る。 第 4 回～6 回 研究開始の準備状況を確認する。 第 7 回～9 回 研究計画書に沿って研究を開始する。 第 10 回～12 回 研究進行中、適宜、必要な評価を行い、早期に問題の解決や調整を行う。 第 13 回～15 回 研究の場とデータ収集開始に向けて調整する。 第 13 回～22 回 データ収集、分析を行う。 第 23 回～25 回 分析を結果としてまとめる。 第 26 回～36 回 研究課題に従い、結果を考察し、論文としてまとめる(適切な時期に、中間発表を行う)。 第 37 回～39 回 論文の推敲を繰り返し、論文として完成させる。 第 37 回～39 回 修士論文審査申請を行い、論文審査、最終試験を受ける。 第 40 回～42 回 修士論文の投稿準備を行う。 第 43 回～45 回 研究終了後、協力していただいた施設や関係者に終了を報告する。</p>				
【事前・事後課題】	主体的に研究に参画し、研究能力と専門性を発揮できるよう研究計画に基づき必要に応じて準備・確認等を行う。研究の実施に伴う課題については適宜、指導教員へ相談すること。				
【準備学習時間】	自身の学習ペースに応じて、履修生自身で設定する。				
【履修条件】	なし				
【関連科目】	研究法Ⅰ・Ⅱ、英語科学論文クリティーク、基盤看護学特論、基盤看護学応用演習				
【評価方法】	静岡県立大学大学院看護学研究科修士学位審査に関する細則に示す修士論文の審査基準に基づいて評価する。				
【フィードバックの方法】	メールにて質問を受け付ける。内容に応じて次回以降の授業時、または別途返答する。				
【テキスト】	看護研究 原理と方法 第 2 版／Polit,D.F., &Beck,C.T./近藤潤子(監訳)／医学書院／ISBN:978-4260005265				
【参考書】	バーンズ&グローブ 看護研究入門 原著第 7 版／Grove,S.K., Burns,N., &Gray,J.R./黒田裕子他(監訳)／エルゼビアジャパン／ISBN:978-4860343002. その他、適宜提示する。				
【備考】	※授業を受ける上で個別に配慮が必要な場合は、事前に科目責任者に相談してください。				
【社会人聴講生】	不可		【科目等履修生】	不可	

【科目名】	実践看護学特論 I	科目英語名	Special study of Clinical Nursing I
【開講時期】	2024 年前期	【必選区分】	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択
【授業形態】	<input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習	【単位数】	2 単位
【授業時間数】		【授業時間数】	30 時間
【科目責任者】	林みよ子		
【担当教員】	林みよ子		
【DP との関連】	<input checked="" type="checkbox"/> DP1 <input type="checkbox"/> DP2 <input type="checkbox"/> DP3 <input checked="" type="checkbox"/> DP4		
【授業概要】	<p>本授業は、重症・救急患者とその家族に対して、より質の高い看護を実践するために必要な関連諸理論と研究知見の批判的検討の方法を学ぶことを目的とする。</p> <p>【キーワード】 クリティカルケア看護学、家族看護学、理論、概念</p>		
【授業目標】	<ol style="list-style-type: none"> 1. 理論分析および概念分析の手法を説明できる 2. 重症・救急患者とその家族への看護実践に活用できる理論・モデル・概念の概要を説明できる。 3. 重症・救急患者とその家族に起こる現象とその看護を理論・モデル・概念を用いて説明できる。 4. 重症・救急患者とその家族に関する研究の動向を説明できる。 5. 重症・救急患者とその家族に関する最新の研究知見に基づく看護実践を説明できる。 		
【授業展開】	<p>【授業方法】 対面もしくはオンラインによる授業</p> <p>【アクティブラーニングを促す方法】</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> A ディスカッション／ディバード <input type="checkbox"/> B グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> C プレゼンテーション <input type="checkbox"/> D 実習／フィールドワーク</p> <p>【授業内容】</p> <p>第 1 回：授業ガイダンス、クリティカルな状態にある患者と家族に関する看護の現状</p> <p>第 2 回：理論分析の方法</p> <p>第 3 回：概念分析の方法</p> <p>第 4 回：重症・救急患者とその家族に活用できる理論・モデル・概念①：危機モデル</p> <p>第 5 回：重症・救急患者とその家族に活用できる理論・モデル・概念②：コンフォート理論</p> <p>第 6 回：重症・救急患者とその家族に活用できる理論・モデル・概念③：ストレス・コーピング理論</p> <p>第 7 回：重症・救急患者とその家族に活用できる理論・モデル・概念④：移行理論</p> <p>第 8 回：重症・救急患者とその家族に活用できる理論・モデル・概念⑤：不確かさ理論</p> <p>第 9 回：重症・救急患者とその家族に活用できる理論・モデル・概念⑥：家族理論</p> <p>第 10 回：最新の重症・救急患者とその家族への看護に関する研究論文の批判的検討①</p> <p>第 11 回：最新の重症・救急患者とその家族への看護に関する研究論文の批判的検討②</p> <p>第 12 回：重症・救急患者とその家族への看護援助の検討①</p> <p>第 13 回：重症・救急患者とその家族への看護援助の検討②</p> <p>第 14 回：重症・救急患者とその家族の直面する倫理的課題</p> <p>第 15 回：まとめ</p>		
【事前・事後課題】	主体的に研究に参画し研究能力と専門性を発揮できるよう事前準備と事後学習を行う。授業ごとの個別課題は各授業回で指示する。		
【準備学習時間】	各授業回で指示する。		
【履修条件】	なし		
【関連科目】	実践看護学応用演習 I		
【評価方法】	課題レポート(50%)、プレゼンテーション内容(30%)、ディスカッション時の参加姿勢・発言内容(20%)で評価する。		
【フィードバックの方法】	各授業回で指導教員が口頭で助言する。内容によっては別途個別に助言する。		
【テキスト】	Theoretical Nursing 6 th edition(2018)／Meleis A.I.／Wolters Kluwer／ISBN: 978-0-06-000042-4		
【参考書】	適宜、授業内で紹介する。		
【備考】	※授業を受ける上で個別に配慮が必要な場合は、事前に科目責任者に相談してください。		
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可

【科目名】	実践看護学特論Ⅱ	【科目英語名】	Special study of Clinical NursingⅡ
【開講時期】	2024 年前期	【必選区分】	□必修 □選択
【授業形態】	<input checked="" type="checkbox"/> 講義 □演習 □実習	【単位数】	2 単位
【授業時間数】		【授業時間数】	30 時間
【科目責任者】	山田 紋子		
【担当教員】	山田 紋子		
【DPとの関連】	<input checked="" type="checkbox"/> DP1 □DP2 □DP3 <input checked="" type="checkbox"/> DP4		
【授業概要】	諸理論、最新の研究知見を基盤として、治療を受けながら闘病し療養する患者・家族の生命、生活と人生 (life)、尊厳に関わるさまざまな看護上の課題を多面的に追究する。また、理論と研究の関係を理解するとともに、研究過程の初段階にあたる関心がある現象・研究課題の明確化の助けとなる概念分析の方法を学ぶ。 【キーワード】成人看護学、概念分析、中範囲理論、がん看護学、周術期看護学		
【授業目標】	<ol style="list-style-type: none"> 1. 概念分析の目的、意義、方法を理解することができる。 2. 治療を受けながら闘病し療養する患者・家族への看護実践に活用する主要な理論・モデル・概念を理解し、患者・家族の現象を説明することができる。 3. 関心があるテーマに関する看護実践について、最新の研究知見に基づき批評することができる。 4. 治療を受けながら闘病し療養する患者・家族への看護に関する倫理的課題について考えることができる。 		
【授業方法】	対面授業とする。ただし、希望者はオンライン双方向による受講も可能である。		
【アクティブラーニングを促す方法】	<input checked="" type="checkbox"/> A ディスカッション／ディバード □B グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> C プレゼンテーション □D 実習／フィールドワーク		
【授業内容】	<p>第1回 授業ガイダンス、看護学における理論と研究</p> <p>第2回 概念分析①</p> <p>第3回 概念分析②</p> <p>第4回 治療を受けながら闘病し療養する患者・家族への看護実践に活用する理論・モデル・概念① ストレス・コーピング理論</p> <p>第5回 治療を受けながら闘病し療養する患者・家族への看護実践に活用する理論・モデル・概念② 危機モデル</p> <p>第6回 治療を受けながら闘病し療養する患者・家族への看護実践に活用する理論・モデル・概念③ 自己概念・ボディイメージ</p> <p>第7回 治療を受けながら闘病し療養する患者・家族への看護実践に活用する理論・モデル・概念④ 自己効力感・Locus of Control・保健行動理論</p> <p>第8回 治療を受けながら闘病し療養する患者・家族への看護実践に活用する理論・モデル・概念⑤ セルフケア理論</p> <p>第9回 治療を受けながら闘病し療養する患者・家族への看護実践に活用する理論・モデル・概念⑥ 病みの軌跡理論・病気の不確かさ理論</p> <p>第10回 最新の研究知見を基にした看護実践の検討①</p> <p>第11回 最新の研究知見を基にした看護実践の検討②</p> <p>第12回 最新の研究知見を基にした看護実践の検討③</p> <p>第13回 治療を受けながら闘病し療養する患者の家族に対する看護支援</p> <p>第14回 治療を受けながら闘病し療養する患者・家族に対する看護実践における倫理的課題</p> <p>第15回 まとめ</p>		
【授業展開】			
【事前・事後課題】	主体的に授業に参画し、専門性を修得できるよう事前準備と事後学習を行う。 その他の授業毎の個別課題は、各授業回にて指示する。		
【準備学習時間】	自分の能力に応じて、各自で設定する。		
【履修条件】	なし。		
【関連科目】	なし。		
【評価方法】	課題レポート 50%、プレゼンテーション内容 30%、討議(参加への積極性、発言内容)20%		
【フィードバックの方法】	メールまた授業時に質問を受け付ける。内容に応じて次回以降の授業回、または別途返答する。		

【テキスト】	看護における理論構築の方法／医学書院／Walker,L.O.,&Avant,K.C./中木高夫他(訳)／ISBN:978-426006880 他は、授業中に適宜紹介する。		
【参考書】	Concept Development in Nursing: Foundations, Techniques, and Applications,2 th ／Saunders／Rodgers,B.L.,&Knafl,K.A.／ISBN:978-0721682433 看護診断のためのよくわかる中範囲理論 第3版／学研メディカル秀潤社／黒田裕子(監)／ISBN:978-4780913996 その他、適宜紹介する。		
【備考】	※ 授業で取り上げる理論・モデル・概念は、学生の関心がある現象に従い、変更することがある。		
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可

【科目名】	実践看護学特論Ⅳ		【科目英語名】	Special study of Clinical Nursing Ⅳ	
【開講時期】	2024 年度前期	【必選区分】	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択	【単位数】	2 単位
【授業形態】	<input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習			【授業時間数】	30 時間
【科目責任者】	山下早苗				
【担当教員】	山下早苗、鈴木和香子				
【DP との関連】	<input checked="" type="checkbox"/> DP1 <input type="checkbox"/> DP2 <input type="checkbox"/> DP3 <input checked="" type="checkbox"/> DP4				
【授業概要】	小児看護実践を振り返り、理論を用いて現象の理解を深める。また、研究テーマに関する論文を読み、ディスカッションを通して批判的思考力を高める。 【キーワード】小児看護、対象、実践、理論、研究				
【授業目標】	1. 小児看護の対象について理論を用いて説明できる 2. 小児看護実践について理論を用いて説明できる 3. 研究テーマに関する論文について批判的思考ができる				
【授業展開】	【授業方法】対面もしくはオンラインによる講義、プレゼンテーション、ディスカッション 【アクティブラーニングを促す方法】 <input checked="" type="checkbox"/> A ディスカッション/ディバード <input type="checkbox"/> B グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> C プレゼンテーション <input type="checkbox"/> D 実習/フィールドワーク 【授業内容】 第 1 回: ガイダンス(山下) 第 2 回: 自我発達理論を用いた対象理解(鈴木) 第 3 回: 認知発達理論を用いた対象理解(鈴木) 第 4 回: 家族発達理論を用いた対象理解(鈴木) 第 5 回: 親子関係理論を用いた対象理解(鈴木) 第 6 回: 症状マネージメント理論を用いた看護実践(山下) 第 7 回: セルフケア理論を用いた看護実践(山下) 第 8 回: 子ども・家族・医療職者を対象にした小児看護に関する研究の動向(山下) 第 9 回: 小児看護研究論文のクリティークの視点(鈴木) 第 10-15 回: 各自の研究テーマに関する研究論文のクリティーク(山下・鈴木)				
【事前・事後課題】	主体的に授業に参画し、専門性を修得できるよう事前準備と事後学習を行う。 課題は初回のガイダンスおよび各授業回で指示する。				
【準備学習時間】	自分の能力に応じて、各自で設定する。				
【履修条件】	なし				
【関連科目】	研究法Ⅰ・Ⅱ				
【評価方法】	課題レポート(30%)、プレゼンテーション(30%)、討議(40%)で総合的に評価する				
【フィードバックの方法】	質問はメールにて受け付ける。 内容に応じて次回以降の授業回、または別途返答する。				
【テキスト】	ナーシンググラフィカ 小児看護学① 小児の発達と看護. 中野綾美 監修. メディカ出版会, ISBN 9784840465151				
【参考書】	事例を通してやさしく学ぶ中範囲理論入門 第 2 版. 佐藤栄子 編著, 日総研, ISBN9784776014140 看護実践に活かす中範囲理論 第 2 版. 野川道子 編著, メジカルフレンド社, ISBN 9784839216122 よくわかる看護研究論文のクリティーク 第 2 版. 松本清子, 山川みやえ編著, 日本看護協会出版会, ISBN 9784818022713				
【備考】	※授業を受ける上で個別に配慮が必要な場合は、事前に科目責任者に相談してください。				
【社会人聴講生】	不可		【科目等履修生】	不可	

【科目名】	実践看護学特論Ⅴ		【科目英語名】	Special study of Clinical Nursing Ⅴ	
【開講時期】	2024 年度前期	【必選区分】	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択	【単位数】	2 単位
【授業形態】	<input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習			【授業時間数】	30 時間
【科目責任者】	太田尚子				
【担当教員】	太田尚子、中川有加、永谷実穂				
【DPとの関連】	<input type="checkbox"/> DP1 <input type="checkbox"/> DP2 <input checked="" type="checkbox"/> DP3 <input checked="" type="checkbox"/> DP4				
【授業概要】	<p>周産期の母子や家族の健康課題を解決するために、Evidence-based Midwifery を活用して、エビデンスに基づく助産ケア、および女性中心のケアを提供できる基礎的能力を身につける。エビデンスに基づいた助産ケアの考え方やその実際を、Evidence-based Midwifery のステップを体験することで理解する。また、各自の助産学領域における関心テーマに関連した、既存の研究論文のクリティークを行い、各自の研究課題と研究の位置づけを明確にする。各回、テーマにそったゼミ形式で実施する。ゼミの発表者は、レジユメを作成し発表し、討論をすすめる。</p> <p>【キーワード】 Evidence-based Midwifery、クリティーク</p>				
【授業目標】	<ol style="list-style-type: none"> 1. 助産学研究の目的と意義を説明できる。 2. 文献検索の方法が説明でき、実施できる。 3. 文献検索によって入手した文献を読み、研究の概要を文献カードにまとめることができる。 4. シナリオから、それに関連する文献を検索して、Evidence-based Midwifery のステップに沿って検討して、ケアの方向性を明らかに説明できる。 5. 文献のクリティークの方法が理解でき、各自の関心あるテーマの文献をクリティークしながら読むことができる。 6. 自己の研究課題を明確にできる。 <p>自己の研究課題に沿って、文献レビュー、研究計画書を記述できる。</p>				
【授業展開】	<p>【授業方法】対面、プレゼンテーション</p> <p>【アクティブラーニングを促す方法】 <input checked="" type="checkbox"/>A ディスカッション／ディバード <input checked="" type="checkbox"/>B グループワーク <input checked="" type="checkbox"/>C プレゼンテーション <input type="checkbox"/>D 実習／フィールドワーク</p> <p>【授業内容】</p> <p>第1回：ガイダンス(太田) 第2回：文献検索方法(太田) 図書館での演習 第3回：研究テーマに関する文献検索結果の発表 (太田、中川、永谷) 第4回：研究の枠組みと研究方法のクリティーク (太田、中川、永谷) Evidence-based Midwifery 課題について (1) 第5回：Evidence-based Midwifery 課題について (2) (太田、中川、永谷) 第6回：Evidence-based Midwifery 発表(1) RCT (太田、中川、永谷) 第7回：文献クリティーク 発表(1) 質問紙調査 (太田、中川、永谷) 第8回：文献クリティーク 発表(2) 介入研究 (太田、中川、永谷) 第9回：文献クリティーク 発表(3) 質的研究 (太田、中川、永谷) 第10回：研究テーマに関する既存研究 発表 (1) (太田、中川、永谷) 第11回：研究テーマに関する既存研究 発表 (2) (太田、中川、永谷) 第12回：研究課題(research question)の検討 発表 (太田、中川、永谷) 第13回：研究の意義、研究目的の検討 発表と討議 (太田、中川、永谷) 第14回：研究課題と文献レビュー 発表(1) (太田、中川、永谷) 第15回：研究課題と文献レビュー 発表(2) (太田、中川、永谷)</p>				
【事前・事後課題】	<ul style="list-style-type: none"> ・Evidence-based Midwifery、文献クリティーク (1)、文献クリティーク (2)、文献クリティーク (3) の課題についてクリティークシートを用いてレポートを作成し、プレゼンテーションの準備を行う。 ・自分の関心あるテーマから研究課題を明確にして、それに関する文献検索、文献カードの作成を行う。 ・各自の関心ある研究課題について文献レビューを作成する。 				

【準備学習時間】	各自で課題の取り組み状況に応じて、主体的に計画を立案して各自が設定する。		
【履修条件】	なし		
【関連科目】	助産学応用演習、助産学課題研究		
【評価方法】	Evidence-based Midwifery のレポート、プレゼンテーション、ディスカッション (25%) 文献クリティーク (1) レポート、プレゼンテーション、ディスカッション (15%) 文献クリティーク (2) レポート、プレゼンテーション、ディスカッション (15%) 文献クリティーク (3) レポート、プレゼンテーション、ディスカッション (15%) 各自の研究課題に関する文献レビュー、プレゼンテーション (30%)		
【フィードバックの方法】	内容に応じて授業の中で返答する。		
【テキスト】	1. バーンズ&グローブ 看護研究入門 原著第9版-評価・統合・エビデンスの生成(2021/2023) / Grove J.R. & Gray S.K.(著). 黒田裕子・逸見功・佐藤富美子(監訳) / ELSEVIER / ISBN: 978-4-86034-794-9		
【参考書】	1. ステップアップ EBM 実践ワークブック—10 級から始めて師範代をめざす / 名郷直樹 / 南江堂 / ISBN: 978-4524253685 2. カールヘネガン, 斉尾武郎監訳 / EBM の工具箱 第2版 / 中山書店, 2007 / ISBN: 978-4521677811 3. 実践のステップでみる EBN (2002). EB Nursing. 2(4) 4. エビデンスを使える実践者になろう (2009). EB Nursing. 9(2) 5. 根拠にもとづく助産ケアの進め方. (2007). 助産雑誌. 61(6) 6. 看護研究-原理と方法-第2版 (2004 / 2010) / Polit, D.F., & Beck, C.T. (著). 近藤潤子(監訳) / 医学書院 / ISBN: 978-4-260-00526-5 その他、適宜、紹介する。		
【備考】	※授業を受ける上で個別に配慮が必要な場合は、事前に科目責任者に相談してください。		
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可

【科目名】	実践看護学応用演習 I		科目英語名	Exercise in Clinical Nursing I	
【開講時期】	2024 年前期・後期	【必選区分】	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択	【単位数】	4 単位
【授業形態】	<input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習			【授業時間数】	60 時間
【科目責任者】	林みよ子				
【担当教員】	林みよ子				
【DP との関連】	<input checked="" type="checkbox"/> DP1 <input type="checkbox"/> DP2 <input type="checkbox"/> DP3 <input checked="" type="checkbox"/> DP4				
【授業概要】	本授業は、実践看護学特論 I での学びを深め、自己の臨床経験に基づく研究課題を明確化し、その研究課題を解明するための研究計画書を立案して、一連の研究プロセスを学ぶことを目的とする。 【キーワード】 研究課題の明確化、研究計画				
【授業目標】	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自己の臨床経験に基づく関心ある現象をもとに自己の研究テーマを明確化できる 2. 自己の研究テーマに関連する文献をクリティークできる 3. 文献クリティークの結果から自己の研究課題と研究の意義を説明できる 4. 自己の研究課題に適した研究方法を立案できる 5. 自己の研究計画に伴う倫理的問題とそれに対する対応を説明できる 6. 自己の研究課題を解決するための研究計画書を作成できる 				
【授業展開】	<p>【授業方法】 対面もしくはオンラインによる授業</p> <p>【アクティブラーニングを促す方法】</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>A ディスカッション／ディバード <input type="checkbox"/>B グループワーク <input checked="" type="checkbox"/>C プレゼンテーション <input type="checkbox"/>D 実習／フィールドワーク</p> <p>【授業内容】</p> <p>第 1 回～第 3 回：臨床経験における関心ある現象の記述、研究テーマの明確化 第 4 回～第 6 回：研究テーマに関連する文献マトリックスの作成 第 7 回～第 9 回：研究テーマに関連する国内外の文献クリティーク：国内文献 第 10 回～第 13 回：研究テーマに関連する国内外の文献クリティーク：海外文献 第 14 回～第 15 回：研究テーマに関連する国内外の文献クリティークのまとめ 第 16 回～第 18 回：研究課題の明確化 第 19 回～第 21 回：自己の研究課題に適した研究方法の検討 第 22 回～第 30 回：研究計画書の作成、倫理的問題とその対応の検討</p>				
【事前・事後課題】	主体的に研究に参画し専門性を発揮できるよう事前準備と事後学習を行う。授業ごとの個別課題は各授業回で指示する。				
【準備学習時間】	各授業回で指示する。				
【履修条件】	実践看護学特論 I を履修していること				
【関連科目】	研究法 I、研究法 II、実践看護学特論 I				
【評価方法】	研究計画書(60%)、プレゼンテーション内容(30%)、ディスカッション時の参加姿勢・発言内容(10%)で評価する				
【フィードバックの方法】	各授業回で指導教員が口頭で助言する。内容によっては別途個別に助言する。				
【テキスト】	看護研究 原理と方法 第 2 版／Polit,D.F., &Beck,C.T(著)近藤潤子(監訳)／医学書院／ISBN 978-4260005265				
【参考書】	バーンズ&グローブ 看護研究入門 原著第 9 版-評価・統合・エビデンスの生成(2021/2023)／Grove J.R.& Gray S.K(著)、黒田裕子・逸見功・佐藤富美子(監訳)／ELSEVIER／ISBN: 978-4-86034-794-9				
【備考】	※授業を受ける上で個別に配慮が必要な場合は、事前に科目責任者に相談してください。				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可		

【科目名】	実践看護学応用演習Ⅱ		【科目英語名】	Exercise in Clinical Nursing II	
【開講時期】	2024 年前期・後期	【必選区分】	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択	【単位数】	4 単位
【授業形態】	<input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習			【授業時間数】	60 時間
【科目責任者】	山田 紋子				
【担当教員】	山田 紋子				
【DP との関連】	<input checked="" type="checkbox"/> DP1 <input type="checkbox"/> DP2 <input type="checkbox"/> DP3 <input checked="" type="checkbox"/> DP4				
【授業概要】	<p>科目「研究法Ⅰ・Ⅱ」で修得した研究方法論、科目「実践看護学特論Ⅱ」で深めた関心があるテーマに関する最新の研究知見や諸理論を基盤に、実際に、関心がある現象の記述化に取り組み、研究課題・研究目的の明確化、さらに目的を達成するための研究方法の検討を行い、修士論文研究計画書を作成することにより、研究計画立案の一連のプロセスを学ぶ。</p> <p>【キーワード】研究デザイン、研究方法、研究計画</p>				
【授業目標】	<ol style="list-style-type: none"> 1. 関心がある現象を記述でき、それを基に研究問題を明確化することができる。 2. 研究問題に関連する文献の検索および検討ができる。 3. 自らの研究問題と文献検討の結果に基づき、研究課題および研究目的を明確化することができる。 4. 自らの研究課題において、研究を行う目的と意義を説明することができる。 5. 研究課題・研究目的に応じて、研究デザインを選択し、研究方法を立案することができる。 6. 自らの研究計画に伴う倫理的問題およびそれに対する対応を説明することができる。 				
【授業展開】	<p>【授業方法】 対面授業とする。ただし、希望者はオンライン双方向による受講も可能である。</p> <p>【アクティブラーニングを促す方法】 <input checked="" type="checkbox"/>A ディスカッション／ディバード <input type="checkbox"/>B グループワーク <input checked="" type="checkbox"/>C プレゼンテーション <input type="checkbox"/>D 実習／フィールドワーク</p> <p>【授業内容】 第 1～4 回 関心がある臨床現場での現象の記述、研究問題(research problem)の明確化 第 5～15 回 文献検討 5: 文献検索の準備: 検索データベースの確認、キーワード、条件などの決定(国内文献、海外文献) 6～8: 研究問題に関する研究の動向の把握・クリティーク: 国内文献 9～13: 研究問題に関する研究の動向の把握・クリティーク: 海外文献 14～15: 文献検討のまとめ 第 16～18 回 研究課題(research question)・研究目的の明確化 第 19～21 回 研究デザインの検討 第 22～30 回 研究課題に関する研究計画書の作成 ① 研究課題の背景から研究目的にいたる論述 ② 文献検討のまとめ ③ 研究デザインに基づき、研究方法の立案 ④ 研究実施可能性の検討、研究の意義・倫理上の配慮の明確化、研究に必要な経費の獲得</p>				
【事前・事後課題】	<p>主体的に授業に参画し、専門性を修得できるよう事前準備と事後学習を行う。</p> <p>その他の授業毎の個別課題は、各授業回にて指示する。</p>				
【準備学習時間】	自分の能力に応じて、各自で設定する。				
【履修条件】	実践看護学特論Ⅱを履修していること				
【関連科目】	研究法Ⅰ・Ⅱ、実践看護学特論Ⅱ				
【評価方法】	研究計画書の内容 70%、プレゼンテーション内容 20%、討議(参加への積極性、発言内容)10%				
【フィードバックの方法】	<p>メールまた授業時に質問を受け付ける。</p> <p>内容に応じて次回以降の授業回、または別途返答する。</p>				
【テキスト】	<p>バーズ&グローブ 看護研究入門 原著第 9 版／エルゼビアジャパン／Gray, J.R. & Grove, S.K. / 黒田裕子他(監訳)／ISBN: 978-4-86034-794-9</p> <p>他は、授業中に適宜紹介する。</p>				
【参考書】	<p>看護研究 原理と方法 第 2 版／医学書院／Polit, D.F., & Beck, C.T./近藤潤子(監訳)／ISBN: 978-4260005265</p> <p>その他、適宜紹介する。</p>				
【備考】	※授業を受ける上で個別に配慮が必要な場合は、事前に科目責任者に相談してください。				
【社会人聴講生】	不可		【科目等履修生】	不可	

【科目名】	実践看護学応用演習Ⅳ		【科目英語名】	Exercise Clinical Nursing IV	
【開講時期】	2024 年度前期・後期	【必選区分】	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択	【単位数】	4 単位
【授業形態】	<input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習			【授業時間数】	60 時間
【科目責任者】	山下早苗				
【担当教員】	山下早苗、鈴木和香子				
【DP との関連】	<input checked="" type="checkbox"/> DP1 <input type="checkbox"/> DP2 <input type="checkbox"/> DP3 <input type="checkbox"/> DP4				
【授業概要】	文献検討により研究課題を明確にする。また、研究課題に関する研究目的・研究方法を検討し、小児看護の貢献・寄与できる研究を推進するための研究計画を立案する。 【キーワード】小児看護、研究課題の明確化、研究方法、研究計画				
【授業目標】	1. 文献検討により研究課題を明確にできる 2. 研究課題に関する研究目的と意義を説明できる 3. 研究目的を達成するための研究デザイン・研究方法を立案できる 4. 研究計画に伴う倫理的問題および対応を説明できる				
【授業展開】	【授業方法】対面もしくはオンラインによる講義、プレゼンテーション、ディスカッション 【アクティブラーニングを促す方法】 <input checked="" type="checkbox"/> A ディスカッション／ディベート <input type="checkbox"/> B グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> C プレゼンテーション <input type="checkbox"/> D 実習／フィールドワーク 【授業内容】 第 1 回 ガイダンス(山下) 第 2 回～3 回 関心がある臨床現場の現象について説明と焦点化(山下・鈴木) 第 4 回～10 回 関心がある現象について先行研究との比較・検討(山下・鈴木) 第 11 回～12 回 研究課題・研究目的の明確化(山下・鈴木) 第 13 回～14 回 研究デザインの検討(山下・鈴木) 第 15 回～16 回 研究方法の検討 1: 対象者の選定(山下・鈴木) 第 17 回～18 回 研究方法の検討 2: 調査方法の妥当性(山下・鈴木) 第 19 回～20 回 研究方法の検討 3: 倫理的配慮(山下・鈴木) 第 21 回 研究課題に関する研究計画書の作成 1: 研究課題の背景から研究目的にいたる論述(山下・鈴木) 第 22 回～25 回 研究課題に関する研究計画書の作成 2: 文献検討の論述(山下・鈴木) 第 26 回～27 回 研究課題に関する研究計画書の作成 3: 研究方法の立案と記述(山下・鈴木) 第 28 回～29 回 研究対象者(実施施設)への依頼文書および同意書の作成(山下・鈴木) 第 30 回 調査紙(またはインタビュー)のプレテスト(山下・鈴木)				
【事前・事後課題】	主体的に授業に参画し、専門性を修得できるよう事前準備と事後学習を行う。 課題は初回のガイダンスおよび各授業回で指示する。				
【準備学習時間】	自分の能力に応じて、各自で設定する。				
【履修条件】	なし				
【関連科目】	研究法Ⅰ・Ⅱ、実践看護学特論Ⅳ				
【評価方法】	課題レポート(30%)、プレゼンテーション(30%)、討議(40%)で総合的に評価する				
【フィードバックの方法】	質問はメールにて受け付ける。 内容に応じて次回以降の授業回、または別途返答する。				
【テキスト】	看護研究 原理と方法 第 2 版. D.F.ポーリット & C.T.ベック(著)/近藤潤子(監訳), 医学書院, ISBN 9784260005265				
【参考書】	看護における研究 第 2 版. 南裕子, 野嶋左由美 編, 日本看護協会, ISBN 9784818020665 看護研究 Step by Step. 黒田裕子 著, 医学書院, ISBN 9784260015967				
【備考】	※授業を受ける上で個別に配慮が必要な場合は、事前に科目責任者に相談してください。				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可		

【科目名】	実践看護学応用演習Ⅴ		【科目英語名】	Exercise in Clinical Nursing Ⅴ	
【開講時期】	2024 年度前期・後期	【必選区分】	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択	【単位数】	4 単位
【授業形態】	<input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習			【授業時間数】	60 時間
【科目責任者】	太田尚子				
【担当教員】	太田尚子、中川有加、永谷実穂				
【DPとの関連】	<input checked="" type="checkbox"/> DP1 <input type="checkbox"/> DP2 <input checked="" type="checkbox"/> DP3 <input checked="" type="checkbox"/> DP4				
【授業概要】	<p>各自の助産学上の関心事を研究課題として精選し、研究の概念枠組み、研究方法、研究対象の条件と数などを検討し、課題研究の研究計画書を作成する。</p> <p>【キーワード】研究課題、研究計画書、文献レビュー</p>				
【授業目標】	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究課題を明確にできる。 2. 研究課題に沿った文献検討を実施でき、文章化できる。 3. 研究の目的、意義、用語の定義を明確にして文章化できる。 4. 研究目的に沿った研究デザイン、研究方法を選択でき、文章化できる。 5. 研究対象者を明確にし、また、フィールドを開拓できる。 6. 倫理的配慮について検討して文章化できる。 7. 研究を実施するにあたって必要な資料を作成できる。 8. 課題研究の研究計画書を完成して提出できる。 				
【授業展開】	<p>【授業方法】対面、グループ又は個別ゼミ形式</p> <p>【アクティブラーニングを促す方法】</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>A ディスカッション／ディバード <input type="checkbox"/>B グループワーク <input checked="" type="checkbox"/>C プレゼンテーション <input type="checkbox"/>D 実習／フィールドワーク</p> <p>【授業内容】</p> <p>第1回：研究課題の明確化：研究の助産学的意義、テーマにおける研究の動向(太田、中川、永谷)</p> <p>第2回：文献レビュー(太田、中川、永谷)</p> <p>第3回：文献レビュー(太田、中川、永谷)</p> <p>第4回：文献レビュー(太田、中川、永谷)</p> <p>第5回：研究疑問、仮説の作成：独立変数と従属変数の明確化、概念枠組み構築(太田、中川、永谷)</p> <p>第6回：研究疑問、仮説の作成：独立変数と従属変数の明確化、概念枠組み構築(太田、中川、永谷)</p> <p>第7回：研究疑問、仮説の作成：独立変数と従属変数の明確化、概念枠組み構築(太田、中川、永谷)</p> <p>第8回：研究疑問に即したデータ収集方法、分析方法、対象の条件、対象数の検討(太田、中川、永谷)</p> <p>第9回：研究疑問に即したデータ収集方法、分析方法、対象の条件、対象数の検討(太田、中川、永谷)</p> <p>第10回：研究疑問に即したデータ収集方法、分析方法、対象の条件、対象数の検討(太田、中川、永谷)</p> <p>第11回：研究疑問に即したデータ収集方法、分析方法、対象の条件、対象数の検討(太田、中川、永谷)</p> <p>第12回：研究倫理(太田、藤田、中川、永谷)</p> <p>第13回：研究対象と研究方法(分析方法含む)の決定(太田、中川、永谷)</p> <p>第14-30回：課題研究計画書の作成(太田、中川、永谷)</p>				
【事前・事後課題】	<p>関心あるテーマから研究課題を明確にする。</p> <p>各自の進捗状況によってプレゼン資料を作成する。</p> <p>ゼミでの意見やディスカッションでの内容を参考にして、課題研究の研究計画書を完成させる。</p>				
【準備学習時間】	各自の準備状況によって、各自で設定する。個人により異なる。				
【履修条件】	助産学特論の単位取得見込み				
【関連科目】	助産学特論、助産学課題研究				
【評価方法】	ゼミでの資料・プレゼンテーション(30%)、研究計画書(70%)で評価する。				
【フィードバックの方法】	授業の中でコメントする。質問には適宜返答する。				
【テキスト】	1. バーンズ&グローブ 看護研究入門 原著第9版-評価・統合・エビデンスの生成(2021/2023)/Grove J.R.& Gray S.K.(著). 黒田裕子・逸見功・佐藤富美子(監訳)/ELSEVIER/ISBN:978-4-86034-794-9				

【参考書】	1. 看護研究-原理と方法-第 2 版(2004/2010)/Polit,D.F., &Beck,C.T.(著). 近藤潤子(監訳)/医学書院/ ISBN: 978-4-260-00526-5 適宜紹介する		
【備考】	※授業を受ける上で個別に配慮が必要な場合は、事前に科目責任者に相談してください。		
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可

【科目名】	実践看護学特別研究		【科目英語名】	Special Research in Clinical Nursing	
【開講時期】	2024 年度前期・後期	【必選区分】	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択	【単位数】	6 単位
【授業形態】	<input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習			【授業時間数】	90 時間
【科目責任者】	林みよ子、山田紋子、山下早苗、太田尚子、藤田景子				
【担当教員】	林みよ子、山田紋子、山下早苗、太田尚子、藤田景子、鈴木和香子、中川有加、永谷実穂				
【DPとの関連】	<input checked="" type="checkbox"/> DP1 <input checked="" type="checkbox"/> DP2 <input checked="" type="checkbox"/> DP3 <input checked="" type="checkbox"/> DP4				
【授業概要】	本授業は、一連の研究過程を修得し研究者としての姿勢を学ぶために、立案した研究計画書に基づいてデータの収集・分析を行い、修士論文としてまとめることを目的とする。 【キーワード】研究過程、修士論文の作成				
【授業目標】	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究計画書に沿ってデータを収集・分析し、結果としてまとめることができる。 2. 研究課題に応じて、論理的に考察できる。 3. 研究過程を論理的に、一貫性・整合性をもって、修士論文としてまとめることができる。 4. 修士論文の内容について、他者と議論することができる。 5. 修士論文を学内で公表することができる。 				
【授業展開】	<p>【授業方法】 対面もしくはオンラインによるプレゼンテーション、ディスカッション</p> <p>【アクティブラーニングを促す方法】</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>A ディスカッション／ディベード <input type="checkbox"/>B グループワーク <input checked="" type="checkbox"/>C プレゼンテーション <input checked="" type="checkbox"/>D 実習／フィールドワーク</p> <p>【授業内容】</p> <p>第1回～第3回：研究計画書を研究倫理審査委員会に申請し承認を受ける。</p> <p>第4回～第6回：研究開始の準備を行う。</p> <p>第7回～第9回：研究計画書に沿って研究を開始する。</p> <p>第10回～第12回：研究進行中、適宜、必要な評価を行い、早期に問題の解決や調整を行う。</p> <p>第13回～第15回：研究の場とデータ収集開始に向けて調整する。</p> <p>第16回～第24回：データを収集し分析を行う。</p> <p>第25回～第27回：分析結果をまとめる。</p> <p>第28回～第35回：研究課題に従って結果を考察し、論文としてまとめる（適切な時期に中間発表を行う）</p> <p>第36回～第38回：論文の推敲を繰り返し、論文として完成させる。</p> <p>第39回～第41回：修士論文審査申請を行い、論文審査、最終試験を受ける。</p> <p>第42回～第43回：修士論文の学内発表の準備を行う。</p> <p>第44回～第45回：修士論文の投稿の準備を行う。</p>				
【事前・事後課題】	主体的に研究に参画し研究能力と専門性を発揮できるよう、各授業回の内容に関する事前準備と、授業での学びの事後学習を行う。				
【準備学習時間】	各授業内容に関する理解度・習熟度に応じた時間の学習をする。				
【履修条件】	学生それぞれが所属する専門分野の実践看護学特論・実践看護学応用演習の単位を修得していること。				
【関連科目】	研究法Ⅰ、研究法Ⅱ、各実践看護学特論、各実践看護学応用演習				
【評価方法】	静岡県立大学大学院看護学研究科修士学位審査に関する細則に示す修士論文の審査基準に基づいて評価する。				
【フィードバックの方法】	各授業回で指導教員が口頭で助言する。内容によっては、別途個別に助言する。				
【テキスト】	パーンズ&グローブ 看護研究入門 原著第9版-評価・統合・エビデンスの生成(2021/2023)/Grove J.R.& Gray S.K(著). 黒田裕子・逸見功・佐藤富美子(監訳)/ELSEVIER/ISBN:978-4-86034-794-9				
【参考書】	看護研究-原理と方法 第2版(2004/2010)/Polit D.F & Beck C.T.(著). 近藤潤子(監訳)/医学書院/ISBN 978-4-260-00526-5 その他、適宜、紹介する。				
【備考】	※授業を受ける上で個別に配慮が必要な場合は、事前に科目責任者に相談してください。				
【社会人聴講生】	不可		【科目等履修生】	不可	

【科目名】	広域看護学特論 I		【科目英語名】	Special study of Community Nursing 1	
【開講時期】	2024 年度前期	【必選区分】	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択	【単位数】	2 単位
【授業形態】	<input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習			【授業時間数】	30 時間
【科目責任者】	富安眞理				
【担当教員】	富安眞理、川村佐和子(非常勤)、野口有紀、村方多鶴子(非常勤)				
【DP との関連】	<input checked="" type="checkbox"/> DP1 <input type="checkbox"/> DP2 <input type="checkbox"/> DP3 <input checked="" type="checkbox"/> DP4				
【授業概要】	<p>地域で生活するあらゆる健康状態の人々とその家族を対象とした在宅看護に必要な主要概念、諸理論、社会保障制度を理解する。さらに、在宅看護学分野の研究動向を理解し、在宅看護実践の効果的な提供方法や評価法といった在宅看護の質の保証について学びを共有する。</p> <p>【キーワード】 在宅看護、訪問看護、在宅看護の質保証</p>				
【授業目標】	<ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅看護に関する主要概念、諸理論、社会保障制度を理解できる。 2. 地域包括ケアや訪問看護の現状と課題から、在宅看護実践の効果的な提供方法や評価法を説明できる。 3. 在宅看護学分野の研究動向を理解し、取り組むべき研究課題を述べることができる。 				
【授業展開】	<p>【授業方法】 対面もしくはオンラインによるプレゼンテーション、ディスカッション</p> <p>【アクティブラーニングを促す方法】</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>A ディスカッション/ディバード <input type="checkbox"/>B グループワーク <input checked="" type="checkbox"/>C プレゼンテーション <input type="checkbox"/>D 実習/フィールドワーク</p> <p>【授業内容】</p> <p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 在宅看護に関連する社会保障制度について (富安)</p> <p>第3回 在宅看護の概念、活用する理論について① (富安)</p> <p>第4回 在宅看護の概念、活用する理論について② (野口)</p> <p>第5回 在宅看護の概念、活用する理論について③ (野口)</p> <p>第6回 在宅看護における質の保証について① (富安)</p> <p>第7回 在宅看護における質の保証について② (富安)</p> <p>第8回 在宅看護の提供方法やリスクマネジメントについて① (村方)</p> <p>第9回 在宅看護の提供方法やリスクマネジメントについて② (川村)</p> <p>第10回 在宅看護における多職種連携について①-静岡県地域包括ケアシステムの整備 (静岡市)</p> <p>第11回 在宅看護における多職種連携について②-退院支援 (富安)</p> <p>第12回 在宅看護における多職種連携について③-在宅医療と介護連携 (富安)</p> <p>第13回 在宅看護学分野における研究の動向① (受講生のプレゼンテーション)</p> <p>第14回 在宅看護学分野における研究の動向② (受講生のプレゼンテーション)</p> <p>第15回 まとめ (富安)</p>				
【事前・事後課題】	主体的にクラスに参画し、研究能力と専門性を修得できるよう事前・事後学習を行う。クラスの個別課題は、各クラスにて指示する。				
【準備学習時間】	各クラスにて指示する。				
【履修条件】	なし				
【関連科目】	研究法Ⅰ・Ⅱ、家族看護特論、広域看護学応用演習Ⅰ、広域看護学特別研究				
【評価方法】	プレゼンテーション・討議(30%)、課題レポート(30%)、最終レポート(40%)、で評価する。				
【フィードバックの方法】	メールにて質問を受け付ける。内容に応じて次回以降のクラス、または別途返答する。				
【テキスト】	<p>看護研究 原理と方法 第2版/Politt,D.F., &Beck,C.T/近藤潤子(監訳)/医学書院/ISBN:978-4260005265</p> <p>看護研究百科 第2版/ジョイス・J・フィッツパトリック、メレディス・ウォーレス著、岡谷恵子翻訳編/照林社/ISBN:978-4796521970</p> <p>国民衛生の動向/厚生労働統計協会/ISBN:03854-08</p>				
【参考書】	その他、適宜提示する。				
【備考】	※授業を受ける上で個別に配慮が必要な場合は、事前に科目責任者に相談してください。				
【社会人聴講生】	可 受け入れに際し、事前面談を実施する。		【科目等履修生】	可 受け入れに際し、事前面談を実施する。	

【科目名】	広域看護学特論Ⅱ		【科目英語名】	Special study of Community Nursing Ⅱ	
【開講時期】	2024 年度前期	【必選区分】	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択	【単位数】	2 単位
【授業形態】	<input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習			【授業時間数】	30 時間
【科目責任者】	篁宗一				
【担当教員】	篁宗一				
【DP との関連】	<input checked="" type="checkbox"/> DP1 <input type="checkbox"/> DP2 <input type="checkbox"/> DP3 <input type="checkbox"/> DP4				
【授業概要】	精神科看護学の基礎的知識である概論を学びながら、同時に最新の精神看護学・精神保健学の論文を幅広く読む。そして最新の知見についての理解を深める。特に医療現場だけにとどまらず、地域での支援方法についても考えを深める。 【キーワード】メンタルヘルスリテラシー、早期介入、思春期青年期、地域精神				
【授業目標】	1.医療機関を含む地域の精神看護の支援方法を理解する 2.最新の動向について理解を深め、論文に記載された内容を批判的に読み解く				
【授業展開】	<p>【授業方法】 対面授業とする。ただし、希望者はオンライン双方向による受講も可能である。</p> <p>【アクティブラーニングを促す方法】 <input checked="" type="checkbox"/>A ディスカッション／ディベート <input type="checkbox"/>B グループワーク <input checked="" type="checkbox"/>C プレゼンテーション <input type="checkbox"/>D 実習／フィールドワーク</p> <p>【授業内容】 第1回:オリエンテーション 第2回:精神健康の概念 第3回:精神健康の概念 第4回:精神障害の予防 第5回:精神障害の予防 第6回:心の機能と発達 第7回:心の機能と発達 第8回:心の機能と発達 第9回:訪問看護 第10回:リエゾン精神看護 第11回:病気と心理社会的反応 第12回:精神科の医療現場について 第13回:司法精神看護 第14回:性同一性障害について 第15回:作業所の精神障害者と家族</p>				
【事前・事後課題】	主体的に授業に参画し、研究能力と専門性を修得できるよう事前準備と事後学習を行う。 授業毎の課題は各授業回にて指示する。				
【準備学習時間】	各授業回にて指示する。				
【履修条件】	なし				
【関連科目】	家族看護特論				
【評価方法】	発表や討議への参加(50%)、レポート(50%)を総合的に評価する。				
【フィードバックの方法】	授業中の質問は時間内に返答する。その他の質問は内容に応じて次回の授業回、または別途返答する。				
【テキスト】	精神看護学Ⅰ[第6版]—精神保健学—/吉松 和哉、小泉 典章、川野 雅資 編集/ヌーヴェルヒロカワ/ ISBN:978-4-86174-064-0				
【参考書】	適宜紹介する				
【備考】	※授業を受ける上で個別に配慮が必要な場合は、事前に科目責任者に相談してください。				
【社会人聴講生】	不可		【科目等履修生】	不可	

【科目名】	広域看護学特論Ⅲ		【科目英語名】	Special study of Community Nursing Ⅲ	
【開講時期】	2024 年度前期	【必選区分】	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択	【単位数】	2 単位
【授業形態】	<input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習			【授業時間数】	30 時間
【科目責任者】	畑中純子				
【担当教員】	畑中純子、鈴木千智				
【DP との関連】	<input checked="" type="checkbox"/> DP1 <input type="checkbox"/> DP2 <input type="checkbox"/> DP3 <input checked="" type="checkbox"/> DP4				
【授業概要】	公衆衛生看護学の基本的概念や諸理論について理解を深め、自己の実践活動を振り返りながら、公衆衛生看護の専門機能について理解を深める。さらに、公衆衛生看護学の論文をとおして地域における看護活動の課題を把握し、その解決方法を検討する。 【キーワード】公衆衛生看護に関連する理論と概念、公衆衛生看護活動、公衆衛生看護の本質				
【授業目標】	1. 自己の実践活動を公衆衛生看護学の基本的概念や諸理論とつなぎ、公衆衛生看護の専門機能を理解できる。 2. 我が国における公衆衛生看護学の論文をとおして特定集団ごとの看護活動の動向を理解し、課題を整理して、その解決方法を提案することができる。				
【授業展開】	【授業方法】対面によるプレゼンテーションおよびディスカッション 【アクティブラーニングを促す方法】 <input checked="" type="checkbox"/> A ディスカッション/ディバード <input type="checkbox"/> B グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> C プレゼンテーション <input type="checkbox"/> D 実習/フィールドワーク 【授業内容】 第 1 回:オリエンテーション、公衆衛生看護とは (畑中、鈴木) 第 2 回:健康の社会的決定要因 (鈴木、畑中) 第 3 回:公衆衛生看護における倫理 (鈴木、畑中) 第 4 回:公衆衛生看護(行政・産業)の対象 (畑中、鈴木) 第 5 回:公衆衛生看護の対象へのアプローチ～個人・家族～ (畑中、鈴木) 第 6 回:公衆衛生看護の対象へのアプローチ～集団・組織・地域～ (畑中、鈴木) 第 7 回:公衆衛生看護におけるエビデンスの活用 (畑中、鈴木) 第 8 回:公衆衛生看護におけるエビデンスの創出 (畑中、鈴木) 第 9 回:公衆衛生看護学研究の動向 (畑中、鈴木) 第 10 回:公衆衛生看護活動の課題～母子保健の論文からの検討～ (畑中、鈴木) 第 11 回:公衆衛生看護活動の課題～成人保健の論文からの検討～ (畑中、鈴木) 第 12 回:公衆衛生看護活動の課題～高齢者保健の論文検討～ (畑中、鈴木) 第 13 回:公衆衛生看護活動の課題～産業看護の論文検討～ (畑中、鈴木) 第 14 回:公衆衛生看護の本質(畑中、鈴木) 第 15 回:まとめ(畑中、鈴木)				
【事前・事後課題】	オリエンテーション時に事前課題を提示する。専門性を修得できるよう事後学習を行う。				
【準備学習時間】	講義に参加する準備に必要な時間を各自で設定する。				
【履修条件】	なし				
【関連科目】	研究法Ⅰ・Ⅱ、広域看護学応用演習Ⅲ				
【評価方法】	講義時のプレゼンテーション(40%)、ディスカッションへの参加度(30%)、課題レポート(30%)を総合的に評価する。				
【フィードバックの方法】	授業時間内の質問等はその場でコメントする。メールのよる質問等には内容によりメールあるいは授業時間にコメントする。				
【テキスト】	公衆衛生看護学テキスト①公衆衛生看護学原論 第 2 版/責任編集麻原きよみ/医歯薬出版株式会社/978-4-263-23804-2				
【参考書】	適宜紹介する。				
【備考】	※授業を受ける上で個別に配慮が必要な場合は、事前に科目責任者に相談してください。				
【社会人聴講生】	不可		【科目等履修生】	不可	

【科目名】	広域看護学特論Ⅳ		【科目英語名】	Special study of Community NursingⅣ	
【開講時期】	2024 年度前期	【必選区分】	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択	【単位数】	2 単位
【授業形態】	<input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習			【授業時間数】	30 時間
【科目責任者】	成瀬早苗				
【担当教員】	成瀬早苗				
【DP との関連】	<input checked="" type="checkbox"/> DP1 <input type="checkbox"/> DP2 <input type="checkbox"/> DP3 <input checked="" type="checkbox"/> DP4				
【授業概要】	<p>老年看護の対象を理解し、老年看護にける課題を明確にする。老年看護で用いられる理論・発達課題や研究の動向を活用し、課題解決に向けた老年看護の専門性を発揮する能力を養う。</p> <p>【キーワード】老年看護、老年看護課題、高齢者支援</p>				
【授業目標】	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者に関わる諸問題・課題に向き合い、高齢者の看護について自己の考えを説明できる。 2. 老年看護で用いられる理論・発達課題を活用して、老年看護の実践を説明できる。 3. 高齢者が自分らしい生活の維持や QOL 向上を獲得するための看護、高齢者の個性を尊重し、自律に向けたセルフケア及び家族を含めた看護について探究することができる。 				
【授業展開】	<p>【授業方法】 対面もしくはオンラインによるプレゼンテーション、ディスカッション</p> <p>【アクティブラーニングを促す方法】 <input checked="" type="checkbox"/>A ディスカッション／ディバード <input type="checkbox"/>B グループワーク <input checked="" type="checkbox"/>C プレゼンテーション <input type="checkbox"/>D 実習／フィールドワーク</p> <p>【授業内容】</p> <p>第 1 回 授業ガイダンス、課題の説明 老年看護に関する主要概念の理解 第 2 回 対象者の理解：老年看護における看護の対象とは 第 3 回 老年看護における課題①：健康問題 第 4 回 老年看護における課題②：生活・社会問題 第 5 回 老年看護における課題③：倫理的課題 第 6 回 老年看護における課題④：心理問題 第 7 回 老年看護で用いられる理論の活用 第 8 回 老年看護で用いられる発達課題の活用 第 9 回 高齢者の健康支援に関連した研究の動向①：質的研究 第 10 回 高齢者の健康支援に関連した研究の動向②：量的研究 第 11 回 老年看護における課題への接近法①：介護支援専門員が捉える対象者、課題、接近法 第 12 回 老年看護における課題への接近法②：対象や対象がおかれている状況理解 第 13 回 超高齢社会を支える看護：高齢者の望む生活 第 14 回 超高齢社会を支える看護：超高齢化社会を支える展望 第 15 回 まとめ</p>				
【事前・事後課題】	主体的に授業に参画し、研究能力と専門性を修得できるよう事前準備と事後学習を行う。授業毎の個別課題は、各授業回にて指示する。				
【準備学習時間】	各授業回にて指示する。				
【履修条件】	特になし				
【関連科目】	研究法Ⅰ・Ⅱ、広域看護学応用演習Ⅳ、広域看護学特別研究				
【評価方法】	プレゼンテーション・ディスカッション(50%)と課題レポート(50%)で評価する。				
【フィードバックの方法】	メールにて質問を受け付ける。内容に応じて次回以降の授業回、または別途返答する。				
【テキスト】	APA 論文作成マニュアル(第 3 版)／アメリカ心理学会(訳前田樹海他)／医学書院／ISBN: 978-4260048125				
【参考書】	老年期 生き生きしたかわりあい／E.H エリクソン(訳朝長正徳他)／みすず書房／ISBN: 978-4622049029 その他、適宜提示する。				
【備考】	※授業を受ける上で個別に配慮が必要な場合は、事前に科目責任者に相談してください。				
【社会人聴講生】	不可		【科目等履修生】	不可	

【科目名】	広域看護学特論 V		【科目英語名】	Special study of Community Nursing V	
【開講時期】	2024 年度前期	【必選区分】	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択	【単位数】	2 単位
【授業形態】	<input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習			【授業時間数】	30 時間
【科目責任者】	堀芽久美				
【担当教員】	堀芽久美				
【DP との関連】	<input checked="" type="checkbox"/> DP1 <input type="checkbox"/> DP2 <input type="checkbox"/> DP3 <input checked="" type="checkbox"/> DP4				
【授業概要】	人間集団における健康課題の発見、保健衛生対策の立案・評価に活用される地域看護学・公衆衛生学の知識、及び疫学・統計学的な解析手法を身につける。地域の健康・生活に関する公的統計や公開データを利用し、学生のプレゼンテーション、教員・学生間の討議を通して、データに基づく保健衛生対策のあり方を学ぶ。 【キーワード】 公衆衛生学、疫学、保健統計学				
【授業目標】	1. 健康課題の発見、保健衛生対策の評価に至るまでの疫学・統計学の活用場面を説明できる。 2. 公的統計資料や公開データの適切な扱いを理解し、目的に合わせて統計資料を選択できる。 3. 統計資料を解析し、解析結果から日本の保健衛生対策の課題を説明できる。				
【授業展開】	<p>【授業方法】 対面もしくはオンラインによる講義、プレゼンテーション、ディスカッション</p> <p>【アクティブラーニングを促す方法】 <input checked="" type="checkbox"/>A ディスカッション／ディバード <input type="checkbox"/>B グループワーク <input checked="" type="checkbox"/>C プレゼンテーション <input type="checkbox"/>D 実習／フィールドワーク</p> <p>【授業内容】 第 1 回： 授業ガイダンス、地域看護と公衆衛生の概念と歴史 第 2 回： 保健衛生対策への疫学・統計学の活用事例 第 3 回： 地域の実態把握：最新年の分析・地理情報の利用 第 4 回： 地域の実態把握：年次推移の分析・将来予測 第 5 回： 事例発表① 課題地域の実態把握 第 6 回： 事例発表② 課題地域の実態把握 第 7 回： リスク分析：罹患・死亡リスク比の推計と活用 第 8 回： リスク分析：生存時間解析・ハザード比の推計と活用 第 9 回： 事例発表③ 課題疾患に対するリスク分析 第 10 回： 事例発表④ 課題疾患に対するリスク分析 第 11 回： 対策評価：健康指標に関するシミュレーションモデルの活用 第 12 回： 対策評価：医療経済に関するシミュレーションモデルの活用 第 13 回： 普及と実装：エビデンスの普及・実装までの過程 第 14 回： 普及と実装：普及と実装研究の活用事例 第 15 回： 公衆衛生にいかす疫学・保健統計学の課題</p>				
【事前・事後課題】	主体的に授業に参画し、研究能力と専門性を修得できるよう事前準備と事後学習を行う。 授業毎の個別課題は、各授業回にて指示する。				
【準備学習時間】	各回の事前・事後課題に合わせて各自で設定する。				
【履修条件】	なし				
【関連科目】	研究法 I・II、広域看護学応用演習 V、広域看護学特別研究				
【評価方法】	プレゼンテーション(60%)、ディスカッション(40%)から総合的に評価する。				
【フィードバックの方法】	プレゼンテーション・ディスカッションでは授業時間内にコメントを伝える。質問はメールにて受け付ける。内容に応じて次回以降の授業回、または別途返答する。				
【テキスト】	Modern Epidemiology, 4th edition. / TL Lash, TJ Vanderweele, S Haneuse, KJ Rothman. / Wolters Kluwer. / ISBN: 978-1-4511-9328-22020.				
【参考書】	国民衛生の動向 2022/2023 / 一般財団法人厚生労働統計協会(編集・発行) / ISBN: 978-4-87511-872-5. その他、適宜紹介する。				
【備考】	※授業を受ける上で個別に配慮が必要な場合は、事前に科目責任者に相談してください。				
【社会人聴講生】	不可		【科目等履修生】	不可	

【科目名】	広域看護学特論VI		【科目英語名】	Special study of Community Nursing VI	
【開講時期】	2024 年度前期	【必選区分】	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択	【単位数】	2 単位
【授業形態】	<input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習			【授業時間数】	30 時間
【科目責任者】	竹熊カツマタ麻子				
【担当教員】	竹熊カツマタ麻子				
【DP との関連】	<input checked="" type="checkbox"/> DP1 <input type="checkbox"/> DP2 <input type="checkbox"/> DP3 <input checked="" type="checkbox"/> DP4				
【授業概要】	World Health Organization(WHO)の Primary Health Care 等の国際保健の実践モデルについて学ぶとともに、グローバルヘルスにおける研究の役割を理解する。グローバルヘルスにおける具体的な健康課題に対する研究・調査などの方法や実践の実例から考察の視点を学ぶ。すべての人に健康をもたらすために研究がどのような役割を担っているか考察する。 【キーワード】 プライマリーヘルスケア (PHC), グローバルヘルス(国際保健)、 World Health Organization (WHO), グローバルヘルスリサーチ				
【授業目標】	1. 国際保健の概念の枠組み、実践のモデルについて説明することができる。 2. World Health Organization (WHO)の報告書、または研究結果から世界における健康課題について説明することができる。 3. World Health Organization (WHO)の報告書、または調査報告から、グローバルヘルスにおける研究ではどのような研究方法が用いられているか説明できる。				
【授業展開】	【授業方法】対面もしくはオンラインによる講義、プレゼンテーション、ディスカッション 【アクティブラーニングを促す方法】 <input checked="" type="checkbox"/> A ディスカッション/ディベート <input type="checkbox"/> B グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> C プレゼンテーション <input type="checkbox"/> D 実習/フィールドワーク 【授業内容】 第 1 回: 授業ガイダンス、国際保健(グローバルヘルス)総論 (竹熊) 第 2 回: Primary Health Care(PHC)(竹熊) 第 3 回: Primary Health Care (PHC) (竹熊) 第 4 回: Global health ethics (竹熊) 第 5 回: Global health research:総論 (竹熊) 第 6 回: Global health research:リサーチクエスチョン (竹熊) 第 7 回: Global health research:方法論 (竹熊) 第 8 回: Global health research:サンプリング (竹熊) 第 9 回: Global health research:分析と分析における視点(竹熊) 第 10 回: 研究事例検討:母子保健 (竹熊) 第 11 回: 研究事例検討:感染症 (竹熊) 第 12 回: 研究事例検討:異常気象による健康への影響(竹熊) 第 13 回: 研究事例検討:精神保健 (竹熊) 第 14 回: 研究事例検討:ジェンダー、LGBTQ+(竹熊) 第 15 回: まとめ				
【事前・事後課題】	主体的に授業に参画し、研究能力と専門性を修得できるよう事前準備と事後学習を行う。 授業毎の個別課題は、各授業回にて指示する。World Health Organization のウェブサイトから各自興味のある分野の報告書も積極的に読むようにすること。 https://www.who.int/				
【準備学習時間】	自分の能力に応じて、各自で設定する。				
【履修条件】	なし				
【関連科目】	広域看護学応用演習VI				
【評価方法】	課題レポート(30%)、プレゼンテーション(40%)、討議 (30%)から総合的に評価する。				
【フィードバックの方法】	提出された課題については後日コメントを返却する。質問はメールにて受け付ける。内容に応じて次回以降の授業回、または別途返答する。				
【テキスト】	本科目では World Health Organization(WHO) より出版されている報告書、文献、ガイドライン等を使用する。(WHO のウェブサイトからダウンロード可能) 適宜示す。 https://www.who.int/				
【参考書】	参考書、参考文献は単元ごとに適宜示す。				
【備考】	※授業を受ける上で個別に配慮が必要な場合は、事前に科目責任者に相談してください。				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可		

【科目名】	広域看護学応用演習 I		【科目英語名】	Exercise in Community Nursing I	
【開講時期】	2024 年度前期・後期	【必選区分】	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択	【単位数】	4 単位
【授業形態】	<input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習			【授業時間数】	60 時間
【科目責任者】	富安眞理				
【担当教員】	富安眞理、国保祥子				
【DP との関連】	<input checked="" type="checkbox"/> DP1 <input type="checkbox"/> DP2 <input type="checkbox"/> DP3 <input type="checkbox"/> DP4				
【授業概要】	一連の研究過程を理解するために、研究課題の明確化から研究計画を立案する。主体的な学生のプレゼンテーションおよび学生・教員間の討議により進める。プレゼンテーションに対して、ディスカッションを通じてフィードバックをする。 【キーワード】 研究課題の明確化、研究方法、研究計画				
【授業目標】	<ol style="list-style-type: none"> 1. ケーススタディの理論と技法を用いて、関心のあるテーマについて説明できる。 2. 自らの関心のあるテーマについて、文献のクリティークや文献マップを実施できる。 3. 自らの研究課題において、研究を行う目的と意義を説明することができる。 4. 研究課題に適した研究デザイン・研究方法を選択できる。 5. 自らの研究計画に伴う倫理的配慮について説明することができる。 				
【授業展開】	<p>【授業方法】 対面もしくはオンラインによるプレゼンテーション、ディスカッション 【アクティブラーニングを促す方法】 <input checked="" type="checkbox"/>A ディスカッション／ディバード <input type="checkbox"/>B グループワーク <input checked="" type="checkbox"/>C プレゼンテーション <input checked="" type="checkbox"/>D 実習／フィールドワーク</p> <p>【授業内容】</p> <p>第 1 回 ガイダンス(富安) 第 2 回～3 回 ケーススタディ(事例研究法)の理論と技法(国保) 第 4 回～6 回 関心がある看護現象の記述① -フィールドワーク(富安) 第 7 回～8 回 関心がある看護現象の記述② -受生による事例報告(富安) 第 9 回～12 回 文献クリティーク① -研究課題・研究目的の明確化(富安) 第 13 回～14 回 文献クリティーク② -方法の検討(富安) 第 15 回～16 回 文献クリティーク③ -文献マップ・文献要約の作成(富安) 第 17 回～19 回 研究課題に関する研究計画書の作成① -研究課題の背景から研究目的にいたる論述(富安) 第 20 回～24 回 研究課題に関する研究計画書の作成② -文献検討(富安) 第 25 回～26 回 研究課題に関する研究計画書の作成③ -研究方法の立案(富安) 第 27 回～28 回 研究課題に関する同意書の作成 -研究を実施する上での倫理的配慮(富安) 第 29 回～30 回 対象者・実施事業所等への依頼文等の作成 -研究協力の依頼(富安)</p>				
【事前・事後課題】	主体的に授業に参画し、研究能力と専門性を修得できるよう事前・事後学習を行う。 クラスの個別課題は、各クラスにて指示する。				
【準備学習時間】	各クラスにて指示する。				
【履修条件】	広域看護学特論 I の単位を取得見込みであること。				
【関連科目】	研究法 I・II、広域看護学特論 I				
【評価方法】	研究計画書の内容(50%)、プレゼンテーション(50%)で評価する。				
【フィードバックの方法】	メールにて質問を受け付ける。内容に応じて次回以降のクラス、または別途返答する。				
【テキスト】	看護研究 原理と方法 第 2 版/Polit,D.F., & Beck,C.T/近藤潤子(監訳)/医学書院/ISBN:978-4260005265				
【参考書】	その他、適宜提示する。				
【備考】	※授業を受ける上で個別に配慮が必要な場合は、事前に科目責任者に相談してください。				
【社会人聴講生】	不可		【科目等履修生】	不可	

【科目名】	広域看護学応用演習Ⅱ		【科目英語名】	Exercise in Community Nursing Ⅱ	
【開講時期】	2024 年度前期・後期	【必選区分】	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択	【単位数】	4 単位
【授業形態】	<input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習			【授業時間数】	60 時間
【科目責任者】	篁宗一				
【担当教員】	篁宗一				
【DPとの関連】	<input checked="" type="checkbox"/> DP1 <input type="checkbox"/> DP2 <input type="checkbox"/> DP3 <input type="checkbox"/> DP4				
【授業概要】	学会やシンポジウムなどの参加、当事者との交流、実際の現場に働く精神科の看護師からの体験談、ロールプレイ、医療機関や公的な相談機関の見学実習などを通じ、幅広い精神保健福祉の動向を理解することで現場感覚を養い、実践的な支援の方法を学ぶ。 【キーワード】メンタルヘルス、ライフイベント、ライフステージ、精神障害				
【授業目標】	1.当事者や各専門職がおかれた背景について体験談等をもとに理解する。 2.精神保健福祉の動向を多職種との交流や資料をもとに理解する。				
【授業展開】	<p>【授業方法】 対面授業とする。ただし、希望者はオンライン双方向による受講も可能である。</p> <p>【アクティブラーニングを促す方法】 <input checked="" type="checkbox"/>A ディスカッション／ディバード <input type="checkbox"/>B グループワーク <input checked="" type="checkbox"/>C プレゼンテーション <input type="checkbox"/>D 実習／フィールドワーク</p> <p>【授業内容】 第1回：オリエンテーション 第2～5回：精神科看護の最近の動向 第6～12回：当事者が語る精神看護 第13～20回：ライフステージごとにみた精神看護 第21～30回：論文の選定と要約、発表、まとめ</p>				
【事前・事後課題】	主体的に授業に参画し、研究能力と専門性を修得できるよう事前準備と事後学習を行う。 授業毎の課題は各授業回にて指示する。				
【準備学習時間】	各授業回にて指示する。				
【履修条件】	広域看護学特論Ⅱを受講していること。				
【関連科目】	広域看護学特論Ⅱ				
【評価方法】	プレゼンテーション(50%)、実技演習評価(50%)				
【フィードバックの方法】	授業中の質問は時間内に返答する。その他の質問は内容に応じて次回の授業回、または別途返答する。				
【テキスト】	プログラム評価ハンドブック／山谷清志監修／晃洋書房／ISBN:978-4-7710-3396-2				
【参考書】	適宜紹介する。				
【備考】	※授業を受ける上で個別に配慮が必要な場合は、事前に科目責任者に相談してください。				
【社会人聴講生】	不可		【科目等履修生】	不可	

【科目名】	広域看護学応用演習Ⅲ		【科目英語名】	Exercise in Community Nursing Ⅲ	
【開講時期】	2024 年度前期・後期	【必選区分】	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択	【単位数】	4 単位
【授業形態】	<input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習			【授業時間数】	60 時間
【科目責任者】	畑中純子				
【担当教員】	畑中純子、鈴木千智				
【DP との関連】	<input checked="" type="checkbox"/> DP1 <input type="checkbox"/> DP2 <input type="checkbox"/> DP3 <input type="checkbox"/> DP4				
【授業概要】	<p>公衆衛生看護学に関する国内外の論文を概観し、履修生が関心のある領域の研究論文のレビューを行う。履修生によるプレゼンテーションと討議をとおして履修生自身がリサーチクエストを設定し、研究課題、研究目的、研究方法を検討する。</p> <p>【キーワード】研究課題の明確化、研究方法、研究計画</p>				
【授業目標】	<ol style="list-style-type: none"> 1. 公衆衛生看護学に関する国内外の研究論文を検索し、主要な研究論文クリティークすることができる。 2. クリティークしたなかから関心のあるテーマについて課題を明らかにすることができる。 3. 関心のある研究課題に関連した研究論文を検索し、文献レビューを行うことができる。 4. リサーチクエストを明らかにして、研究課題を明確化できる。 5. リサーチクエストへの答えを導き出すための研究方法を検討できる。 				
【授業展開】	<p>【授業方法】対面によるプレゼンテーションおよびディスカッション 【アクティブラーニングを促す方法】 <input checked="" type="checkbox"/>A ディスカッション／ディベード <input type="checkbox"/>B グループワーク <input checked="" type="checkbox"/>C プレゼンテーション <input type="checkbox"/>D 実習／フィールドワーク</p> <p>【授業内容】</p> <p>第1回：ガイダンス(畑中) 第2回～9回：研究課題に関連した研究論文クリティーク (畑中、鈴木) 第10回～15回：研究課題の明確化 (畑中、鈴木) 第16回～17回：研究デザインの検討 (畑中、鈴木) 第18回～20回：研究方法の検討 (畑中、鈴木) 第21回～24回：研究計画書の作成－背景、目的－ (畑中、鈴木) 第25回～30回：研究計画書の作成－研究方法、倫理的配慮－ (畑中、鈴木)</p>				
【事前・事後課題】	主体的に授業に参加し、研究能力と専門性を修得できるよう事前準備と事後学習を行う。授業毎の個別課題は各授業回にて提示する。				
【準備学習時間】	自分の能力に応じて各自で設定する。				
【履修条件】	なし				
【関連科目】	研究法Ⅰ・Ⅱ、広域看護学応用演習Ⅲ				
【評価方法】	講義時のプレゼンテーション(50%)、研究計画書の内容(50%)を総合的に評価する。				
【フィードバックの方法】	授業時間内の質問等にはその場でコメントする。メールによる質問等にはメールあるいは次回授業回にコメントする。				
【テキスト】	看護研究 原理と方法 第2版／Polit,D.F., &Beck,C.T.(2004/2010). 近藤潤子(監訳),/医学書院/978-4-260-00526-5				
【参考書】	バーンズ&グローブ 看護研究入門 原著第7版／Grove,S.K., Burns,N.,&Gray,J.R.(2013/2015). 黒田裕子他(監訳)/エルゼビアジャパン/978-4-86034-300-2 その他、適宜、紹介する。				
【備考】	※授業を受ける上で個別に配慮が必要な場合は、事前に科目責任者に相談してください。				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可		

【科目名】	広域看護学応用演習Ⅳ		【科目英語名】	Exercise in Community NursingⅣ	
【開講時期】	2024 年度前期・後期	【必選区分】	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択	【単位数】	4 単位
【授業形態】	<input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習			【授業時間数】	60 時間
【科目責任者】	成瀬早苗				
【担当教員】	成瀬早苗				
【DPとの関連】	<input checked="" type="checkbox"/> DP1 <input type="checkbox"/> DP2 <input type="checkbox"/> DP3 <input type="checkbox"/> DP4				
【授業概要】	<p>老年看護学領域の先行研究文献から、様々な研究課題やデザイン、方法、倫理的課題などを検討し、個人や家族、集団を対象とした研究の方向性とあり方を探究する。また、研究課題に関する文献レビューを通して、自身のリサーチ・クエスチョンを明確化し、研究目的に基づく研究計画の方向性を言語化し、研究計画書作成に必要な基礎的能力を涵養する。</p> <p>【キーワード】研究課題の明確化、研究方法、研究計画</p>				
【授業目標】	<ol style="list-style-type: none"> 1. 老年看護領域における研究論文についてクリティークできる 2. 老年看護領域における研究課題と研究目的を明確にできる 3. 研究課題に関連した文献レビューができる 4. 研究方法を立案できる 5. 研究計画遂行のための条件を整備できる 				
【授業展開】	<p>【授業方法】 対面もしくはオンラインによるプレゼンテーション、ディスカッション</p> <p>【アクティブラーニングを促す方法】 <input checked="" type="checkbox"/>A ディスカッション／ディバード <input type="checkbox"/>B グループワーク <input checked="" type="checkbox"/>C プレゼンテーション <input type="checkbox"/>D 実習／フィールドワーク</p> <p>【授業内容】</p> <p>第1回 授業ガイダンス</p> <p>第2回 老年看護領域における研究論文のクリティーク：質的研究</p> <p>第3回 老年看護領域における研究論文のクリティーク：量的研究</p> <p>第4回 老年看護領域における研究論文のクリティーク：関心のある研究</p> <p>第5回 研究課題とリサーチ・クエスチョン、研究目的の明確化</p> <p>第6回 研究課題に関連した文献レビュー：マインドマップの作成</p> <p>第7回 研究課題に関連した文献レビュー：文献検索</p> <p>第8回 研究課題に関連した文献レビュー：内容検討</p> <p>第9回 研究課題に関連した文献レビュー：文献統合</p> <p>第10回 研究課題に関連した文献レビュー：要約表の作成</p> <p>第11回 研究方法の検討：研究デザイン、研究対象</p> <p>第12回 研究方法の検討：データ収集方法と手順</p> <p>第13回 研究方法の検討：分析方法の検討</p> <p>第14回 研究方法の検討：分析方法の手順</p> <p>第15回～16回 研究課題の研究計画書作成：研究課題の研究計画のための条件整備</p> <p>第17回～18回 研究課題の研究計画書作成：研究課題の背景から研究目的に至る論述</p> <p>第19回～21回 研究課題の研究計画書作成：関連文献の検討結果まとめの記述</p> <p>第22回～24回 研究課題の研究計画書作成：研究デザイン、研究方法の記述</p> <p>第25回～28回 研究課題の研究計画書作成：計画した研究の実施可能性の検討、倫理的配慮の明確化</p> <p>第29回～30回 研究課題に関する同意書、依頼文書の作成</p>				
【事前・事後課題】	主体的に授業に参画し、研究能力と専門性を修得できるよう事前準備と事後学習を行う。授業毎の個別課題は、各授業回にて指示する。				
【準備学習時間】	各授業回にて指示する。				
【履修条件】	なし				
【関連科目】	広域看護学特論Ⅳ				
【評価方法】	研究計画書の内容 50%、プレゼンテーション 50%で評価する。				

【フィードバックの方法】	メールにて質問を受け付ける。内容に応じて次回以降の授業回、または別途返答する。		
【テキスト】	看護研究 原理と方法 第2版 / Polit, D.F., & Beck, C.T. (2004/2010), 近藤潤子(監訳) / 医学書院 / ISBN: 978-4-260-00526-5		
【参考書】	よくわかる看護研究論文のクリティーク / 山川みやえ, 牧本清子 / ISBN: 978-4-8180-1849-5 文献レビューの基本 / 大木秀一 / 医歯薬出版 / ISBN: 978-4-263-23581-2 その他、適宜提示する。		
【備考】	※授業を受ける上で個別に配慮が必要な場合は、事前に科目責任者に相談してください。		
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可

【科目名】	広域看護学応用演習V		【科目英語名】	Exercise in Community Nursing V	
【開講時期】	2024 年度前期・後期	【必選区分】	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択	【単位数】	4 単位
【授業形態】	<input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習			【授業時間数】	60 時間
【科目責任者】	堀芽久美				
【担当教員】	堀芽久美				
【DPとの関連】	<input checked="" type="checkbox"/> DP1 <input type="checkbox"/> DP2 <input type="checkbox"/> DP3 <input type="checkbox"/> DP4				
【授業概要】	国内外の保健統計資料や研究論文の包括的レビューを通して、地域看護、および公衆衛生の促進に寄与する実現可能性のある研究課題・目的を明確にする。さらに、目的を達成するための研究デザイン、解析方法を検討し、研究計画を立案する。 【キーワード】研究課題の明確化、研究方法、研究計画				
【授業目標】	1. 国内外の統計資料や研究論文を検索し、関心地域の生活・健康実態および保健衛生対策を記述できる。 2. 生活・健康実態、保健衛生対策に基づき、関心のある実現可能な研究課題を明確化できる。 3. 自らの研究課題の目的、社会的意義を説明できる。 4. 研究課題の目的を達成するための研究デザイン、及び統計的手法を選択できる。 5. 研究の強みや限界、社会実装に向けた将来性を説明できる。				
【授業展開】	<p>【授業方法】 対面もしくはオンラインによるプレゼンテーション、ディスカッション</p> <p>【アクティブラーニングを促す方法】 <input checked="" type="checkbox"/>A ディスカッション／ディベート <input type="checkbox"/>B グループワーク <input checked="" type="checkbox"/>C プレゼンテーション <input type="checkbox"/>D 実習／フィールドワーク</p> <p>【授業内容】 第1回 ガイダンス 第2回-第3回: 関心のある国や地域の生活・健康実態に関する統計の整理 第4回-第5回: 関心のある国や地域の生活・健康実態に対する現在の保健衛生対策の整理 第6回-第7回: 関心のある健康課題の焦点化 第8回-第10回: 関心のある健康課題に関連した系統的文献調査 第11回-第12回: 関心のある健康課題および研究目的の明確化 第13回-第14回: 研究に必要な統計資料の検討、及び入手可能性の検討 第15回-第17回: 研究デザイン、及び統計的手法の検討 第18回: 研究の実現可能性、及び得られる利益の検討 第19回-第20回: 研究課題に関する研究計画書の作成(研究の背景、研究目的の記述) 第21回-第23回: 研究課題に関する研究計画書の作成(関連文献の検討結果の記述) 第24回-第26回: 研究課題に関する研究計画書の作成(利用データ、統計解析方法の記述) 第27回-第28回: 研究課題に関する研究計画書の作成(研究の倫理的配慮、得られる利益・不利益の記述) 第29回-第30回: 統計資料の利用申請に関する資料の作成</p>				
【事前・事後課題】	主体的に授業に参画し、研究能力と専門性を修得できるよう事前準備と事後学習を行う。授業毎の個別課題は、各授業回にて指示する。				
【準備学習時間】	各授業回にて指示する。				
【履修条件】	なし				
【関連科目】	研究法Ⅰ・Ⅱ、広域看護学特論Ⅴ、広域看護学特別研究				
【評価方法】	研究計画書の内容(60%)、プレゼンテーション(40%)で評価する。				
【フィードバックの方法】	プレゼンテーション・ディスカッションでは授業時間内にコメントを伝える。質問は授業中およびメールにて受け付ける。内容に応じて次回以降の授業回、または別途返答する。				
【テキスト】	Epidemiology by Design: A Causal Approach to the Health Sciences.／E Westreich.／Oxford University Press.／ISBN: 978-0190665760				
【参考書】	R for Health Data Science.／E Harrison, R Pius.／Chapman and Hall.／ISBN: 978-0367428198 その他、適宜紹介する。				
【備考】	※授業を受ける上で個別に配慮が必要な場合は、事前に科目責任者に相談してください。				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可		

【科目名】	広域看護学応用演習Ⅵ		【科目英語名】	Exercise in Community NursingⅥ	
【開講時期】	2024 年度前期・後期	【必選区分】	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択	【単位数】	4 単位
【授業形態】	<input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習			【授業時間数】	60 時間
【科目責任者】	竹熊カツマタ麻子				
【担当教員】	竹熊カツマタ麻子				
【DP との関連】	<input checked="" type="checkbox"/> DP1 <input checked="" type="checkbox"/> DP2 <input checked="" type="checkbox"/> DP3 <input type="checkbox"/> DP4				
【授業概要】	<p>本科目においては、履修学生が国際看護、国際保健における研究課題について、文献検討、課題の選定、リサーチクエスチョンを明らかにするプロセスを経験する。研究方法についての検討を行い、遂行可能な研究計画を立案する。本科目は主体的な学生のプレゼンテーションおよび学生・教員間の討議により学生の思考を深める。</p> <p>【キーワード】 研究課題の選定、リサーチクエスチョン、研究方法、研究計画書</p>				
【授業目標】	研究計画書立案				
【授業展開】	<p>【授業方法】 対面もしくはオンラインによるプレゼンテーション、ディスカッション</p> <p>【アクティブラーニングを促す方法】</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>A ディスカッション/ディバード <input type="checkbox"/>B グループワーク <input checked="" type="checkbox"/>C プレゼンテーション <input type="checkbox"/>D 実習/フィールドワーク</p> <p>【授業内容】</p> <p>第 1 回 科目ガイダンス 研究のプロセスについて (竹熊)</p> <p>第 2 回～3 回 研究課題について (竹熊)</p> <p>第 4 回～6 回 研究の問いの洗練化・PICO(T) (竹熊)</p> <p>第 7 回～8 回 文献検討:研究課題に関する知識を得る (竹熊)</p> <p>第 9 回～12 回 文献検討:文献のクリティーク、文献の質について(竹熊)</p> <p>第 13 回～14 回 文献検討:文献検討による知の統合 (竹熊)</p> <p>第 15 回～16 回 研究に用いる理論・モデルの検討 クリティーク (竹熊)</p> <p>第 17 回～19 回 研究に用いる理論・モデルの検討 応用 (竹熊)</p> <p>第 20 回～24 回 研究課題に関する研究計画書の作成1(文献検討)(竹熊)</p> <p>第 25 回～26 回 研究課題に関する研究計画書の作成2(研究方法の選定)(竹熊)</p> <p>第 27 回～28 回 研究課題に関する倫理と倫理審査 (竹熊)</p> <p>第 29 回～30 回 研究計画発表・まとめ(竹熊)</p>				
【事前・事後課題】	主体的に授業に参画し、研究能力と専門性を修得できるよう事前準備と事後学習を行う。授業毎の個別課題は、各授業回にて指示する。				
【準備学習時間】	自分の能力に応じて、各自で設定する。				
【履修条件】	なし				
【関連科目】	広域看護学特論Ⅵ				
【評価方法】	プレゼンテーション(30%)、課題レポート(40%)、討議(30%)を統合して評価をする。				
【フィードバックの方法】	提出された課題は後日コメントを返却する。質問はメールにて受け付ける。内容に応じて次回以降の授業回、または別途返答する。プレゼンテーションについてはディスカッションを通じてフィードバックをする。				
【テキスト】	看護研究 原理と方法 第 2 版/Polit,D.F., &Beck,C.T./近藤潤子(監訳)/医学書院/ISBN:978-4260005265 その他、適宜提示する。				
【参考書】	その他、適宜提示する。				
【備考】	※授業を受ける上で個別に配慮が必要な場合は、事前に科目責任者に相談してください。				
【社会人聴講生】	不可		【科目等履修生】	不可	

【科目名】	広域看護学特別研究		【科目英語名】	Special Research in Community Nursing	
【開講時期】	2024 年度前期・後期	【必選区分】	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択	【単位数】	6 単位
【授業形態】	<input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習			【授業時間数】	90 時間
【科目責任者】	富安眞理、眞宗一、畑中純子、竹熊カツマタ麻子、成瀬早苗、堀芽久美				
【担当教員】	富安眞理、眞宗一、畑中純子、竹熊カツマタ麻子、成瀬早苗、堀芽久美、鈴木千智				
【DPとの関連】	<input checked="" type="checkbox"/> DP1 <input checked="" type="checkbox"/> DP2 <input checked="" type="checkbox"/> DP3 <input checked="" type="checkbox"/> DP4				
【授業概要】	研究課題に関連する最新の知見と研究方法の理解を深め、研究計画書に基づく倫理申請書を作成する。研究倫理審査委員会への申請・承認を得た後、研究計画書に沿ったデータ収集と分析を実施する。こうした一連の結果を導くまでの基本的な研究プロセスを修士論文の作成を通して経験し修得する。 【キーワード】 研究実施、論文作成				
【授業目標】	1. 研究計画書に基づく倫理申請書、説明書及び資料を作成することができる。 2. 研究計画に沿って、データ収集を行うことができる。 3. 研究計画に沿って、収集したデータを分析することができる。 4. 結果の導き方ならびに考察は、論理的で矛盾なく行うことができる。				
【授業展開】	【授業方法】 対面もしくはオンラインによるプレゼンテーション、ディスカッション 【アクティブラーニングを促す方法】 <input checked="" type="checkbox"/> A ディスカッション／ディバード <input type="checkbox"/> B グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> C プレゼンテーション <input checked="" type="checkbox"/> D 実習／フィールドワーク 【授業内容】 第1回～3回 研究計画書を研究倫理審査委員会に申請し、承認を得る。 第4回～9回 研究フィールドとの調整、研究対象者の選定、資料の作成等、研究に関する準備を開始する。 第10回～12回 研究進行中、適宜、必要な評価を行い、早期に問題の解決や調整を行う。 第13回～22回 研究計画に沿って、データ収集、分析を行う。 第23回～25回 分析を結果としてまとめる。 第26回～36回 研究課題に従い、結果を考察し、論文としてまとめる(適切な時期に、中間発表を行う)。 第37回～39回 投稿規程に基づき、修士論文を提出する。 第37回～39回 修士論文審査申請を行い、論文審査、最終試験を受ける。 第40回～42回 修士論文を学内で発表する。 第43回～45回 研究終了後、協力していただいた施設や関係者に終了を報告する。				
【事前・事後課題】	主体的に研究に参画し、研究能力と専門性を発揮できるよう研究計画に基づき必要に応じて準備・確認等を行う。研究の実施に伴う課題については適宜、指導教員へ相談すること。				
【準備学習時間】	各自、研究計画の実施状況や自己の能力に応じて設定する。				
【履修条件】	研究法Ⅰ・Ⅱ、広域看護学特論、広域看護学応用演習の単位取得見込みであること。				
【関連科目】	研究法Ⅰ・Ⅱ、広域看護学特論、広域看護学応用演習				
【評価方法】	静岡県立大学大学院看護学研究科修士学位審査に関する細則に示す修士論文の審査基準に基づいて評価する。				
【フィードバックの方法】	メールにて質問を受け付ける。内容に応じて次回以降のクラス、または別途返答する。				
【テキスト】	看護研究 原理と方法 第2版／Polit, D.F., & Beck, C.T./近藤潤子(監訳)／医学書院／ISBN:978-4260005265				
【参考書】	バーンズ&グローブ 看護研究入門 原著第7版／Grove, S.K., Burns, N., & Gray, J.R./黒田裕子他(監訳)／エルゼビアジャパン／ISBN:978-4860343002. その他、適宜、紹介する。				
【備考】	※授業を受ける上で個別に配慮が必要な場合は、事前に科目責任者に相談してください。				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可		

【科目名】	助産学特論	【科目英語名】	Advanced lecture in Midwifery
【開講時期】	2024 年度前期	【必選区分】	□必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択
【授業形態】	<input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習	【単位数】	2 単位
【授業時間数】		【授業時間数】	30 時間
【科目責任者】	太田尚子		
【担当教員】	太田尚子、中川有加、永谷実穂		
【DPとの関連】	<input checked="" type="checkbox"/> DP1 <input type="checkbox"/> DP2 <input checked="" type="checkbox"/> DP3 <input checked="" type="checkbox"/> DP4		
【授業概要】	<p>周産期の母子や家族の健康課題を解決するために、Evidence-based Midwifery を活用して、エビデンスに基づく助産ケア、および女性中心のケアを提供できる基礎的能力を身につける。エビデンスに基づいた助産ケアの考え方やその実際を、Evidence-based Midwifery のステップを体験することで理解する。また、各自の助産学領域における関心テーマに関連した、既存の研究論文のクリティークを行い、各自の研究課題と研究の位置づけを明確にする。各回、テーマにそったゼミ形式で実施する。ゼミの発表者は、レジюмеを作成し発表し、討論をすすめる。</p> <p>【キーワード】 Evidence-based Midwifery、クリティーク、研究課題</p>		
【授業目標】	<ol style="list-style-type: none"> 1. 助産学研究の目的と意義を説明できる。 2. 文献検索の方法が説明でき、実施できる。 3. 文献検索によって入手した文献を読み、研究の概要を文献カードにまとめることができる。 4. シナリオから、それに関連する文献を検索して、Evidence-based Midwifery のステップに沿って検討して、ケアの方向性を明らかにして説明できる。 5. 文献のクリティークの方法が理解でき、各自の関心あるテーマの文献をクリティークしながら読むことができる。 6. 自己の研究課題を明確にできる。 <p>自己の研究課題に沿って、文献レビュー、研究計画書を記述できる。</p>		
【授業展開】	<p>【授業方法】対面、プレゼンテーション</p> <p>【アクティブラーニングを促す方法】 <input checked="" type="checkbox"/>A ディスカッション/ディバード <input checked="" type="checkbox"/>B グループワーク <input checked="" type="checkbox"/>C プレゼンテーション <input type="checkbox"/>D 実習/フィールドワーク</p> <p>【授業内容】 第1回: ガイダンス(太田) 第2回: 文献検索方法(太田) 図書館での演習 第3回: 研究テーマに関する文献検索結果の発表 (太田、中川、永谷) 第4回: 研究の枠組みと研究方法のクリティーク (太田、中川、永谷) Evidence-based Midwifery 課題について (1) 第5回: Evidence-based Midwifery 課題について (2) (太田、中川、永谷) 第6回: Evidence-based Midwifery 発表(1) RCT (太田、中川、永谷) 第7回: 文献クリティーク 発表(1) 質問紙調査 (太田、中川、永谷) 第8回: 文献クリティーク 発表(2) 介入研究 (太田、中川、永谷) 第9回: 文献クリティーク 発表(3) 質的研究 (太田、中川、永谷) 第10回: 研究テーマに関する既存研究 発表 (1) (太田、中川、永谷) 第11回: 研究テーマに関する既存研究 発表 (2) (太田、中川、永谷) 第12回: 研究課題(research question)の検討 発表 (太田、中川、永谷) 第13回: 研究の意義、研究目的の検討 発表と討議 (太田、中川、永谷) 第14回: 研究課題と文献レビュー 発表(1) (太田、中川、永谷) 第15回: 研究課題と文献レビュー 発表(2) (太田、中川、永谷)</p>		
【事前・事後課題】	<ul style="list-style-type: none"> ・Evidence-based Midwifery、文献クリティーク (1)、文献クリティーク (2)、文献クリティーク (3) の課題についてクリティークシートを用いてレポートを作成し、プレゼンテーションの準備を行う。 ・自分の関心あるテーマから研究課題を明確にして、それに関する文献検索、文献カードの作成を行う。 ・各自の関心ある研究課題について文献レビューを作成する。 		

【準備学習時間】	各自で課題の取り組み状況に応じて、主体的に計画を立案して各自が設定する。		
【履修条件】	なし		
【関連科目】	助産学応用演習、助産学課題研究		
【評価方法】	Evidence-based Midwifery のレポート、プレゼンテーション、ディスカッション(25%) 文献クリティーク (1) レポート、プレゼンテーション、ディスカッション(15%) 文献クリティーク (2) レポート、プレゼンテーション、ディスカッション(15%) 文献クリティーク (3) レポート、プレゼンテーション、ディスカッション(15%) 各自の研究課題に関する文献レビュー、プレゼンテーション(30%)		
【フィードバックの方法】	内容に応じて授業の中で返答する。		
【テキスト】	1. バーンズ&グローブ 看護研究入門 原著第9版-評価・統合・エビデンスの生成(2021/2023) / Grove J.R. & Gray S.K.(著). 黒田裕子・逸見功・佐藤富美子(監訳) / ELSEVIER / ISBN:978-4-86034-794-9		
【参考書】	1. ステップアップ EBM 実践ワークブック—10 級から始めて師範代をめざす / 名郷直樹 / 南江堂 / ISBN:978-4524253685 2. カールヘネガン, 齊尾武郎監訳 / EBM の道工具箱 第2版 / 中山書店, 2007 / ISBN:978-4521677811 3. 実践のステップでみる EBN(2002). EB Nursing, 2(4) 4. エビデンスを使える実践者になろう(2009). EB Nursing, 9(2) 5. 根拠にもとづく助産ケアの進め方.(2007). 助産雑誌, 61(6) 6. 看護研究-原理と方法-第2版(2004/2010) / Polit, D.F., & Beck, C.T.(著). 近藤潤子(監訳) / 医学書院 / ISBN:978-4-260-00526-5 その他、適宜、紹介する。		
【備考】	※授業を受ける上で個別に配慮が必要な場合は、事前に科目責任者に相談してください。		
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可

【科目名】	助産学応用演習		【科目英語名】	Applied Exercise in Midwifery	
【開講時期】	2024 年度後期、2025 年度 前期	【必選区分】	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択	【単位数】	4 単位
【授業形態】	<input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習			【授業時間数】	60 時間
【科目責任者】	太田尚子				
【担当教員】	太田尚子、藤田景子、中川有加、永谷実穂				
【DPとの関連】	<input checked="" type="checkbox"/> DP1 <input type="checkbox"/> DP2 <input checked="" type="checkbox"/> DP3 <input checked="" type="checkbox"/> DP4				
【授業概要】	各自の助産学上の関心事を研究課題として精選し、研究の概念枠組み、研究方法、研究対象の条件と数などを検討し、課題研究の研究計画書を作成する。 【キーワード】研究課題、研究計画書、文献レビュー				
【授業目標】	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究課題を明確にできる。 2. 研究課題に沿った文献検討を実施でき、文章化できる。 3. 研究の目的、意義、用語の定義を明確にして文章化できる。 4. 研究目的に沿った研究デザイン、研究方法を選択でき、文章化できる。 5. 研究対象者を明確にし、また、フィールドを開拓できる。 6. 倫理的配慮について検討して文章化できる。 7. 研究を実施するにあたって必要な資料を作成できる。 8. 課題研究の研究計画書を完成して提出できる。 				
【授業展開】	<p>【授業方法】対面、グループ又は個別ゼミ形式 【アクティブラーニングを促す方法】 <input checked="" type="checkbox"/>A ディスカッション／ディバード <input type="checkbox"/>B グループワーク <input checked="" type="checkbox"/>C プレゼンテーション <input type="checkbox"/>D 実習／フィールドワーク</p> <p>【授業内容】 第1回：研究課題の明確化：研究の助産学的意義、テーマにおける研究の動向(太田、中川、永谷) 第2回：文献レビュー(太田、中川、永谷) 第3回：文献レビュー(太田、中川、永谷) 第4回：文献レビュー(太田、中川、永谷) 第5回：研究疑問、仮説の作成：独立変数と従属変数の明確化、概念枠組み構築(太田、中川、永谷) 第6回：研究疑問、仮説の作成：独立変数と従属変数の明確化、概念枠組み構築(太田、中川、永谷) 第7回：研究疑問、仮説の作成：独立変数と従属変数の明確化、概念枠組み構築(太田、中川、永谷) 第8回：研究疑問に即したデータ収集方法、分析方法、対象の条件、対象数の検討(太田、中川、永谷) 第9回：研究疑問に即したデータ収集方法、分析方法、対象の条件、対象数の検討(太田、中川、永谷) 第10回：研究疑問に即したデータ収集方法、分析方法、対象の条件、対象数の検討(太田、中川、永谷) 第11回：研究疑問に即したデータ収集方法、分析方法、対象の条件、対象数の検討(太田、藤田、中川、永谷) 第12回：研究倫理(太田、藤田、中川、永谷) 第13回：研究対象と研究方法(分析方法含む)の決定(太田、藤田、中川、永谷) 第14-30回：課題研究計画書の作成(太田、藤田、中川、永谷)</p>				
【事前・事後課題】	<p>関心あるテーマから研究課題を明確にする。 各自の進捗状況によってプレゼン資料を作成する。 ゼミでの意見やディスカッションでの内容を参考にして、課題研究の研究計画書を完成させる。</p>				
【準備学習時間】	各自の準備状況によって、各自で設定する。個人により異なる。				
【履修条件】	助産学特論の単位取得見込み				
【関連科目】	助産学特論、助産学課題研究				
【評価方法】	ゼミでの資料・プレゼンテーション(30%)、研究計画書(70%)で評価する。				
【フィードバックの方法】	授業の中でコメントする。質問には適宜返答する。				
【テキスト】	1. バーンズ&グローブ 看護研究入門 原著第9版-評価・統合・エビデンスの生成(2021/2023)/Grove J.R.& Gray S.K(著). 黒田裕子・逸見功・佐藤富美子(監訳)/ELSEVIER/ISBN:978-4-86034-794-9				

【参考書】	1. 看護研究-原理と方法-第 2 版(2004/2010)/Polit,D.F., &Beck,C.T.(著). 近藤潤子(監訳),/医学書院/ ISBN: 978-4-260-00526-5 適宜紹介する		
【備考】	※授業を受ける上で個別に配慮が必要な場合は、事前に科目責任者に相談してください。		
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可

【科目名】	妊娠期助産診断技術学	【科目英語名】	Antenatal Midwifery diagnosis and skills
【開講時期】	2024 年度前期	【必選区分】	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択
【授業形態】	<input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習	【単位数】	2 単位
【授業時間数】		【授業時間数】	30 時間
【科目責任者】	太田尚子		
【担当教員】	太田尚子、長屋和美、永谷実穂、池田美音、円谷由子(非常勤)		
【DPとの関連】	<input type="checkbox"/> DP1 <input checked="" type="checkbox"/> DP2 <input type="checkbox"/> DP3 <input type="checkbox"/> DP4		
【授業概要】	<p>妊娠期のケアの理念と目的をふまえ、妊娠期における女性の身体的・心理社会的変化に応じた健康の維持・増進、胎児の健康と発育、女性とその家族の出産・育児準備に向けた支援に必要な基本的な知識・技術を習得する。また、助産師職能団体の示す倫理綱領、必須能力を学び、妊婦・その家族にかかわる際の基本姿勢と態度について理解を深める。</p> <p>【キーワード】妊娠期、健康診査、助産診断、助産過程、健康教育、周産期の栄養</p>		
【授業目標】	<ol style="list-style-type: none"> 妊婦の健康診査および健康教育に必要な知識を習得し、助産診断および助産計画に反映できる。 妊婦の健康診査に必要な技術を学び、実践に向けた資料を作成できる。 行動科学・社会心理学に基づく理論・モデルを活用した健康教育の計画立案、ロールプレイができる。 妊婦、胎児および家族の出産準備にかかわる助産師の責務について考えを述べることができる。 		
【授業展開】	<p>【授業方法】対面による講義、プレゼンテーション、ディスカッション、ロールプレイ</p> <p>【アクティブラーニングを促す方法】</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>A ディスカッション／ディベード <input checked="" type="checkbox"/>B グループワーク <input checked="" type="checkbox"/>C プレゼンテーション <input type="checkbox"/>D 実習／フィールドワーク</p> <p>【授業内容】</p> <p>第 1 回：ガイダンス(太田、永谷、長屋)、妊娠初期の助産診断①(長屋)</p> <p>第 2 回：妊娠初期の助産診断②(長屋)</p> <p>第 3 回：妊娠期の健康教育①(長屋)</p> <p>第 4 回：周産期の栄養管理①(円谷)</p> <p>第 5 回：周産期の栄養管理②(円谷)</p> <p>第 6 回：妊娠初期の助産診断③(長屋)</p> <p>第 7 回：妊娠初期の助産診断④(長屋)</p> <p>第 8 回：妊娠中期の助産診断①(長屋)</p> <p>第 9 回：妊娠中期の助産診断②(長屋)</p> <p>第 10 回：妊娠期の健康教育②健康教育パンフレットの発表(長屋)</p> <p>第 11 回：妊娠期に用いる助産技術①(長屋、太田、永谷)</p> <p>第 12 回：妊娠期に用いる助産技術②(長屋、太田、永谷)</p> <p>第 13 回：妊娠期の健康教育ロールプレイ①(長屋、太田、永谷)</p> <p>第 14 回：妊娠期の健康教育ロールプレイ②(長屋、太田、永谷)</p> <p>第 15 回：産科外来における助産師の役割(池田美)</p>		
【事前・事後課題】	主体的に授業に参画できるよう、分担課題について先行研究、ガイドラインを参照し、プレゼンテーション資料を作成する。グループディスカッションで抽出された課題に対し、事後学習を行う。		
【準備学習時間】	プレゼンテーション、ディスカッション、ロールプレイに必要な時間を各自で設定する。		
【履修条件】	助産師国家試験受験資格取得希望者のみ受講可		
【関連科目】	助産診断学演習Ⅰ・Ⅱ、妊娠期助産診断技術学演習、助産学実習、リプロダクティブ・ヘルス演習		
【評価方法】	妊娠期助産診断(50%)、妊娠期の健康教育(50%)について、ルーブリック評価表を用いて評価する。		
【フィードバックの方法】	疑問・質問について次回授業回以降に学生相互のフィードバックおよび教員による補足説明を行う。		
【テキスト】	<ol style="list-style-type: none"> 助産学講座 3 母子の健康科学 第 6 版／我部山キヨ子(編)／医学書院／ISBN:9876240049917 助産学講座 5 助産診断・技術学Ⅰ 第 6 版／堀内成子・片岡弥恵子(編)／医学書院／ISBN:9784260042260 助産学講座 6 助産診断・技術学Ⅱ [1] 妊娠期 第 6 版／我部山キヨ子・武谷雄二(編)／医学書院／ISBN9784260042086 		
【参考書】	1. マタニティ診断ガイドブック第 6 版／齋藤益子ほか／医学書院／ISBN9784260043298		

【備考】	※授業を受ける上で個別に配慮が必要な場合は、事前に科目責任者に相談してください。		
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可

【科目名】	統合ヘルスケア論	【科目英語名】	Comprehensive Health care
【開講時期】	2024 年前期	【必選区分】	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択
【授業形態】	<input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習	【単位数】	2 単位
【科目責任者】	太田尚子	【授業時間数】	30 時間
【担当教員】	太田尚子、長屋和美、永谷実穂、形井秀一(非常勤)、毛利多恵子(非常勤)、林真一郎(非常勤)、村上志緒(非常勤)		
【DP との関連】	<input type="checkbox"/> DP1 <input checked="" type="checkbox"/> DP2 <input type="checkbox"/> DP3 <input type="checkbox"/> DP4		
【授業概要】	<p>周産期の助産ケアに用いる代替療法として、東洋医学・鍼灸の理論と方法、アロマセラピー、ハーブを用いた植物療法に関する原理と方法を講義、演習により学ぶ。また、妊産婦の冷えに関するケアや五感を使った助産ケアについて理解する。</p> <p>【キーワード】 植物療法、アロマセラピー、東洋医学</p>		
【授業目標】	<ol style="list-style-type: none"> 1.植物療法、アロマセラピー、東洋医学に関するエビデンス、基礎的理論について説明できる。 2.植物療法、アロマセラピー、指圧、鍼灸を助産ケアに活かす方法を検討し説明できる。 3.ハーブ・精油の特性、効果と使用方法を理解し、妊産婦の状態に応じた選択を説明できる。 4.アロマセラピーのひとつの方法として、ハンドマッサージを実施することができる。 5.妊婦や産婦のケアとして、指圧や鍼灸の実施方法と注意点が述べられる。 6.妊産婦の冷えの妊娠分娩経過への影響やその予防法、対処方法について説明できる。 7.五感を活用した助産ケアについて、自分の考えを述べることができる。 		
【授業展開】	<p>【授業方法】 対面による講義、演習</p> <p>【アクティブラーニングを促す方法】</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>A ディスカッション/ディベート <input checked="" type="checkbox"/>B グループワーク <input type="checkbox"/>C プレゼンテーション <input type="checkbox"/>D 実習/フィールドワーク</p> <p>【授業内容】</p> <p>第1回:五感を使った助産ケア(永谷):講義・演習</p> <p>第2回:女性のケアに活かすアロマセラピー(村上):講義</p> <p>第3回:ハンドマッサージ(村上):演習</p> <p>第4回:統合医療における植物療法(林):講義</p> <p>第5回:ハーブや精油の品質管理と安全性(林):講義</p> <p>第6回:アロマセラピー(芳香療法)の基礎知識(林):講義・演習</p> <p>第7回:メディカルハーブ(植物療法)の基礎知識(林):講義・演習</p> <p>第8回:周産期で用いられる東洋医学(1)(形井):講義</p> <p>第9回:周産期で用いられる東洋医学(2)(形井):講義</p> <p>第10回:周産期で用いられる東洋医学(3)(形井):演習</p> <p>第11回:周産期で用いられる東洋医学(4)(形井):演習</p> <p>第12回:周産期で用いられる東洋医学(5)(ゲストスピーカー 鍼灸師):演習</p> <p>第13回:周産期で用いられる東洋医学(6)(ゲストスピーカー 鍼灸師):演習</p> <p>第14回:妊産婦の冷えと助産ケア(1)(毛利):講義</p> <p>第15回:妊産婦の冷えと助産ケア(2)(毛利):講義・演習</p>		
【事前・事後課題】	授業にて指示する。		
【準備学習時間】	習得状況に沿って、各自で設定する。		
【履修条件】	なし		
【関連科目】	妊娠期助産診断技術学、助産技術学演習		
【評価方法】	東洋医学のレポート(50%)、植物療法・アロマセラピーのレポート(50%)で評価する。		
【フィードバックの方法】	内容に応じて次回以降の授業回、または別途返答する。		
【テキスト】	適宜紹介する。		

【参考書】	<p>1. イラストと写真で学ぶ逆子の鍼灸治療 第2版/形井秀一/医歯薬出版, 2009/ISBN:978-4263242483</p> <p>2. レディース鍼灸ライフサイクルに応じた女性のヘルスケア/矢野忠/医歯薬出版,2006/ ISBN:978-4263242094</p> <p>3. 妊娠・出産・産後をケアする妊婦マッサージ/Carole Osborne 著, 形井秀一, 早乙女智子訳/医道の日本社, 2014/ ISBN: 978-4752931072</p> <p>・その他、授業の進行に合わせて適宜紹介する。</p>		
【備考】	※授業を受ける上で個別に配慮が必要な場合は、事前に科目責任者に相談してください。		
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可

【科目名】	妊娠期助産診断技術学演習	【科目英語名】	Exercise in Antenatal Midwifery diagnosis and skills		
【開講時期】	2024 年度前期	【必選区分】	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択	【単位数】	3 単位
【授業形態】	<input type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input checked="" type="checkbox"/> 実習		【授業時間数】	45 時間	
【科目責任者】	永谷実穂				
【担当教員】	永谷実穂、太田尚子、長屋和美				
【DP との関連】	<input type="checkbox"/> DP1 <input checked="" type="checkbox"/> DP2 <input type="checkbox"/> DP3 <input type="checkbox"/> DP4				
【授業概要】	<p>女性のライフサイクルの中で、特に妊娠期の全期間に焦点を当て、対象とする母子とその家族の生理的、身体的、心理社会的変化と生活への適応をウエルネスの視点からアセスメントし、正常経過の維持および逸脱予防の援助を提供できる知識と行動を養う。順調な妊娠経過と調和のとれた家族発達を促すことができるための必要な知識、技術および専門職としての態度、行動を身につけるため病院施設実習を行う。</p> <p>【キーワード】 妊婦健康診査、妊娠、母子、家族、健康教育</p>				
【授業目標】	<p>1.妊婦経過の診断および妊婦の心理社会的側面の診断、評価から助産診断を行い、正常に経過するために必要なケアプランの立案と実施ができる。</p> <p>2.妊婦各期の母子とその家族の健康状態の診査と評価から助産診断を行い、必要なケアプランの立案と実施ができる。</p> <p>3.妊婦および夫や家族に必要な出産準備、親準備教育を実施できる。</p>				
【授業展開】	<p>【授業方法】外来実習 【アクティブラーニングを促す方法】 <input type="checkbox"/>A ディスカッション／ディバード <input type="checkbox"/>B グループワーク <input type="checkbox"/>C プレゼンテーション <input checked="" type="checkbox"/>D 実習／フィールドワーク</p> <p>【授業内容】</p> <p>1. 産科外来に来院する妊娠初期・中期・末期の妊婦を毎回 1～2 名受持ち、実習指導者と共に妊婦健康診査を実施し、助産診断、助産計画を立案し実施する。実習期間中に、可能であれば助産学実習で継続事例となりうる1名の妊婦を決定する。</p> <p>2. 当日受け持ち妊婦または継続事例の情報収集を行い、助産診断を立案後、助産師または産科医の指導の下、問診・触診・計測・内診および検査の介助・NST 装着・健康教育を実施する。</p> <p>3. 実習での学びを振り返り、学内でディスカッションすることで必要な知識や技術を再考し、実施につなげられる。</p> <p>4. 継続事例は、実習最終日まで継続して受け持ちが可能か否かを判断し、可能な場合は、改めて継続事例として依頼する。受け持ち不可能と判断した場合は、助産学基礎演習(準備実習)の開始時に新たに受け持ち選定を行う。</p> <p>5. 実習場所: 静岡県立総合病院、静岡赤十字病院、静岡済生会総合病院</p>				
【事前・事後課題】	事前に PBL で学習した内容の復習および課題サマリをまとめておく。個別課題は、各授業回にて指示する。事前に作成した健康教育の指導案およびパンフレットについては臨床指導者の指導・助言をいただく。				
【準備学習時間】	妊娠期助産診断技術学での学習内容を学生個々の学習状況に応じて、各自で設定する。				
【履修条件】	妊娠期助産診断技術学の履修者のみ受講可				
【関連科目】	妊娠期助産診断技術学				
【評価方法】	実習評価表に基づいて評価する。				
【フィードバックの方法】	実習カンファレンスで質問を受け付ける。内容に応じて実習中もしくはカンファレンスにて別途返答する。				
【テキスト】	<p>1.産婦人科診療ガイドライン産科編 2023/日本産科婦人科学会・日本産婦人科医会(編)/日本産科婦人科学会・日本産婦人科医会/ISBN 978-4-907890-28-5</p> <p>2.助産学講座 6 助産診断技術学Ⅱ [1]妊娠期第 6 版 医学書院/ISBN:978-4-260042-08-6</p>				
【参考書】	周産期学、周産期助産学演習、助産診断学演習Ⅰ・Ⅱ、妊娠期・助産診断技術学で紹介したものに加え、演習の進行に合わせ、適宜紹介する。				
【備考】	※授業を受ける上で個別に配慮が必要な場合は、事前に科目責任者に相談してください。				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可		

【科目名】	助産学基礎演習	【科目英語名】	Fundamental Exercise in Midwifery
【開講時期】	2024 年度前期・後期	【必選区分】	<input type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択
【授業形態】	<input type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input checked="" type="checkbox"/> 実習	【単位数】	3 単位
【授業時間数】		【授業時間数】	45 時間
【科目責任者】	太田尚子		
【担当教員】	太田尚子、永谷実穂、長屋和美		
【DPとの関連】	<input type="checkbox"/> DP1 <input checked="" type="checkbox"/> DP2 <input type="checkbox"/> DP3 <input type="checkbox"/> DP4		
【授業概要】	<p>分娩室環境や分娩期の業務の流れを理解し、産婦の入院から退院までの一連の助産ケアや間接介助・新生児ケアを見学して、助産診断、アセスメント、ケア計画の立案、ケアの実施の一連の助産過程を展開する。また、妊娠期から産後1ヵ月まで受け持つ継続事例を最終決定し、妊婦や家族と信頼関係を気づきながら妊娠期のケア・保健指導を行う。さらに、周産期医療チームの中の一員としての役割を理解し、基本姿勢や態度を養うと共に、医療スタッフとよい関係を築く。</p> <p>【キーワード】分娩介助、間接介助、助産ケア、継続事例</p>		
【授業目標】	<ol style="list-style-type: none"> 1.実習施設における周産期医療チーム成員の役割を理解し説明できる。 2.継続事例の助産過程を展開し、妊婦健康診査・保健指導が実施できる。 3.分娩目的で入院した産婦に対する分娩第1期から分娩後2時間までのケア・処置・検査を理解し説明できる。 4.分娩期の助産ケア、分娩介助、間接介助・新生児ケアを見学し、実施に向けた準備ができる。 		
【授業展開】	<p>【授業方法】 臨地実習 【アクティブラーニングを促す方法】 <input type="checkbox"/>A ディスカッション／ディベード <input type="checkbox"/>B グループワーク <input type="checkbox"/>C プレゼンテーション <input checked="" type="checkbox"/>D 実習／フィールドワーク</p> <p>【授業内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.妊婦から産後1ヵ月までの継続事例を最終決定し、健康診査・保健指導を実施する。 2.分娩室の整理整頓、器材器具の点検、器械台の準備などを行いながら、分娩室などの環境を知る。 3.分娩目的で入院した妊産婦に対する分娩第1期から第4期までの一連の助産ケアを指導助産師と共にを行う。 4.原則として、指導助産師が行う分娩介助を1～2例および間接介助・新生児ケアを1例見学する。 5.原則として、指導助産師が行う分娩介助1～2例および間接介助・新生児ケア1例見学後は、指導助産師の指導のもとで分娩介助および間接介助・新生児ケアを行う。 <p>【実習概要】 実習期間:2024年9月24日(火)～10月4日(金) 8:30～16:00 臨地実習施設:静岡県立総合病院、静岡赤十字病院、静岡済生会総合病院 詳細は、実習要項参照</p>		
【事前・事後課題】	主体的に実習に参画し、専門性を修得できるよう事前準備と事後学習を行う。個別課題は、実習にて指示する。		
【準備学習時間】	各自の技術習得状況によって、モデルを用いて、分娩介助、間接介助ができるように技術演習を行う。助産技術学演習で作成したパンフレットを各自の実習施設で使用できるように修正して整える。助産診断学演習ⅠⅡで学習した内容(テキストやPBL資料など)を見直して基礎知識の整理を行う。		
【履修条件】	助産技術学演習での分娩介助技術試験および間接介助技術試験で80%以上の達成レベルであること。		
【関連科目】	妊娠期助産診断技術学演習、助産診断学演習Ⅰ、助産診断学演習Ⅱ、助産技術学演習、助産学実習		
【評価方法】	実習目的・目標に従った実習状況(事前学習・行動・態度を含む)70%、実習記録(内容および提出状況を含む)30%		
【フィードバックの方法】	実習カンファレンスで質問を受ける。内容に応じて実習中もしくはカンファレンスにて別途返答する。		
【テキスト】	<p>・産婦人科診療ガイドライン産科編 2023/日本産科婦人科学会・日本産婦人科医会(編)/日本産科婦人科学会・日本産婦人科医会/ISBN:978-4-907890-28-5</p> <p>・助産学科目で使用した教科書、参考文献、配布資料</p>		

【参考書】	適宜紹介する		
【備考】	※授業を受ける上で個別に配慮が必要な場合は、事前に科目責任者に相談してください。		
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可

【科目名】	地域助産学実習	【科目英語名】	Clinical Practice in community-based Midwifery		
【開講時期】	2024 年度前期・後期	【必選区分】	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択	【単位数】	2 単位
【授業形態】	<input type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input checked="" type="checkbox"/> 実習			【授業時間数】	60 時間
【科目責任者】	永谷実穂				
【担当教員】	永谷実穂、太田尚子、長屋和美				
【DPとの関連】	<input type="checkbox"/> DP1 <input checked="" type="checkbox"/> DP2 <input checked="" type="checkbox"/> DP3 <input type="checkbox"/> DP4				
【授業概要】	<p>第 1 期実習は、有床助産所において、開業助産師の妊娠期から子育て期の助産ケア、地域活動、助産管理の実際を学び、地域における助産師の継続ケアについて理解を深める。第 2 期実習は、学生主体で実習依頼、調整、計画立案を行い、女性の健康課題解決・支援のための取り組みの実際を学ぶことにより、地域の包括的支援と助産師の役割について理解を深める。</p> <p>【キーワード】助産所、開業助産師、プライマリーケア、地域包括母子支援</p>				
【授業目標】	<ol style="list-style-type: none"> 1. 助産所の特徴、機能を説明できる。 2. 開業助産師による五感を活用した助産診断技術、コミュニケーション技術について説明できる。 3. 妊娠期から育児期の継続した助産ケアの意義と効果を説明できる。 4. 地域における、助産師と母親・行政・他職種との連携・協働について説明できる。 5. 開業助産師のケアの質管理、リスク管理について、助産管理の視点から説明できる。 6. 子育て世代の包括的支援における助産師の継続ケアについて自身の考えを述べることができる。 7. 女性の健康課題に対し、解決・支援を行う機関、団体、施設、グループ、専門家について事前調査を実施し、実習先を選択できる。 8. 選択した実習先に対し、実習依頼、実習調整、実習計画立案、実施・報告ができる。 9. 女性の健康課題に関する包括的支援と助産師の役割について、自身の考えを述べることができる。 				
【授業展開】	<p>【授業方法】臨地実習 【アクティブラーニングを促す方法】 <input type="checkbox"/>A ディスカッション／ディバード <input type="checkbox"/>B グループワーク <input checked="" type="checkbox"/>C プレゼンテーション <input checked="" type="checkbox"/>D 実習／フィールドワーク</p> <p>【実習方法】【実習内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 第 1 期実習は、助産所および地域における活動、関連事業に参加して実習を行う。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 助産所の事業、管理業務、地域における活動、関連事業について説明を受ける。 2) 開業助産師が所属する職能団体の活動について説明を受ける。 3) 開業助産師による妊娠期から育児期のケアの実際を見学する。 4) 開業助産師による地域活動、関連事業と一緒に参加する。 5) 臨地カンファレンスにて学びや気づきを共有する。 6) 地域における助産師の役割について継続ケアの視点から自身の考えを事後レポートにまとめる。 2. 第 2 期実習は、学生が主体的に実習先を選択し、立案した実習計画に基づいて行う。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 学生が自身の関心、希望に一致する実習先について調査し、候補となる実習先を選定する。 2) 選定した実習先に対し、学生が実習受け入れについて交渉し承諾を得る。 3) 承諾を得た実習先の担当者とは相談し、実習日程を調整する。 4) 実習計画を立案し、計画に基づいて実習を行う。 5) 女性の健康課題に関する包括的支援と助産師の役割について学内でプレゼンテーションする。 <p>【実習概要】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習期間 <ol style="list-style-type: none"> 1) 第 1 期 2024 年 9 月 2 日(月)～6 日(金) 2) 第 2 期 2024 年 12 月 16 日(月)～2024 年 3 月 21 日(金)のうち 4 日間 2. 実習場所 <ol style="list-style-type: none"> 1) 第 1 期 いぶきの助産院、くさの助産院、渡辺助産院 2) 第 2 期 女性の健康課題の解決、支援等を実施している機関、団体、施設、グループ (各学生が選択・交渉し決定する。) 				

【事前・事後課題】	事前に助産所関連の法規、ガイドラインについて事前学習を行う(第1期)。実習先の事業に関する情報収集に基づき、実習計画書を作成する(第2期)。事後レポートおよび最終プレゼンテーションに際し、文献を用いて学びを深める。		
【準備学習時間】	事前課題遂行に必要な時間を、各自で設定する。		
【履修条件】	助産師国家試験受験資格取得希望者のみ受講可		
【関連科目】	助産学概論・助産管理論・統合ヘルスケア論・母子包括支援論・助産学統合実習・助産学実習・助産学課題研究		
【評価方法】	事前学習 20%、事後レポート 30%(第1期)、実習計画 20%、プレゼンテーション 30%(第2期)についてルーブリック評価表を用いて評価する。		
【フィードバックの方法】	第1期は最終カンファレンス、第2期はプレゼンテーション終了時フィードバックを行う。		
【テキスト】	1. 新生児学入門 第5版/仁志田博司/医学書院/ISBN:9784260036252 2. 母乳育児支援講座 改訂第2版/水野克己・水野紀子/南山堂/ISBN:9784525503321		
【参考書】	1. 明日からの訪問活動に役立つ! 新生児訪問・乳児家庭全戸訪問 活動実践マニュアル決定版! /大阪府助産師会(編)/大阪府助産師会(ISBNなし) 2. 母乳育児支援スタンダード 第2版/日本ラクテーションコンサルタント協会/医学書院/ISBN 9784260020701		
【備考】	※授業を受ける上で個別に配慮が必要な場合は、事前に科目責任者に相談してください。		
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可

【科目名】	助産学課題研究		【科目英語名】	Midwifery Research	
【開講時期】	2024 年度前期・後期	【必選区分】	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択	【単位数】	4 単位
【授業形態】	<input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習		【授業時間数】	60 時間	
【科目責任者】	太田尚子、中川有加、永谷実穂				
【担当教員】	太田尚子、中川有加、永谷実穂				
【DPとの関連】	<input checked="" type="checkbox"/> DP1 <input type="checkbox"/> DP2 <input checked="" type="checkbox"/> DP3 <input checked="" type="checkbox"/> DP4				
【授業概要】	<p>修士論文の計画書完成後から、論文執筆までの一連の過程について主体的に計画を立て実施する。助産学領域における研究課題を決定し、研究課題にそって研究計画を立案し、計画遂行に関わる諸条件を整え、修士論文としてまとめることを目的とする。</p> <p>【キーワード】倫理審査、データ収集、データ分析、課題研究</p>				
【授業目標】	<ol style="list-style-type: none"> 1.研究計画書を作成して提出後、計画書審査を受け、指摘された部分を再考して研究計画書を完成させることができる。 2.研究計画書を研究倫理審査委員会に提出して審査を受け、承認される。また、研究全過程を通して、倫理的な配慮をすることができる。 3.研究フィールドとの交渉によってフィールドを確保できる。 4.研究フィールドの責任者、および研究対象者・研究参加者に対して、研究の目的と方法を説明して協力を得ることができる。 5.データを収集できる。 6.適切な方法でデータを分析できる。 7.研究結果、考察、結論を文章化できる。 8.修士論文を提出して、修士論文審査会の準備ができる。 9.修士論文審査会で指摘されたことを踏まえて、論文を完成できる。 10.修士論文発表会に向けて準備して、発表できる。 11.学会発表および論文投稿をする学会を検討して、公表に関する計画を立案して提出できる。 				
【授業展開】	<p>【授業方法】グループあるいは個別によるゼミ形式</p> <p>【アクティブラーニングを促す方法】 <input checked="" type="checkbox"/>A ディスカッション／ディバード <input type="checkbox"/>B グループワーク<input checked="" type="checkbox"/>C プレゼンテーション <input type="checkbox"/>D 実習／フィールドワーク</p> <p>【授業内容】 第1回～第2回：研究計画書を研究倫理審査委員会に申請し承認を得る。 第3回～第4回：フィールド交渉 第5回～第6回：パイロットスタディ(プレインタビュー)を行う。 第7回～第8回：研究計画書に沿って研究を行う。 第9回～第10回：研究進行中、適宜、評価を行い、問題の解決や調整を行う。 第11回～第15回：データを収集する。 第16回～第20回：分析を行い、結果をまとめる。 第21回～第24回：研究課題に従って結果を考察し、論文としてまとめる(適切な時期に中間発表を行う)。 第25回～第26回：論文の推敲を繰り返し、論文として完成させる。 第27回～第28回：修士論文審査申請を行い、論文審査、最終試験を受ける。 第29回：修士論文の学内発表の準備を行う。 第30回：修士論文の投稿の準備を行う。</p>				
【事前・事後課題】	各授業回の課題研究の進捗状況に沿って事前準備を行う。授業での学びを今後の研究に活かす。				
【準備学習時間】	主体的に学習する。時間は個人により異なる。				
【履修条件】	助産学特論、助産学応用演習の単位を修得していること。				

【関連科目】	研究法Ⅰ・Ⅱ、助産学特論、助産学応用演習		
【評価方法】	静岡県立大学大学院看護学研究科修士学位審査に関する細則に示す修士論文の審査基準に基づいて評価する。		
【フィードバックの方法】	各授業において口頭で助言する。内容によっては後日個別に助言する。		
【テキスト】	1. バーンズ&グローブ 看護研究入門 原著第9版-評価・統合・エビデンスの生成(2021/2023) / Grove J.R. & Gray S.K.(著). 黒田裕子・逸見功・佐藤富美子(監訳) / ELSEVIER / ISBN: 978-4-86034-794-9		
【参考書】	1. 看護研究-原理と方法-第2版(2004/2010) / Polit, D.F., & Beck, C.T.(著). 近藤潤子(監訳) / 医学書院 / ISBN: 978-4-260-00526-5 その他、適宜、紹介する		
【備考】	※授業を受ける上で個別に配慮が必要な場合は、事前に科目責任者に相談してください。		
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可

【科目名】	助産学概論	【科目英語名】	Introduction to Midwifery
【開講時期】	2024 年度前期・後期	【必選区分】	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択
【授業形態】	<input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習	【単位数】	2 単位
【授業時間数】		【授業時間数】	30 時間
【科目責任者】	太田尚子		
【担当教員】	太田尚子、永谷実穂、長屋和美、岡本美和子(非常勤)		
【DPとの関連】	<input type="checkbox"/> DP1 <input checked="" type="checkbox"/> DP2 <input type="checkbox"/> DP3 <input type="checkbox"/> DP4		
【授業概要】	<p>助産師の理念、助産ケアの基盤となる概念、助産師の定義と助産師の役割・責務、コアコンピテンシー、助産師としての高度な職業倫理、法的基盤、助産師教育などを学び、助産師になるための基礎的知識と態度を身につける。また、日本および静岡県の習俗に関するフィールドワークを行うことを通して、地域のお産を取り巻く文化・習俗を考慮したケアの方法を検討する。</p> <p>【キーワード】助産師、役割・責務、概念、倫理</p>		
【授業目標】	<ol style="list-style-type: none"> 1.参加観察法を用いて、助産所助産師が行っている助産ケア場面の一部を記述できる。 2.助産師の理念、助産師の定義、助産師の役割・責務、コアコンピテンシー、助産師の倫理綱領について説明できる。 3.生命倫理を考える上での原理、助産倫理の主要概念、倫理的意決定について説明できる。 4.日本および諸外国の助産師教育の変遷、諸外国の助産師教育の実際を知り、日本と諸外国の助産師教育の違いから、これからの日本の助産師の果たすべき役割や目指すべき方向性を考えることができる。 5.日本および静岡県におけるお産や助産に関する習俗について、フィールドワークを行い、発表できる。 		
【授業展開】	<p>【授業方法】講義、フィールドワーク 【アクティブラーニングを促す方法】 <input checked="" type="checkbox"/>A ディスカッション／ディバード <input type="checkbox"/>B グループワーク <input checked="" type="checkbox"/>C プレゼンテーション <input checked="" type="checkbox"/>D 実習／フィールドワーク</p> <p>【授業内容】 第1回:「私は、こんな助産師になりたい」フリーディスカッション(太田、永谷、長屋) 第2回:参加観察、フィールドワークの方法、課題提示(太田) 第3回:助産師の理念、職業倫理、コアコンピテンシー(永谷) 第4回:助産院の助産師活動 フィールドワーク発表と討論(太田、永谷、長屋) 第5回:助産ケアの基盤となる概念(女性中心のケア、アタッチメント理論、母親役割発達理論など)(永谷) 第6回:周産期のメンタルヘルス(太田) 第7回:助産実践と倫理(太田) 第8回:助産の生命倫理的問題の分析 (太田) 第9回:助産師が地域で行う育児支援(岡本) 第10回:助産師が地域で行う育児支援(岡本) 第11回:お産と助産習俗 フィールドワーク(太田、永谷、長屋) 第12回:お産と助産習俗 フィールドワーク(太田、永谷、長屋) 第13回:日本の助産師教育(太田) 第14回:諸外国の助産師教育(中川) 第15回:お産と助産習俗 発表 (太田、永谷、長屋)</p>		
【事前・事後課題】	授業前の個別課題は、各授業回にて指示する。		
【準備学習時間】	学生個々の学習状況に応じて、各自で設定する。		
【履修条件】	なし		
【関連科目】	助産管理論、母子保健包括支援論		
【評価方法】	参加観察(50%)、お産と助産習俗 (50%)で評価する。		

【フィードバックの方法】	内容に応じて次回以降の授業回、または別途返答する。		
【テキスト】	1. 基礎助産学 助産学概論第1巻/加藤尚美編/日本助産師会出版,2013/ ISBN:978-4905023166 2. 助産業務ガイドライン/公益社団法人日本助産師会編/日本助産師会出版,2019/ISBN:978-4905023289 3. 妊産婦メンタルヘルスマニュアル～産後ケアへの切れ目のない支援に向けて/公益社団法人日本産婦人科医会編/中外医学社,2021/ ISBN:978-4498160224		
【参考書】	適宜紹介する		
【備考】	※授業を受ける上で個別に配慮が必要な場合は、事前に科目責任者に相談してください。		
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可

【科目名】	助産管理論	【科目英語名】	Midwifery Administration
【開講時期】	2024 年度後期	【必選区分】	□必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択
【授業形態】	<input checked="" type="checkbox"/> 講義 □演習 □実習	【単位数】	2 単位
【授業時間数】		【授業時間数】	30 時間
【科目責任者】	永谷実穂		
【担当教員】	永谷実穂、太田尚子、福島恭子、長屋和美、福井トシ子(非常勤)、石川紀子(非常勤)、嶋澤恭子(非常勤)、小長井祥子(非常勤)		
【DP との関連】	□DP1 <input checked="" type="checkbox"/> DP2 □DP3 □DP4		
【授業概要】	<p>助産所と病院、双方のケアの質の保証や医療安全、業務管理について学ぶ。また、助産所業務管理、助産所経営の知識を基に、助産所開業についての自己の構想を深める。さらに、助産と政策についての知識を学び、将来、助産師として政策に提言できる姿勢を身につける。方法は、講義と演習で行い、対面と遠隔を組み合わせて実施する。</p> <p>【キーワード】 業務管理、助産所開業、助産政策</p>		
【授業目標】	<ol style="list-style-type: none"> 1. 助産管理、関連法規、助産師の法的責任について説明できる。 2. 助産所の助産師活動、助産所業務管理、助産所開設準備と助産所経営について説明できる。 3. 病院での助産業務管理について説明できる。 4. 諸外国の助産師活動について学び、今後の日本の助産師活動の在り方について考察できる。 5. 助産活動を政策の関連について説明できる。 6. 助産と政策についての知識を学び、母子政策に関して、プレゼンテーションできる。 		
【授業展開】	<p>【授業方法】講義、対面もしくはオンラインによるディスカッション</p> <p>【アクティブラーニングを促す方法】</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>A ディスカッション/ディベート <input checked="" type="checkbox"/>B グループワーク <input checked="" type="checkbox"/>C プレゼンテーション □D 実習/フィールドワーク</p> <p>【授業内容】</p> <p>【授業形態】<input checked="" type="checkbox"/>講義 □演習 □実習</p> <p>【授業計画】【授業内容】</p> <p>第 1 回: 周産期の医療事故とリスクマネジメント (福島)</p> <p>第 2 回: 助産所の活動と助産所業務管理 (小長井)</p> <p>第 3 回: 助産所開設準備と助産所経営 (小長井)</p> <p>第 4 回: 病院での助産業務管理①(石川)</p> <p>第 5 回: 病院での助産業務管理②(石川)</p> <p>第 6 回: 助産と政策 日本の母子保健政策からみる課題の提示(永谷)</p> <p>第 7 回: 助産と政策 個人ワーク①(永谷、太田、長屋)</p> <p>第 8 回: 助産と政策①(福井)</p> <p>第 9 回: 助産と政策②(福井)</p> <p>第 10 回: 諸外国の助産師活動①(嶋澤)</p> <p>第 11 回: 諸外国の助産師活動②(嶋澤)</p> <p>第 12 回: 助産と政策 個人ワーク②(永谷、太田、長屋)</p> <p>第 13 回: 助産と政策 個人ワーク③(永谷、太田、長屋)</p> <p>第 14 回: 助産と政策 プレゼンテーション(永谷、太田、長屋)</p> <p>第 15 回: 助産と政策 プレゼンテーション(永谷、太田、長屋)</p>		
【事前・事後課題】	主体的に授業に参画し、専門性を修得できるよう事前準備と事後学習を行う。授業事の個別課題は、各授業回にて指示する。		
【準備学習時間】	学生個々の学習状況に応じて、各自で設定する。		
【履修条件】	なし		
【関連科目】	助産学基礎演習、助産学実習、地域助産学実習、母子保健包括支援論		
【評価方法】	助産と政策のプレゼンテーションについて、プレゼンテーション評価表(ルーブリック評価)に基づき評価する。		

【フィードバックの方法】	メールにて質問を受け付ける。内容に応じて次回以降の授業回、または別途返答する。		
【テキスト】	1.産学講座10 助産管理/我部山キヨ子他編/医学書院/ ISBN:978-4-260-04709-8 2.助産業務ガイドライン/公益社団法人日本助産師会編/日本助産師会出版/ ISBN:978-4-905023-28-9		
【参考書】	1.令和4年度改訂対応 診療報酬・介護報酬のしくみと考え方/福井トシ子, 斎藤訓子編/日本看護協会出版会/ISBN:978-4818025363 授業の進行に合わせて、適宜紹介する。		
【備考】	※授業を受ける上で個別に配慮が必要な場合は、事前に科目責任者に相談してください。		
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可

【科目名】	母子保健包括支援論	【科目英語名】	Maternal and Child Health integrated Care
【開講時期】	2024年度 前期後期	【必選区分】	□必修 □選択
【授業形態】	<input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習	【単位数】	2単位
【授業時間数】		【授業時間数】	30時間
【科目責任者】	永谷実穂		
【担当教員】	永谷実穂、福島恭子、大和田裕美、長屋和美、太田尚子		
【DPとの関連】	<input type="checkbox"/> DP1 <input checked="" type="checkbox"/> DP2 <input checked="" type="checkbox"/> DP3 <input type="checkbox"/> DP4		
【授業概要】	日本の母子保健の現状を理解し、多職種と連携や共同しながら地域で妊娠・出産・子育て期の支援の実際、産後ケア、地域組織活動（育児サークル）、在日外国人への支援、災害時の支援などについて学ぶ。また、母子保健包括支援の目的や考え方を理解し、多職種と連携や協働しながら妊娠・出産・子育て期の女性や子ども及びその家族への切れ目ない支援の在り方や助産師の役割について考察する。 【キーワード】母子、子育て、切れ目ない支援、多職種連携		
【授業目標】	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本の母子保健の現状を述べることができる。 2. 母子保健包括支援の概念、目的、その実際を述べるができる。 3. 産後ケアや育児相談など、助産師による地域での母子の支援について述べるができる。 4. 育児サークルなど、地域組織による子育て支援について述べるができる。 5. 周産期における在日外国人への支援について述べるができる。 6. 災害時の妊産婦の支援について述べるができる。 7. 静岡県現状を踏まえて、多職種と連携や協働しながら、妊娠・出産・子育て期の女性や子ども、及びその家族を切れ目なく支援することについて考察し、発表できる。 		
【授業展開】	<p>【授業方法】対面もしくはオンラインによるディスカッション 【アクティブラーニングを促す方法】 <input checked="" type="checkbox"/>A ディスカッション／ディバード <input type="checkbox"/>B グループワーク <input checked="" type="checkbox"/>C プレゼンテーション <input type="checkbox"/>D 実習／フィールドワーク</p> <p>【授業内容】 第1回：母子保健包括支援ガイダンス（永谷） 第2回：母子保健包括支援 ワーク（永谷） 第3回：地域での子育て支援（大和田） 第4回：地域での子育て支援 ワーク（大和田） 第5回：ハイリスク児の地域での支援（長屋） 第6回：ハイリスク児の地域での支援 ワーク（長屋） 第7回：災害と助産ケア（福島） 第8回：災害と助産ケア ワーク（福島） 第9回：地域における助産師活動に関する個人ワーク①（永谷、太田、長屋） 第10回：地域における助産師活動に関する個人ワーク②（永谷、太田、長屋） 第11回：地域における助産師活動に関する個人ワーク③（永谷、太田、長屋） 第12回：地域における助産師活動に関する個人ワーク④（永谷、太田、長屋） 第13回：地域における助産師活動に関する個人ワーク⑤（永谷、太田、長屋） 第14回：地域における助産師活動に関する個人ワーク⑥（永谷、太田、長屋） 第15回：地域における助産師活動に関する発表（永谷、太田、長屋）</p>		
【事前・事後課題】	主体的に授業に参画し、専門性を修得できるよう事前準備と事後学習を行う。授業事の個別課題は、各授業回にて指示する。		
【準備学習時間】	学生個々の学習状況に応じて、各自で設定する。		
【履修条件】	なし		
【関連科目】	地域助産学実習		
【評価方法】	地域における助産師活動に関するプレゼンテーションについて、プレゼンテーション評価表（ルーブリック評価）に基づき評価する。		

【フィードバックの方法】	内容に応じて次回以降の授業回、または別途返答する。		
【テキスト】	1.助産学講座9、地域母子保健・国際母子保健 第6版/我部山キヨ子編/医学書院/ ISBN:978-4-260-05004-3		
【参考書】	1.助産師会, 助産師が行う 災害時支援マニュアル/日本助産師会/日本助産師会出版/ ISBN:978-4-905023-24-1 授業の進行に合わせて適宜紹介する		
【備考】	※授業を受ける上で個別に配慮が必要な場合は、事前に科目責任者に相談してください。		
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可

【科目名】	周産期学	【科目英語名】	Perinatal Medicine
【開講時期】	2024 年度前期	【必選区分】	□必修 □選択
【授業形態】	<input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習	【単位数】	2 単位
【科目責任者】	太田尚子	【授業時間数】	30 時間
【担当教員】	金山尚裕(非常勤)、村越毅(非常勤)、成瀬寛夫(非常勤)、河村隆一(非常勤)、小野田亮(非常勤)		
【DPとの関連】	<input type="checkbox"/> DP1 <input checked="" type="checkbox"/> DP2 <input type="checkbox"/> DP3 <input type="checkbox"/> DP4		
【授業概要】	<p>助産ケアや助産に必要な基礎知識である、妊婦の管理、産科の異常、分娩時出血の救急対応について学ぶとともに、胎児の成長や母子の健康状態をアセスメントするために必要な超音波診断法、胎児心拍陣痛図についての理解を深める。方法は、講義と演習で、胎児心拍陣痛図の読み方の演習と、モデルを使って会陰縫合術の演習を実際に行う。</p> <p>【キーワード】診断、治療、管理</p>		
【授業目標】	<ol style="list-style-type: none"> 1. 妊娠の診断、妊婦管理について説明できる。 2. 産科異常の診断と治療、分娩時の異常徴候の判断と処置について説明できる。 3. 妊婦健康診査時に用いる超音波診断、胎児心拍陣痛計について説明でき、その画像や所見から、胎児の成長や健康状態、分娩進行状況をアセスメントすることができる。 4. 周産期医療で遭遇する感染症への対応と管理について説明できる。 5. 分娩時出血の救急対応や会陰縫合術について説明できる。 6. モデルを用いて、会陰縫合術を実行できる。 		
【授業展開】	<p>【授業方法】 対面による講義、演習</p> <p>【アクティブラーニングを促す方法】 <input checked="" type="checkbox"/>A ディスカッション/ディベート <input type="checkbox"/>B グループワーク <input type="checkbox"/>C プレゼンテーション <input type="checkbox"/>D 実習/フィールドワーク</p> <p>【授業内容】 第1回: 妊娠の生理・診断(金山) 第2回: 妊婦健診で用いる診断技術、治療(金山) 第3回: 超音波診断法を用いた診断技法(河村) 第4回: 画像診断演習(河村) 第5回: 産科異常の診断と治療(1) 急遂分娩の適応と対応を含む(村越) 第6回: 産科異常の診断と治療(2)(村越) 第7回: 胎児心拍陣痛計を用いた診断技法(河村) 第8回: 胎児心拍陣痛図の診断演習(河村) 第9回: 産科救急処置(小野田) 第10回: 分娩時出血時の救急処置(小野田) 第11回: 会陰縫合術演習(小野田) (学内演習) 第12回: 産科異常の診断と治療(3)(村越) 第13回: 産科異常の診断と治療(4)(村越) 第14回: 感染症への対応・管理(成瀬) 第15回: 母子感染症(成瀬)</p>		
【事前・事後課題】	主体的に授業に参画し、専門性を修得できるよう事前準備と事後学習を行う。 授業前の個別課題は、各授業回にて指示する。		
【準備学習時間】	自分の学習状況に合わせて、各自で設定する。		
【履修条件】	助産師国家試験受験資格取得希望者のみ受講可		
【関連科目】	助産診断学演習Ⅰ、助産診断学演習Ⅱ		
【評価方法】	筆記試験(100%)		

【フィードバックの方法】	内容に応じて次回以降の授業回、または別途返答する。		
【テキスト】	・産婦人科診療ガイドライン産科編 2023/日本産科婦人科学会・日本産婦人科医会(編)/日本産科婦人科学会・日本産婦人科医会/ ISBN:978-4-907890-28-5		
【参考書】	適宜紹介する		
【備考】	※授業を受ける上で個別に配慮が必要な場合は、事前に科目責任者に相談してください。		
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可

【科目名】	リプロダクティブ・ヘルス演習	【科目英語名】	Exercise in Reproductive health
【開講時期】	2024 年度後期	【必選区分】	□必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択
【授業形態】	<input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習	【単位数】	2 単位
【授業時間数】		【授業時間数】	60 時間
【科目責任者】	太田尚子		
【担当教員】	太田尚子、永谷実穂、長屋和美、藤田景子、小野美智代(非常勤)、勝又里織(非常勤)、田村圭浩(非常勤)、長岡由紀子(非常勤)、前田津紀夫(非常勤)、松浦公美(非常勤)		
【DP との関連】	<input type="checkbox"/> DP1 <input checked="" type="checkbox"/> DP2 <input type="checkbox"/> DP3 <input type="checkbox"/> DP4		
【授業概要】	セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス/ライツの概念を基盤に、女性のライフサイクル各期の健康課題およびウイメンズヘルスに関する助産師の役割、機能、支援について考えるとともに、性教育講座の企画、実施によりピア・サポートを実践的に学ぶ。本科目は、受胎調節実地指導員認定講習に該当する科目である。 【キーワード】セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス/ライツ(SRHR)、受胎調節、ピア・サポート、性教育		
【授業目標】	<ol style="list-style-type: none"> 1. SRHR の概念を理解し、性差を問わず保障されている権利について説明できる。 2. 女性のライフサイクル各期の健康課題に対する支援のあり方を説明できる。 3. 日本および世界の母子保健や性と生殖に関連する政策・施策、社会の動向に着眼し、支援に関する考えを述べられる。 4. 受胎調節法、避妊法について、女性のライフサイクルの視点での利用・活用について説明し、考えを述べられる。 5. ピアの立場で性教育講座を計画し、実施・評価できる。 		
【授業展開】	<p>【授業方法】対面による講義、プレゼンテーションとディスカッション、集団指導</p> <p>【アクティブラーニングを促す方法】</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>A ディスカッション/ディバード <input checked="" type="checkbox"/>B グループワーク <input checked="" type="checkbox"/>C プレゼンテーション <input type="checkbox"/>D 実習/フィールドワーク</p> <p>【授業内容】</p> <p>第 1 回: ガイダンス、性教育の方法と課題の提示(太田、永谷、長屋)</p> <p>第 2 回: セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス/ライツとウイメンズヘルスに関連する概念(太田)</p> <p>第 3 回: 月経に関わる健康課題①(長屋)</p> <p>第 4 回: 月経に関わる健康課題②(長屋)</p> <p>第 5 回: 避妊と性感染症①(前田)</p> <p>第 6 回: 避妊と性感染症②(前田)</p> <p>第 7 回: 受胎調節指導の実際①(永谷、太田、長屋)</p> <p>第 8 回: 受胎調節指導の実際②(永谷、太田、長屋)</p> <p>第 9 回: リプロダクティブ・ヘルスと助産師(長屋、ゲストスピーカー)</p> <p>第 10 回: リプロダクティブ・ヘルスと国際活動(小野)</p> <p>第 11 回: 助産師が行う性と性の教育(長屋、ゲストスピーカー)</p> <p>第 12 回: 受胎調節指導の実際③性教育模擬授業-1(永谷、太田、長屋)</p> <p>第 13 回: 受胎調整指導の実際④性教育模擬授業-2(永谷、太田、長屋)</p> <p>第 14 回: 受胎調整指導の実際④性教育模擬授業-3(永谷、太田、長屋)</p> <p>第 15 回: 受胎調節指導の実際(勝又)</p> <p>第 16 回: 人工妊娠中絶を受けた女性に対するケアと助産師の役割(勝又)</p> <p>第 17 回: 性教育講座 2025 年 1 月 20 日(月)5 限 (永谷、太田、長屋)</p> <p>第 18 回: 不妊症検査と治療①(田村)</p> <p>第 19 回: 不妊症検査と治療②(田村)</p> <p>第 20 回: 周産期における死別に対する助産師のケア①(太田)</p> <p>第 21 回: 周産期における死別に対する助産師のケア②(太田)</p> <p>第 22 回: 更年期女性に対する助産師のかかわり①(永谷)</p> <p>第 23 回: 更年期女性に対する助産師のかかわり②(永谷)</p> <p>第 24 回: ドメスティック・バイオレンス(DV)と助産師の役割①(藤田)</p> <p>第 25 回: ドメスティック・バイオレンス(DV)と助産師の役割②(藤田)</p> <p>第 26 回: 不妊女性に対する助産師のケア①(長岡)</p> <p>第 27 回: 不妊女性に対する助産師のケア②(長岡)</p>		

	第 28 回: 出生前診断における看護職の役割①(松浦) 第 29 回: 出生前診断における看護職の役割②(松浦) 第 30 回: まとめ(長屋、前田)		
【事前・事後課題】	テキスト該当章にて事前学習を行う。個人課題および集団課題に、各授業回の学習内容を活用する。個人課題、集団課題の成果物提出については初回授業に提示する。		
【準備学習時間】	課題の理解、プレゼンテーション、ディスカッションに必要な時間を各自で設定する。		
【履修条件】	助産師国家試験受験資格取得希望者のみ受講可		
【関連科目】	妊娠期助産診断技術学、助産管理論、母子保健包括支援論、地域助産学実習		
【評価方法】	筆記試験 30%、避妊法・受胎調節法プレゼンテーション 20%、性教育講座 50%について、ルーブリック評価表を用いて評価する。		
【フィードバックの方法】	各授業回担当教員指定の方法にて質問を受け付ける。内容に応じて、次回授業回または掲示にて返答する。		
【テキスト】	1. 助産学講座 2 母子の基礎科学 第 6 版 / 我部山キヨ子他(編) / 医学書院 / ISBN: 9876240042048 2. 助産学講座 5 助産診断・技術学 I 第 6 版 / 堀内成子(編) / 医学書院 / ISBN: 9784260042260		
【参考書】	1. 助産師による思春期の健康教育 / 日本助産師会保健指導部会 / 日本助産師会出版 / ISBN: 978-4-905023-31-9 2. 家族計画指導の実際 第 2 版増補版 / 木村好秀・斎藤益子 / 医学書院 / ISBN: 978-4-260-03048-9 3. Fertility Counseling: Clinical Guide 2nd edition / Covington, S. N. / Cambridge University Press		
【備考】	※授業を受ける上で個別に配慮が必要な場合は、事前に科目責任者に相談してください。		
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可

【科目名】	周産期助産学演習		【科目英語名】	Exercise in perinatal care	
【開講時期】	2024 年度前期	【必選区分】	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択	【単位数】	1 単位
【授業形態】	<input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習			【授業時間数】	30 時間
【科目責任者】	太田尚子				
【担当教員】	太田尚子、長屋和美、中野玲二(非常勤)				
【DPとの関連】	<input type="checkbox"/> DP1 <input checked="" type="checkbox"/> DP2 <input type="checkbox"/> DP3 <input type="checkbox"/> DP4				
【授業概要】	<p>新生児の胎外生活適応、成長・発達の診断およびケアに係る助産実践に必須となる、医学的知識、フィジカルイグザミネーション技術、母乳育児支援の基礎、最新の知見に基づく育児技術支援を、講義・演習により習得する。さらに、新生児蘇生法普及事業に基づく講義・演習により、NCPR「専門コース」修了認定を目指す。</p> <p>【キーワード】新生児、フィジカルアセスメント、スキンケア、母乳育児支援、新生児蘇生法</p>				
【授業目標】	<ol style="list-style-type: none"> 1. 母乳育児支援の基本概念を理解し、環境や文化を踏まえた支援について説明できる。 2. 新生児の生理、新生児期の異常徴候、疾患、診断、治療を理解し説明できる。 3. 新生児のフィジカルイグザミネーションの目的、手順を説明できる。 4. 新生児蘇生アルゴリズムに基づく観察、判断、処置について説明でき、演習にて実施できる。 				
【授業展開】	<p>【授業方法】対面による講義、演習</p> <p>【アクティブラーニングを促す方法】</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>A ディスカッション／ディバード <input type="checkbox"/>B グループワーク <input type="checkbox"/>C プレゼンテーション <input type="checkbox"/>D 実習／フィールドワーク</p> <p>【授業内容】</p> <p>第 1 回: ガイダンス、新生児の生理; 子宮外生活への適応①(太田、長屋、中野)</p> <p>第 2 回: 新生児の生理; 子宮外生活への適応②(中野)</p> <p>第 3 回: 母乳育児支援に関する世界の現状(長屋)</p> <p>第 4 回: 妊娠期から産褥期の母乳育児支援(長屋)</p> <p>第 5 回: 新生児の異常徴候と疾患①(中野)</p> <p>第 6 回: 新生児の異常徴候と疾患②(中野)</p> <p>第 7 回: 新生児のフィジカルイグザミネーション①(中野)</p> <p>第 8 回: 新生児のフィジカルイグザミネーション②(中野)</p> <p>第 9 回: 低出生体重児の診察(中野)</p> <p>第 10 回: 低出生体重児の倫理的問題(中野)</p> <p>第 11 回: 新生児蘇生法「専門コース」受講①(中野、ゲストインストラクター)</p> <p>第 12 回: 新生児蘇生法「専門コース」受講②(中野、ゲストインストラクター)</p> <p>第 13 回: 新生児蘇生法「専門コース」受講③(中野、ゲストインストラクター)</p> <p>※第 11～13 回を受講し所定試験合格した者は、後日、日本周産期・新生児医学会に申請し、新生児蘇生法 A コース修了認定を受ける</p> <p>第 14 回: 新生児のスキンケア(長屋、ゲストスピーカー)</p> <p>第 15 回: まとめ(長屋、中野)</p>				
【事前・事後課題】	主体的に授業に参画できるよう、第 1～10 回は看護学部既習内容の復習をして臨む。第 11～13 回は指定テキストを用いた予習を十分に行う。関連科目での実践に備え、事後学習を十分に行う。				
【準備学習時間】	既習知識の確認と復習に必要な時間を各自で設定する。				
【履修条件】	助産師国家試験受験資格取得希望者のみ受講可				
【関連科目】	助産診断学演習 I・II、助産診断技術学演習、助産学実習、周産期助産学実習				
【評価方法】	筆記試験 60%、ディスカッション参加度 10%、新生児蘇生法のプレテスト 30%				
【フィードバックの方法】	各授業回担当教員指定の方法にて質問を受け付ける。第 1～10 回では、次回授業回または掲示にて返答する。第 11～13 回では、プレテスト結果、質問・疑問に対し授業内でフィードバックを行う。				
【テキスト】	1. 日本版救急蘇生ガイドライン 2020 に基づく新生児蘇生法テキスト 第 4 版/細野茂春/メジカルビュー社/ ISBN:9784758319980				

	2. 新生児学入門 第5版/仁志田博司/医学書院/ISBN:9784260036252 3. 母乳育児支援講座 改訂第2版/水野克己・水野紀子/南山堂/ISBN:9784525503321 4. 助産学講座8 助産診断・技術学Ⅱ[3]新生児・乳幼児期 第6版/石井邦子・廣間武彦(編)/医学書院/ ISBN:9784260042192		
【参考書】	1. 助産学基礎テキスト 2022年版 第7巻 ハイリスク妊産褥婦・新生児へのケア/小林康江(編)/日本看護協会出版会/ISBN:9784818023772 2. 母乳育児支援スタンダード 第2版/日本ラクテーションコンサルタント協会/医学書院/ ISBN: 9784260020701		
【備考】	※授業を受ける上で個別に配慮が必要な場合は、事前に科目責任者に相談してください。		
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可

【科目名】	周産期助産学実習	【科目英語名】	Clinical Practice in perinatal care		
【開講時期】	2024 年度前期・後期	【必選区分】	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択	【単位数】	1 単位
【授業形態】	<input type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input checked="" type="checkbox"/> 実習		【授業時間数】	30 時間	
【科目責任者】	太田尚子				
【担当教員】	太田尚子、中川有加、永谷実穂、長屋和美				
【DPとの関連】	<input type="checkbox"/> DP1 <input checked="" type="checkbox"/> DP2 <input type="checkbox"/> DP3 <input type="checkbox"/> DP4				
【授業概要】	母乳育児支援アドバンスとして、エビデンスに基づく乳房管理法、乳房トラブルへの対処法を実践的に学ぶことに加え、周産期母子医療センターNICU/GCUにおいて、入院中の新生児・乳児の受け持ち実習を行う。 【キーワード】新生児、母乳育児支援、乳房トラブル、ハイリスク妊娠・新生児、NICU				
【授業目標】	<ol style="list-style-type: none"> 1. 乳房トラブルへの対処方法を理解し説明できる。 2. 乳房マッサージが必要となる状況・対象を理解し、模型を用いてマッサージ法を実践できる。 3. 妊娠期・胎児期からの経過をふまえ、ハイリスク新生児を理解できる。 4. NICUにおける児と家族へのケアの実際を見学または実践を通して学ぶ。 5. NICUの役割・機能と産科および他部門との連携を理解し、周産期における助産師の役割を考察できる。 				
【授業展開】	<p>【授業方法】対面による学内実習および臨地実習 【アクティブラーニングを促す方法】 <input type="checkbox"/>A ディスカッション／ディバード <input type="checkbox"/>B グループワーク <input type="checkbox"/>C プレゼンテーション <input checked="" type="checkbox"/>D 実習／フィールドワーク</p> <p>【実習方法】【実習内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 乳房トラブル時の対処法を実践的に学ぶ(中川):学内実習 2. 母乳育児支援のためのマッサージ法を習得する。(中川):学内実習 3. NICU実習(太田、永谷、長屋) <ol style="list-style-type: none"> 1) 受け持ち児の出生前からの情報を得て看護過程を展開する。 2) 治療計画および看護計画に基づき、臨地実習指導者と共にケアに参加する。 3) 受け持ち児の診察、処置、検査を見学する。 4) 周産期カンファレンスや病棟カンファレンスに参加する。 5) 連携・協働する部門・職種の役割や機能について説明を受け、児や家族へのかかわりを見学する。 4. NICU実習合同カンファレンス(太田、永谷、長屋) <p>【実習概要】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習期間 <ol style="list-style-type: none"> 1) 2024 年 9 月 19 日:学内実習 2) 2025 年 2 月 17 日(月)～21 日(金)のうち 4 日間:臨地実習 2. 実習場所 <ol style="list-style-type: none"> 1) 実習室 14302:学内実習 2) 静岡県立子ども病院、静岡済生会総合病院、聖隷浜松病院:臨地実習 				
【事前・事後課題】	主体的に授業に参加できるよう、関連科目の既習内容の復習を十分に行う。臨地実習では、毎日学生カンファレンスを実施し、課題に対する事後学習を十分に行う。				
【準備学習時間】	臨地実習前の準備学習に、各自必要な時間を設定する。				
【履修条件】	助産師国家試験受験資格取得希望者のみ受講可				
【関連科目】	助産診断学演習Ⅰ・Ⅱ、助産診断技術学演習、助産学実習、周産期助産学演習				
【評価方法】	実習およびカンファレンス参加態度・状況 50%、ルーブリック評価表を用いて実習記録(40%)、最終レポート(10%)の評価を行う。				
【フィードバックの方法】	日々のカンファレンスにおいて、フィードバックを行う。				
【テキスト】	<ol style="list-style-type: none"> 1. 新生児学入門 第5版/仁志田博司/医学書院/ISBN:9784260036252 2. 母乳育児支援講座 改訂第2版/水野克己・水野紀子/南山堂/ISBN:9784525503321 				

【参考書】	1. 助産学基礎テキスト 2022 年版 第 7 巻 ハイリスク妊産褥婦・新生児へのケア/小林康江(編)/日本看護協会出版会/ISBN:9784818023772 2. 母乳育児支援スタンダード 第 2 版/日本ラクテーションコンサルタント協会/医学書院/ ISBN:978426002070		
【備考】	※授業を受ける上で個別に配慮が必要な場合は、事前に科目責任者に相談してください。		
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可

【科目名】	助産診断学演習 I		【科目英語名】	Exercise in Midwifery Diagnosis I	
【開講時期】	2024 年度前期	【必選区分】	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択	【単位数】	2 単位
【授業形態】	<input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習			【授業時間数】	30 時間
【科目責任者】	永谷実穂				
【担当教員】	永谷実穂、太田尚子、長屋和美				
【DP との関連】	<input type="checkbox"/> DP1 <input checked="" type="checkbox"/> DP2 <input type="checkbox"/> DP3 <input type="checkbox"/> DP4				
【授業概要】	<p>妊娠の診断から分娩開始直前までの助産に必要な基礎知識を学び、助産過程が展開できる能力を習得するための講義、PBL 方式を用いた演習、課題サマリーにより構成されている。初回の講義でガイダンスを行い、進め方について、また PBL 方式による演習を取り入れる理由や学習方法を十分に説明したうえで進めていく。</p> <p>【キーワード】助産診断、妊娠期、分娩期</p>				
【授業目標】	<ol style="list-style-type: none"> 1. 妊娠の診断から分娩開始まで、母子が正常に経過するために必要且つ確かな助産ケアを提供するための知識を習得し、具体的に述べることができる。 2. 事例を用いた学習を行うことで、正常妊娠経過の診断および正常からの逸脱徴候発見時など、その場の状況での判断や必要な助産ケアを総合的に判断することを学び説明できる。 3. 妊娠経過の診断、分娩・産褥・新生児期を含めた今後の予測、助産ケア計画立案、実施、評価を含めた一連の思考過程が展開できる能力を習得する。 4. 妊娠期にある女性とその家族成員に必要な地域社会の資源や制度を理解し、活用できるよう支援するための知識を習得し、説明できる。 				
【授業展開】	<p>【授業方法】 対面もしくはオンラインによるディスカッション</p> <p>【アクティブラーニングを促す方法】 <input checked="" type="checkbox"/>A ディスカッション／ディバード <input checked="" type="checkbox"/>B グループワーク <input checked="" type="checkbox"/>C プレゼンテーション <input type="checkbox"/>D 実習／フィールドワーク</p> <p>【授業内容】 第 1 回: Evidence-based Midwifery に基づく助産診断、PBL の進め方とオリエンテーション(太田) 第 2 回: 妊娠期セッション 1 再学習ポイント発表妊娠期助産診断(永谷) 第 3 回: 妊娠期セッション 2 導入(長屋・永谷・太田) 第 4 回: 妊娠期セッション 2 発表①(長屋・永谷・太田) 第 5 回: 妊娠期セッション 2 発表②(長屋・永谷・太田) 第 6 回: 妊娠期セッション 2 再学習ポイント(長屋・永谷・太田) 第 7 回: 妊娠期セッション 2 再学習ポイント発表 & 妊娠期助産診断(長屋・永谷・太田) 第 8 回: 妊娠期まとめ(長屋・永谷) 第 9 回: 分娩期セッション 1 状況 1 導入(永谷・長屋・太田) 第 10 回: 分娩期セッション 1 状況 1 発表①(永谷・長屋・太田) 第 11 回: 妊娠期セッション 1 状況 1 発表②(永谷・長屋・太田) 第 12 回: 分娩期セッション 1 状況 2 導入(永谷・長屋・太田) 第 13 回: 分娩期セッション 1 状況 2 発表①(永谷・長屋・太田) 第 14 回: 分娩期セッション 1 状況 2 発表②(永谷・長屋・太田) 第 15 回: 分娩期セッション 1 状況 3 導入(永谷・長屋・太田)</p>				
【事前・事後課題】	主体的に授業に参画し、専門性を修得できるよう事前準備と事後学習を行う。授業事の個別課題は、各授業回にて指示する。				
【準備学習時間】	学生個々の学習状況に応じて、各自で設定する。				
【履修条件】	助産師国家試験受験資格取得希望者のみ受講可				
【関連科目】	妊娠期助産診断助産学、助産診断学Ⅱ、地域助産学実習、助産学基礎演習、助産学実習				
【評価方法】	各期のプレゼンテーション評価表に基づいて評価する。				

【フィードバックの方法】	メールにて質問を受け付ける。内容に応じて次回以降の授業回、または別途返答する。		
【テキスト】	1.産婦人科診療ガイドライン産科編 2023/日本産科婦人科学会・日本産婦人科医会(編)/日本産科婦人科学会・日本産婦人科医会/ISBN 978-4-907890-28-5 2.助産学講座 6 助産診断・技術学Ⅱ [1] 妊娠期/我部山キヨ子編/医学書院/ ISBN:978-4-260-04208-6 3.助産学講座 7 助産診断・技術学Ⅱ [2] 分娩期・産褥期/我部山キヨ子編/医学書院/ ISBN:978-4-260-04210-9 4.助産学講座 8 助産診断・技術学Ⅱ [3] 新生児期・乳幼児期/横尾京子編/医学書院/ ISBN:978-4-260-04219-2 5.助産業務ガイドライン/公益社団法人日本助産師会編/日本助産師会出版/ ISBN:978-4-905023-28-9		
【参考書】	1.助産学基礎テキスト第7巻, ハイリスク妊産褥婦・新生児のケア./小林康江編/日本看護協会出版会/ ISBN:978-4818026179 2.WHO 推奨 ポジティブな出産体験のための分娩期ケア/分娩期ケアガイドライン翻訳チーム/医学書院/ ISBN:978-4260041973		
【備考】	※授業を受ける上で個別に配慮が必要な場合は、事前に科目責任者に相談してください。		
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可

【科目名】	助産診断学演習Ⅱ		【科目英語名】	Exercise in Midwifery Diagnosis Ⅱ	
【開講時期】	2024 年度前期	【必選区分】	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択	【単位数】	3 単位
【授業形態】	<input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習			【授業時間数】	45 時間
【科目責任者】	永谷実穂				
【担当教員】	永谷実穂、太田尚子、長屋和美				
【DPとの関連】	<input type="checkbox"/> DP1 <input checked="" type="checkbox"/> DP2 <input type="checkbox"/> DP3 <input type="checkbox"/> DP4				
【授業概要】	<p>助産診断学演習Ⅰでの学習をもとに、妊娠期(分娩開始直前)から分娩・産褥・新生児期までの助産に必要な基礎知識を学び、助産過程が展開できる能力を習得するための講義、PBL 方式を用いた演習、課題サマリにより構成されている。</p> <p>【キーワード】助産診断、分娩期、産褥期、新生児期</p>				
【授業目標】	<ol style="list-style-type: none"> 1.分娩開始から分娩・産褥・新生児期の母子の正常な経過を支援するために、必要且つ的確な助産ケアの基盤となる知識を習得し、具体的に述べることができる。 2.事例を用いた学習を行うことで、正常な分娩・産褥経過の診断および正常からの逸脱徴候発見時など、状況に応じた判断や必要な助産ケアを総合的に判断することを学び、説明できる。 3.分娩・産褥・新生児期の経過の診断、地域社会での子育てを含めた今後の予測、助産ケア計画立案、実施、評価を含めた一連の思考過程が展開できる。 4.地域社会において子育てをしていく女性とその家族成員に必要な社会資源や制度を理解し、活用できるよう支援するための知識を習得し、説明できる。 				
【授業展開】	<p>【授業方法】対面もしくはオンラインによるディスカッション 【アクティブラーニングを促す方法】 <input checked="" type="checkbox"/>A ディスカッション／ディバード <input checked="" type="checkbox"/>B グループワーク <input checked="" type="checkbox"/>C プレゼンテーション <input type="checkbox"/>D 実習／フィールドワーク</p> <p>【授業内容】</p> <p>第1回：分娩期セッション1 状況3 発表①(永谷・長屋・太田) 第2回：分娩期セッション1 状況3 発表②(永谷・長屋・太田) 第3回：分娩期セッション1 状況4 導入(永谷・長屋・太田) 第4回：分娩期セッション1 状況4 発表①(永谷・長屋・太田) 第5回：分娩期セッション1 状況4 発表②(永谷・長屋・太田) 第6回：分娩期セッション1 状況5 導入(永谷・長屋・太田) 第7回：分娩期セッション1 状況5 発表①(永谷・長屋・太田) 第8回：分娩期セッション1 状況5 発表②(永谷・長屋・太田) 第9回：分娩期セッション1 状況5 発表①(永谷・長屋・太田) 第10回：分娩期助産診断パルトグラム(永谷・長屋・太田) 第11回：分娩期まとめ(永谷・長屋・太田) 第12回：分娩期セッション6(異常編) 導入(太田・永谷・長屋) 第13回：分娩期セッション6(異常編) 発表①(太田・永谷・長屋) 第14回：分娩期セッション6(異常編) 発表②(太田・永谷・長屋) 第15回：分娩期助産診断(異常編)①(太田・永谷・長屋) 第16回：分娩期助産診断(異常編)②(太田・永谷・長屋) 第17回：分娩期助産診断(異常編)③(太田・永谷・長屋) 第18回：産褥・新生児期セッション1 導入(太田・永谷・長屋) 第19回：産褥・新生児期セッション1 発表①(太田・永谷・長屋) 第20回：産褥・新生児期セッション1 発表②(太田・永谷・長屋) 第21回：産褥・新生児期セッション3 導入(太田・永谷・長屋) 第19回：産褥・新生児期セッション3 発表①(太田・永谷・長屋) 第20回：産褥・新生児期セッション3 発表②(太田・永谷・長屋)</p>				
【事前・事後課題】	主体的に授業に参画し、専門性を修得できるよう事前準備と事後学習を行う。授業事の個別課題は、各授業回にて指示する。				

【準備学習時間】	学生個々の学習状況に応じて、各自で設定する。		
【履修条件】	助産師国家試験受験資格取得希望者のみ受講可		
【関連科目】	妊娠期助産診断技術学、助産診断学Ⅰ、地域助産学実習、助産学基礎演習、助産学実習		
【評価方法】	各期のプレゼンテーション評価表に基づいて評価する。		
【フィードバックの方法】	メールにて質問を受け付ける。内容に応じて次回以降の授業回、または別途返答する。		
【テキスト】	1.産婦人科診療ガイドライン産科編 2023/日本産科婦人科学会・日本産婦人科医会(編)/日本産科婦人科学会・日本産婦人科医会/ISBN 978-4-907890-28-5 2.助産学講座 6 助産診断・技術学Ⅱ[1] 妊娠期/我部山キヨ子編/医学書院/ ISBN:978-4-260-04208-6 3.助産学講座 7 助産診断・技術学Ⅱ[2] 分娩期・産褥期/我部山キヨ子編/医学書院/ ISBN: 978-4-260-04210-9 4.助産学講座 8 助産診断・技術学Ⅱ[3] 新生児期・乳幼児期/横尾京子編/医学書院/ ISBN: 978-4-260-04219-2 5.助産業務ガイドライン/公益社団法人日本助産師会編/日本助産師会出版/ ISBN:978-4-905023-28-9		
【参考書】	1.助産学基礎テキスト第 7 巻、ハイリスク妊産褥婦・新生児のケア/遠藤俊子編/日本看護協会出版会/978-4818023772 2.WHO 推奨 ポジティブな出産体験のための分娩期ケア/分娩期ケアガイドライン翻訳チーム/医学書院/978-4260041973		
【備考】	※授業を受ける上で個別に配慮が必要な場合は、事前に科目責任者に相談してください。		
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可

【科目名】	助産技術学演習		【科目英語名】	Exercise in Midwifery Skills	
【開講時期】	2024 年度前期・後期	【必選区分】	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択	【単位数】	3 単位
【授業形態】	<input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習			【授業時間数】	90 時間
【科目責任者】	永谷実穂				
【担当教員】	永谷実穂、太田尚子、長屋和美、中根直子(非常勤)				
【DPとの関連】	<input type="checkbox"/> DP1 <input checked="" type="checkbox"/> DP2 <input type="checkbox"/> DP3 <input type="checkbox"/> DP4				
【授業概要】	<p>妊娠・分娩・産褥・新生児期の助産ケアについて、必要かつ適切な助産技術やケア内容を判断し実施できる能力を習得するため、科目ガイダンス後、助産所の見学実習、臨床経験豊富な教員による演習、ロールプレイング、デモンストレーション実施による演習、試験で構成されている。</p> <p>妊娠・分娩・産褥・新生児期の助産ケアについて、ケア内容を判断し必要かつ適切な助産技術が実施できる基本的能力を習得する。</p> <p>【キーワード】助産技術、助産ケア、分娩介助技術、集団指導、家庭訪問</p>				
【授業目標】	<ol style="list-style-type: none"> 1. 助産ケアに必要な技術に関して、グループ内でディスカッションし、分娩介助、間接介助のデモンストレーション、演習を積みながら基本的な助産技術を実施できる。 2. 助産診断学演習で学んだ知識をもとに、実際の事例を用いたロールプレイングを行い、その場の状況の判断や適した助産ケアを説明できる。 3. 妊娠期助産診断技術学で学んだ知識を活用し、産褥期の健康教育(集団指導)に関して、教育計画立案、適切な媒体作成、実施、評価ができる。 4. 産褥期の健康教育(集団指導)のロールプレイングを行い、グループダイナミックスを活用し、ファシリテーターとしての役割を果たすことができる。 				
【授業展開】	<p>【授業方法】対面もしくはオンラインによる演習 【アクティブラーニングを促す方法】 <input checked="" type="checkbox"/>A ディスカッション/ディバード <input checked="" type="checkbox"/>B グループワーク <input checked="" type="checkbox"/>C プレゼンテーション <input type="checkbox"/>D 実習/フィールドワーク</p> <p>【授業内容】</p> <p>第1回:オリエンテーション(永谷、太田、長屋) 第2回:助産所見学実習、参加観察①(永谷、太田、長屋) 第3回:助産所見学実習、参加観察②(永谷、太田、長屋) 第4回:助産所見学実習、参加観察③(永谷、太田、長屋) 第5回:助産所見学実習、参加観察④(永谷、太田、長屋) 第6回:助産所見学実習、参加観察⑤(永谷、太田、長屋) 第7回:分娩介助デモンストレーション(学生)発表①(永谷、太田、長屋) 第8回:分娩介助デモンストレーション(学生)発表②(永谷、太田、長屋) 第9回:分娩介助デモンストレーション(教員)(永谷、太田、長屋) 第10回:分娩介助デモンストレーション(教員)(永谷、太田、長屋) 第11回:分娩介助デモンストレーション(教員)(永谷、太田、長屋) 第12回:分娩介助デモンストレーション技術演習(永谷、太田、長屋) 第13回:分娩介助デモンストレーション技術演習(永谷、太田、長屋) 第14回:技術演習①(永谷、太田、長屋) 第15回:技術演習②(永谷、太田、長屋) 第16回:技術演習③(永谷、太田、長屋) 第17回:技術演習④(永谷、太田、長屋) 第18回:技術演習⑤(永谷、太田、長屋) 第19回:産褥期アセスメント①(太田、永谷、長屋) 第20回:産褥・新生児期助産診断発表(太田、永谷、長屋) 第21回:産褥期個別健康教育発表(太田、永谷、長屋) 第22回:産褥期個別健康教育発表(太田、永谷、長屋) 第23回:技術演習⑦(永谷、太田、長屋) 第24回:技術演習⑧(永谷、太田、長屋) 第25回:技術演習⑨(永谷、太田、長屋)</p>				

	<p>第 26 回:技術演習⑩(永谷、太田、長屋)</p> <p>第 27 回:技術演習⑪(永谷、太田、長屋)</p> <p>第 28 回:臨床実習指導者による分娩介助デモンストレーション①(永谷、太田、長屋)</p> <p>第 29 回:臨床実習指導者による分娩介助デモンストレーション②(永谷、太田、長屋)</p> <p>第 30 回:分娩期シミュレーション①(永谷、太田、長屋)</p> <p>第 31 回:分娩期シミュレーション①(永谷、太田、長屋)</p> <p>第 32 回:分娩期シミュレーション①(永谷、太田、長屋)</p> <p>第 33 回:分娩期シミュレーション①(永谷、太田、長屋)</p> <p>第 34 回:技術試験①(永谷、太田、長屋)</p> <p>第 35 回:技術試験②(永谷、太田、長屋)</p> <p>第 36 回:技術試験③(永谷、太田、長屋)</p> <p>第 37 回:家庭訪問時の助産技術の課題発表①(太田、永谷、長屋)</p> <p>第 38 回:家庭訪問時の助産技術の課題発表①(太田、永谷、長屋)</p> <p>第 39 回:フリースタイル分娩の理論と実際①(中根)</p> <p>第 40 回:フリースタイル分娩の理論と実際②(中根)</p> <p>第 41 回:フリースタイル分娩の理論と実際③(中根)</p> <p>第 42 回:産褥期健康教育(集団)ディスカッション(永谷、太田、長屋)</p> <p>第 43 回:産褥期健康教育(集団)グループワーク(永谷、太田、長屋)</p> <p>第 44 回:産褥期健康教育(集団)発表①(永谷、太田、長屋)</p> <p>第 45 回:産褥期健康教育(集団)発表②(永谷、太田、長屋)</p>		
【事前・事後課題】	主体的に授業に参画し、専門性を修得できるよう事前準備と事後学習を行う。授業事の個別課題は、各授業回にて指示する。		
【準備学習時間】	学生個々の学習状況に応じて、各自で設定する。		
【履修条件】	助産師国家試験受験資格取得希望者のみ受講可		
【関連科目】	妊娠期助産診断技術学、助産診断学Ⅰ、助産診断学Ⅱ		
【評価方法】	技術試験 70%、媒体作成およびロールプレイング・ディスカッションへの参加度 30%		
【フィードバックの方法】	メールにて質問を受け付ける。内容に応じて次回以降の授業回、または別途返答する。		
【テキスト】	<p>1.学講座 6 助産診断・技術学Ⅱ[1] 妊娠期/我部山キヨ子編/医学書院/ISBN:978-4-260-04208-6</p> <p>2.助産学講座 7 助産診断・技術学Ⅱ[2] 分娩期・産褥期/我部山キヨ子編/医学書院/ISBN:978-4-260-04210-9</p> <p>3.助産学講座 8 助産診断・技術学Ⅱ[3] 新生児期・乳幼児期/横尾京子編/医学書院/ISBN:978-4-260-04219-2</p> <p>4.明日からの訪問活動に役立つ!「新生児訪問・乳児家庭全戸訪問 活動実践マニュアル」/大阪府助産師会編/一般社団法人大阪府助産師会/</p>		
【参考書】	<p>1.助産師のためのフィジカルイグザミネーション/我部山キヨ子他/医学書院/ISBN:978-4-260-03548-4</p> <p>2.助産学基礎テキスト第 7 巻、ハイリスク妊産褥婦・新生児のケア/小林康江編/日本看護協会出版会/ISBN 978-4818026179</p>		
【備考】	※授業を受ける上で個別に配慮が必要な場合は、事前に科目責任者に相談してください。		
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可

【科目名】	助産学実習	【科目英語名】	Clinical Practice in Midwifery
【開講時期】	2024 年後期	【必選区分】	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択
【授業形態】	<input type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input checked="" type="checkbox"/> 実習	【単位数】	9 単位
【授業時間数】		【授業時間数】	405 時間
【科目責任者】	太田尚子		
【担当教員】	太田尚子、永谷実穂、長屋和美		
【DP との関連】	<input type="checkbox"/> DP1 <input checked="" type="checkbox"/> DP2 <input checked="" type="checkbox"/> DP3 <input type="checkbox"/> DP4		
【授業概要】	<p>妊娠、分娩、産褥期における女性と胎児・新生児とその家族の生理的変化、心理社会的変化、適応状況をアセスメントし、正常からの逸脱を予防し、より安全で自然な分娩経過を促すための助産ケアを立案し提供する。また、女性や家族と共に、満足感の得られる出産体験となるような助産ケアを考える。継続ケース 1 例、分娩介助 10 例程度、新生児処置数例の経験を通して、判断力、技術、態度が徐々に成長することを目指す。</p> <p>【キーワード】助産診断、助産技術、分娩介助、新生児蘇生法、継続ケア、健康教育、家庭訪問、ケアリング</p>		
【授業目標】	<ol style="list-style-type: none"> 産婦の入院から分娩後 2 時間まで受け持ち、助産過程を展開し、助産ケアを実施できる。 正常からの逸脱徴候の早期発見に努め、助産、助産ケアの担い手としての助産師の責任と責務を自覚して行動できる。 継続事例に対して、妊娠中から産後 1 ヶ月健診までの母子およびその家族に対して、個別的な助産ケアを立案して実施できる。 分娩介助は、10 例程度実施でき、分娩介助評価表において 80% のレベルに達することができる。 新生児処置は、数例実施でき、新生児処置評価表において 80% のレベルに達することができる。 		
【授業展開】	<p>【授業方法】臨地実習 【アクティブラーニングを促す方法】 <input type="checkbox"/>A ディスカッション／ディバード <input type="checkbox"/>B グループワーク <input type="checkbox"/>C プレゼンテーション <input checked="" type="checkbox"/>D 実習／フィールドワーク</p> <p>【授業内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 原則としてオンコール体制で実習する。 妊娠期から産後・生後 1 か月までの継続事例 1 例を受け持ち、助産過程を展開しケアを実施する。 <ol style="list-style-type: none"> 継続事例の妊婦健診は優先して行う。 継続事例の入院期間中(分娩期、産褥期・新生児期)は他分娩介助を中断し、最優先でケアを行う。 入院期間中のケア、産後健診、家庭訪問については、実習インターバル中も行う。 継続事例以外の産婦に対し、入院から分娩後 2 時間までの分娩介助と母子への助産ケアを行う。 新生児処置は、NCPRアルゴリズム 2020 に従って実施する。 臨地カンファレンスを学生主体で企画、実施する。 分娩介助について、自己評価および実習指導者による他者評価を行う。 学内合同カンファレンスで学びの共有をはかる。 <p>【実習概要】</p> <ol style="list-style-type: none"> 実習期間 2024 年 10 月 7 日～11 月 8 日、11 月 18 日～12 月 13 日 実習場所 静岡県立総合病院、静岡済生会総合病院、静岡赤十字病院、しのはら産婦人科医院 		
【事前・事後課題】	<p>実習要項を事前に示す。事前に関連科目の既習内容について事前学習を行う。分娩介助・新生児処置技術については、自主練習期間を設ける。分娩介助評価において明らかとなった課題について、技術の復習を行う。</p>		
【準備学習時間】	習得状況に応じて、各自で設定する。		
【履修条件】	<p>助産師国家試験受験資格取得希望者のみ受講可。妊娠期助産診断技術学、妊娠期助産診断技術学演習、周産期助産学演習、助産診断学演習Ⅰ・Ⅱの単位をすべて修得済みであり、助産技術学演習の分娩介助および新生児ケア技術試験において 80% に到達している。</p>		
【関連科目】	<p>妊娠期助産診断技術学、妊娠期助産診断技術学演習、周産期学、周産期助産学演習、助産診断学演習Ⅰ・Ⅱ、助産技術学演習、助産学基礎演習</p>		
【評価方法】	<p>実習総合評価表を用いて評価する(100%)。</p>		

【フィードバックの方法】	カンファレンス時に指導助産師よりフィードバックを受ける。産後のバースレビュー実施により、産婦からフィードバックを受ける。		
【テキスト】	1. 産婦人科診療ガイドライン産科編 2023/日本産科婦人科学会・日本産婦人科医会(編)/日本産科婦人科学会・日本産婦人科医会/ISBN:978-4-907890-28-5 2. エビデンスに基づく助産ガイドラインー妊娠期・分娩期・産褥期 2020/日本助産学会ガイドライン委員会/日本助産学会/ISSN:0917-6357		
【参考書】	1. 助産業務ガイドライン 2019/日本助産師会/助産業務ガイドライン改訂検討特別委員会/日本助産師会出版/ISBN:9784905023289 そのほか、助産学科目で使用したテキスト、参考書		
【備考】	※授業を受ける上で個別に配慮が必要な場合は、事前に科目責任者に相談してください。		
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可

【科目名】	助産学統合実習		【科目英語名】	Comprehensive Practice in Midwifery	
【開講時期】	2024 年度前期	【必選区分】	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択	【単位数】	2 単位
【授業形態】	<input type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input checked="" type="checkbox"/> 実習			【授業時間数】	90 時間
【科目責任者】	太田尚子				
【担当教員】	太田尚子、永谷実穂、長屋和美				
【DP との関連】	<input type="checkbox"/> DP1 <input checked="" type="checkbox"/> DP2 <input checked="" type="checkbox"/> DP3 <input type="checkbox"/> DP4				
【授業概要】	1 年次の講義、演習、分娩介助 10 例程度を含む各実習での学びを統合し、助産所において、妊産褥婦・新生児・家族に対し、妊娠期から継続した助産ケアを計画立案・実施・評価により、自律した助産活動について主体的かつ実践的に学ぶ。実習内容は、妊娠中期頃から一組の母児を継続して受け持ち、妊娠期各期の健康診査・健康教育、分娩介助、産褥・新生児期の健康診査・健康教育、家庭訪問および 1 か月健診を実施する。 【キーワード】助産所、開業助産師、プライマリーケア、地域包括母子支援				
【授業目標】	1. 継続事例の妊婦健康診査において、妊婦や家族との信頼関係を深め、分娩準備状況やパースプランの確認などを行い、分娩に向けた助産計画を立案し、健康教育を実施できる。 2. 継続事例の妊婦の分娩目的での入院から分娩後 2 時間までを通した分娩介助、助産ケアを提供できる。 3. 継続事例の産褥・新生児期ケア、家庭訪問を含む 1 か月健診までの助産計画を立案し、ケアを実施できる。 4. 継続事例の妊娠期から産後 1 か月健診までの助産ケアを振り返り評価できる。 5. 地域や実習施設の特徴を踏まえながら助産師の役割・責務を理解し、助産ケアチームのメンバーとして協働する態度を身につけることができる。 6. 助産学生として、指導助産師や教員との連絡、調整を自ら行い、自律した態度で実習を行うことができる。				
【授業展開】	<p>【授業方法】臨地実習 【アクティブラーニングを促す方法】 <input type="checkbox"/>A ディスカッション／ディベート <input type="checkbox"/>B グループワーク <input type="checkbox"/>C プレゼンテーション <input checked="" type="checkbox"/>D 実習／フィールドワーク</p> <p>【授業内容】 【実習方法】【実習内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 年次の講義、演習、実習での学びをふまえ、実習目標を設定し、実習計画を立案する。 指導助産師と相談しながら主体的に行動計画を立案する。 助産所または自宅分娩の介助演習、分娩直接介助・間接介助見学を行う。 妊娠中期から産後・生後 1 か月までの継続事例 1 例を受け持ち、助産過程を展開し、ケアを実施する。 継続事例の健診スケジュールに合わせて実習を行う。 オンコール体制で分娩の直接介助を行う。 母子の健康状態、ニーズに応じた産褥期・新生児期ケアを行う。 カンファレンス、パースレビュー、評価表・助産師との振り返りにより、実習評価を実施する。 事後レポートで実習での学びを統合する。 <p>【実習概要】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習期間 2024 年 4 月～9 月 2. 実習場所 いぶきの助産院、おはな助産院、くさの助産院、助産院こうのとり、渡辺助産院 				
【事前・事後課題】	事前に助産所関連の法規、ガイドラインについて事前学習を行う。フリースタイル分娩について動画で学習する。事後レポート作成時は文献を用いて自己のケアを振り返りながら学びを深める。				
【準備学習時間】	分娩介助法、新生児蘇生法の復習、実習計画立案に必要な時間を、各自で設定する。				
【履修条件】	助産師国家試験受験資格取得希望者のみ受講可、助産学実習および地域助産学実習の単位修得済み、実習の目標・実習計画について施設長・教員の了承が得られている。				
【関連科目】	助産学概論・助産管理論・統合ヘルスケア論・母子保健包括支援論・地域助産学実習・助産学実習				
【評価方法】	実習目的・目標に従った実習内容(事前学習・行動・態度を含む) 40%、実習記録 20%、健康教育の実施内容 20%、事後レポート 20%について、実習評価表を用いて評価する。				
【フィードバックの方法】	カンファレンス時に指導助産師よりフィードバックを受ける。産褥期のパースレビュー実施により、継続事例からフィードバックを受ける。				

【テキスト】	エビデンスに基づく助産ガイドラインー妊娠期・分娩期・産褥期 2020/日本助産学会ガイドライン委員会/日本助産学会/ISSN:0917-6357		
【参考書】	1.助産業務ガイドライン 2019/日本助産師会/助産業務ガイドライン改訂検討特別委員会/日本助産師会出版/ISBN:9784905023289 2.産婦人科診療ガイドライン産科編 2023/日本産科婦人科学会・日本産婦人科医会(編)/日本産科婦人科学会・日本産婦人科医会/ISBN:978-4-907890-28-5		
【備考】	※授業を受ける上で個別に配慮が必要な場合は、事前に科目責任者に相談してください。		
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可

関連規程

(趣旨)

第1条 静岡県立大学大学院看護学研究科（以下「研究科」という。）に関する事項については、静岡県立大学大学院学則（以下「学則」という。）及び静岡県立大学学位規程に定めるもののほか、この規程の定めるところによる。

- 2 保健師助産師看護師法（昭和23年法律第203号）及び保健師助産師看護師学校養成所指定規則（昭和26年文部・厚生省令第1号）に係る事項については、この規程の定めるところによる。

(課程及び専攻)

第2条 研究科の課程は、博士課程とする。

- 2 博士課程は、これを前期2年の課程（以下「博士前期課程」という。）及び後期3年の課程（以下「博士後期課程」という。）に区分する。
- 3 研究科に、看護学専攻を置く。
- 4 助産師養成選択科目は、助産師学校として文部科学大臣の指定を受けるものとする。
- 5 助産師養成選択科目を履修できる者は、保健師助産師看護師法第21条各号のいずれかに該当する者とする。

(教育方法)

第3条 博士前期課程の教育は、授業科目の授業及び修士論文等の作成に対する指導によって行うものとする。

- 2 博士後期課程の教育は、授業科目の授業、研究及び博士論文の作成に対する指導によって行うものとする。

(研究指導)

第4条 研究科において、教育研究上有益と認めるときは、研究科委員会の議を経て、本研究科の学生が他大学の大学院又は研究所等において必要な研究指導を受けることを認めることができる。

- 2 前項の規程により受けた研究指導は、研究科委員会において審査の上、研究科において受けた研究指導とみなすことができる。

(授業科目及び単位数)

第5条 授業科目及び単位数は、大学院学則の別表（一）看護学研究科（博士前期課程）及び大学院学則の別表（二）看護学研究科（博士後期課程）のとおりとする。

(助産師国家試験受験資格)

第5条の2 助産師国家試験受験資格を得ようとする者は、大学院学則の別表（一）看護学研究科（博士前期課程）の定めるところに従って、第12条に規定する博士前期課程修了要件に加えて、所定の単位を修得しなければならない。

(単位の計算方法)

第6条 授業科目の単位数は、1単位の履修時間を教室及び教室外を合せて45時間とし、次の基準によるものとする。

- (1) 講義は、15時間をもって1単位とする。
- (2) 演習は、15時間をもって1単位とする。
- (3) 実験又は実習は、30時間をもって1単位とする。

- (4) 助産師養成選択科目のうち、演習は30時間（ただし、助産診断学演習Ⅰ及びⅡについては15時間）をもって1単位とし、実習は45時間（ただし、周産期助産学実習については30時間）をもって1単位とする。

（指導教員）

第7条 学生の履修及び研究等を指導するために、研究科長は研究科委員会の議に基づき、学生ごとに指導教員を定める。

- 2 博士前期課程においては、指導教員及び副指導教員は、研究科担当の教授及び准教授とする。ただし、必要があるときは、研究科委員会の議をもって認めることができる。
- 3 博士後期課程においては、指導教員及び副指導教員は、研究科担当の教授及び准教授の内、博士論文に関する研究指導を担える者とする。

（授業科目の履修）

第8条 学生は、授業科目の履修にあたっては、授業担当教員の承認を受けた上で、指定する期日までに所定の様式により申告しなければならない。

（単位修得の認定）

第9条 授業科目の単位修得の認定は、口答又は筆答の試験若しくは研究報告の審査により、授業担当教員が行う。

- 2 前項に規定する単位修得の認定は、各授業科目の授業の終了する学期末に行う。ただし、特別の事情があるときは、その期日を変更することができる。

（成績の評価）

第10条 授業科目の成績は、優、良、可及び不可の4段階に評価し、可以上を合格とする。

（単位修得の証明）

第11条 研究科長は、単位を修得した学生が願い出た場合には、単位修得証明書を交付するものとする。

（博士前期課程の修了要件）

第12条 博士前期課程の修了の要件は、在学期間中に大学院学則の別表(一)看護学研究科(博士前期課程)の定めるところに従って所定の単位以上取得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文等の審査及び試験に合格することとする。

- 2 前項の修士論文等の審査については、博士前期課程の目的に応じて適当と認めるときは、特定の研究課題についての研究成果を持って代えることができる。

（博士後期課程の修了要件）

第13条 博士後期課程の修了の要件は、博士後期課程に3年以上在籍し、在学期間中に大学院学則の別表(二)看護学研究科(博士後期課程)の定めるところに従って所定の単位以上取得し、かつ必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び試験に合格することとする。

- 2 前項に基づく認定以外、特例による博士の学位の認定は一切行わない。

（学位論文の提出）

第14条 博士前期課程及び博士後期課程の学位論文は、指導教員の承認を得て、研究科委員会の定める期日までに提出しなければならない。

（学位論文の審査及び最終試験）

第15条 学位論文の審査及び最終試験は、研究科委員会において選出された論文審査員が行う。

- 2 最終試験は、審査した学位論文を中心として、これに関連する授業科目及び外国語科目について

口答又は筆答により行う。

- 3 前二項において、必要に応じ審査員以外の学部教員の意見を求めることができる。
- 4 学位論文及び最終試験についての合格又は不合格の認定は、研究科委員会が論文審査員の報告に基づいて行う。

(学位の授与)

第16条 博士前期課程の修了者には、静岡県立大学学位規程の定めるところにより、修士(看護学)の学位を授与する。

- 2 博士後期課程の修了者には、静岡県立大学学位規程の定めるところにより、博士(看護学)の学位を授与する。

(雑則)

第17条 この規程に定めるもののほか、研究科に関し必要な事項は、研究科委員会が定める。

附 則

この規程は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成21年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成22年4月1日から施行する。

附 則

- 1 この規程は、平成24年4月1日から施行する。
- 2 改正後の第5条の2並びに別表1及び2の規定は、平成24年4月1日以降入学する者について適用する。

附 則

- 1 この規程は、平成28年4月1日から施行する。
- 2 改正後の別表1の規定は、平成28年4月1日以降入学する者について適用する。

附 則

- 1 この規程は、平成31年4月1日から施行する。
- 2 改正後の規定は、平成31年4月1日以降入学する者について適用する。

附 則

- 1 この規程は、令和2年4月1日から施行する。
- 2 改正後の規程は、令和2年4月1日以降入学する者について適用し、同年3月31日において現に在学する者については、なお従前の例による。

附 則

- 1 この規程は、令和4年4月1日から施行する。
- 2 改正後の第2条第2項、第3条第1項、第5条、第5条の2、第7条第2項、第12条第1項、及び第2項、第14条、第16条第1項の各規定は、令和2年4月1日以降に入学する者について適用し、同年3月31日において現在在学する者については、なお従前の例による。

静岡県立大学大学院看護学研究科修士学位審査に関する細則

(趣旨)

第1条 この細則は、静岡県立大学大学院学則、静岡県立大学学位規程及び静岡県立大学大学院看護学研究科規程に定めるもののほか、静岡県立大学大学院看護学研究科における修士学位審査に関し必要な事項を定める。

(指導教員)

第2条 博士前期課程の研究指導は、原則として指導教員1名と副指導教員1名の計2名で行う。

2 学生は、入学時に指導教員を、1年次9月までに副指導教員を検討し、看護学研究科長（以下、研究科長）に副指導教員を申請する（様式修第1号）。看護学研究科委員会（以下、研究科委員会という。）の議を経て決定し、変更は原則として認めない。指導教員・副指導教員の退職等やむをえない事情がある場合は、研究科委員会の議を経て指導教員及び副指導教員、専門分野の変更ができる（様式修第2号・様式修第3号）。

3 指導教員は、学生の研究計画立案より、データ収集の計画と実施、解析と分析、考察を含め論文完成に至るまで、研究全体に対して指導する。

4 副指導教員は、学生の研究計画立案、データ収集の計画と実施、解析と分析、考察に至るまで、副指導教員の研究領域の観点から、類似した領域または異なる領域の知見を踏まえて助言を与え、学生の研究の独自性と専門性を高めるとともに、新たな知見が近接または異なる研究領域にも参考となるように指導教員の指導を補助する。

(修士論文研究計画審査の申請)

第3条 修士論文研究計画書（以下「研究計画書」という）の審査を申請する学生は、以下の書類を研究科長に提出する。

- | | |
|-----------------------|----|
| (1) 研究計画審査申請書（様式修第4号） | 1部 |
| (2) 研究計画書 | 4部 |

2 第1項の書類の提出期間は、年度当初に示す修士論文スケジュールに準ずる。

3 提出された書類の差し替えは認められない。

4 研究科長は研究計画書の審査にあたり、第1項(1)、(2)以外の資料の提出を求めることができる。

(研究計画書の審査)

第4条 研究計画書の審査は、看護学研究科の教授または准教授による主査1名と副査2名が担当する。

2 主査は指導教員とし、副査は指導教員が指名する2名で構成され、研究科委員会において承認された者とする。

3 研究計画書の審査はすみやかに行い、主査は修士論文研究計画審査結果報告書（様式修第5号）により研究会委員会において報告する。

4 研究計画書の審査基準については別に定める（別表）。

(研究計画書の合否判定)

第5条 研究科長は、研究科委員会で研究計画書の合否判定をおこなう。

2 研究科長は、合否判定結果を学生に速やかに通知する。

(修士論文研究計画の研究倫理審査の受審)

第6条 学生は、合格の判定を受けた研究計画書について、静岡県立大学看護学部研究倫理審査委員会もしくは研究実施施設の研究倫理審査委員会において研究倫理審査を受審する。

2 看護学部研究倫理審査委員会もしくは研究実施施設の研究倫理審査委員会の承認後に、データ収集を開始する。

(修士論文の申請資格)

第7条 修士論文審査の申請ができる者は、博士前期課程に所定の年限以上在学し所定の単位を修得、又は修得見込みで必要な研究指導を受けた者とする。

(学位授与の要件)

第8条 学位(修士)は、博士前期課程に所定の年限以上在学し所定の単位を修得し、必要な研究指導を受けた修士論文の審査及び最終試験に合格した者に対して授与される。

(修士論文の要件)

第9条 博士前期課程の学位論文は、次の各号の要件を満たすこと。

- (1) 研究論文である。
- (2) 単著論文である。

(修士論文審査の申請)

第10条 修士論文の審査を申請する者は、以下の書類を研究科長へ提出する。

- | | |
|-----------------------|----|
| (1) 修士論文審査申請書(様式修第6号) | 1部 |
| (2) 修士論文 | 4部 |

2 提出された書類の差し替えは認めない。

3 書類の提出期限は、年度当初に示す修士論文スケジュールに準ずる。

4 研究科長は、第1項(1)(2)以外に修士論文の審査に必要な資料の提出を求めることができる。

(修士論文の審査及び最終試験)

第11条 研究科委員会は、修士論文の提出資格を審査し資格を有すると判定した場合、修士論文審査委員会を設置する。

2 修士論文審査委員会は、第4条第1項及び第2項によって定められた主査1名、副査2名の3名により構成される。

3 研究科委員会が必要と認めるときは、前項の規定にかかわらず、他の研究科又は国内の他の大学院もしくは研究所等の教員等を審査委員に加えることができる。

4 論文審査委員会は修士論文の審査と最終試験の審査をおこなう。

- 5 修士論文の審査基準については別に定める（別表）。
- 6 最終試験は、修士課程を修了に値する看護学研究の能力について試問する。
- 7 主査は、修士論文審査結果報告書（様式修第7号）ならびに最終試験審査結果報告書（様式修第8号）を研究科長に提出する。

（修士論文および最終試験の合否判定）

- 第12条 研究科長は、研究科委員会で修士論文および最終試験の合否判定をおこなう。
- 2 研究科長は、合否判定結果を学生に速やかに通知する。

（学位授与の審議）

- 第13条 研究科委員会は、修士の学位の授与の可否を審議する（静岡県立大学学位規程第10条1項、静岡県立大学大学院看護学研究科規程第15条1項）。
- 2 研究科長は、審議結果を学長へ具申する。

附則

この細則は、平成29年4月1日から施行する。

附則

この細則は、平成29年12月1日から施行する。

附則

この細則は、平成30年4月1日から施行する。

附則

この細則は、平成31年4月1日から施行する。

附則

この細則は、令和2年4月1日から施行する。

附則

この細則は、令和3年7月14日から施行する。

附則

この細則は、令和6年4月1日から施行する。

別表

研究計画書の審査基準

1. 研究計画書に必要な事項が述べられている。
2. 看護学に対して、当該研究の意義が明確である。
3. 研究の目的や目標が明確である。
4. 研究に必要な文献検討がされている。
5. 研究方法が適切である。
6. 研究の方法及び対象に対して、倫理的配慮がされている。

修士論文の審査基準

1. 研究の目的及び目標が明確である。
2. 看護学に対して、当該研究の意義が明確である。
3. 研究に必要な文献検討がされている。
4. 研究の方法が適切である。
5. 研究倫理審査で承認されている。
6. 研究の結果の分析・解釈が妥当である。
7. 研究の結果に対する考察が適切である。
8. 研究の限界、課題及び展望が述べられている。

申請等書類

様式修第1号

看護学研究科博士前期課程副指導教員申請書

年 月 日

静岡県立大学大学院看護学研究科長 様

看護学研究科 看護学専攻

分野・課程

学籍番号

氏 名

印

博士前期課程における副指導教員を下記のとおり申請したいので、許可されるよう申請します。

記

副指導教員	専門分野
-------	------

指導教員(署名) _____

様式修第2号

看護学研究科博士前期課程研究指導教員変更申請書

年 月 日

静岡県立大学大学院看護学研究科長 様

看護学研究科 看護学専攻

分野・課程

学籍番号

氏 名

(自署または押印)

博士前期課程における研究指導教員を下記のとおり変更したいので、許可されるよう申請します。

記

変更前 研究指導教員
変更後 研究指導教員
変更理由

※変更前後の研究指導教員からの署名を受領の上で提出すること

変更前 指導教員(署名) _____

変更後 指導教員(署名) _____

様式修第3号

看護学研究科博士前期課程専門分野変更申請書

年 月 日

静岡県立大学大学院看護学研究科長 様

看護学研究科 看護学専攻

分野・課程

学籍番号

氏 名

(自署または押印)

博士前期課程における専門分野を下記のとおり変更したいので、許可されるよう申請します。

記

変更前 専門分野
変更後 専門分野
変更理由

※変更前後の研究指導教員からの署名を受領の上で提出すること

変更前 指導教員(署名) _____

変更後 指導教員(署名) _____

様式修第 4 号

修士論文研究計画審査申請書

年 月 日

静岡県立大学大学院看護学研究科長 様

看護学研究科 看護学専攻

分野・課程

学籍番号

氏 名

印

静岡県立大学大学院看護学研究科修士学位審査に関する細則第 3 条に基づき、修士論文研究計画の審査を受けたいので申請します。

記

修士論文研究計画書 4 部

様式修第5号

修士論文研究計画審査結果報告書

年 月 日

分野・課程 _____ 学籍番号 _____ 氏名 _____

研究題目： _____

上記の研究計画を審査した結果、次のように判定しました。
(いずれかに○をしてください)

1. 合格
2. 不合格

その理由をご記入ください：

審査年月日 _____

主査(署名) _____

審査員(署名) _____

審査員(署名) _____

修士論文審査申請書

年 月 日

静岡県立大学大学院看護学研究科長 様

看護学研究科 看護学専攻

分野・課程

学籍番号

氏 名

印

静岡県立大学大学院学則第49条に基づき、修士論文審査および最終試験を受けたいので申請します。

記

修士論文 4部 (正本1部・副本3部)

修士論文の要旨 4部 (正本1部・副本3部)

..... 切 り 取 り 印

修士論文受領証

学生室にて、修士論文審査に関わる提出書類一式を受領したことを証明します。

学籍番号

氏 名

年 月 日

受領印

様式修第7号

修士論文審査結果報告書

静岡県立大学大学院看護学研究科長 様

年 月 日

分野・課程 _____ 学籍番号 _____ 氏名 _____

研究題目： _____

結 果 (いずれかに○をつける)

1. 合 格

2. 不合格

その理由：

審査年月日 _____

主査(署名) _____

審査員(署名) _____

審査員(署名) _____

様式修第8号

最終試験審査結果報告書

静岡県立大学大学院看護学研究科長 様

年 月 日

分野・課程 _____ 学籍番号 _____ 氏名 _____

研究題目： _____

結 果 (いずれかに○をつける)

1. 合 格

2. 不合格

その理由：

審査年月日 _____

主査(署名) _____

審査員(署名) _____

審査員(署名) _____

研究計画書および修士論文作成要領

研究計画書および修士論文作成要領

1. 書式

- ・原稿は A4 版用紙に横書きとし、1 ページ 40 字 × 30 行とする。
- ・フォントは 10.5 ポイント、余白は左右 30 mm、上部 30 mm、下部 35 mm とする。
- ・ページの下部、中央にページ数を打つ。
- ・片面印刷とする。

2. 表紙

- ・表紙は所定の様式で付する。【別紙】の表紙例を参照。

3. 目次

- ・本文の前に目次をつけ、論文のアウトラインを示す。

4. 本文の記載方法

- ・パラグラフの開始行は文頭を、1 文字下げ 2 文字目から記述する。
- ・原則として新かなづかいを用い、特別な用語以外はなるべく常用漢字を用いる。
- ・字体は、見出しおよび強調部分など特別な場合はゴシック体、外国語・数字には Times New Roman Bold を用いる。それ以外は明朝体または Times New Roman を用いる。
- ・句読点及びカッコは 1 文字分（全角）を使用し、改行した段落の行頭は、1 文字下げる。
- ・外来語はカタカナとし、外国人名および日本語として未定着の語は原語のまま記す。その際、単語は 2 行にまたがらないよう、ハイフンを使用せず後送りして改行する。
- ・学術誌名、学名、生物名などは斜字体（イタリック）を用いる。
- ・度量衡の単位表示は、各専門領域の慣例に従う。
- ・数字は特別の場合以外は算用数字を用い、1 マス 2 文字（半角）で処理する。また、数字は 2 行にまたがらないようにする。
- ・略語は、初出時に正式用語を示し、略語を [] に入れて付記すること。ただし、度量衡などの単位についてはその必要はない。略語を多数用いる場合には、最初もしくは付録に略語一覧を掲載する。

<記載例> Certified Nurse Specialist [CNS]
専門看護師 (Certified Nurse Specialist ; 以下 CNS)

5. 図、表及び写真の処理

- ・図、表、写真は、それぞれ種類ごとに通し番号と表題を付し、それを説明した本文近くの適当な場所に添付もしくは表示する。
- ・図、表、写真などが多く、本文に挿入すると煩雑になると考えられる場合には、

一括して本文のあとに付録としてつけてもよい。その際、目次にその付録の内容一覧を示す。

6. 論文の構成

- ・構成は、緒言、方法、結果、考察、結論、文献とする。
なお、内容から必要であれば、論文の構成を変更してもよい。
- ・方法や結果などで下位セクションが必要な場合は、例として以下に示す第2階層から第7階層までの6つの階層から構成する。
第2階層：I. II. III. 中央揃え
第3階層：A. B. C. 左端揃え
第4階層：1. 2. 3. 左端揃え
第5階層：a. b. c. 見出しのみ、本文左端より1文字下げる
第6階層：1) 2) 3) 上位の見出しより1文字下げる
第7階層：a) b) c) 上位の見出しより1文字下げる

7. 図、表の表題のつけ方

- ・図の表題：表題の頭に通し番号を付し、図の下に記す。
- ・表の表題：表題の頭に通し番号を記し、表の上に記す。
- ・罫線は横罫のみ使用する。横罫も最小限にとどめる。

8. 文献の記載について

- ・米国心理学会 American Psychological Association. (2010). *Publication Manual of the American Psychological Association* (6th ed.). Washington, DC: Author.
または International Committee of Medical Journal Editors. *Uniform Requirements for Manuscripts Submitted to Biomedical Journals: Writing and Editing for Biomedical Publication*. <http://www.icmje.org/> に準拠する。

9. 注記について

- ・本文に注をつけるのは、以下の場合である。
 - ①本文中に論じられたテーマを補強したり、別の見方や情報、説明などを示したいが、本文に書き込むと論旨が混乱したり、ぼやけてしまったりする可能性がある場合。
 - ②引用の典拠や引用についての許諾などについてその場で示したい場合。
- ・脚注は文章の脇に*印もしくは肩数字を付け、そのページの下部、欄外にその内容を記す。同じページに複数の脚注がある場合には、順に*、**、***もしくは数字で順番を示す。
- ・図表の引用注は図や表に示されたデータに関する注は、*, †, ‡, §, ||, ¶, **, ††, ‡‡ 順で記号を用い、図表のすぐ下に記載する。
- ・引用の場合、図表のすぐ下に出典を示し、文献リストにも含める。

10. 研究計画書の追加事項

- ・研究計画書はファイルに綴じて提出する。

【別紙】 修士論文表紙例

上下余白 4.5cm 左右余白 3cm

(西暦) 年度 修士論文

(明朝体 15~18 ポイント)

研究題目名

(15~18 ポイント)

看護学専攻 (10~11 ポイント)

学籍番号 (10~11 ポイント)

氏名 (15~18 ポイント)

* 字体は明朝体または Times New Roman を用いる。

* 本文中は、見出しおよび強調部分など特別な場合はゴシック体、外国語・数字には
Times New Roman Bold を用いる。

II. 博士後期課程

1. 教育理念

静岡県立大学大学院看護学研究科の教育理念は、いかなる状況下においても、自己の人間性を基盤に習得した専門的知識を活用し最適な看護サービスが提供でき、看護関係職の良きリーダーとなる人材の育成を目指している。生命関連領域の諸科学と連携し、見識のある高度な専門職能を有する人材かつ看護科学の教育・研究及び実践活動を担う人材を養成し、人々の健康増進を図り、豊かな国際社会の構築に寄与する。

2. 学位授与方針、教育方針、入学時に期待する学生像

学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

本研究科博士後期課程では、所定の単位を修め、博士論文審査及び最終試験に合格したことにより、以下の能力が認められたものとして博士（看護学）の学位を授与する。

1. 各自の実践看護分野を基軸として、自律的に、研究計画を立案し、計画的、継続的に研究を実施できる能力を修得している。
2. 現在の社会背景、地域における健康課題、ケア対象者や地域住民のニーズを的確に察知でき、自らの研究の意義や自己の果たすべき役割を論理的に述べる能力を身につけている。
3. 看護・保健・医療・福祉の場における課題に積極的に取り組み、多様な課題を解決しようとする姿勢を身につけている。
4. 看護研究者・教育者として必要な倫理的・探求的態度、人間性、教育的姿勢を身につけている。

教育方針（カリキュラム・ポリシー）

本研究科博士後期課程では、学位授与の方針に揚げる能力の獲得を達成するために、以下のカリキュラム・ポリシーに基づき科目を編成する。

1. 専門領域における実践の基盤となる理論と知識を学び、健康課題を発見し、その解決に向けて、学際的に、自律して看護研究を計画・実施できるための教育課程を編成する。
2. 生体に影響を及ぼす関連学問領域の諸理論や概念、およびわが国の社会保障制度や保健医療福祉政策を学び、広く社会のニーズに対応できる、柔軟な適応力を醸成する教育を行う。
3. 国内外の研究者との交流、国内外の学会での発表が行えるような体制をつくり、看護研究者としての基盤を形成できるような教育を行う。

入学時に期待する学生像（アドミッション・ポリシー）

本研究科博士後期課程の重要な目的は、看護研究を主導できる研究者、看護サービスの質の向上や看護学の教育の改善に寄与する研究を担うことができる人材を養成することである。そのために、学生は、入学時点で以下の能力を有していることが求められる。

1. 看護学および看護実践への強い関心を持ち、これまでの看護実践活動と研究成果から取り組むべき研究課題を見出し、研究を通して、看護学の発展や地域・社会に貢献しようとする意思を有している。
2. 看護専門職として必要な教養と倫理観、語学力や看護学に関する高度な知識・技術を持ち、これまでの看護研究の経験を通して培った基礎的研究能力を有している。
3. 論理的思考と柔軟な発想をもち、様々な課題を解決して真理を探究し、継続的に、自律して研究を実践する強い意思を有している。

3. 博士後期課程スケジュール

2024年度 入学生

年次	月日	事項
1年次	4月 8日 (月)	新入生ガイダンス
	4月 9日 (火)	入学式
	4月 10日 (水)	前期授業開始
	4月 下旬まで	前期履修登録
	10月 1日 (火)	後期授業開始
	10月 中旬まで	後期履修登録
	適時	第1回博士論文検討会 (研究計画書の審査)
2年次	4月 初旬	在学生ガイダンス
	4月 月上旬	前期授業開始
	4月 下旬まで	前期履修登録
	10月 初旬	後期授業開始
	10月 中旬まで	後期履修登録
	適時	第2回博士論文検討会 (中間発表)
3年次	4月 初旬	在学生ガイダンス
	4月 月上旬	前期授業開始
	4月 下旬まで	前期履修登録
	10月 初旬	後期授業開始
	10月 中旬まで	後期履修登録
	10月上～中旬	予備審査会申請書提出締め切り
	10月中旬～11月末	予備審査会
	1月上～中旬	論文提出・論文審査申請書提出 締め切り
	1月中～下旬	論文審査・最終試験
	2月 下旬	最終論文最終締め切り
	3月 初旬	博士論文発表会
	3月 中旬	学位記授与式

その他予定は、年間授業予定表参照のこと。

書類等の提出物の提出先および締め切りは、小鹿キャンパス 学生室・17時とする。

博士後期課程 履修及び論文作成スケジュールのモデル

時期		内容				
1 年次	前期	4月 5月 6月 7月 8月 9月	共通科目1~3科目 「看護学研究特講」 「生体環境科学特講」 「保健福祉政策特講」 看護学特講 看護学特別演習	看護学特別研究 I		
				副指導教員の希望申請(様式博第1号提出) 研究計画の立案		
				第1回博士論文検討会の準備 研究計画書審査の申請(研究計画書・様式博第3号提出)		
				第1回博士論文検討会(研究計画審査)		
				研究倫理審査申請		
	後期	10月				
		11月				
		12月				
		1月				
		2月				
		3月				
		2 年次	前期	4月 5月 6月 7月 8月 9月	共通科目1~2科目 「生体環境科学特論」 「保健福祉政策特論」	看護学特別研究 II
						研究遂行
	学会発表					
	副論文の投稿(必要時)					
	第2回博士論文検討会準備					
後期	10月					
	11月					
	12月			第2回博士論文検討会(研究中間発表)		
	1月					
	2月					
3 年次	前期	4月 5月 6月 7月 8月 9月		看護学特別研究 III		
				学会発表 博士論文作成		
				副論文の学術誌掲載(採用決定通知可)		
				予備審査の申請(博士論文・要旨・副論文・様式博第7号提出)		
				予備審査会		
	後期	10月		論文修正		
		11月				
		12月				
		1月		論文審査の申請(博士論文・要旨等と様式博第10号提出)		
		2月		博士論文審査会		
		3月		博士論文発表会 修了		

*前ページの博士後期課程スケジュールを目安としており、長期履修者はこの限りではない。

教育課程／履修方法

4. 教育課程

博士後期課程：授業科目・開講年次・単位数一覧

		授業科目	開講年次	単位数	
				必修	選択
共通科目	必修	看護学研究特講	1 前	2	
	選択	生体環境科学特講	1 前・2 前		2
		保健福祉政策特講	1 前・2 前		2
専門科目	選択	看護技術開発特講	1 前		2
		感染看護学特講	1 前		2
		小児看護実践開発特講	1 前		2
		助産学特講	1 前		2
		がん看護理論特講	1 前		2
		周手術期看護学特講	1 前		2
		精神保健看護学特講	1 前		2
		地域・在宅看護システム特講	1 前		2
		国際看護学・看護管理学特講	1 前		2
		公衆衛生情報学特講	1 前		2
		老年看護学特講	1 前		2
演習・研究科目	必修	看護学特別演習	1 通	2	
		看護学特別研究Ⅰ	1 通	2	
		看護学特別研究Ⅱ	2 通	2	
		看護学特別研究Ⅲ	3 通	4	

教育の方法、授業科目

看護学研究科の教育は、授業科目の講義、演習及び実習、学位論文の作成等に対する指導（以下「研究指導」という。）によって行うものとする。授業科目の種類及び単位数等は、静岡県立大学大学院看護学研究科規程 大学院学則の別表（二）看護学研究科（博士後期課程）のとおりとする。

研究指導

入学時に学生ごとに指導教員を定める。学生は、履修する授業科目の選択及び研究にあたり、指導教員の指導を受けなければならない。研究指導は、原則として指導教員 1 名と副指導教員 1 名の計 2 名で行うこととし、1 年次 9 月までに副指導教員を決定する。

教育課程の構造

博士論文					
	研究科目	共通科目		専門科目	演習科目
	必修	必修	選択	選択	必修
3年	看護学特別研究Ⅲ				
2年	看護学特別研究Ⅱ				
1年	看護学特別研究Ⅰ	看護学研究特講	生体環境科学特講 保健福祉政策特講	老年看護学特講 公衆衛生情報学特講 国際看護学・看護管理学特講 地域・在宅看護システム特講 精神保健看護学特講 周手術期看護学特講 がん看護理論特講 助産学特講 小児看護実践開発特講 感染看護学特講 看護技術開発特講	看護学特別演習

授業科目の構成

共通科目(必修)

看護を科学的に探究するために、看護に関する研究論文を通して看護学の構築及び必要な研究手法の概要を学ぶ。看護学を発展させる研究者として研究活動に必要な高度な研究手法について文献の検索やクリティークを通し、その能力を修得するに必要となる「看護学研究特講」で構成される。

共通科目(選択)

様々なケア対象者や複雑化している環境・社会を理解するために、生体に影響を及ぼす関連学問領域の諸理論や概念、及びわが国の社会保障制度保健医療福祉政策を学ぶ「生体環境科学特講」と「保健福祉政策特講」を選択できる。

専門科目

専門科目として、専門性の高い実践の基盤となる理論と知識、実践と研究の課題、用いられる研究方法について追究し、学位論文への取り組みへ導く「特講科目」を設定する。

演習・研究科目

看護学研究特講での学修を基に、研究の遂行に必要な能力を高める。多様な看護の対象を踏まえ、文献クリティーク、フィールドワークなどの演習を通して、自己の研究課題を明確にする「看護学特別演習」を設定する。

そして、学位論文の研究に計画的に取り組むために、「看護学特別研究」を設定する。本課程での成果としての学位論文を標準修業年限の3年間で達成するためには、計画的に取り組む必要がある。そのため、「看護学特別研究Ⅰ」「看護学特別研究Ⅱ」「看護学特別研究Ⅲ」として8単位を1～3年・通年で設定する。

博士後期課程 履修モデル例

科目区分	授業年次	開講年次	単位数		1年次	2年次	3年次
			必修	選択			
共通科目	看護学研究特講	1前	2		→		
	生体環境科学特講	1・2前		2			
	保健福祉政策特講	1・2前		2		→	
専門科目	看護技術開発特講	1前		2			
	感染看護学特講	1前		2			
	小児看護実践開発特講	1前		2			
	助産学特講	1前		2	→		
	がん看護理論特講	1前		2			
	周手術期看護学特講	1前		2			
	精神保健看護学特講	1前		2			
	地域・在宅看護システム特講	1前		2			
	国際看護学・看護管理学特講	1前		2			
	公衆衛生情報学特講	1前		2			
	老年看護学特講	1前		2			
研究科目・演習	看護学特別演習	1通	2		→		
	看護学特別研究Ⅰ	1通	2		→		
	看護学特別研究Ⅱ	2通	2			→	
	看護学特別研究Ⅲ	3通	4				→
合計			12	4		16	

5. 履修方法

1) はじめに

本項では、大学院での授業の仕組みと、その履修に必要な手続き等を静岡県立大学大学院学則及び履修細則に従って解説する。授業の内容や事務上の手続きを熟知し、学修に支障がないように、この「履修方法」を十分活用する。また、4月に行われるガイダンスを必ず受け、不明な点は学生室に相談する。

以下、単位制、授業、授業科目、履修申告、試験、成績評価、修了、授業科目一覧、講義概要について、熟読のうえ今後の学修に役立てる。

2) 単位制

(1) 単位制とは

単位とは、一定の質の勉強ないし学修の量を示す基準となるものである。研究科で開講している各科目にはそれぞれ単位数が定められており、これらの科目を履修して合格すれば、単位を修得できる。

本学における学修は、単位数によって修了の可否が決定される。

(2) 単位と時間数

①授業は前期、後期の2学期に分けて実施され、原則として15週をもって1学期、30週をもって1学年としている。

②1単位の履修時間は、教室の内外合わせて45時間である。従って、1科目につき教室内外の3時間の学修を15週間行って1単位となる。

区分	1単位の履修時間		
	授業時間 (教室内)	自習時間 (教室外)	計
講義	15	30	45
演習	15	30	45

3) 授業

(1) 学期

本学での授業は、15週にわたる期間を単位として、前期・後期の2学期制を採用している。

(2) 授業時間

授業時間は、学生便覧を参照する。

(3) 授業時間割

授業時間割表は、前・後期に分けて作成され、4月のガイダンスの際に配布される。時間割は配布後、変更する場合がある。

(4) 休講、補講、集中講義等

①休講等

休講、授業時間及び授業場所の変更は、Web 学生サービスシステムまたは担当教員に確認する。休講の連絡がなく講義が行われなかった場合は、学生室にて確認する。

②補講

補講が行われる場合には、Web 学生サービスシステム等により連絡をする。

③集中・隔週講義

科目によっては、ある一定期間内に集中して行う講義または隔週に行う講義がある。詳細については Web 学生サービスシステム等で連絡する。

4) 授業科目

(1) 授業科目の分類

授業科目は、共通科目と専門科目から構成される。

①共通科目は、看護学の実践・教育・研究の土台となる理論や技法、保健医療に関連した諸科学を履修することで看護専攻領域の専門知識を深める。

②専門科目は、看護の特定の領域における科学的な知識や実践能力、研究的な思考能力を養う。

(2) 必修・選択等による履修区分

授業科目は、修了の要件として履修しなければならないか否かにより次のように分類される。

①必修科目：必ず修得しなければならない科目

②選択科目：指定された科目群のうち、所定の単位を必ず修得しなければならない科目

5) 履修登録

指導教員の個別指導を受けた上、履修する科目を決定し、所定の期日までに登録する。

(1) 履修登録は、前・後期各期に行うこととし、4月と10月に、Web 学生サービスシステムにより行う。登録期間は授業開始後2週間以内とする。履修すべき科目が登録されていることを必ず確認し、登録されていない場合は速やかに登録する。

(2) 他研究科の授業科目を履修しようとするときは、当該授業科目の担当教員の承認を得たうえで、当該研究科長の許可を受けなければならない。この許可願は、所定の書式（用紙は学生室にある）により、授業開始後2週間以内に学生室に提出する。他研究科の授業科目を履修した者には単位の認定を行うが、修了必要単位数には算入しないので注意する。

6) 試験

(1) 試験とは

大学院は、学修の効果を測定するために学生の履修した授業科目について、試験のうえ単位を与える。試験は授業担当教員の判断により、筆記・口答試問・実技テスト等の方法で行われる。

(2) 試験の種類

①定期試験

定期試験は、各学期の終了時に2週間にわたり実施される。定期試験時間割は、試験開始の原則10日前にWeb学生サービスシステム等により発表される。

②随時試験

定期試験期間以外に、授業中あるいは特別な時間を設けて随時に試験を実施することがある。この場合、授業中やWeb学生サービスシステム等で伝達される。

③追試験

次の理由で試験を欠席した者については、追試験を願い出ることができる。

- ・病気（ただし、医師の診断書を要する）
- ・忌引（1・2親等に限り、死亡の日より1週間以内）
- ・就職に関する事由（ただし、具体的に事情の具申あるもの）
- ・その他やむを得ない事由（ただし、具体的に事情の具申あるもの）

なお、軽微な風邪等は、正当な理由と認められないので注意する。

追試験を受けようとする者は、定期試験の当該科目試験終了の日から1週間以内に追試験願（用紙は学生室にある）にその事由を詳記し、医師の診断書またはその事由を証明する書類を添付し、学生室に届け出る。

④受験上の注意

試験場内では、すべて監督者の指示、またはあらかじめ指示されている事項に従う。

7) 成績評価

(1) 成績評価の方法

成績評価は、静岡県立大学大学院看護学研究科規程及び担当教員の評価方針により、試験、レポート等における学生の学修実績に基づき、優・良・可・不可の評語で表現される。

(2) 成績評価の基準

- 優： 100点～80点
- 良： 79点～70点
- 可： 69点～60点
- 不可： 59点以下

(3) 成績評価の発表

成績評価は、Web学生サービスシステムで確認できる。

8) 修了要件

(1) 修業年限

標準修業年限は3年とする。

(2) 取得単位数

修了要件となる授業科目について必要な取得単位数は 16 単位以上（共通科目 4 単位以上、専門科目 2 単位、演習・研究科目 10 単位）とする。

(3) 修了要件

修了要件は、博士後期課程に 3 年以上在籍し、授業科目について所定の単位数を取得し、必要な研究指導を受けた上で、博士論文の審査及び最終試験に合格することとする。

9) 学位記の授与

論文審査及び最終試験に合格し、研究科委員会が学位授与を承認した場合、その結果を学長に報告し、学長より博士(看護学)の学位記が授与される。

10) 論文要旨等の公表

文部科学省令学位規則第 8 条に基づき、博士の学位を授与した日から 3 ヶ月以内に当該博士の学位授与に係る論文内容の要旨及び論文審査の結果の要旨を本学ホームページ上の機関リポジトリにて公表する。

博士の学位を授与された者は、学位を授与された日から 1 年以内に自身の博士論文をインターネット上で公表することが義務付けられている。公表に当たっては、学位を授与した大学の機関リポジトリによる公表を原則としているため、本学では「静岡県立大学・短期大学部機関リポジトリ」を利用して博士論文を公表する。なお、学位を授与された日から 1 年を超えて全文の公表ができないやむを得ない事由があると研究科に認められた場合は、その事由が解消するまでの間、全文の公表を保留し、要約を公表することができる。

講義概要

【科目名】	看護学研究特講	【科目英語名】	Nursing Research Methodology
【開講時期】	2024 年度前期	【必選区分】	<input checked="" type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択
【授業形態】	<input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習	【単位数】	2 単位
【授業時間数】		【授業時間数】	30 時間
【科目責任者】	荒井孝子、竹熊カツマタ麻子、操華子、山下早苗、藤田景子、林みよ子、篁宗一、富安眞理、畑中純子、成瀬早苗、堀芽久美		
【担当教員】	荒井孝子、竹熊カツマタ麻子、操華子、山下早苗、太田尚子、藤田景子、山田紋子、林みよ子、篁宗一、富安眞理、畑中純子、鈴木千智、成瀬早苗、堀芽久美		
【DP との関連】	<input checked="" type="checkbox"/> DP1 <input type="checkbox"/> DP2 <input type="checkbox"/> DP3 <input checked="" type="checkbox"/> DP4		
【授業概要】	看護を科学的に探求するために、看護に関する研究論文を通して看護学の構築および必要な研究手法の概要を学ぶ。看護学を発展させる研究者として、研究活動に必要な高度な研究手法について文献の検索やクリティックを行う。 【キーワード】看護研究、研究手法、クリティック		
【授業目標】	1. 看護研究の特徴と概要について説明することができる。 2. 看護研究におけるさまざまな研究手法の特徴を理解できる。 3. 研究課題に適切な研究方法を選択できる。		
【授業展開】	<p>【授業方法】 対面もしくはオンライン 【アクティブラーニングを促す方法】 <input checked="" type="checkbox"/>A ディスカッション／ディバード <input type="checkbox"/>B グループワーク <input checked="" type="checkbox"/>C プレゼンテーション <input type="checkbox"/>D 実習／フィールドワーク</p> <p>【授業内容】</p> <p>第1回 看護学における実践と研究 第2回 看護学における実践と研究 第3回 研究の概念 第4回 研究の概念 第5回 看護学における研究手法の特徴 第6回 看護学における研究手法の特徴 第7回 看護研究課題の選択 第8回 看護研究課題の選択 第9回 研究デザインの設計 第10回 研究デザインの設計 第11回 測定の理論と妥当性 第12回 測定の理論と妥当性 第13回 関連文献の検討方法 第14回 研究倫理 第15回 実際の論文クリティック</p> <p>※講義の展開については指導教員に確認をすること</p>		
【事前・事後課題】	授業ごとの個別課題は、各授業回で指示する。		
【準備学習時間】	各授業回で指示する。		
【履修条件】	なし		
【関連科目】	看護学特論、看護学特別研究Ⅰ、看護学特別研究Ⅱ、看護学特別研究Ⅲ		
【評価方法】	プレゼンテーション(30%)、課題レポート(50%)、討議(20%)から総合的に評価する。		
【フィードバックの方法】	メールで質問を受け付ける。内容に応じて次回以降の授業回、または別途返答する。		
【テキスト】	Nursing Research-Generating and Assessing Evidence for Nursing Practice.,11 th (2020)／D.P. Polit and C.T. Beck /Wolters Kluwer／ISBN 1975110641		

【参考書】	BURNS AND GROVE' S The Practice of Nursing Research-Appraisal, Synthesis, and Generation of Evidence,9 th (2021) / J.R.Gray and S.K.Grove / Elsevier / ISBN 0323673171 その他、適宜紹介する		
【備考】	※授業を受ける上で個別に配慮が必要な場合は、事前に科目責任者に相談してください。		
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可

【科目名】	生体環境科学特講	【科目英語名】	Advanced Seminar on Bio-Environmental Sciences		
【開講時期】	2024 年前期	【必選区分】	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択	【単位数】	2 単位
【授業形態】	<input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習		【授業時間数】	30 時間	
【科目責任者】	荒井孝子				
【担当教員】	荒井孝子、井上健一郎				
【DP との関連】	<input checked="" type="checkbox"/> DP1 <input type="checkbox"/> DP2 <input type="checkbox"/> DP3 <input checked="" type="checkbox"/> DP4				
【授業概要】	多様性に富むケアの受け手への看護支援を前提におき、自らの研究課題を踏まえ、生体に影響を及ぼす関連学問領域の諸理論や概念、研究知見を活用した科学的エビデンスの構築、看護介入の開発の方法論を習得する。 【キーワード】環境、生体反応、健康阻害因子、看護介入				
【授業目標】	1. 我が国における社会環境医学の現状と健康の諸理論と概念について討議できる。 2. 環境がヒトの健康に及ぼす影響とその研究について討議できる。 3. 健康を護るために必要な看護介入の開発・提案のための方法論を検証できる。				
【授業展開】	<p>【授業方法】</p> <p>下記の課題に関して、履修者自らが興味を持ったテーマを設定し、著作もしくは論文などの文献を用いて、講義・討論を実施する。</p> <p>【アクティブラーニングを促す方法】</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>A ディスカッション／ディバード <input type="checkbox"/>B グループワーク <input checked="" type="checkbox"/>C プレゼンテーション <input type="checkbox"/>D 実習／フィールドワーク</p> <p>【授業内容】</p> <p>第 1 回：環境に適応する生体に関する諸理論とその概念（荒井） 第 2 回：大気環境とアレルギーに関する諸理論とその概念（井上） 第 3 回：生活習慣と環境に関する諸理論とその概念（荒井） 第 4 回：環境と生体反応に関する解剖・組織学的エビデンス 1（荒井） 第 5 回：環境と生体反応に関する解剖・組織学的エビデンス 2（荒井） 第 6 回：環境と生体反応に関する臨床研究のエビデンス 1（井上） 第 7 回：環境と生体反応に関する臨床研究のエビデンス 2（井上） 第 8 回：環境と生体反応に関するコホート研究のエビデンス 1（荒井） 第 9 回：環境と生体反応に関するコホート研究のエビデンス 2（荒井） 第 10 回：健康を護るために必要な医療的介入の分析 1（井上） 第 11 回：健康を護るために必要な医療的介入の分析 2（井上） 第 12 回：健康阻害因子とその予防的介入 1（荒井） 第 13 回：健康阻害因子とその予防的介入 2（荒井） 第 14 回：健康問題に関する看護介入の提案と理論的背景の検証・討議 1（荒井・井上） 第 15 回：健康問題に関する看護介入の提案と理論的背景の検証・討議 2（荒井・井上）</p>				
【事前・事後課題】	授業毎の個別課題は、各授業回にて指示する。				
【準備学習時間】	各自、授業回や自己の能力に応じて設定する。				
【履修条件】	なし				
【関連科目】	なし				
【評価方法】	ディスカッション(50%)、プレゼンテーション(50%)で評価する。				
【フィードバックの方法】	メールにて質問を受け付ける。内容に応じて次回以降の授業回、または別途返答する。				
【テキスト】	・環境アセスメント学入門／田中充、上杉哲郎ほか／/恒星社厚生閣／ISBN:978-4769916338 ・社会を変える健康のサイエンス:健康総合科学への 21 の扉／東京大学医学部肩甲総合学科(編集)／東京大学出版会／ISBN:978-4130634069				
【参考書】	・最新図解 PM2.5 と大気汚染がわかる本／饒村 曜／オーム社／ISBN: 978-4274504730 ・NEW 予防医学・公衆衛生学(改訂第 4 版)／岸玲子(監修)／南江堂／ISBN: 978-4524251162				

【備考】	※授業を受ける上で個別に配慮が必要な場合は、事前に科目責任者に相談してください。		
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可

【科目名】	保健福祉政策特講	【科目英語名】	Doctoral Seminar in Health and Welfare Policy		
【開講時期】	2024 年度前期	【必選区分】	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択	【単位数】	2 単位
【授業形態】	<input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習		【授業時間数】	30 時間	
【科目責任者】	東野定律				
【担当教員】	東野定律				
【DP との関連】	<input type="checkbox"/> DP1 <input checked="" type="checkbox"/> DP2 <input checked="" type="checkbox"/> DP3 <input type="checkbox"/> DP4				
【授業概要】	<p>わが国の医療・介護サービスにおける経営持続性について教授し、医療介護制度改革の動向を鑑み革新的な事業経営研究や医療・介護に関する政策手法や制度の特色も含めて考察を行う。</p> <p>地域包括ケアシステム改革の流れを概観し、政策評価・実証的なデータに基づく医療介護サービスのマネジメント方法を習得する。</p> <p>【キーワード】医療介護サービス、医療介護制度</p>				
【授業目標】	<ol style="list-style-type: none"> 1. わが国の医療・介護サービスにおける経営持続性について討議できる。 2. 医療介護制度改革の動向とその研究について討議できる。 3. 医療・介護保険制度に関する政策手法や制度の特色を討議できる。 				
【授業展開】	<p>【授業方法】対面もしくはオンラインによるプレゼンテーション、ディスカッション</p> <p>【アクティブラーニングを促す方法】</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>A ディスカッション／ディベード <input type="checkbox"/>B グループワーク <input checked="" type="checkbox"/>C プレゼンテーション <input type="checkbox"/>D 実習／フィールドワーク</p> <p>【授業内容】</p> <p>第 1 回 オリエンテーション・医療・看護政策の仕組みと変化</p> <p>第 2 回 医療・看護政策と診療報酬制度</p> <p>第 3 回 わが国の医療供給体制と病院の仕組み</p> <p>第 4 回 組織とケアマネジメント</p> <p>第 5 回 医療・介護職としてのキャリアディベロップメント</p> <p>第 6 回 個人の医療サービスと消費プロセス</p> <p>第 7 回 地域医療と訪問看護</p> <p>第 8 回 医療情報としての看護必要度</p> <p>第 9 回 看護必要度評価データの看護管理への活用</p> <p>第 10 回 医療介護サービスの質の評価・改善</p> <p>第 11 回 介護保険制度の持続性</p> <p>第 12 回 地域包括ケアの実態と地域医療</p> <p>第 13 回 保健医療福祉職における連携実態</p> <p>第 14 回 医療・介護におけるサービスイノベーション</p> <p>第 15 回 全体討議</p>				
【事前・事後課題】	主体的に授業に参画し、研究能力と専門性を修得できるよう事前準備と事後学習を行う。授業毎の個別課題は、各授業回にて指示する。				
【準備学習時間】	各授業回にて指示する。				
【履修条件】	なし				
【関連科目】	各特講				
【評価方法】	授業毎の課題(ミニレポート)50%、プレゼンテーション(グループ発表)および最終課題レポート 50%で評価する。				
【フィードバックの方法】	メールにて質問を受け付ける。内容に応じて次回以降の授業回、または別途返答する。				
【テキスト】	地域包括ケアシステムの深化: integrated care 理論を用いたチェンジマネジメント／筒井孝子／中央法規出版 ／ISBN:978-4805859414				

【参考書】	その他、適宜提示する。		
【備考】	※授業を受ける上で個別に配慮が必要な場合は、事前に科目責任者に相談してください。		
【社会人聴講生】	事前面談あり	【科目等履修生】	事前面談あり

【科目名】	看護技術開発特講	【科目英語名】	Doctoral Seminar in Nursing Technological Development		
【開講時期】	2024 年前期	【必選区分】	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択	【単位数】	2 単位
【授業形態】	<input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習		【授業時間数】	30 時間	
【科目責任者】	荒井孝子				
【担当教員】	荒井孝子、山口みのり(非常勤)				
【DP との関連】	<input checked="" type="checkbox"/> DP1 <input type="checkbox"/> DP2 <input type="checkbox"/> DP3 <input checked="" type="checkbox"/> DP4				
【授業概要】	看護技術の原理と構造を理解するため、哲学的基盤と理論的背景について学ぶ。エビデンスに基づいた看護技術の開発と検証について、その方法論を学ぶ。 【キーワード】看護技術、技術開発				
【授業目標】	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護技術に関する哲学的基盤、理論的背景の概要を説明できる。 2. 特定の看護技術について、その技術の構造を説明できる。 3. 技術開発する過程において、生理学的な視点でその看護技術を検証できる。 4. 開発された看護技術について、臨床的意義を検討できる。 5. 看護技術の質を高めるために、教育ツールの開発を含めた方法論の検討ができる。 				
【授業展開】	<p>【授業方法】 対面もしくはオンラインによる講義、プレゼンテーション、ディスカッション</p> <p>【アクティブラーニングを促す方法】 <input checked="" type="checkbox"/>A ディスカッション/ディベート <input type="checkbox"/>B グループワーク <input checked="" type="checkbox"/>C プレゼンテーション <input type="checkbox"/>D 実習/フィールドワーク</p> <p>【授業内容】</p> <p>第 1 回 オリエンテーション、看護技術の開発とは (荒井)</p> <p>第 2 回 看護技術論① 看護技術の哲学的背景(山口)</p> <p>第 3 回 看護技術論② 看護技術の哲学的背景(山口)</p> <p>第 4 回 看護技術論③ 看護技術に関連する理論(山口)</p> <p>第 5 回 看護技術論④ 看護技術に関連する理論(山口)</p> <p>第 6 回 看護技術論⑤ 看護技術の構造化(山口)</p> <p>第 7 回 看護技術論⑥ 看護技術の構造化(山口)</p> <p>第 8 回 看護技術の検証とその評価－生理学的手法による検討①(荒井)</p> <p>第 9 回 看護技術の検証とその評価－生理学的手法による検討②(荒井)</p> <p>第 10 回 看護技術の質を高めるための教育ツールの開発①(荒井)</p> <p>第 11 回 看護技術の質を高めるための教育ツールの開発②(荒井)</p> <p>第 12 回 看護技術の質を高めるための教育ツールの開発③(荒井)</p> <p>第 13 回 看護技術とその開発①(荒井)</p> <p>第 14 回 看護技術とその開発②(荒井)</p> <p>第 15 回 看護技術開発の課題とその展望(荒井)</p>				
【事前・事後課題】	授業毎の個別課題は、各授業回にて指示する。				
【準備学習時間】	各自、授業回や自己の能力に応じて設定する。				
【履修条件】	なし				
【関連科目】	看護学特別演習、看護学特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ				
【評価方法】	ディスカッション 40%、プレゼンテーション 40%、課題レポート 20%				
【フィードバックの方法】	メールにて質問を受け付ける。内容に応じて次回以降の授業回、または別途返答する。				
【テキスト】	・Nursing Research-Generating and Assessing Evidence for Nursing Practice, 11th (2020)/D.F.Polit & C.T.Beck /Wolters Kluwer/ISBN:1975110641 他は、授業中に適宜紹介する。				
【参考書】	・BURNS AND GROVE'S The Practice of Nursing Research-Appraisal, Synthesis, and Generation of Evidence, 9th (2021). / J.R.Gray & S.K.Grove / Elsevier /ISBN:0323673171 その他、適宜紹介する。				
【備考】	※授業を受ける上で個別に配慮が必要な場合は、事前に科目責任者に相談してください。				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可		

【科目名】	感染看護学特講	【科目英語名】	Doctoral Seminar in Infection Control Nursing		
【開講時期】	2024 年度前期	【必選区分】	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択	【単位数】	2 単位
【授業形態】	<input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習			【授業時間数】	30 時間
【科目責任者】	操華子				
【担当教員】	操華子				
【DP との関連】	<input checked="" type="checkbox"/> DP1 <input type="checkbox"/> DP2 <input type="checkbox"/> DP3 <input checked="" type="checkbox"/> DP4				
【授業概要】	世界規模で問題となっている感染症の現状について理解し、感染制御(感染管理)ならびに感染症看護の課題を探求するための学術的な基礎知識ならびに技術を修得する。 【キーワード】感染制御、感染管理、感染症看護、認識論的知識、存在論的知識				
【授業目標】	1. グローバルな視点から現在の感染症による問題・課題を明らかにできる。 2. 感染制御・感染症看護に寄与する理論開発のための方法を説明できる。 3. 感染予防対策のエビデンスを探求する方法を説明できる。 4. 感染症患者への看護介入ならびにその効果測定をデザインすることができる。				
【授業展開】	<p>【授業方法】対面もしくはオンラインによるプレゼンテーション、ディスカッション 【アクティブラーニングを促す方法】 <input checked="" type="checkbox"/>A ディスカッション/ディバード <input type="checkbox"/>B グループワーク <input checked="" type="checkbox"/>C プレゼンテーション <input type="checkbox"/>D 実習/フィールドワーク</p> <p>【授業内容】</p> <p>第 1 回:オリエンテーション、感染症の現状(世界、日本) 第 2 回:epistemological issue① 理論理解の基礎知識 第 3 回:epistemological issue② 概念分析と概念開発 第 4 回:epistemological issue③ 理論分析・理論開発 第 5 回:epistemological issue④ 理論評価 第 6 回:epistemological issue⑤ 感染制御・感染症看護に寄与する理論 第 7 回:epistemological issue⑥ 感染制御・感染症看護に寄与する周辺理論 第 8 回:ontological issue① 研究手法 量的研究法と質的研究法 第 9 回:ontological issue② 研究手法 パラダイム論争 第 10 回:ontological issue③ 研究手法 ミックス法(混合研究法) 第 11 回:ontological issue④ 感染予防策の効果検証研究の吟味① 第 12 回:ontological issue⑤ 感染予防策の効果検証研究の吟味② 第 13 回:ontological issue⑥ 感染予防策の効果検証研究の吟味③ 第 14 回:ontological issue⑦ integrated literature review と systematic review① 第 15 回:ontological issue⑧ integrated literature review と systematic review②</p>				
【事前・事後課題】	<p>事前課題</p> <p>第 1 回 シラバス内容の確認 第 2 回 テキスト1)第1・2章、2)第1章の精読 第 3 回 テキスト1)第3章、3)Part2の精読 第 4 回 テキスト1)第4章、3)Part4の精読 第 5 回 テキスト1)第5・6・7章の精読 第 6・7 回 テキスト1)第 13~18 章の精読 自身の研究課題の基盤となる理論についての発表準備 第 8・9 回 テキスト4)、5)、6)、8)第2、3部の精読 第 10 回 テキスト7)、8)第2部の精読 第 11・12・13 回 参考図書を精読後、自身で選定した文献の批判的吟味の結果の発表準備 第 14・15 回 テキスト8)第4部、9)の精読 自身の研究課題に関する文献レビューの発表準備 事後課題 各授業終了時に指示する。</p>				
【準備学習時間】	自身の学習ペースに応じて、履修生自身で設定する。				
【履修条件】	なし				
【関連科目】	看護学研究特講				
【評価方法】	事前課題の準備状況・プレゼンテーション(50%)、討議(50%)から総合的に評価する。				

【フィードバックの方法】	メールにて質問を受け付ける。内容に応じて次回以降の授業回、または別途返答する。		
【テキスト】	<p>1) Theoretical Basis for Nursing (5th ed.) / McEwen M. & Wills, E. M. / Wolters Kluwer / ISBN:978-1-4963-7982-5</p> <p>2) Knowledge Development in Nursing: Theory and Process (10th ed.) / Chinn, P.L. & Kramer, M.K. / ISBN:9978-0-323-53061-3</p> <p>3) Strategies for Theory Construction in Nursing (4th ed.) / Walker, L.O. & Avant, K.C. / Pearson Prentice Hall / ISBN:90-13-119126-8</p> <p>4) 社会科学の考え方: 認識論、リサーチデザイン、手法 / 野村康 / 名古屋大学出版会 / ISBN:978-4-8158-0876-1</p> <p>5) 社会科学のパラダイム論争: 2つの文化の物語 / Goertz, G. & Mahoney J., 西川賢・今井真士訳 / 勁草書房 / ISBN:9978-4-326-30242-0</p> <p>6) 社会科学の方法論争 / Brady, H. E. & Collier, D. Eds., 泉川泰博・宮下明聡訳 / 勁草書房 / ISBN:9978-4-326-30176-8</p> <p>7) Best practices for Mixed Methods Research in the Health Science / NIH Office of Behavioral and Social Science Research</p> <p>8) 現在の医学的研究方法 / Liangputtong, P. ed., 木原雅子・木原正博訳 / メディカル・サイエンス・インターナショナル / ISBN:9978-4-89592-714-7 C3047</p> <p>9) The Handbook of Research Synthesis / Cooper, H. & Hedges, L.V. / Russell Sage Foundation / ISBN:90-87154-226-9</p>		
【参考書】	<p>医療専門職のための研究論文の読み方: 批判的吟味がわかるポケットガイド / Crombie, I.K., 津富宏訳 / 金剛出版 / ISBN:9978-4-7724-0988-9</p> <p>臨床研究を正しく評価するには / Furberg, B.E. & Furberg, C.D., 折笠秀樹訳 / ライフサイエンス出版 / ISBN:9978-4-89775-313-3</p> <p>論文を正しく読むのはけっこう難しい / 植田真一郎 / 医学書院 / 9787-4-260-03587-3</p> <p>Critical appraisal of epidemiological studies and clinical trials (2nd ed) / Elwood, M. / Oxford University / ISBN:90-19-262744-9</p>		
【備考】	※授業を受ける上で個別に配慮が必要な場合は、事前に科目責任者に相談してください。		
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可

【科目名】	小児看護実践開発特講	【科目英語名】	Doctoral Seminar in Child Health Nursing
【開講時期】	2024 年度前期	【必選区分】	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択
【授業形態】	<input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習	【単位数】	2 単位
【授業時間数】		【授業時間数】	30 時間
【科目責任者】	山下早苗		
【担当教員】	山下早苗		
【DP との関連】	<input checked="" type="checkbox"/> DP1 <input type="checkbox"/> DP2 <input type="checkbox"/> DP3 <input checked="" type="checkbox"/> DP4		
【授業概要】	<p>国内外における小児看護の研究の動向を外観し、小児看護実践の質向上および発展に寄与する研究を行うために、理論枠組みを用いた研究方法、科学的エビデンス構築や理論開発に向けた研究方法を習得する。また、子どもを対象とした研究方法についても検討する。</p> <p>【キーワード】小児看護、研究方法、理論</p>		
【授業目標】	<ol style="list-style-type: none"> 1. 国内外における小児看護の研究の動向と課題を説明できる。 2. 小児看護を科学的に探求する研究方法を説明できる。 3. 子どもを対象にした研究方法を説明できる。 		
【授業展開】	<p>【授業方法】対面もしくはオンラインによる講義、プレゼンテーション、ディスカッション</p> <p>【アクティブラーニングを促す方法】</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>A ディスカッション/ディベート <input type="checkbox"/>B グループワーク <input checked="" type="checkbox"/>C プレゼンテーション <input type="checkbox"/>D 実習/フィールドワーク</p> <p>【授業内容】</p> <p>第 1 回: ガイダンス</p> <p>第 2 回～3 回: 国内外における小児看護の研究の動向と課題について検討</p> <p>第 4 回～5 回: 不確かさ理論枠組みを用いた小児看護の研究方法について検討</p> <p>第 6 回～7 回: 症状マネジメント理論枠組みを用いた小児看護の研究方法について検討</p> <p>第 8 回～9 回: 小児看護におけるセルフケア理論開発に向けた研究方法について検討</p> <p>第 10 回～11 回: 小児看護における科学的エビデンス構築に向けた研究方法について検討</p> <p>第 12 回～13 回: 子どもを対象とした研究方法と倫理的配慮について検討</p> <p>第 14 回～15 回: 関心のある研究テーマに関するスコーピングレビュー</p>		
【事前・事後課題】	<p>主体的に参画し、研究能力と専門性を発揮できるよう事前準備と事後学習を行う。</p> <p>課題は初回のガイダンスおよび各授業回で指示する。</p>		
【準備学習時間】	自分の能力に応じて、各自で設定する。		
【履修条件】	なし		
【関連科目】	看護学研究特講		
【評価方法】	課題レポート(20%)、プレゼンテーション(40%)、討議(40%)で総合的に評価する。		
【フィードバックの方法】	<p>質問はメールにて受け付ける。</p> <p>内容に応じて次回以降の授業回、または別途返答する。</p>		
【テキスト】	<p>看護研究 原理と方法 第 2 版. D.F.ポーリット & C.T.ベック(著)/近藤潤子(監訳), 医学書院.</p> <p>ISBN 9784260005265</p>		
【参考書】	<p>事例を通してやさしく学ぶ中範囲理論入門 第 2 版. 佐藤栄子 編著, 日総研, ISBN9784776014140</p> <p>看護実践に活かす中範囲理論 第 2 版. 野川道子 編著, メジカルフレンド社, ISBN 9784839216122</p> <p>よくわかる看護研究論文のクリティーク 第 2 版. 松本清子, 山川みやえ編著, 日本看護協会出版会, ISBN 9784818022713</p>		
【備考】	※授業を受ける上で個別に配慮が必要な場合は、事前に科目責任者に相談してください。		
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可

【科目名】	助産学特講	【科目英語名】	Doctoral Seminar in Midwifery
【開講時期】	2024 年度前期	【必選区分】	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択
【授業形態】	<input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習	【単位数】	2 単位
【科目責任者】	太田尚子	【授業時間数】	30 時間
【担当教員】	太田尚子		
【DPとの関連】	<input checked="" type="checkbox"/> DP1 <input type="checkbox"/> DP2 <input checked="" type="checkbox"/> DP3 <input checked="" type="checkbox"/> DP4		
【授業概要】	<p>助産学およびウィメンズヘルスに関連する理論と概念について理解し、概念分析、Evidence-based Practice のステップを学ぶと共に、様々な研究デザインの論文をクリティークすることを通して、論文を批判的に読む力を身につける。また、各自の助産学領域における関心テーマに関連した、既存の研究論文のクリティークを行い、各自の研究課題と研究の位置づけを明確にする。</p> <p>【キーワード】 Evidence-based Practice、クリティーク、概念分析</p>		
【授業目標】	<ol style="list-style-type: none"> 1. 助産学およびウィメンズヘルスに関連する理論と概念について説明できる。 2. シナリオから、それに関連する文献を検索して、Evidence-based Practice のステップに沿って検討して、文献の批判的吟味ができる。 3. 文献のクリティークの方法が理解でき、各自の関心あるテーマの文献をクリティークしながら読むことができる。 4. 自己の研究課題を明確にできる。 <p>自己の研究課題に沿って、文献レビューを行い、仮説の設定や概念図を作成できる。</p>		
【授業展開】	<p>【授業方法】各回、テーマにそったゼミ形式で実施する。ゼミでは、レジユメを作成し発表して討論をすすめる。</p> <p>【アクティブラーニングを促す方法】</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>A ディスカッション/ディバード <input type="checkbox"/>B グループワーク <input checked="" type="checkbox"/>C プレゼンテーション <input type="checkbox"/>D 実習/フィールドワーク</p> <p>【授業内容】</p> <p>第1回: ガイダンス(太田、藤田)</p> <p>第2回: 助産学に関連する理論とその概念(太田)</p> <p>第3回: ウィメンズヘルスに関連する理論とその概念(太田)</p> <p>第4回: 概念分析(太田)</p> <p>第5回: 研究の枠組みと研究方法のクリティーク (太田)</p> <p>第6回: Evidence-based Practice 課題について (太田)</p> <p>第7回: Evidence-based Practice 発表 RCT (太田)</p> <p>第8回: 助産学研究の論文クリティーク 発表(1) 量的研究 (太田)</p> <p>第9回: 助産学研究の論文クリティーク 発表(2) 質的研究 (太田)</p> <p>第10回: 研究テーマに関する既存研究 発表 (1) (太田)</p> <p>第11回: 研究テーマに関する既存研究 発表 (2) (太田)</p> <p>第12回: 研究課題(research question)の検討 (太田)</p> <p>第13回: 研究の意義、研究目的の検討 発表と討議 (太田)</p> <p>第14回: 研究課題と文献レビュー (太田)</p> <p>第15回: 仮説の設定と概念図の作成 発表 (太田)</p>		
【事前・事後課題】	<ul style="list-style-type: none"> ・Evidence-based Practice、文献クリティーク (1)、文献クリティーク (2) の課題についてクリティークシートを用いてレポートを作成し、プレゼンテーションの準備を行う。 ・自分の関心あるテーマから研究課題を明確にして、それに関する文献検索、文献カードの作成を行う。 ・各自の関心ある研究課題について文献レビューを作成する。 		
【準備学習時間】	各自で課題の取り組み状況に応じて、主体的に計画を立案して各自が設定する。		
【履修条件】	なし		
【関連科目】	看護学研究特講、看護学特別演習、看護学特別研究 I・II・III		

【評価方法】	Evidence-based Midwifery のレポート、プレゼンテーション、ディスカッション(20%) 文献クリティーク (1) レポート、プレゼンテーション、ディスカッション(20%) 文献クリティーク (2) レポート、プレゼンテーション、ディスカッション(20%) 研究課題に関する文献レビュー、プレゼンテーション(40%)		
【フィードバックの方法】	内容に応じて次回以降の授業回、または別途返答する。		
【テキスト】	<ul style="list-style-type: none"> •Nursing Research-Generating and Assessing Evidence for Nursing Practice, 11th (2020) / D.F.Polit & C.T.Beck / Wolters Kluwer / ISBN: 1975110641 他は、授業中に適宜紹介する。		
【参考書】	<ul style="list-style-type: none"> •BURNS AND GROVE'S The Practice of Nursing Research-Appraisal, Synthesis, and Generation of Evidence, 9th (2021). / J.R.Gray & S.K.Grove / Elsevier / ISBN: 0323673171 その他、適宜紹介する。		
【備考】	※授業を受ける上で個別に配慮が必要な場合は、事前に科目責任者に相談してください。		
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可

【科目名】	がん看護理論特講	【科目英語名】	Doctoral Seminar in Oncology Nursing
【開講時期】	2024 年前期	【必選区分】	□必修 □選択
【授業形態】	☑講義 □演習 □実習	【単位数】	2 単位
【授業時間数】		【授業時間数】	30 時間
【科目責任者】	山田 紋子		
【担当教員】	山田 紋子		
【DPとの関連】	☑DP1 □DP2 □DP3 ☑DP4		
【授業概要】	<p>がん患者とその家族への看護支援を前提におき、学生の関心のあるテーマを踏まえ、科学的エビデンスに基づいた看護実践を行うために必要な看護学および関連学問領域の諸理論・概念を学ぶ。さらに、そうした看護実践に向けた、科学的エビデンスの構築や理論開発の方法論を学ぶ。</p> <p>【キーワード】がん看護学、理論看護学、Evidence-based Practice</p>		
【授業目標】	<ol style="list-style-type: none"> 1. 科学的エビデンスの構築と理論開発の方法が理解できる。 2. 関心のあるテーマに関連する諸理論、概念が理解できる。 3. 関心のあるテーマに関連する看護支援の問題と今後の課題が説明できる。 		
【授業展開】	<p>【授業方法】 対面授業とする。ただし、希望者はオンライン双方向による受講も可能である。</p> <p>【アクティブラーニングを促す方法】 ☑A ディスカッション/ディベート □B グループワーク ☑C プレゼンテーション □D 実習/フィールドワーク</p> <p>【授業内容】</p> <p>第1回:オリエンテーション(山田)</p> <p>第2回:がん看護学および関連学問領域の諸理論・モデル・概念① 病みの軌跡理論, 病気の不確かさ理論(山田)</p> <p>第3回:がん看護学および関連学問領域の諸理論・モデル・概念② コンフォート理論(Confort Theory)(山田)</p> <p>第4回:がん看護学および関連学問領域の諸理論・モデル・概念③ 移行理論(Transitionas Theory)(山田)</p> <p>第5回:がん看護学および関連学問領域の諸理論・モデル・概念④ 意思決定理論, 意思決定支援モデル(山田)</p> <p>第6回:がん看護学および関連学問領域の諸理論・モデル・概念⑤ The Model of Symptom Management (MSM), The Integrated Approach to Symptom Management(IASM)(山田)</p> <p>第7回:理論開発の方法論①:概念分析(山田)</p> <p>第8回:理論開発の方法論②:理論分析(山田)</p> <p>第9回:理論開発の方法論③:理論構築(山田)</p> <p>第10回:科学的エビデンスの構築の方法①:メタ統合(山田)</p> <p>第11回:科学的エビデンスの構築の方法②:メタ分析(山田)</p> <p>第12回:科学的エビデンスの構築の方法③:システマティックレビュー(山田)</p> <p>第13回:関心のあるテーマに関連する看護支援の問題と今後の課題に関する検討①(山田)</p> <p>第14回:関心のあるテーマに関連する看護支援の問題と今後の課題に関する検討②(山田)</p> <p>第15回:関心のあるテーマに関連する看護支援の問題と今後の課題に関する検討③(山田)</p>		
【事前・事後課題】	<p>主体的に授業に参画し、専門性を修得できるよう事前準備と事後学習を行う。</p> <p>その他の授業毎の個別課題は、各授業回にて指示する。</p>		
【準備学習時間】	自分の能力に応じて、各自で設定する。		
【履修条件】	なし		
【関連科目】	看護学研究特講		
【評価方法】	課題レポート 40%、プレゼンテーション内容 40%、討議(参加への積極性、発言内容)20%		

【フィードバックの方法】	メールまた授業時に質問を受け付ける。内容に応じて次回以降の授業回、または別途返答する。		
【テキスト】	The Practice of Nursing Research 9 th / Elsevier / Gray, J.R. et al / ISBN: 978-0323673171 Nursing Research Generating and Assessing Evidence for Nursing Practice 11 th / Wolters Kluwer / Polit, D.F. & Beck, C.T. / ISBN: 978-1-975110-64-2. 他は、授業中に適宜紹介する。		
【参考書】	Strategies for Theory Construction in Nursing 6 th / Pearson / Walker, L.O., & Avant, K.C. / ISBN: 978-0134754079 Concept Development in Nursing: Foundations, Techniques, and Applications, 2 nd / Saunders / Rodgers, B.L., & Knaf, K.A. / ISBN: 978-0721682433 その他、適宜紹介する。		
【備考】	※授業を受ける上で個別に配慮が必要な場合は、事前に科目責任者に相談してください。 ※授業で取り上げる理論・モデル・概念は、学生の関心がある現象に従い、変更することがある。		
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可

【科目名】	周手術期看護学特講	科目英語名	Doctoral Seminar in Perioperative Nursing
【開講時期】	2024 年前期	【必選区分】	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択
【授業形態】	<input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習	【単位数】	2 単位
【科目責任者】	林みよ子	【授業時間数】	30 時間
【担当教員】	林みよ子、山田紋子		
【DPとの関連】	<input checked="" type="checkbox"/> DP1 <input type="checkbox"/> DP2 <input type="checkbox"/> DP3 <input checked="" type="checkbox"/> DP4		
【授業概要】	周手術期看護学に関する理論と看護実践を追究する。周手術期看護学分野における理論や最近の研究動向を概観し、研究デザインと専門的知識を修得することにより、研究課題の焦点化と方法論の検討を行う。 【キーワード】 周手術期看護、Evidence-based Nursing Practice、看護理論		
【授業目標】	<ol style="list-style-type: none"> 1. 国内外の周手術期看護の研究動向と課題が説明できる。 2. 関心あるテーマに関連する諸理論・諸概念が理解できる。 3. 周手術期にある患者への看護実践のエビデンスを見出す方法を説明できる。 		
【授業展開】	<p>【授業方法】 対面もしくはオンラインによるプレゼンテーション、ディスカッション 【アクティブラーニングを促す方法】 <input checked="" type="checkbox"/>A ディスカッション／ディバード <input type="checkbox"/>B グループワーク <input checked="" type="checkbox"/>C プレゼンテーション <input type="checkbox"/>D 実習／フィールドワーク</p> <p>【授業内容】</p> <p>第 1 回：周手術期看護学および関連学問領域の理論・モデル・概念①(林) ストレス・コーピング理論、危機理論、</p> <p>第 2 回：周手術期看護学および関連学問領域の理論・モデル・概念②(山田) 自己概念、ボディイメージ、意思決定</p> <p>第 3 回：周手術期看護学および関連学問領域の理論・モデル・概念③(林) コンフォート理論、家族理論</p> <p>第 4 回：理論開発の方法論①概念分析・概念開発(林)</p> <p>第 5 回：理論開発の方法論②理論分析・理論開発(林)</p> <p>第 6 回：科学的エビデンスの構築方法①メタ分析(林)</p> <p>第 7 回：科学的エビデンスの構築方法②メタ統合(林)</p> <p>第 8 回：周手術期看護に関する研究の動向①(林・山田)</p> <p>第 9 回：周手術期看護に関する研究の動向②(林・山田)</p> <p>第 10 回：周手術期看護に関する論文クリティーク①質的研究(林)</p> <p>第 11 回：周手術期看護に関する論文クリティーク②量的研究(山田)</p> <p>第 12 回：周手術期看護に関する文献クリティーク③介入研究(林・山田)</p> <p>第 13 回：関心あるテーマに関連する看護実践の問題と課題の検討①(林・山田)</p> <p>第 14 回：関心あるテーマに関連する看護実践の問題と課題の検討②(林・山田)</p> <p>第 15 回：関心あるテーマに関連する看護実践の問題と課題の検討③(林・山田)</p>		
【事前・事後課題】	主体的に授業に参画し、研究能力と専門性を修得できるよう事前準備と事後学習を行う。授業毎の個別課題は、各授業回にて指示する。		
【準備学習時間】	各授業回にて指示する。		
【履修条件】	なし		
【関連科目】	看護学研究特講		
【評価方法】	プレゼンテーション(40%)、課題レポート(40%)、討議(20%)から総合的に評価する。		
【フィードバックの方法】	メールにて質問を受け付ける。内容に応じて次回以降の授業回、または別途返答する。		
【テキスト】	Essentials of Perioperative Nursing 6th / Jones & Bartlett Learning / Goodman, T. Spry, C. / ISBN : 9781284079821 Theoretical Nursing 6 th edition (2018) / Meleis A.I. / Wolters Kluwer / ISBN : 978-0-06-000042-4		

【参考書】	Concept development in nursing: Foundation, Techniques, and Applications. Rodgers B.L./ Saunders/978-0721682433. その他、適宜、授業内で紹介する。		
【備考】	※授業を受ける上で個別に配慮が必要な場合は、事前に科目責任者に相談してください。		
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可

【科目名】	精神保健看護学特講	【科目英語名】	Doctoral Seminar in Psychiatric and Mental Health Nursing
【開講時期】	2024 年度前期	【必選区分】	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択
【授業形態】	<input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習	【単位数】	2 単位
【科目責任者】	篁宗一	【授業時間数】	30 時間
【担当教員】	篁宗一		
【DPとの関連】	<input checked="" type="checkbox"/> DP1 <input type="checkbox"/> DP2 <input type="checkbox"/> DP3 <input checked="" type="checkbox"/> DP4		
【授業概要】	<p>精神看護学の応用理論を学び、最新の精神看護・保健学の論文を幅広く読みとく。そして最新の精神看護学の知見についての現状と課題を明らかにする。その過程を踏まえて現在の精神看護実践の評価の視点を養い、今後の支援方法について検討する。</p> <p>【キーワード】メンタルヘルス、リカバリー、偏見、予防</p>		
【授業目標】	<p>1.精神保健に関する様々な現状について、国内外の論文を読み解くことを通じて、様々な現場で起こっている事実を説明できる。</p> <p>2.医療機関から地域に至るまでの精神障害者が直面している現状と課題や有効な支援の方法について説明できる。</p> <p>3.精神保健上の現状と課題から、今後の対策に連なる支援やケアなどの手法を知り、新たな方法を提案できる。</p>		
【授業展開】	<p>【授業方法】 対面授業とする。ただし、希望者はオンライン双方向による受講も可能である。</p> <p>【アクティブラーニングを促す方法】 <input checked="" type="checkbox"/>A ディスカッション/ディベート <input type="checkbox"/>B グループワーク <input checked="" type="checkbox"/>C プレゼンテーション <input type="checkbox"/>D 実習/フィールドワーク</p> <p>【授業内容】 第1回:オリエンテーションと精神保健福祉の歴史 第2回:国内における精神保健上の問題についての現状 第3回:国内における精神保健上の対策についての現状 第4回:諸外国における精神保健上の問題についての現状 第5回:諸外国における精神保健上の対策についての現状 第6回:精神障害に対する有効な予防対策の現状 第7回:地域での支援に関するテーマ:訪問看護 第8回:地域での支援に関するテーマ:行政や家族会の支援 第9回:医療機関内で展開する精神看護のスキル 第10回:学校現場などで展開する予防的介入モデル 第11回:精神看護で用いる理論や概念のモデル:ストレス、危機理論 第12回:精神看護で用いる理論や概念のモデル:リカバリーモデル、ストレングスモデル 第13回:精神障害者の家族支援や地域移行支援などの実践的応用 第14回:産業現場でのメンタルヘルス対策 第15回:まとめ:今後の精神保健対策への提案</p>		
【事前・事後課題】	<p>主体的に授業に参画し、研究能力と専門性を修得できるよう事前準備と事後学習を行う。 授業毎の課題は各授業回にて指示する。</p>		
【準備学習時間】	各授業回にて指示する。		
【履修条件】	なし		
【関連科目】	看護学研究特講		
【評価方法】	プレゼンテーション 30%、レポート 50%、討議 20%		

【フィードバックの方法】	授業中の質問は時間内に返答する。その他の質問は内容に応じて次回の授業回、または別途返答する。		
【テキスト】	精神看護学 I [第 6 版]—精神保健学— / 吉松 和哉、小泉 典章、川野 雅資 編集 / ヌーヴェルヒロカワ / ISBN: 978-4-86174-064-0		
【参考書】	プロセス・コンサルテーション援助関係を築くこと / E.H.シャイン、稲葉 元吉(訳)、尾川 丈一(訳) / 白桃書房 / ISBN: 978-4561131403		
【備考】	※授業を受ける上で個別に配慮が必要な場合は、事前に科目責任者に相談してください。		
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可

【科目名】	地域・在宅看護システム特講	【科目英語名】	Doctoral Seminar in Community-based Integrated Care System		
【開講時期】	2024 年度前期	【必選区分】	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択	【単位数】	2 単位
【授業形態】	<input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習		【授業時間数】	30 時間	
【科目責任者】	富安眞理				
【担当教員】	富安眞理、畑中純子				
【DP との関連】	<input checked="" type="checkbox"/> DP1 <input type="checkbox"/> DP2 <input type="checkbox"/> DP3 <input checked="" type="checkbox"/> DP4				
【授業概要】	<p>地域の集団特性に伴う健康回復、維持、増進のために、地域の健康状態把握、資源調査・開発、看護援助方法及び地域包括ケアシステム整備について探究する。また個人・家族及び集団の健康指標、QOL 指標に関する質的・量的評価、顕在・潜在の健康問題把握と、健康問題解決のための研究に取り組む。</p> <p>【キーワード】 地域・在宅看護、看護システム</p>				
【授業目標】	<p>1. 地域の健康状態把握、資源調査・開発、看護援助方法、地域包括ケアシステム整備について修得できる。</p> <p>2. 地域で生活する人々の健康問題の把握、評価方法、問題解決策について修得できる。</p> <p>3. 地域・在宅看護に関する研究の動向を検討することができる。</p>				
【授業展開】	<p>【授業方法】 対面もしくはオンラインによるプレゼンテーション、ディスカッション</p> <p>【アクティブラーニングを促す方法】</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>A ディスカッション／ディバード <input type="checkbox"/>B グループワーク <input checked="" type="checkbox"/>C プレゼンテーション <input type="checkbox"/>D 実習／フィールドワーク</p> <p>【授業内容】</p> <p>第 1 回：地域看護の概念、活用する理論及び法律体系（富安）</p> <p>第 2 回：在宅看護の概念、活用する理論及び法律体系（富安）</p> <p>第 3 回：産業看護の概念、活用する理論及び法律体系（畑中）</p> <p>第 4 回：在宅移行支援に関連する概念・理論①不確かさ・不確かさ理論（富安）</p> <p>第 5 回：在宅移行支援に関連する概念・理論②移行・移行理論（富安）</p> <p>第 6 回：在宅移行支援に関連する概念・理論③家族システム理論（富安）</p> <p>第 7 回：地域の健康問題アセスメント法および問題解決法・資源開発（富安）</p> <p>第 8 回：職域の健康状態把握方法とアセスメント法（畑中）</p> <p>第 9 回：職域の健康問題解決法と評価（畑中）</p> <p>第 10 回：地域包括ケアシステムにおける在宅ケアサービス（富安）</p> <p>第 11 回：地域・在宅看護に関する研究動向（富安）</p> <p>第 12 回：地域・在宅看護に関する研究動向（富安）</p> <p>第 13 回：在宅移行支援に関する研究動向（富安）</p> <p>第 14 回：産業看護に関する研究動向（畑中）</p> <p>第 15 回：まとめ（富安）</p>				
【事前・事後課題】	主体的に講義・プレゼンテーションに参画し、研究能力と専門性を修得できるよう事前・事後学習に取り組む。各クラスの学習課題は、各クラスにて指示する。				
【準備学習時間】	各クラスにて指示する。				
【履修条件】	なし				
【関連科目】	看護学研究特講、看護学特別演習、各看護学特別研究				
【評価方法】	討議 40%、プレゼンテーション 40%、課題レポート 20%から総合的に評価する。				
【フィードバックの方法】	メールにて質問を受け付ける。内容に応じて次回以降のクラス、または別途返答する。				
【テキスト】	看護研究 原理と方法 第 2 版／Polit,D.F., &Beck,C.T./近藤潤子(監訳)／医学書院／ISBN: 978-4260005265 バーズ&グローブ 看護研究入門 原著第 7 版／Grove,S.K., Burns,N., &Gray,J.R./黒田裕子他(監訳)／エルゼビアジャパン／ISBN: 978-4860343002.				
【参考書】	その他、適宜提示する。				
【備考】	※授業を受ける上で個別に配慮が必要な場合は、事前に科目責任者に相談してください。				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可		

【科目名】	国際看護学・看護管理学特講	【科目英語名】	Doctoral Seminar in Global Health Nursing & Nursing Leadership		
【開講時期】	2024 年 前期	【必選区分】	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択	【単位数】	2 単位
【授業形態】	<input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習		【授業時間数】	30 時間	
【科目責任者】	竹熊カツマタ麻子				
【担当教員】	竹熊カツマタ麻子				
【DP との関連】	<input type="checkbox"/> DP1 <input checked="" type="checkbox"/> DP2 <input type="checkbox"/> DP3 <input type="checkbox"/> DP4				
【授業概要】	<p>国際看護学における実践、研究に関する現状についての理解を深める。「すべての人に健康を」とのビジョンの下に提唱された World Health Organization(WHO)の Primary Health Care 等の国際保健の実践モデルについて学ぶとともに、グローバルヘルスにおける研究の役割を考察し研究手法について学ぶ。</p> <p>看護管理学の領域におけるケアの安全、ケアの質の向上、医療における問題の解決など図るために必要な方法論、変革理論、リーダーシップ理論、看護管理に関係する研究方法、プロジェクトマネジメントについて学ぶ。具体的な内容については履修者の専門性を考慮する。</p> <p>【キーワード】 プライマリーヘルスケア (PHC)、グローバルヘルス(国際保健)、 World Health Organization (WHO)、 グローバルヘルスリサーチ、リーダーシップ、 Safety and Quality of Health Care</p>				
【授業目標】	<ol style="list-style-type: none"> 1.国際看護学・看護管理学の領域における実践、研究、教育に関する現状、トレンド、課題についての理解を深め説明できる。 2.履修者の研究テーマに沿って、研究のプロセス、方法論、理論、モデル等について知識を深め説明できる。 3.履修者の研究テーマに関連する概念を定義することができるように、概念分析について説明できる。 4.履修者の研究テーマに関連する実践と理論の活用について説明できる。 				
【授業展開】	<p>【授業方法】 対面もしくはオンラインによるプレゼンテーション、ディスカッション</p> <p>【アクティブラーニングを促す方法】</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>A ディスカッション／ディバード <input type="checkbox"/>B グループワーク <input checked="" type="checkbox"/>C プレゼンテーション <input type="checkbox"/>D 実習／フィールドワーク</p> <p>【授業内容】</p> <p>第 1 回： 授業ガイダンス、国際看護・国際保健(グローバルヘルス) 総論</p> <p>第 2 回： 授業ガイダンス、看護管理・Nursing Leadership 総論</p> <p>第 3 回： 先行研究を読み解く</p> <p>第 4 回： 研究の問について</p> <p>第 5 回： 研究の問いから考える研究の哲学的な背景</p> <p>第 6 回： 研究の問いと研究デザインについて</p> <p>第 7 回： 研究課題に関係する理論やモデルについて</p> <p>第 8 回： 研究課題に関係する理論やモデルについて (2)</p> <p>第 9 回： 理論やモデルの検証について</p> <p>第 10 回： 概念の定義と概念分析について</p> <p>第 11 回： 研究デザイン / サンプリング</p> <p>第 12 回： 分析と分析における視点</p> <p>第 13 回： 研究事例検討 I</p> <p>第 14 回： 研究事例検討 II</p> <p>第 15 回： まとめ 最終プレゼンテーション</p>				
【事前・事後課題】	各授業回にて提示する。				
【準備学習時間】	各回の事前・事後課題に合わせて各自で設定する。				
【履修条件】	なし				
【関連科目】	広域看護学特論 VI				
【評価方法】	プレゼンテーション (40%)、レポート(30%)、討議 (30%)				
【フィードバックの方法】	プレゼンテーション、ディスカッションについては授業当日にフィードバックを行う。レポートや課題については質問や相談をメールにて受け付け、メール、またはオンラインで返答をする。				
【テキスト】	看護研究 第 2 版—原理と方法／D. F. ポーリット (著), C. T. ベック (著), 近藤 潤子 (翻訳) 医学書院 ISBN-13 978-4260005265				

【参考書】	看護理論の分析と評価/J. フォーセット 医学書院 ISBN-13 978-4260006347, 看護の重要コンセプト 20 看護分野における概念分析試み/J.R. Cutcliffe & H.P. McKenna Elsevier, ISBN-13 978-4860347277, 看護における概念開発: 基礎・方法・応用 Beth L. Rodgers (原著, 編集), Kathleen A. Knafl (原著, 編集), 近藤 麻理 (監修) 医学書院 ISBN-13 978-4260043472		
【備考】	※授業を受ける上で個別に配慮が必要な場合は、事前に科目責任者に相談してください。		
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可

【科目名】	公衆衛生情報学特講		【科目英語名】	Doctoral Seminar in Public Health Informatics	
【開講時期】	2024 年前期	【必選区分】	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択	【単位数】	2 単位
【授業形態】	<input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習			【授業時間数】	30 時間
【科目責任者】	堀芽久美				
【担当教員】	堀芽久美				
【DP との関連】	<input type="checkbox"/> DP1 <input checked="" type="checkbox"/> DP2 <input checked="" type="checkbox"/> DP3 <input type="checkbox"/> DP4				
【授業概要】	公衆衛生対策の評価、効率化、精度管理に利用される情報システム、情報解析、情報発信・提供の方法を学ぶ。さらに、公衆衛生活動事例をもとに、実態把握・モニタリング、課題の特定、対策の立案・導入、評価・改善、情報発信・提供までの情報技術・解析方法の活用場面を理解する。 【キーワード】 公衆衛生、情報システム、情報解析、情報発信				
【授業目標】	<ol style="list-style-type: none"> 1. 公衆衛生対策に利用される情報システム、データベースを説明できる。 2. 公衆衛生対策における医療情報活用の利益とリスクを説明できる。 3. 公衆衛生対策の目的に合わせて、医療情報データの解析方法を提案できる。 4. 医療情報データの解析結果を他者に理解しやすく伝えることができる。 				
【授業展開】	<p>【授業方法】 対面もしくはオンラインによるプレゼンテーション、ディスカッション 【アクティブラーニングを促す方法】 <input checked="" type="checkbox"/>A ディスカッション／ディバード <input type="checkbox"/>B グループワーク <input checked="" type="checkbox"/>C プレゼンテーション <input type="checkbox"/>D 実習／フィールドワーク</p> <p>【授業内容】</p> <p>第 1 回：公衆衛生対策における情報活用の歴史および情報システムの役割 第 2 回：保健医療情報の提供の現状、情報提供に伴うリスクと対策 第 3 回：研究デザインと解釈① コホート研究、症例対照研究、公衆衛生サーベイランス、データの二次利用 第 4 回：研究デザインと解釈② 交絡、測定誤差、一般化可能性、精度と妥当性、サンプルサイズ 第 5 回：情報の解析① Population Attributable Fraction による影響規模の評価 第 6 回：情報の解析② Time-To-Event Analysis によるイベント発生確率の評価 第 7 回：情報の解析③ Mediation Analysis による因果効果のメカニズムの分析 第 8 回：情報の解析④ Simulation Analysis を用いた費用対効果分析 第 9 回：情報の解析⑤ Spatial Analysis による地理的特徴の分析 第 10 回：情報の可視化の方法と工夫 第 11 回：情報の公開・発信の方法と工夫 第 12 回：事例検討① 公開データに基づく地域の実態把握・モニタリング 第 13 回：事例検討② 公開データに基づく地域の課題特定 第 14 回：事例検討③ 公開データに基づく公衆衛生対策の効果予測・評価 第 15 回：事例検討④ まとめ(プレゼンテーション)</p>				
【事前・事後課題】	各授業回にて提示する。				
【準備学習時間】	各回の事前・事後課題に合わせて各自で設定する。				
【履修条件】	統計学の基礎知識(代表値・ばらつき・相関に関する指標、統計学的検定、回帰分析)を有していること。				
【関連科目】	広域看護学特論 V				
【評価方法】	プレゼンテーション(50%)、レポート(20%)、討議(30%)				
【フィードバックの方法】	プレゼンテーション・討議に対しては当日の発表後、レポートに対してはメールにてフィードバックする。質問はメールにて受け付け、次回以降の授業回、またはメールにて返答する。				
【テキスト】	Modern Epidemiology, Fourth Edition/Timothy L. Lash, Tyler J. VanderWeele, Sebastien Haneuse, and Kenneth J. Rothman/Wolters Kluwer/978-1-4511-9328-2				
【参考書】	R for Data Analysis in easy steps, 2nd edition/Mike McGrath/In Easy Steps Limited/978-1-8407-8998-0				
【備考】	※授業を受ける上で個別に配慮が必要な場合は、事前に科目責任者に相談してください。				
【社会人聴講生】	可		【科目等履修生】	不可	

【科目名】	老年看護学特講		【科目英語名】	Doctoral Seminar in Gerontological Nursing	
【開講時期】	2024 年前期	【必選区分】	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択	【単位数】	2 単位
【授業形態】	<input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習			【授業時間数】	30 時間
【科目責任者】	成瀬早苗				
【担当教員】	成瀬早苗				
【DP との関連】	<input type="checkbox"/> DP1 <input checked="" type="checkbox"/> DP2 <input type="checkbox"/> DP3 <input type="checkbox"/> DP4				
【授業概要】	<p>老年看護における実践・教育・研究の現状を幅広く概観し、そこから課題を明確にしなが、課題を分析して問題解決できるような研究・教育指導者としての能力を養う。さらに、老年看護の中心的概念や理論の基礎的な知識を修得しながら、それらを実践・教育・研究へと導入できる能力、発展的で学術的な視点について修得できる能力を養う。</p> <p>【キーワード】 老年看護、高齢者、介護者</p>				
【授業目標】	<ol style="list-style-type: none"> 1. 老年看護における国内外の現状を把握し問題点を導くことができる。 2. それらの問題点を改善するための方略について検討し、研究課題を明確にできる。 3. 老年看護において活用されている概念や理論と実践・教育・研究への応用可能性について説明できる。 				
【授業展開】	<p>【授業方法】 対面もしくはオンラインによるプレゼンテーション、ディスカッション</p> <p>【アクティブラーニングを促す方法】</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>A ディスカッション／ディバード <input type="checkbox"/>B グループワーク <input checked="" type="checkbox"/>C プレゼンテーション <input type="checkbox"/>D 実習／フィールドワーク</p> <p>【授業内容】</p> <p>第1回：授業ガイダンス、課題の説明</p> <p>第2回：老年看護に関する主要概念の理解</p> <p>第3回～4回：老年看護における実践・教育・研究の動向(国内)とその多角的検討・分析</p> <p>第5回～6回：老年看護における実践・教育・研究の動向(国外)とその多角的検討・分析</p> <p>第7回～8回：研究課題の検討</p> <p>第9回～10回：研究課題に関する既存研究の発表・ディスカッション</p> <p>第11回～12回：研究の意義、研究の目的の検討</p> <p>第13回～14回：研究の課題に関する文献レビュー</p> <p>第15回：まとめ</p>				
【事前・事後課題】	主体的に授業に参画し、研究能力と専門性を修得できるよう事前準備と事後学習を行う。授業毎の個別課題は、各授業回にて指示する。				
【準備学習時間】	各授業回にて指示する。				
【履修条件】	なし				
【関連科目】	看護学研究特講、看護学特別演習、看護学特別研究Ⅰ、看護学特別研究Ⅱ、看護学特別研究Ⅲ				
【評価方法】	プレゼンテーション・ディスカッション(50%)と課題レポート(50%)で評価する。				
【フィードバックの方法】	メールにて質問を受け付ける。内容に応じて次回以降の授業回、または別途返答する。				
【テキスト】	<p>看護研究 原理と方法 第2版／Polit,D.F., &Beck,C.T.(2004/2010), 近藤潤子(監訳)／医学書院／ ISBN:978-4-260-00526-5</p> <p>APA 論文作成マニュアル(第3版)／アメリカ心理学会(訳前田樹海他)／医学書院／ISBN: 978-4260048125</p>				
【参考書】	<p>よくわかる看護研究論文のクリティーク／山川みやえ, 牧本清子／ ISBN:978-4-8180-1849-5</p> <p>文献レビューの基本／大木秀一／医歯薬出版／ ISBN:978-4-263-23581-2</p> <p>その他、適宜提示する。</p>				
【備考】	※授業を受ける上で個別に配慮が必要な場合は、事前に科目責任者に相談してください。				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可		

【科目名】	看護学特別演習	【科目英語名】	Doctoral Practicum in Nursing
【開講時期】	2024 年前期・後期	【必選区分】	<input checked="" type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択
【授業形態】	<input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習	【単位数】	2単位
【授業時間数】		【授業時間数】	30 時間
【科目責任者】	荒井孝子、竹熊カツマタ麻子、操華子、山下早苗、藤田景子、林みよ子、篁宗一、富安眞理、畑中純子、成瀬早苗、堀芽久美		
【担当教員】	荒井孝子、竹熊カツマタ麻子、操華子、山下早苗、太田尚子、藤田景子、山田紋子、林みよ子、篁宗一、富安眞理、畑中純子、成瀬早苗、堀芽久美、鈴木千智		
【DP との関連】	<input checked="" type="checkbox"/> DP1 <input type="checkbox"/> DP2 <input type="checkbox"/> DP3 <input type="checkbox"/> DP4		
【授業概要】	<p>主とする領域に該当する演習を選択し、看護学特講での学修を基に、研究の遂行に必要な能力を高める。多様な看護の対象を踏まえ、文献クリティーク、フィールドワークなどの演習を通して、自己の研究課題を明確にする。</p> <p>【キーワード】文献クリティーク、研究課題の明確化</p>		
【授業目標】	<ol style="list-style-type: none"> 1. 関心あるテーマに関する文献をクリティークすることができる。 2. 多様な看護の対象を踏まえて、自己の研究課題を検討できる。 3. 文献検討やフィールドワークなどからの学びを説明できる。 4. 文献検討やフィールドワークなどからの学びを基に、研究課題を明確にできる。 		
【授業展開】	<p>【授業方法】対面もしくはオンラインによるプレゼンテーション、ディスカッション</p> <p>【アクティブラーニングを促す方法】</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>A ディスカッション／ディバード <input type="checkbox"/>B グループワーク <input checked="" type="checkbox"/>C プレゼンテーション <input type="checkbox"/>D 実習／フィールドワーク</p> <p>【授業内容】</p> <p>本科目では、各学生の指導教員がそれぞれに授業を展開する。</p> <p>(荒井)</p> <p>看護技術開発特講及び生体環境科学特講等の学修を活かして、特に社会環境医学の観点および健康阻害因子と予防との関連についてレビューし、自己の課題を明確にする。</p> <p>(竹熊)</p> <p>国際看護、国際保健、看護管理、看護倫理等の領域の学修を踏まえ、研究テーマについての系統的な文献レビューを行い、研究の問いを明確にする。</p> <p>(操)</p> <p>講義で既習した知識をもとに、感染管理・感染看護学領域における研究課題を探索し、その研究課題を 探究する方法論について検討するための知識・技術を修得する。並行して、各自の研究課題を探究するのに適した方法論の検討を行う。</p> <p>(山下)</p> <p>小児看護実践開発特講での学修を基に、小児看護における倫理的課題や小児がんの子どもと家族を対象にした意思決定支援に関するテーマについて、文献的概観を明らかにし自己の研究課題を焦点化する。さらに、文献を批判的に吟味し研究手法を検討する。</p> <p>(太田)</p> <p>助産学特講での学修を基に、周産期喪失のグリーフケア、周産期メンタルヘルスなどのテーマについて、文献検索、批判的吟味、系統的レビューを行うと共に、フィールドワークを実施することを通して、自己の研究課題を明確にする。</p> <p>(藤田)</p> <p>助産学特講での学修を基に、学生が関心のあるドメスティック・バイオレンス(DV)や周産期メンタルヘルス等のテーマについて、批判的・系統的にレビューし、フィールドワーク等を行うことにより、自己の研究課題を明確化する。</p> <p>(山田)</p> <p>がん看護理論特講での学修を基に、学生が関心のある周手術期を中心とした乳がん看護に関するテーマについて、批判的、系統的にレビューし、フィールドワーク等を行うことにより、自己の研究課題を明確化する。</p> <p>(林)</p> <p>周手術期看護学特講での学修を基に、周手術期看護に関するテーマについて、文献を系統的・批判的にレビューし、フィールドワーク等を行って、自己の研究課題を明確化する。</p>		

	<p>(篁) 精神保健看護学特講の学修を基に、地域の作業所や精神科医療機関など精神看護実践を行う場所の見学や実践体験を行い支援法を学ぶとともに、看護職間や多職種間での連携を通じて精神看護の技術の習得を行うことで、医療機関から地域への移行の課題と展望について理解し、円滑な導入方法を具体化する。</p> <p>(富安) 地域・在宅看護システム特講の学修を基に、地域包括ケアおよび神経難病療養者とその家族への訪問看護支援に関するテーマについて、文献を包括的にレビューし、フィールドワーク等を行うことにより、自己の研究課題を明確化する。</p> <p>(畑中) 地域・在宅看護システム特講の学修を基に、地域保健活動に従事する保健師等の教育や職域の人々への健康支援に関するテーマについて文献を批判的、系列的にレビューし、フィールドワーク等を行うことにより、自己の研究課題を明確化する。</p> <p>(成瀬) 講義で既習した知識や学修を基に、特に支援を要する高齢者を対象としたテーマについて文献を収集、批判的吟味、系統的にレビューし、自己の研究課題を明確にする。さらに、課題を解決する研究手法を検討する。</p> <p>(堀) 実際に公開している国や都道府県の保健統計資料の解析、国内外の論文の包括的レビューを通して、地域の健康増進・保持活動の実態を明らかにし、健康増進・保持活動の促進に寄与する実現可能性のある自己の研究課題を明確にする。</p> <p>(鈴木) 講義で既習した知識や学修を基に、行政保健師が保健活動を実践する上での課題、特に情報共有における意思決定時に生じる倫理的ジレンマなどに関するテーマについて文献を収集、批判的、系統的にレビューし、フィールドワーク等を行うことにより、自己の研究課題を明確化する。</p> <p>第1回～3回：関心のあるテーマに関する文献クリティーク 第4回～6回：関心のあるテーマに関する文献の統合（システムティックレビュー・メタ分析、メタ統合） 第7回～12回：関心のあるテーマに関するフィールドワーク 第13回～15回：研究課題の明確化</p>		
【事前・事後課題】	授業毎の個別課題は、各授業回にて指示する。		
【準備学習時間】	各授業回にて指示する。		
【履修条件】	なし		
【関連科目】	看護学研究特講、看護学特別研究Ⅰ、看護学特別研究Ⅱ、看護学特別研究Ⅲ		
【評価方法】	プレゼンテーション(50%)、課題レポート(50%)などから、総合的に評価する。		
【フィードバックの方法】	メールにて質問を受け付ける。内容に応じて次回以降の授業回、または別途返答する。		
【テキスト】	<p>・BURNS AND GROVE'S The Practice of Nursing Research-Appraisal, Synthesis, and Generation of Evidence, 9th (2021)／J.R.Gray & S.K. Grove／Elsevier／ISBN: 0323673171</p> <p>・Nursing Research-Generating and Assessing Evidence for Nursing Practice, 11th (2020)／D.F.Polit & C.T.Beck／Wolters Kluwer／ISBN: 1975110641</p>		
【参考書】	担当教員より適宜紹介する。		
【備考】	※授業を受ける上で個別に配慮が必要な場合は、事前に科目責任者に相談してください。		
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可

【科目名】	看護学特別研究 I	【科目英語名】	Doctoral Dissertation Research I
【開講時期】	2024 年前期・後期	【必選区分】	<input checked="" type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択
【授業形態】	<input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習	【授業時間数】	30 時間
【科目責任者】	荒井孝子、竹熊カツマタ麻子、操華子、山下早苗、藤田景子、林みよ子、篁宗一、富安眞理、畑中純子、成瀬早苗、堀芽久美		
【担当教員】	荒井孝子、竹熊カツマタ麻子、操華子、山下早苗、太田尚子、藤田景子、山田紋子、林みよ子、篁宗一、富安眞理、畑中純子、成瀬早苗、堀芽久美、鈴木千智		
【DP との関連】	<input checked="" type="checkbox"/> DP1 <input checked="" type="checkbox"/> DP2 <input checked="" type="checkbox"/> DP3 <input checked="" type="checkbox"/> DP4		
【授業概要】	看護学研究特講、看護学特講、看護学特別演習での学修を活用して、自己の研究課題に関する研究計画書を立案・作成する。 【キーワード】研究計画		
【授業目標】	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自己の研究課題において、研究を行う目的と意義が説明することができる。 2. 研究デザインに基づき、研究方法を立案できる。 3. 研究計画に伴う倫理的問題およびそれに対する配慮を説明することができる。 4. 第 1 回博士論文検討会において研究計画の審査を受け、合格することができる。 		
【授業展開】	<p>【授業方法】対面もしくはオンラインによるプレゼンテーション、ディスカッション 【アクティブラーニングを促す方法】 <input checked="" type="checkbox"/>A ディスカッション／ディベート <input type="checkbox"/>B グループワーク <input checked="" type="checkbox"/>C プレゼンテーション <input type="checkbox"/>D 実習／フィールドワーク</p> <p>【授業内容】 本科目では、各学生の指導教員がそれぞれに授業を展開する。</p> <p>(荒井) 看護技術開発特講及び生体環境科学特講等の学修を活かして、特に社会環境医学の観点および健康阻害因子と予防との関連に関する研究計画書を立案・作成する。</p> <p>(竹熊) 国際看護、国際保健、看護管理、領域の学修を踏まえ、関心のある研究テーマについての系統的な文献レビューを行い、研究の問いを明確にする。研究の課題を設定し研究計画書を立案・作成する。</p> <p>(操) 博士論文の研究計画、研究実施手順、研究倫理、フィールド調整、分析方法について理解を深め、感染管理・感染看護学領域に関する研究課題の研究計画立案、倫理審査申請書類作成に必要な諸手続きを修得する。</p> <p>(山下) 看護学研究特講、小児看護実践開発特講、看護学特別演習での学修を活用し、小児看護における倫理的課題や小児がんの子どもと家族を対象にした意思決定支援など小児看護実践の質向上および発展に寄与できる博士論文の研究計画書を作成する。</p> <p>(太田) 看護学研究特講、助産学特講、看護学特別演習での学修を踏まえて、関心のある周産期喪失のグリーフケア、周産期メンタルヘルス等に関する研究課題を明確にして、研究計画書を作成する。</p> <p>(藤田) 看護学研究特講、助産学特講、看護学特別演習での学修を活用して、学生が関心のあるドメスティック・バイオレンス(DV)や周産期メンタルヘルス等に関する研究課題の研究計画書を立案・作成する。</p> <p>(山田) 看護学研究特講、がん看護理論特講、看護学特別演習での学修を活用して、学生が関心のある周手術期を中心とした乳がん看護に関する研究課題に関する研究計画書を立案・作成する。</p> <p>(林) 看護学研究特講、周手術期看護学特講、看護学特別演習での学修を活用して、周手術期看護に関する研究課題の研究計画書を立案する。</p> <p>(篁) 看護学研究特講、精神保健看護学特講、看護学特別演習での学修を活用して、思春期の地域の精神保健に関する早期予防についてテーマを明確にし、適切な研究方法を用いた研究計画を作成する。</p>		

	<p>(富安) 地域・在宅看護システム特講、看護学特別演習での学修を活用して、地域包括ケアおよび神経難病療養者とその家族への訪問看護支援に関する研究課題の研究計画書を立案する。</p> <p>(畑中) 地域・在宅看護システム特講、看護学特別演習での学修を活用して、地域保健活動に従事する保健師等の教育及び職域の人々への健康支援に関する研究課題の研究計画書を立案・作成する。</p> <p>(成瀬) 既習の学修を活用し、特に支援を要する高齢者を対象とした研究課題に関する研究計画を立案・作成する。</p> <p>(堀) 看護学特別演習での学修を踏まえ、地域に実在する健康増進・保持活動の促進に寄与する研究課題に関する博士論文の作成に向けた研究計画の立案、研究計画書の作成を行う。</p> <p>(鈴木) 看護学特別演習での学修を踏まえ、行政保健師が保健活動を実践する上での課題、特に情報共有における意思決定時に生じる倫理的ジレンマなどに関する研究計画と立案・作成する。</p> <p>第1回～2回:研究目的・意義の明確化 第3回～4回:研究デザインの検討 第5回～6回:研究方法の検討 第7回～8回:サブストラクション(理論的基盤-研究デザイン-研究方法-分析モデルの一貫性の検討) 第9回～10回:研究計画書の作成 第11回～13回:第1回博士論文検討会の受審(準備を含む) 第14回～15回:研究倫理審査委員会の受審(準備を含む)</p>		
【事前・事後課題】	授業毎の個別課題は、各授業回にて指示する。		
【準備学習時間】	各授業回にて指示する。		
【履修条件】	なし		
【関連科目】	看護学研究特講、看護学特別演習、看護学特別研究Ⅱ、看護学特別研究Ⅲ		
【評価方法】	検討会でのプレゼンテーション(30%)、研究計画書の審査内容(70%)などから、総合的に評価する。 研究計画書の審査基準は、「静岡県立大学大学院看護学研究科博士学位審査に関する細則」を参照する。		
【フィードバックの方法】	メールにて質問を受け付ける。内容に応じて次回以降の授業回、または別途返答する。		
【テキスト】	<p>・BURNS AND GROVE'S The Practice of Nursing Research-Appraisal, Synthesis, and Generation of Evidence, 9th (2021)/J.R.Gray & S.K. Grove/Elsevier/ISBN:0323673171</p> <p>・Nursing Research-Generating and Assessing Evidence for Nursing Practice, 11th (2020)/D.F.Polit & C.T.Beck/Wolters Kluwer/ISBN:1975110641</p>		
【参考書】	担当教員が適宜提示する。		
【備考】	※授業を受ける上で個別に配慮が必要な場合は、事前に科目責任者に相談してください。		
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可

【科目名】	看護学特別研究Ⅱ	【科目英語名】	Doctoral Dissertation Research Ⅱ
【開講時期】	2024 年前期・後期	【必選区分】	<input checked="" type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択
【授業形態】	<input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習	【単位数】	2単位
【授業時間数】		【授業時間数】	30 時間
【科目責任者】	荒井孝子、竹熊カツマタ麻子、操華子、山下早苗、藤田景子、林みよ子、篁宗一、富安眞理、畑中純子、成瀬早苗、堀芽久美		
【担当教員】	荒井孝子、竹熊カツマタ麻子、操華子、山下早苗、太田尚子、藤田景子、山田紋子、林みよ子、篁宗一、富安眞理、畑中純子、成瀬早苗、堀芽久美、鈴木千智		
【DP との関連】	<input checked="" type="checkbox"/> DP1 <input checked="" type="checkbox"/> DP2 <input checked="" type="checkbox"/> DP3 <input checked="" type="checkbox"/> DP4		
【授業概要】	看護学特別研究Ⅰを踏まえ、自己の研究計画に沿ってデータ収集、データ分析等の研究活動を遂行する。 【キーワード】研究計画、データ収集、データ分析		
【授業目標】	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自己の研究計画に沿って、自律的にデータ収集、データ分析を行うことができる。 2. 第2回博士論文検討会にて、研究過程の中間発表を行うことができる。 3. これまでの研究成果を学外で発表することができる。 		
【授業展開】	<p>【授業方法】対面もしくはオンラインによるプレゼンテーション、ディスカッション 【アクティブラーニングを促す方法】 <input checked="" type="checkbox"/>A ディスカッション／ディバード <input type="checkbox"/>B グループワーク <input checked="" type="checkbox"/>C プレゼンテーション <input type="checkbox"/>D 実習／フィールドワーク</p> <p>【授業内容】 本科目では、各学生の指導教員がそれぞれに授業を展開する。</p> <p>(荒井) 看護学特別研究Ⅰの学修を活かして、特に社会環境医学の観点及び健康阻害因子と予防との関連に関する研究計画書に沿って研究活動を遂行する。</p> <p>(竹熊) 国際看護、国際保健、看護管理領域の学修を踏まえ、選定した研究課題の研究計画書に沿って研究のプロセスを遂行する。</p> <p>(操) 感染管理・感染看護領域における研究課題に関する研究計画書に沿ってデータ収集と分析を実施し、実施上の問題に適切に対処しながら研究プロセスを進める。</p> <p>(山下) 看護学特別研究Ⅰを踏まえ、小児看護における倫理的課題や小児がんの子どもと家族を対象にした意思決定支援など小児看護実践の質向上および発展に寄与できる博士論文の研究を、研究計画書に沿って遂行し、研究成果の一部を公表する。</p> <p>(太田) 看護学特別研究Ⅰを踏まえ、関心のある周産期喪失のグリーフケア、周産期メンタルヘルスなどの研究課題について、研究計画書に沿って研究活動を遂行する。</p> <p>(藤田) 看護学特別研究Ⅰを踏まえ、学生が関心のあるドメスティック・バイオレンス(DV)や周産期メンタルヘルス等に関する研究課題の研究計画書に沿って研究活動を遂行する。</p> <p>(山田) 看護学特別研究Ⅰを踏まえ、学生が関心のある周手術期を中心とした乳がん看護に関する研究課題についての研究計画書に沿って研究活動を遂行する。</p> <p>(林) 看護学特別研究Ⅰを踏まえて、周手術期看護に関する研究課題の研究計画書に沿って、研究活動を遂行する。</p> <p>(篁) 看護学特別研究Ⅰを踏まえ、思春期の地域の精神保健の早期予防研究に関する研究計画書に沿って研究活動を遂行する。</p> <p>(富安) 看護学特別研究Ⅰを踏まえ、地域包括ケアおよび神経難病療養者とその家族への訪問看護支援に関する研究課題に関する研究計画書に沿って研究活動を遂行する。</p>		

	<p>(畑中) 看護学特別研究Ⅰを踏まえ、地域保健活動に従事する保健師等の教育および職域の人々への健康支援に関する研究課題の研究計画書に沿って研究活動を遂行する。</p> <p>(成瀬) 看護学特別研究Ⅰを踏まえ、研究課題に対して自己の研究計画に沿って自律的に研究活動を遂行する。</p> <p>(堀) 看護学特別研究Ⅰを踏まえ、地域に実在する健康増進・保持活動の促進に寄与する研究課題について、研究計画書に沿って、計画を実施する。</p> <p>(鈴木) 看護学特別研究Ⅰを踏まえ、行政保健師が保健活動を実践する上での課題、特に情報共有における意思決定時に生じる倫理的ジレンマなどに関する研究課題について、研究計画に沿って、計画を実施する。</p> <p>第1回～2回:予備調査:データ収集 第3回～4回:予備調査:データ分析 第5回～6回:予備調査結果を踏まえた計画書の検討、副論文の執筆 第7回～8回:本研究:データ収集 第9回～10回:本研究:データ分析 第11回～12回:本研究:分析結果の妥当性の検証 第13回～15回:第2回博士論文検討会の受審(準備を含む)</p>		
【事前・事後課題】	授業毎の個別課題は、各授業回にて指示する。		
【準備学習時間】	各授業回にて指示する。		
【履修条件】	看護学研究特講、専門科目の特講(1科目)、看護学特別演習、看護学特別研究Ⅰの単位を取得していること。		
【関連科目】	看護学研究特講、看護学特別演習、看護学特別研究Ⅰ、看護学特別研究Ⅲ		
【評価方法】	データ収集・分析活動への取り組み状況(30%)、副論文の内容(30%)、検討会でのプレゼンテーション(40%)などから、総合的に評価する。		
【フィードバックの方法】	メールにて質問を受け付ける。内容に応じて次回以降の授業回、または別途返答する。		
【テキスト】	<p>・BURNS AND GROVE'S The Practice of Nursing Research-Appraisal, Synthesis, and Generation of Evidence, 9th (2021)/J.R.Gray & S.K. Grove/Elsevier/ISBN:0323673171</p> <p>・Nursing Research-Generating and Assessing Evidence for Nursing Practice, 11th (2020)/D.F.Polit & C.T.Beck/Wolters Kluwer/ISBN:1975110641</p>		
【参考書】	担当教員が適宜提示する。		
【備考】	※授業を受ける上で個別に配慮が必要な場合は、事前に科目責任者に相談してください。		
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可

【科目名】	看護学特別研究Ⅲ	【科目英語名】	Doctoral Dissertation Research Ⅲ
【開講時期】	2024 年前期・後期	【必選区分】	<input checked="" type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択
【授業形態】	<input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習	【授業時間数】	60 時間
【科目責任者】	荒井孝子、竹熊カツマタ麻子、操華子、山下早苗、藤田景子、林みよ子、篁宗一、富安眞理、畑中純子、成瀬早苗、堀芽久美		
【担当教員】	荒井孝子、竹熊カツマタ麻子、操華子、山下早苗、太田尚子、藤田景子、山田紋子、林みよ子、篁宗一、富安眞理、畑中純子、成瀬早苗、堀芽久美、鈴木千智		
【DP との関連】	<input checked="" type="checkbox"/> DP1 <input checked="" type="checkbox"/> DP2 <input checked="" type="checkbox"/> DP3 <input checked="" type="checkbox"/> DP4		
【授業概要】	看護学特別研究Ⅰ・Ⅱを踏まえ、自己の研究計画に沿って、研究目的、研究デザイン、研究方法、結果、考察、結論の一貫性を担保した博士論文を完成させる。 【キーワード】論文作成		
【授業目標】	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究課題、研究目的、研究デザイン、研究方法、結果、考察、結論に一貫性がある論文を執筆することができる。 2. 博士論文審査基準を満たす論文を執筆することができる。 3. 博士論文予備審査会を受審することができる。 4. 博士論文審査会を受審することができる。 5. 研究成果を公開することができる。 		
【授業展開】	<p>【授業方法】対面もしくはオンラインによるプレゼンテーション、ディスカッション 【アクティブラーニングを促す方法】 <input checked="" type="checkbox"/>A ディスカッション／ディバード <input type="checkbox"/>B グループワーク <input checked="" type="checkbox"/>C プレゼンテーション <input type="checkbox"/>D 実習／フィールドワーク</p> <p>【授業内容】 本科目では、各学生の指導教員がそれぞれに授業を展開する。</p> <p>(荒井) 看護学特別研究Ⅰ・Ⅱの学修を活かして、特に社会環境医学の観点および健康阻害因子と予防との関連に関する研究計画書に基づき、博士論文を完成させる。</p> <p>(竹熊) 看護学特別研究Ⅰ・Ⅱの学修を活かして、国際看護、国際保健、看護管理領域の学修を踏まえ、選定した研究課題の研究計画に沿って研究のプロセスを遂行し、博士論文を完成させる。</p> <p>(操) 感染管理・感染看護領域における研究課題に関する博士論文を完成し、学内発表・論文投稿の準備および学会での研究発表準備に必要な知識を深め、必要な手順を修得する。</p> <p>(山下) 看護学特別研究Ⅰ・Ⅱを踏まえ、小児看護における倫理的課題や小児がんの子どもと家族を対象にした意思決定支援など小児看護実践の質向上及び発展に寄与できる博士論文を完成させる。</p> <p>(太田) 看護学特別研究Ⅰ・Ⅱを踏まえ、周産期喪失のグリーフケア、周産期メンタルヘルスなどの研究課題について、研究計画に沿って、一貫性を担保した博士論文を完成させる。</p> <p>(藤田) 看護学特別研究Ⅰ・Ⅱを踏まえ、学生が関心のあるドメスティック・バイオレンス(DV)や周産期メンタルヘルス等についての研究課題の計画書に沿って、一貫性を担保した博士論文を完成させる。</p> <p>(山田) 看護学特別研究Ⅰ・Ⅱを踏まえ、学生の周手術期を中心とした乳がん看護に関する研究課題についての研究計画に沿って、一貫性を担保した博士論文を完成させる。</p> <p>(林) 看護学特別研究Ⅰ・Ⅱを踏まえて、周手術期看護に関する研究課題の研究計画書に基づいて、一貫性を担保した博士論文を完成させる。</p> <p>(篁) 看護学特別研究Ⅰ・Ⅱを踏まえ、研究計画を進めることで精神看護実践の評価の視点を養い、思春期の地域の精神保健について早期予防を踏まえた今後の支援法を開発し博士論文を完成させる。</p> <p>(富安)</p>		

	<p>看護学特別研究Ⅰ・Ⅱを踏まえ、地域包括ケアおよび神経難病療養者とその家族への訪問看護支援に関する研究課題に関する研究計画に沿って、一貫性を担保した博士論文を完成させる。</p> <p>(畑中)</p> <p>看護学特別研究Ⅰ・Ⅱを踏まえ、地域保健活動に従事する保健師等の教育および職域の人々への健康支援に関する研究課題の研究計画に沿って、一貫性を担保した博士論文を完成させる。</p> <p>(成瀬)</p> <p>看護学特別研究Ⅰ・Ⅱを踏まえ、自己の研究計画に沿って、一貫性を担保した博士論文を完成させる。</p> <p>(堀)</p> <p>看護学特別研究Ⅱを踏まえ、地域に実在する健康増進・保持活動の促進に寄与する研究計画について、立案した研究計画書に沿って、研究を実施し、博士論文を完成させる。</p> <p>(鈴木)</p> <p>看護学特別研究Ⅰ・Ⅱを踏まえ、行政保健師が保健活動を実践する上での課題、特に情報共有における意思決定時に生じる倫理的ジレンマなどに関する研究課題の計画に沿って、一貫性を担保した博士論文を完成させる。</p> <p>第1回～3回:分析結果の解釈 第4回～6回:分析結果の統合 第7回～9回:研究論文の論旨の明確化 第10回～22回:論文の執筆 第23回～24回:予備審査の受審(準備を含む) 第25回～26回:論文の修正、完成 第27回～28回:本審査の受審(準備を含む) 第29回～30回:論文公開の準備</p>		
【事前・事後課題】	授業毎の個別課題は、各授業回にて指示する。		
【準備学習時間】	各授業回にて指示する。		
【履修条件】	看護学研究特講、専門科目の特講(1科目)、看護学特別演習、看護学特別研究Ⅰ・Ⅱの単位を取得していること。		
【関連科目】	看護学研究特講、看護学特別演習、看護学特別研究Ⅰ、看護学特別研究Ⅱ		
【評価方法】	論文執筆への取り組み状況(30%)、審査会の審査内容(70%)などから、総合的に評価する。 審査会の審査基準は、「静岡県立大学大学院看護学研究科博士学位審査に関する細則」を参照する。		
【フィードバックの方法】	メールにて質問を受け付ける。内容に応じて次回以降の授業回、または別途返答する。		
【テキスト】	<p>・BURNS AND GROVE'S The Practice of Nursing Research-Appraisal, Synthesis, and Generation of Evidence, 9th (2021)/J.R.Gray & S.K. Grove/Elsevier/ISBN:0323673171</p> <p>・Nursing Research-Generating and Assessing Evidence for Nursing Practice, 11th (2020)/D.F.Polit & C.T.Beck/Wolters Kluwer/ISBN:1975110641</p>		
【参考書】	担当教員が適宜提示する。		
【備考】	※授業を受ける上で個別に配慮が必要な場合は、事前に科目責任者に相談してください。		
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可

関連規程

(趣旨)

第1条 静岡県立大学大学院看護学研究科（以下「研究科」という。）に関する事項については、静岡県立大学大学院学則（以下「学則」という。）及び静岡県立大学学位規程に定めるもののほか、この規程の定めるところによる。

- 2 保健師助産師看護師法（昭和23年法律第203号）及び保健師助産師看護師学校養成所指定規則（昭和26年文部・厚生省令第1号）に係る事項については、この規程の定めるところによる。

(課程及び専攻)

第2条 研究科の課程は、博士課程とする。

- 2 博士課程は、これを前期2年の課程（以下「博士前期課程」という。）及び後期3年の課程（以下「博士後期課程」という。）に区分する。
- 3 研究科に、看護学専攻を置く。
- 4 助産師養成選択科目は、助産師学校として文部科学大臣の指定を受けるものとする。
- 5 助産師養成選択科目を履修できる者は、保健師助産師看護師法第21条各号のいずれかに該当する者とする。

(教育方法)

第3条 博士前期課程の教育は、授業科目の授業及び修士論文等の作成に対する指導によって行うものとする。

- 2 博士後期課程の教育は、授業科目の授業、研究及び博士論文の作成に対する指導によって行うものとする。

(研究指導)

第4条 研究科において、教育研究上有益と認めるときは、研究科委員会の議を経て、本研究科の学生が他大学の大学院又は研究所等において必要な研究指導を受けることを認めることができる。

- 2 前項の規程により受けた研究指導は、研究科委員会において審査の上、研究科において受けた研究指導とみなすことができる。

(授業科目及び単位数)

第5条 授業科目及び単位数は、大学院学則の別表（一）看護学研究科（博士前期課程）及び大学院学則の別表（二）看護学研究科（博士後期課程）のとおりとする。

(助産師国家試験受験資格)

第5条の2 助産師国家試験受験資格を得ようとする者は、大学院学則の別表（一）看護学研究科（博士前期課程）の定めるところに従って、第12条に規定する博士前期課程修了要件に加えて、所定の単位を修得しなければならない。

(単位の計算方法)

第6条 授業科目の単位数は、1単位の履修時間を教室及び教室外を合せて45時間とし、次の基準によるものとする。

- (1) 講義は、15時間をもって1単位とする。
- (2) 演習は、15時間をもって1単位とする。
- (3) 実験又は実習は、30時間をもって1単位とする。

- (4) 助産師養成選択科目のうち、演習は30時間（ただし、助産診断学演習Ⅰ及びⅡについては15時間）をもって1単位とし、実習は45時間（ただし、周産期助産学実習については30時間）をもって1単位とする。

（指導教員）

第7条 学生の履修及び研究等を指導するために、研究科長は研究科委員会の議に基づき、学生ごとに指導教員を定める。

- 2 博士前期課程においては、指導教員及び副指導教員は、研究科担当の教授及び准教授とする。ただし、必要があるときは、研究科委員会の議をもって認めることができる。
- 3 博士後期課程においては、指導教員及び副指導教員は、研究科担当の教授及び准教授の内、博士論文に関する研究指導を担える者とする。

（授業科目の履修）

第8条 学生は、授業科目の履修にあたっては、授業担当教員の承認を受けた上で、指定する期日までに所定の様式により申告しなければならない。

（単位修得の認定）

第9条 授業科目の単位修得の認定は、口答又は筆答の試験若しくは研究報告の審査により、授業担当教員が行う。

- 2 前項に規定する単位修得の認定は、各授業科目の授業の終了する学期末に行う。ただし、特別の事情があるときは、その期日を変更することができる。

（成績の評価）

第10条 授業科目の成績は、優、良、可及び不可の4段階に評価し、可以上を合格とする。

（単位修得の証明）

第11条 研究科長は、単位を修得した学生が願い出た場合には、単位修得証明書を交付するものとする。

（博士前期課程の修了要件）

第12条 博士前期課程の修了の要件は、在学期間中に大学院学則の別表(一)看護学研究科(博士前期課程)の定めるところに従って所定の単位以上取得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文等の審査及び試験に合格することとする。

- 2 前項の修士論文等の審査については、博士前期課程の目的に応じて適当と認めるときは、特定の研究課題についての研究成果を持って代えることができる。

（博士後期課程の修了要件）

第13条 博士後期課程の修了の要件は、博士後期課程に3年以上在籍し、在学期間中に大学院学則の別表(二)看護学研究科(博士後期課程)の定めるところに従って所定の単位以上取得し、かつ必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び試験に合格することとする。

- 2 前項に基づく認定以外、特例による博士の学位の認定は一切行わない。

（学位論文の提出）

第14条 博士前期課程及び博士後期課程の学位論文は、指導教員の承認を得て、研究科委員会の定める期日までに提出しなければならない。

（学位論文の審査及び最終試験）

第15条 学位論文の審査及び最終試験は、研究科委員会において選出された論文審査員が行う。

- 2 最終試験は、審査した学位論文を中心として、これに関連する授業科目及び外国語科目について

口答又は筆答により行う。

- 3 前二項において、必要に応じ審査員以外の学部教員の意見を求めることができる。
- 4 学位論文及び最終試験についての合格又は不合格の認定は、研究科委員会が論文審査員の報告に基づいて行う。

(学位の授与)

第16条 博士前期課程の修了者には、静岡県立大学学位規程の定めるところにより、修士(看護学)の学位を授与する。

- 2 博士後期課程の修了者には、静岡県立大学学位規程の定めるところにより、博士(看護学)の学位を授与する。

(雑則)

第17条 この規程に定めるもののほか、研究科に関し必要な事項は、研究科委員会が定める。

附 則

この規程は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成21年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成22年4月1日から施行する。

附 則

- 1 この規程は、平成24年4月1日から施行する。
- 2 改正後の第5条の2並びに別表1及び2の規定は、平成24年4月1日以降入学する者について適用する。

附 則

- 1 この規程は、平成28年4月1日から施行する。
- 2 改正後の別表1の規定は、平成28年4月1日以降入学する者について適用する。

附 則

- 1 この規程は、平成31年4月1日から施行する。
- 2 改正後の規定は、平成31年4月1日以降入学する者について適用する。

附 則

- 1 この規程は、令和2年4月1日から施行する。
- 2 改正後の規程は、令和2年4月1日以降入学する者について適用し、同年3月31日において現に在学する者については、なお従前の例による。

附 則

- 1 この規程は、令和4年4月1日から施行する。
- 2 改正後の第2条第2項、第3条第1項、第5条、第5条の2、第7条第2項、第12条第1項、及び第2項、第14条、第16条第1項の各規定は、令和2年4月1日以降に入学する者について適用し、同年3月31日において現在在学する者については、なお従前の例による。

静岡県立大学大学院看護学研究科博士学位審査に関する細則

(趣旨)

第1条 この細則は、静岡県立大学大学院学則、静岡県立大学学位規程及び静岡県立大学大学院看護学研究科規程に定めるもののほか、静岡県立大学大学院看護学研究科における博士学位審査に関し必要な事項を定める。

(研究指導教員)

第2条 博士後期課程の研究指導は、原則として指導教員1名と副指導教員1名の計2名で行う。

2 学生は、入学時に指導教員を、1年次前期までに副指導教員を検討し、看護学研究科長（以下、研究科長）に副指導教員を申請する（様式博第1号）。看護学研究科委員会（以下、研究科委員会という。）の議を経て決定し、変更は原則として認めない。指導教員・副指導教員の退職等やむをえない事情がある場合は、研究科委員会の議を経て指導教員及び副指導教員の変更ができる（様式博第2号）。

3 指導教員は、学生の研究計画立案より、データ収集の計画と実施、解析と分析、考察を含め論文完成に至るまで、研究全体に対して指導する。

4 副指導教員は、学生の研究計画立案、データ収集の計画と実施、解析と分析、考察に至るまで、副指導教員の研究領域の観点から、類似した領域または異なる領域の知見を踏まえて助言を与え、学生の研究の独自性と専門性を高めるとともに、新たな知見が近接または異なる研究領域にも参考となるように指導教員の指導を補助する。

(博士論文研究計画書の審査)

第3条 博士論文研究計画書（以下、研究計画書という。）の審査を申請する学生は、以下の書類を研究科長に提出する。

- | | |
|-----------------------|----|
| (1) 研究計画審査申請書（様式博第3号） | 1部 |
| (2) 研究計画書 | 6部 |

2 第1項の書類の提出期間は、1年次9月から翌2月末までとする。

3 提出された書類の差し替えは認められない。

4 研究科長は研究計画書の審査にあたり、第1項(1)、(2)以外の資料の提出を求めることができる。

(第1回博士論文検討会)

第4条 第1回博士論文検討会において研究計画書の審査を行う。

2 審査は、博士論文指導を担える教員が担当し、主査は指導教員とする。

3 指導教員は、研究科長に研究計画書審査委員を申請する（様式博第4号）。

4 研究科長は、研究科委員会の議を経て、研究計画書審査委員を指名する。

5 研究計画書の審査は速やかに行い、主査は博士論文研究計画審査結果報告書（様式博第5号）により研究科委員会において報告する。

6 研究計画書の審査基準については別に定める（別表）。

(研究計画書の合否判定)

第5条 研究科長は、研究科委員会で研究計画書の合否判定を行う。

2 研究科長は、合否判定結果を学生に速やかに通知する。

(博士論文研究計画書の研究倫理審査の受審)

第6条 学生は、合格の判定を受けた研究計画書について、静岡県立大学研究倫理審査委員会において研究倫理審査を受審する。

2 静岡県立大学研究倫理審査委員会の承認後に、データ収集を開始する。

(第2回博士論文検討会)

第7条 原則として2年次後期終了までに、第2回博士論文検討会を行い、研究の進捗状況に関する中間発表を行う。

2 博士論文指導を担当できる教員が参加し、助言を与える。

3 指導教員は、第2回博士論文検討会の実施内容を研究科長に報告する(様式博第6号)

(博士論文審査の申請資格)

第8条 博士論文審査を申請できる者は、必要な研究指導を受け、博士後期課程に3年以上在学し、所定の単位を修得又は修得見込みであり、入学前3年以内から申請時まで副論文として2名以上の査読制度のある国内外の学術誌に掲載された学術論文(採用決定通知段階でも可)1編以上を筆頭著者として有している者とする。

2 前項の資格の確認は、看護学研究科教務・カリキュラム委員会(以下、教務委員会という。)が行う。

(予備審査の申請)

第9条 博士論文審査を申請資格を有すると確認された者(以下、申請者という。)は、指導教員の承認を得て、期日までに研究科長に次の書類を提出し、予備審査を受けなければならない。

(1) 博士論文予備審査申請書(様式博第7号) 4部

(2) 副論文 1編以上 4部

(3) 博士論文 4部

(4) 博士論文の要旨 4部

2 提出された書類の差し替えは認めない。

3 提出期日は、10月上旬の当該年度当初に指定する日とする。

4 研究科長は、第1項(1)から(4)以外に審査に必要な資料の提出を求めることができる。

(予備審査会)

第10条 研究科長は、申請者より予備審査の申請があった時、これを研究科委員会において発議し承認の上、予備審査会を設置する。

2 予備審査会は、博士論文指導を担当できる教員又は必要に応じてその他の学識経験者によって構成され、主査1名、副査2名以上とする。ただし、審査される論文の指導教員及び副指導教員は、主査になることはできない。

3 研究科長は、研究科委員会に審査員を申請する(様式博第8号)。

4 予備審査員は、研究科委員会の議を経て、研究科長が指名する。

5 予備審査の審査基準は、博士論文の審査基準(別表)に従う。

6 予備審査会は博士論文の予備審査を行い、主査は予備審査結果報告書(様式博第9号)をもって研

究科長に報告する。

(予備審査の合否判定)

第 11 条 研究科委員会は、予備審査会からの報告を受けて予備審査の合否判定を行い、博士論文審査の申請の可否を決定する。

2 研究科長は、合否判定結果を学生に速やかに通知する。

(博士論文審査の申請)

第 12 条 前条の判定において、博士論文審査の申請が認められた申請者は、研究科委員会の定める期日までに、指導教員の承認を得て、研究科長に次の書類を提出する。

- | | |
|---------------------------|---------------------|
| (1) 博士論文審査申請書 (様式博第 10 号) | 4 部 |
| (2) 副論文 1 編以上 | 4 部 |
| (3) 博士論文 | 4 部 |
| (4) 博士論文の要旨 | 4 部 |
| (5) 論文目録 | 4 部 |
| (6) 上記目録記載の論文別冊 1 編 | 4 部 (正本 1 部・副本 3 部) |
| (7) 履歴書 | 1 部 |
| (8) 成績証明書 | 1 部 |
| (9) 住民票記載事項証明書又はそれに代わるもの | 1 部 |

2 提出された博士論文等の差し替えは認めない。

3 提出期限は、1 月中旬の当該年度当初に指定する日とする。

4 研究科長は、審査に必要な資料の提出を求めることができる。

(博士論文審査及び最終試験)

第 13 条 研究科長は、申請者より論文審査の申請があった時、これを研究科委員会において発議し承認の上、博士論文審査会を設置する。

2 博士論文審査会は、博士論文指導を担当できる教員又は必要に応じてその他の学識経験者によって構成され、これを論文審査員とする。

3 論文審査員は、主査 1 名、副査 2 名以上とする。ただし、審査される論文の指導教員及び副指導教員は、論文審査員になることはできない。

4 研究科長は、研究科委員会に博士論文審査会審査員を申請する (様式博第 11 号)。

5 論文審査員は、研究科委員会の議を経て、研究科長が指名する。

6 博士論文審査会は博士論文の審査と最終試験の審査を行う。

7 博士論文の審査基準については別に定める (別表)。

8 最終試験は、博士論文が前項の基準を満たしていることに加えて、修了後、独立した看護学研究者としての能力を有しているか否かについて試問し、審査する。

9 主査は、博士論文審査結果報告書 (様式博第 12 号) ならびに最終試験審査結果報告書 (様式博第 13 号) を作成し、研究科長に提出する。

(博士論文及び最終試験の合否判定)

第14条 論文審査員は、研究科委員会で審査結果を報告する。研究科長は、研究科委員会で博士論文および最終試験の合否判定を行う。

2 研究科長は、合否判定結果を学生に速やかに通知する。

(学位授与の審議)

第15条 研究科委員会は、博士の学位の授与の可否を審議する(静岡県立大学学位規程第10条1項、静岡県立大学大学院看護学研究科規程第16条2項)。

2 研究科長は、審議結果を学長へ具申する。

(博士論文の公表)

第16条 博士の学位を授与したときは、学位を授与した日から3ヶ月以内に、その学位論文の内容の要旨及び審査の結果の要旨を本学公式ウェブサイト上の機関リポジトリにて公表する。

2 博士の学位を授与された者は、学位を授与された日から1年以内に、当該博士論文に係る論文を学術誌等に投稿し受理されなければならない。ただし、既に受理されているときは、この限りではない。

附 則

この細則は、令和2年4月1日から施行する。

附 則

この細則は、令和6年4月1日から施行する。

別表

研究計画書の審査基準

1. 看護学における学術的意義、新規性、創造性等を有している。
2. 看護学における高度な専門性と深い学識に裏付けられている。
3. 研究計画書の構成・記述が十分かつ適切である。
4. 研究デザイン、データ収集方法、データ解析方法が妥当である。
5. 研究計画が実行可能かつ遂行できるものである。
6. 研究倫理について十分に理解し、それを遵守している。

博士論文の審査基準

1. 看護学における学術的意義、新規性、創造性等を有している。
2. 看護学における高度な専門性と深い学識に裏付けられている。
3. 論文の構成・記述が十分かつ適切である。
4. 得られた研究データや解析結果を正しく評価し、結論に至るまで一貫した議論がなされている。
5. 研究倫理について十分に理解し、それを遵守している。
6. 研究の限界、今後の発展について明確な展望が述べられている。
7. 博士論文に関連する論文が、国内外の査読付き学術雑誌に掲載または掲載決定され、学際的な評価に耐えうる水準に達している。

申請等書類

様式博第1号

看護学研究科博士後期課程副指導教員申請書

年 月 日

静岡県立大学大学院看護学研究科長 様

学籍番号

氏 名

(自署または押印)

博士後期課程における副指導教員を下記のとおり申請したいので、許可されるよう申請します。

記

副指導教員

指導教員(署名)

様式博第2号

看護学研究科博士後期課程研究指導教員変更申請書

年 月 日

静岡県立大学大学院看護学研究科長 様

学籍番号

氏 名

(自署または押印)

博士後期課程における研究指導教員を下記のとおり変更したいので、許可されるよう申請します。

記

変更前 研究指導教員
変更後 研究指導教員
変更理由

※変更前後の研究指導教員からの署名を受領の上で提出すること

変更前 研究指導教員(署名) _____

変更後 研究指導教員(署名) _____

様式博第3号

博士論文研究計画審査申請書

年 月 日

静岡県立大学大学院看護学研究科長 様

学籍番号

氏 名

(自署または押印)

静岡県立大学大学院看護学研究科博士学位審査に関する細則第3条に基づき、
博士論文研究計画の審査を受けたいので申請します。

記

博士論文研究計画書 6部

様式博第4号

博士論文研究計画書審査員申請書

年 月 日

静岡県立大学大学院看護学研究科長 様

学籍番号 _____ 氏名 _____

研究題目： _____

上記の研究題目の研究計画書審査について下記の者を審査員として申請します。

1. 主査 (指導教員)
2.
3.
4.
5.

指導教員(署名) _____

様式博第5号

博士論文研究計画審査結果報告書

年 月 日

学籍番号 _____ 氏名 _____

研究題目： _____

上記の研究計画を審査した結果、次のように判定しました。
(いずれかに○をしてください)

1. 合格

2. 不合格

その理由：

審査年月日 _____

主査(署名) _____

審査員(署名) _____

審査員(署名) _____

審査員(署名) _____

審査員(署名) _____

様式博第6号

第2回博士論文検討会実施報告書

年 月 日

静岡県立大学大学院看護学研究科長 様

第2回博士論文検討会において中間発表を実施しましたので、以下の通り報告いたします。

学籍番号 学生氏名	
実施日時 実施場所	
参加者 参加人数	計*名
論文題目	
主たる 内容	

指導教員(署名) _____

様式博第7号

博士論文予備審査申請書

年 月 日

静岡県立大学大学院看護学研究科長 様

学籍番号
氏 名

印

静岡県立大学大学院看護学研究科博士学位審査に関する細則第9条、第10条に基づき、博士論文予備審査を受けたいので申請します。

記

博士論文	4部 (正本1部・副本3部)
博士論文の要旨	4部 (正本1部・副本3部)
副論文1編以上	4部 (正本1部・副本3部)

..... 切り取り印

博士論文予備審査書類受領証

学生室にて、博士論文予備審査に関わる提出書類一式を受領したことを証明します。

学籍番号

氏 名

年 月 日



様式博第8号

博士論文予備審査審査員申請書

年 月 日

学籍番号 _____ 氏名 _____

研究題目： _____

上記の研究題目の予備審査について、下記の者を審査員として申請します。

1. 主査
2. 副査
3. 副査

静岡県立大学大学院看護学研究科長

氏名(署名) _____

様式博第9号

博士論文予備審査結果報告書

年 月 日

静岡県立大学大学院看護学研究科長 様

学籍番号 氏名

研究題目：

結 果 (いずれかに○をつける)

1. 合 格

2. 不合格

その理由：

審査年月日

主査(署名)

審査員(署名)

審査員(署名)

審査員(署名)

審査員(署名)

様式博第10号

博士論文審査申請書

年 月 日

静岡県立大学大学院看護学研究科長 様

学籍番号

氏 名

印

静岡県立大学大学院学則 57 条に基づき、博士論文審査を受けたいので申請します。

記

博士論文	4部 (正本1部・副本3部)
博士論文の要旨	4部 (正本1部・副本3部)
副論文1編以上	4部 (正本1部・副本3部)
論文目録	4部 (正本1部・副本3部)
上記目録記載の論文別冊1編	4部 (正本1部・副本3部)
履歴書	1部
成績証明書	1部
住民票記載事項証明書又はそれに代わるもの	1部

..... 切り取り 印

博士論文審査書類受領証

学生室にて、博士論文審査に関わる提出書類一式を受領したことを証明します。

学籍番号

氏 名

年 月 日



様式博第11号

博士論文審査審査員申請書

学籍番号 _____ 氏名 _____

研究題目： _____

上記の研究題目の博士論文審査について、下記の者を審査員として申請します。

1. 主査
2. 副査
3. 副査

静岡県立大学大学院看護学研究科長

氏名(署名) _____

様式博第12号

博士論文審査結果報告書

年 月 日

静岡県立大学大学院看護学研究科長 様

学籍番号 _____ 氏名 _____

研究題目： _____

結 果 (いずれかに○をつける)

1. 合 格

2. 不合格

その理由：

審査年月日 _____

主査(署名) _____

審査員(署名) _____

審査員(署名) _____

審査員(署名) _____

審査員(署名) _____

様式博第13号

最終試験審査結果報告書

年 月 日

静岡県立大学大学院看護学研究科長 様

学籍番号 氏名

研究題目:

結果 (いずれかに○をつける)

1. 合格

2. 不合格

その理由:

審査年月日

主査(署名)

審査員(署名)

審査員(署名)

審査員(署名)

審査員(署名)

研究計画書および博士論文作成要領

研究計画書および博士論文作成要領

1. 書式

- ・原稿は A4 版用紙に横書きとし、1 ページ 40 字 × 30 行とする。
- ・フォントは 10.5 ポイント、余白は左右 30 mm、上部 30 mm、下部 35 mm とする。
- ・ページの下部、中央にページ数を打つ。
- ・片面印刷とする。

2. 表紙

- ・表紙は所定の様式で付する。【別紙】の表紙例を参照。

3. 目次

- ・本文の前に目次をつけ、論文のアウトラインを示す。

4. 本文の記載方法

- ・パラグラフの開始行は文頭を、1 文字下げ 2 文字目から記述する。
- ・原則として新かなづかいを用い、特別な用語以外はなるべく常用漢字を用いる。
- ・字体は、見出しおよび強調部分など特別な場合はゴシック体、外国語・数字には Times New Roman Bold を用いる。それ以外は明朝体または Times New Roman を用いる。
- ・句読点及びカッコは 1 文字分（全角）を使用し、改行した段落の行頭は、1 文字下げる。
- ・外来語はカタカナとし、外国人名および日本語として未定着の語は原語のまま記す。その際、単語は 2 行にまたがらないよう、ハイフンを使用せず後送りして改行する。
- ・学術誌名、学名、生物名などは斜字体（イタリック）を用いる。
- ・度量衡の単位表示は、各専門領域の慣例に従う。
- ・数字は特別な場合以外は算用数字を用い、1 マス 2 文字（半角）で処理する。また、数字は 2 行にまたがらないようにする。
- ・略語は、初出時に正式用語を示し、略語を [] に入れて付記すること。ただし、度量衡などの単位についてはその必要はない。略語を多数用いる場合には、最初もしくは付録に略語一覧を掲載する。

<記載例> Certified Nurse Specialist [CNS]
専門看護師 (Certified Nurse Specialist ; 以下 CNS)

5. 図、表及び写真の処理

- ・図、表、写真は、それぞれ種類ごとに通し番号と表題を付し、それを説明した本文近くの適当な場所に添付もしくは表示する。
- ・図、表、写真などが多く、本文に挿入すると煩雑になると考えられる場合には、

一括して本文のあとに付録としてつけてもよい。その際、目次にその付録の内容一覧を示す。

6. 論文の構成

- ・構成は、緒言、方法、結果、考察、結論、文献とする。
なお、内容から必要であれば、論文の構成を変更してもよい。
- ・方法や結果などで下位セクションが必要な場合は、例として以下に示す第2階層から第7階層までの6つの階層から構成する。
第2階層：I. II. III. 中央揃え
第3階層：A. B. C. 左端揃え
第4階層：1. 2. 3. 左端揃え
第5階層：a. b. c. 見出しのみ、本文左端より1文字下げる
第6階層：1) 2) 3) 上位の見出しより1文字下げる
第7階層：a) b) c) 上位の見出しより1文字下げる

7. 図、表の表題のつけ方

- ・図の表題：表題の頭に通し番号を付し、図の下に記す。
- ・表の表題：表題の頭に通し番号を記し、表の上に記す。
- ・罫線は横罫のみ使用する。横罫も最小限にとどめる。

8. 文献の記載について

- ・米国心理学会 American Psychological Association. (2010). *Publication Manual of the American Psychological Association* (6th ed.). Washington, DC: Author.
または International Committee of Medical Journal Editors. *Uniform Requirements for Manuscripts Submitted to Biomedical Journals: Writing and Editing for Biomedical Publication*. <http://www.icmje.org/> に準拠する。

9. 注記について

- ・本文に注をつけるのは、以下の場合である。
 - ①本文中に論じられたテーマを補強したり、別の見方や情報、説明などを示したいが、本文に書き込むと論旨が混乱したり、ぼやけてしまったりする可能性がある場合。
 - ②引用の典拠や引用についての許諾などについてその場で示したい場合。
- ・脚注は文章の脇に*印もしくは肩数字を付け、そのページの下部、欄外にその内容を記す。同じページに複数の脚注がある場合には、順に*、**、***もしくは数字で順番を示す。
- ・図表の引用注は図や表に示されたデータに関する注は、*、†、‡、§、||、¶、**、††、‡‡ 順で記号を用い、図表のすぐ下に記載する。
- ・引用の場合、図表のすぐ下に出典を示し、文献リストにも含める。

1 0. 研究計画書の追加事項

- ・研究計画書はファイルに綴じて提出する。

1 1. 博士論文の追加事項

- ・博士論文はファイルに綴じて提出する。
- ・表紙の後に要旨を添付し、ファイルに綴じる。
要旨は 1,600 字～2,400 字程度とする。
キーワードを 3～5 語、要旨の下段に記載し、五十音順に並べて記述する。
- ・履歴書・成績証明書・住民票記載事項証明書又はそれに代わるものはクリアフォルダにまとめて博士論文とともに提出する（穴あけ不要）。
- ・最終論文は 2 部、ファイルに綴じずに提出する（穴あけ不要）。

【別紙】博士論文表紙例

上下余白 4.5cm 左右余白 3cm

(西暦) 年度 博士論文

(明朝体 15～18 ポイント)

研究題目名

(15～18 ポイント)

看護学専攻 (10～11 ポイント)

学籍番号 (10～11 ポイント)

氏名 (15～18 ポイント)

*字体は明朝体または Times New Roman を用いる。

*本文中は、見出しおよび強調部分など特別な場合はゴシック体、外国語・数字には
Times New Roman Bold を用いる。

2024 年 3 月 発行

この履修要項(シラバス)は修了時まで使用します。

修了後も必要となる場合がありますが、再発行はできません。各自で大切に保管ください。